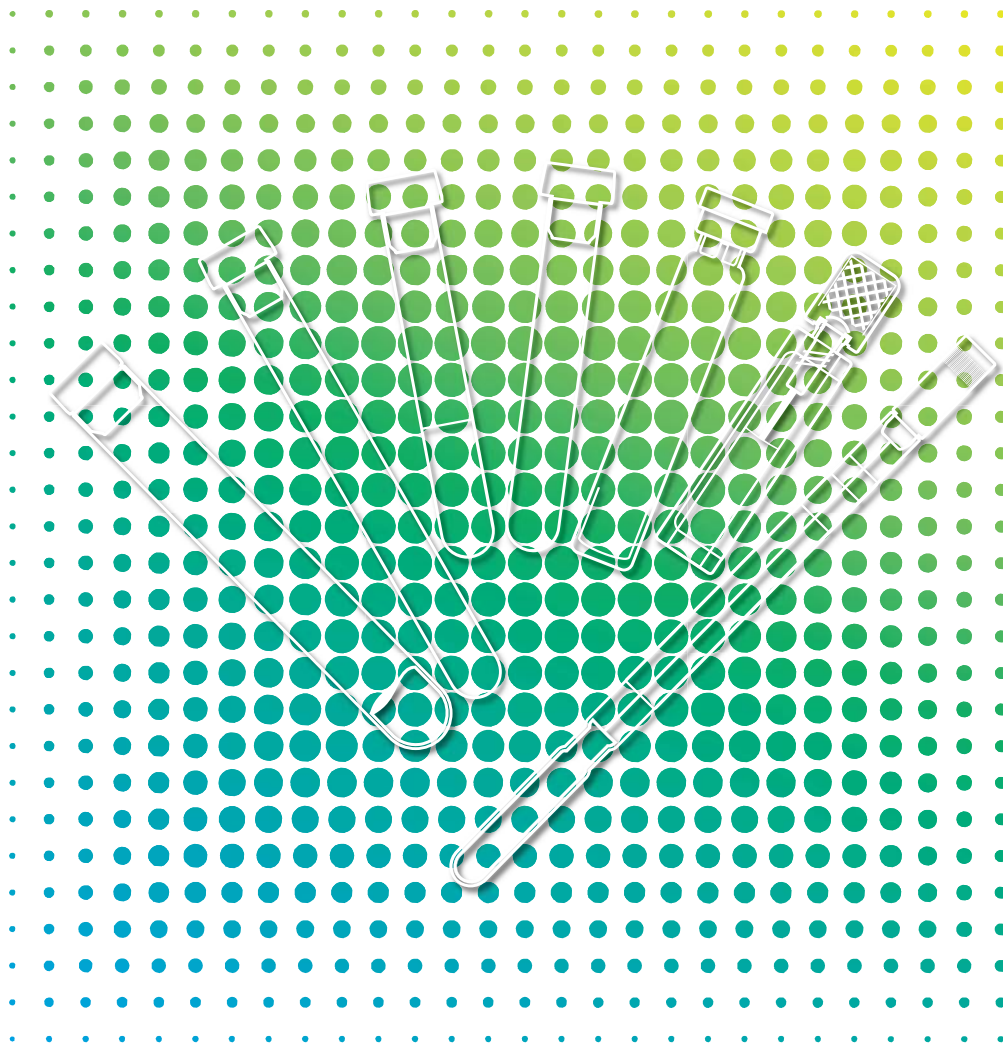


# 総合検査案内

## 2016-2017



生化学検査

薬物検査

腫瘍関連検査

内分泌学検査

免疫血清学検査

ウイルス学検査

細胞免疫・染色体検査

血液学検査

一般臨床検査

微生物学検査

病理学検査

# 総合検査案内

## CONTENTS

- 検査項目索引 索引-1 ~ 索引-10
- ご利用の手引き 手引き-1 ~ 手引き-5
- 緊急報告対象項目とその基準値 手引き-6
- 実施料について 手引き-7 ~ 手引き-8
- 主な検査方法の概略 手引き-9 ~ 手引き-11

生化学検査	1 ~ 15
薬物検査	16 ~ 22
腫瘍関連検査	23 ~ 26
内分泌学検査	27 ~ 37
免疫血清学検査	38 ~ 52
ウイルス学検査	53 ~ 64
細胞免疫 / 染色体検査	65 ~ 67
血液学検査	68 ~ 71
一般臨床検査	72 ~ 74
微生物学検査	75 ~ 77
病理学検査	78 ~ 80

- 参照資料（特定健診について） 81 ~ 82
- 主要参考文献 83 ~ 94
- 専用容器一覧 95 ~ 102
- 登録衛生検査所一覧 105

# 検査項目索引

## 五十音順

ア	頁	保険点数
アイソザイム〈ALP〉	3	48
アイソザイム〈CK〉	3	55
アイソザイム〈LDH〉	3	48
亜鉛〈Zn〉	9	144
(抗)アクアポリン 4 抗体	43	1000
アスペルギルス抗原 (EIA 法)	39	165
アスペルギルス抗体 (CF 法)	39	
(抗)アセチルコリンレセプター結合抗体〈抗 AChR 抗体〉	49	856
アセトアミノフェン	19	190
アデノ (CF 法)	53	79
アデノ 1 型 (NT 法)	56	79
アデノ 2 型 (NT 法)	56	79
アデノ 3 型 (NT 法)	56	79
アデノ 4 型 (NT 法)	56	79
アデノ 5 型 (NT 法)	56	79
アデノ 6 型 (NT 法)	56	79
アデノ 7 型 (NT 法)	56	79
アデノ 8 型 (NT 法)	56	79
アデノ 11 型 (NT 法)	56	79
アデノ 19 型 (NT 法)	56	79
アデノ 37 型 (NT 法)	56	79
アデノシンデアミナーゼ〈ADA〉	2	32
アトピー鑑別試験	43	194
アプリンジン	18	(470)
アポ蛋白 A-I	6	頁参照
アポ蛋白 A-II	6	頁参照
アポ蛋白 B	6	頁参照
アポ蛋白 C-II	6	頁参照
アポ蛋白 C-III	6	頁参照
アポ蛋白 E	6	頁参照
アミオダロン	18	(470)
アミカシン	19	(470)
アミトリプチリン・ノルトリプチリン	17	
アミノ酸 11 分画	4	1212
アミノ酸分画	4	1212
(血清)アミラーゼ〈S-AMY〉	2	11
(尿)アミラーゼ〈U-AMY〉	2	11
(P 型)アミラーゼ	3	48
アミロイド A〈SAA〉	41	47
アルカリホスファターゼ〈ALP〉	1	11
アルドステロン	30	131
アルドラーゼ〈ALD〉	2	11
アルブミン〈Alb〉	1	11
(尿中マイクロ)アルブミン	41	108
アルプラゾラム	17	
アルベカシン	19	(470)
アルミニウム〈Al〉	9	121
アレルギー関連検査	43	
アンジオテンシン II	30	
アンジオテンシン I 転換酵素〈ACE〉	30	152
アンチトロンビン III 活性〈AT III〉	68	70
アンチトロンビン III 抗原〈AT III〉	68	70
アンチプラスミン(活性)〈α2 プラスミンインヒビター〉	69	134
アンドロステロン	31	
アンドロステンジオン	31	
アンモニア〈NH3〉	4	50

イ	頁	保険点数
一般細菌塗抹	75	61
(抗)胃壁細胞抗体	49	
イマチニブ	20	(470)

イミプラミン・デシプラミン	17	
インスリン〈IRI〉	32	112
インスリン抗体	32	110
インフルエンザ (HI 法)	55	79+79
インフルエンザ A 型 (CF 法)	53	79
インフルエンザ B 型 (CF 法)	53	79

ウ	頁	保険点数
(尿中)ウロポルフィリン	10	110

エ	頁	保険点数
エコー 3 型 (HI 法)	55	79
エコー 7 型 (HI 法)	55	79
エコー 11 型 (HI 法)	55	79
エコー 12 型 (HI 法)	55	79
エコー 1 型 (NT 法)	58	79
エコー 3 型 (NT 法)	58	79
エコー 4 型 (NT 法)	58	79
エコー 5 型 (NT 法)	58	79
エコー 6 型 (NT 法)	58	79
エコー 7 型 (NT 法)	58	79
エコー 9 型 (NT 法)	58	79
エコー 11 型 (NT 法)	58	79
エコー 12 型 (NT 法)	58	79
エコー 13 型 (NT 法)	58	79
エコー 14 型 (NT 法)	58	79
エコー 16 型 (NT 法)	58	79
エコー 17 型 (NT 法)	58	79
エコー 18 型 (NT 法)	58	79
エコー 19 型 (NT 法)	58	79
エコー 21 型 (NT 法)	58	79
エコー 22 型 (NT 法)	58	79
エコー 24 型 (NT 法)	58	79
エコー 25 型 (NT 法)	58	79
エコー 30 型 (NT 法)	58	79
エストラジオール〈E2〉	32	187
エストリオール〈E3〉	32	
(総)エストロジェン・非妊婦	32	
エストロジェンレセプター〈ER〉	78	720
エタノール	10	114
エトサクシミド	16	(470)
エベロリムス	20	(470)
エラスターゼ 1	23	129
エリスロポエチン〈EPO〉	33	209
塩酸ピルジカイニド	18	(470)
エンテロ 70 型 (NT 法)	58	
エンテロ 71 型 (NT 法)	58	
エンドトキシン定量 (ES 法)	39	257
(透析液)エンドトキシン	39	

オ	頁	保険点数
黄体形成ホルモン〈LH〉	27	117
オキシトシン	27	
オステオカルシン〈BGP〉	28	170
オリゴクローナルバンド (等電点電気泳動法)	43	543
オーム病抗体	39	79

カ	頁	保険点数
ガストリン	33	110

活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT)	69	29
カテコールアミン 3 分画	29	180
(遊離)カテコールアミン 3 分画	29	180
カドミウム (Cd)	9	
ガバペンチン	16	(470)
(抗)ガラクトース欠損 IgG 抗体 (CA・RF)	47	120
カリウム (K)	8	11
カルシウム (Ca)	8	11
カルシトニン (CT)	28	141
カルバマゼピン	16	(470)
簡易培養検査	75	60
肝細胞増殖因子 (HGF)	33	227
カンジダ抗原	39	142
間接クームス試験	50	34
間接クームス試験 定量	50	34
間接ビリルビン (I-BIL)	1	
(頸管腔分泌液中) 癌胎児性フィブロネクチン	32	204
寒冷凝集反応	38	11

キ	頁	保険点数
キニジン	18	(470)

ク	頁	保険点数
グアナゼ	2	35
クラミジア・トラコーマチス同定 (EIA 法)	40	164
クラミジア・トラコーマチス同定 DNA (SDA 法)	40	204
クラミジア・トラコーマチス同定 DNA (TaqManPCR 法)	40	204
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgA & IgG	40	70+75
クラミジア・ニューモニエ抗体 IgM	40	160
クリオグロブリン	42	42
グリコアルブミン (GA)	4	55
グリココール酸 (CG)	5	80
グルコース	4	11
(尿)尿グルコース	72	9
クレアチニン (CRE)	3	11
クレアチニンクリアランス	10	
クロール (Cl)	7	
クロチアゼパム	17	
クロナゼパム	16	(470)
クロバザム	16	(470)
グロブリン (Glb)	1	
クロム (Cr)	9	
クオルプロマジン	17	
(間接)クームス試験	50	34
(間接)クームス試験 定量	50	34
(直接)クームス試験	50	30

ケ	頁	保険点数
血液ガス分析	11	(144)
結核菌群同定 (TaqManPCR 法)	76	410
血小板数	68	21
(抗)血小板抗体	49	262
血漿レニン活性 (PRA)	30	103
血清補体価 (CH50)	41	38
結石鑑別	10	120
ケトン体分画	5	59
嫌気性培養	75	118
ゲンタマイシン	19	(470)

コ	頁	保険点数
---	---	------

抗 ARS 抗体	48	190
抗 CCP 抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	47	210
抗 CLB2GPI 抗体 (抗カルジオリピン $\beta_2$ グリコプロテイン I 複合体抗体)	49	223
抗 CL リピン抗体 IgG	49	239
抗 DNA 抗体 (RIA 法)	47	173
抗 ds DNA 抗体 IgG	47	173
抗 ds DNA 抗体 IgM	47	
抗 GAD 抗体	32	134
抗 IA-2 抗体	33	213
抗 Jo-1 抗体	48	146
抗 LKM-1 抗体	48	223
抗 RNP 抗体	47	144
抗 Scl-70 抗体 (免疫拡散法)	48	162
抗 Scl-70 抗体 (CLEIA 法)	48	162
抗 Sm 抗体 (免疫拡散法)	47	159
抗 Sm 抗体 (CLEIA 法)	47	159
抗 ss DNA 抗体 IgG	47	173
抗 SS-A 抗体 (免疫拡散法)	48	165
抗 SS-A 抗体 (CLEIA 法)	48	165
抗 SS-B 抗体 (免疫拡散法)	48	162
抗 SS-B 抗体 (CLEIA 法)	48	162
抗 TPO 抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	28	146
抗アクアポリン 4 抗体	43	1000
抗アセチルコリンレセプター結合抗体 (抗 AChR 抗体)	49	856
抗胃壁細胞抗体	49	
抗糸球体基底膜抗体	49	281
抗核抗体 (ANA)	47	108
抗ガラクトース欠損 IgG 抗体 (CA・RF)	47	120
抗血小板抗体	49	262
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体 (抗 TPO 抗体)	28	146
抗好中球細胞質抗体 (C-ANCA)	49	276
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体 (P-ANCA)	49	276
抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	28	144
抗セントロメア抗体	48	184
抗平滑筋抗体	48	
抗ミトコンドリア M2 抗体	48	206
抗ミトコンドリア抗体	48	196
抗酸菌同定 DDH	76	410
抗酸菌塗抹	76	61
抗酸菌分離培養検査	76	210
抗酸菌薬剤感受性検査	76	380
高精度分染法 (染色体検査)	66	頁参照
好中球殺菌能	65	
好中球貪食能	65	
(尿素)呼気試験 (UBT)	40	70
コクサッキー A 群 9 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 1 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 2 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 3 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 4 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 5 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー B 群 6 型 (CF 法)	54	79
コクサッキー A 群 2 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 3 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 4 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 5 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 6 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 7 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 9 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 10 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー A 群 16 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 1 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 2 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 3 型 (NT 法)	57	79



# 検査項目索引

コクサッキー B 群 4 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 5 型 (NT 法)	57	79
コクサッキー B 群 6 型 (NT 法)	57	79
骨型 ALP (BAP)	28	165
コハク酸シベンゾリン	18	(470)
コプロボルフィリン定量	10	210
(尿中)コプロボルフィリン	10	143
コリンエステラーゼ (ChE)	2	11
コルチコステロン	30	
コルチゾール	31	134
(遊離)コルチゾール	31	134
コルチゾン	31	
(HDL)コレステロール	5	17
(LDL)コレステロール	5	18
(総)コレステロール (T-Cho)	5	17

サ	頁	保険点数
細菌培養同定検査	75	頁参照
細菌薬剤感受性検査	75	頁参照
サイクリック AMP (C-AMP)	33	175
サイトケラチン 19 フラグメント (シフラ)	24	172
サイトメガロ (CF 法)	53	79
サイトメガロ IgG (EIA 法)	60	219
サイトメガロ IgM (EIA 法)	60	219
サイトメガロウイルス抗原 (アンチジェネミア法)	61	398
細胞診	78	頁参照
サイロイドテスト	28	37
サイロキシン結合グロブリン (TBG)	28	134
サイログロブリン	27	137
(抗)サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	28	144
サリチル酸	19	(470)
(総)三塩化物 (TTC)	11	
(肺)サーファクタントプロテイン D (SP-D)	42	140

シ	頁	保険点数
ジアゼパム	16	(470)
シクロスポリン	20	(470)
ジゴキシン	19	(470)
シスタチン C	3	124
ジゾピラミド	18	(470)
シフラ (サイトケラチン 19 フラグメント)	24	172
(全脂質)脂肪酸分画	5	429
心筋トロポニン I	42	120
心室筋ミオシン軽鎖 I	42	184
(ヒト)心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	42	147
浸透圧 (血清)	10	15
浸透圧 (尿)	10	16

ス	頁	保険点数
髄液検査	73	62
水銀 (Hg)	9	
水痘・帯状ヘルペス IgG (EIA 法)	60	219
水痘・帯状ヘルペス IgM (EIA 法)	60	219
水痘・帯状ヘルペス (CF 法)	53	79
膵ホスホリパーゼ A2 (膵 PLA2)	2	204
スチリペントール	17	(470)
ステロイド 10 分画	31	

セ	頁	保険点数
精液検査	72	70

成長ホルモン (GH)	27	117
赤痢菌・サルモネラ菌	76	
赤血球数	68	21
セルロプラズミン (Cp)	41	90
セルトニン	30	
穿刺液一般検査	73	
(抗)セントロメア抗体	48	184
全脂質脂肪酸分画	5	429
染色体検査	66	頁参照
前立腺酸性フォスファターゼ (PAP)	24	124

ソ	頁	保険点数
総エストロジェン・非妊婦	32	
総コレステロール (T-Cho)	5	17
総三塩化物 (TTC)	11	
総胆汁酸 (TBA)	5	47
総蛋白 (TP)	1	11
総ビリルビン (T-BIL)	1	11
ソタロール	18	(470)
ソニサミド	16	(470)
ソマトメジン C (IGF-I)	27	230

タ	頁	保険点数
第 II 因子活性 (F2)	70	229
第 V 因子活性 (F5)	70	229
第 VII 因子活性 (F7)	70	229
第 VIII 因子活性 (F8)	70	229
第 IX 因子活性 (F9)	70	229
第 X 因子活性 (F10)	70	229
第 XI 因子活性 (F11)	70	229
第 XII 因子活性 (F12)	70	229
第 XIII 因子定量 (F13)	70	229
第 VIII 因子インヒビター (F8INH)	70	155
第 IX 因子インヒビター (F9INH)	70	155
大腸菌抗原同定検査	75	180
タクロリムス	20	(470)
単純ヘルペス (CF 法)	53	79
単純ヘルペス 1 型 (NT 法)	56	79
単純ヘルペス 2 型 (NT 法)	56	79
単純ヘルペス IgG (EIA 法)	60	219
単純ヘルペス IgM (EIA 法)	60	219
単純ヘルペスウイルス特異抗原 (FAT 法)	61	180
(総)胆汁酸 (TBA)	5	47
(総)蛋白 (TP)	1	11
蛋白分画	1	18

チ	頁	保険点数
中性脂肪 (TG)	5	11
虫体鑑別	72	23
虫卵 (集卵法)	72	15
虫卵 (塗抹法)	72	20
直接クームス試験	50	30
直接ビリルビン (D-BIL)	1	11

ツ	頁	保険点数
ツツガ虫カトー (Kato)IgG	39	213
ツツガ虫カトー (Kato)IgM	39	213
ツツガ虫カーブ (Karp)IgG	39	213
ツツガ虫カーブ (Karp)IgM	39	213

ツツガ虫ギリアム(Gilliam)IgG	39	213
ツツガ虫ギリアム(Gilliam)IgM	39	213

テ	頁	保険点数
テイコブラニン	19	(470)
デオキシピリジノリン(Dpyr)[骨粗鬆症]	29	196
デオキシピリジノリン(Dpyr)[腫瘍関連]	25	196
テオフィリン	19	(470)
テストステロン	31	131
鉄(Fe)	8	11

ト	頁	保険点数
銅(Cu)	8	23
透析液エンドトキシン	39	
特異的IgE	43	各110
ドーパミン・総	30	
トキソプラズマIgG(CLEIA法)	38	93
トキソプラズマIgM(CLEIA法)	38	95
トピラマート	16	(470)
トブラマイシン	19	(470)
(一般細菌)塗抹	75	61
トランスフェリン(Tf)	42	60
(尿中)トランスフェリン	42	110
トリクロル酢酸(TCA)	11	
トリプシン	2	191
トリメタジオン	16	(470)
(心筋)トロポニンT(TnT)	42	120
トロンビン・アンチトロンビン複合体(TAT)	69	191
トロンボテスト<複合因子T>	69	18

ナ	頁	保険点数
ナトリウム(Na)	7	11
鉛(Pb)	9	

ニ	頁	保険点数
ニッケル(Ni)	9	
ニトラゼパム	16	(470)
日本脳炎(CF法)	53	79
日本脳炎(HI法)	55	79
乳酸	4	47
ニューモシスチス・カリニーDNA同定	42	
尿アマラーゼ(U-AMY)	2	11
尿グルコース	72	9
尿酸(UA)	3	11
尿素呼気試験(UBT)	40	70
尿素窒素(BUN)	4	11
尿蛋白	72	7
尿中IV型コラーゲン	42	200
尿中NAG(N-アセチルグルコサミニダーゼ)	2	41
尿中一般物質定性半定量検査	72	(26)
尿中ウロポルフィリン	10	110
尿中コプロポルフィリン	10	143
尿中トランスフェリン	42	110
尿中ポルフォビリノーゲン	10	191
尿中マイクロアルブミン	41	108
尿中免疫電気泳動(BJP同定)	43	209
尿中硫酸抱合型胆汁酸(USBA)	11	57
尿沈渣顕微鏡検査	72	27

ノ	頁	保険点数
ノロウイルス(SRSV)-RNA同定	61	

ハ	頁	保険点数
肺サーファクタントプロテインD(SP-D)	42	140
(細菌)培養同定検査	75	頁参照
白血球数	68	21
馬尿酸(HA)	11	
パニルマンデル酸(VMA)	29	90
ハプトグロビン(Hp)型判定	41	144
パラインフルエンザ1型(HI法)	55	79
パラインフルエンザ2型(HI法)	55	79
パラインフルエンザ3型(HI法)	55	79
パルプロ酸ナトリウム	16	(470)
パルボウイルスB19IgG(EIA法)	60	
パルボウイルスB19IgM(EIA法)	60	219
ハロペリドール	17	(470)
バンコマイシン	19	(470)

ヒ	頁	保険点数
非特異的IgE	43	100
ヒアルロン酸	4	184
鼻汁好酸球	68	15
ビタミンA	7	
ビタミンB1<サイアイン>	7	259
ビタミンB2<リボフラビン>	7	263
ビタミンB12<シアノコバラミン>	7	152
ビタミンC<アスコルビン酸>	7	314
(25-OH)ビタミンD	7	
(1 $\alpha$ ,25-(OH) $_2$ )ビタミンD	7	400
ビタミンE<トコフェロール>	7	
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白(H-FABP)	42	147
ヒト心房性Na利尿ペプチド(HANP)	33	233
ヒト胎盤性ラクトジェン(HPL)	32	144
ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)	32	146
百日咳菌抗体(EIA法)	38	280
病理組織検査	78	頁参照
ビルビン酸	4	47
ピルメノール	18	(470)

フ	頁	保険点数
フィブリノゲン	69	23
風疹(HI法)	55	79
風疹(LA法)	55	79
風疹IgG(EIA法)	60	219
風疹IgM(EIA法)	60	219
フェニトイン	16	(470)
フェノバルビタール	16	(470)
フェリチン	41	114
フォン・ウィルブラント因子活性(リストセチンコファクター)	70	136
フォン・ウィルブラント因子定量(第Ⅷ因子様抗原)	70	155
不規則性抗体	50	159
不飽和鉄結合能(UIBC)	8	11
プラスミノゲン活性	68	100
プリミドン	16	(470)
フルニトラゼパム	17	
プレアルブミン	40	110
フレカイニド	18	(470)
プレグナンジオール(P2)	31	213

# 検査項目索引

プレグナントリオール (P3)	31	243
プロカインアミド	18	(470)
プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	42	144
プロジェステロン	32	159
プロジェステロンレセプター (PgR)	78	690
プロチゾラム	17	
プロテインC (定量)	68	247
プロトロンビン時間 (PT 時間)	69	18
プロパフェノン	18	(470)
プロムペリドール	17	(470)
プロラクチン (PRL)	27	98

へ	頁	保険点数
へパプラスチンテスト (複合因子 H)	69	29
ペプシノゲン	2	
ベプリジル	18	(470)
ヘマトクリット	68	21
ヘモグロビン	68	21
ヘリコバクター・ピロリ抗体 (H. ピロリ抗体)	40	80
(単純)ヘルペス (CF 法)	53	79
(単純)ヘルペスウイルス特異抗原 (FAT 法)	61	180
ベンス・ジョーンズ蛋白同定 (尿中免疫電気泳動)	43	209
便中 Hb 定性	72	37
便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	40	146

ホ	頁	保険点数
(隣)ホスホリパーゼ A2 (隣 PLA2)	2	204
ホモバニリン酸 (HVA)	29	69
ポリオ 1 型 (CF 法)	53	79
ポリオ 2 型 (CF 法)	53	79
ポリオ 3 型 (CF 法)	53	79
ポリオ 1 型 (NT 法)	56	79
ポリオ 2 型 (NT 法)	56	79
ポリオ 3 型 (NT 法)	56	79
ポリコナゾール	19	(470)
(尿中)ポルフォビリノーゲン	10	191
ホール PTH	28	180

マ	頁	保険点数
(尿中)マイクロアルブミン	41	108
マイクロゾームテスト	28	37
マイコプラズマ抗体 (CF 法)	38	32
マイコプラズマ抗体 (PA 法)	38	32
マイコプラズマ抗体 IgM (EIA 法)	38	32
マグネシウム (Mg)	8	11
麻疹 (HI 法)	55	79
麻疹 (NT 法)	56	79
麻疹 IgG (EIA 法)	60	219
麻疹 IgM (EIA 法)	60	219
末梢血液一般検査	68	21
末梢血液像 (5 分類)	68	15
末梢血液像 (6 分類)	68	25
マトリックスメタロプロテイナーゼ -3 (MMP-3)	3	116
マラリア原虫	68	40
マンガン (Mn)	9	27
マンデル酸	11	

ミ	頁	保険点数
ミエリンベースック蛋白 (MBP)	49	601
ミオグロビン	42	147

(心室筋)ミオシン軽鎖 I	42	184
ミダゾラム	17	
ミトコンドリア -GOT (m-AST)	3	49
(抗)ミトコンドリア M2 抗体	48	206
(抗)ミトコンドリア抗体	48	196

ム	頁	保険点数
無機リン	8	17
ムンプス (CF 法)	53	79
ムンプス (HI 法)	55	79
ムンプス (NT 法)	56	79
ムンプス IgG (EIA 法)	60	219
ムンプス IgM (EIA 法)	60	219

メ	頁	保険点数
メキシレチン	18	(470)
メタネフリン 2 分画	29	233
メチル馬尿酸 (MHA)	11	
メトトレキサート	20	(470)
免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による定性)	50	210
免疫電気泳動 (免疫固定法による M 蛋白同定)	50	210
(尿中)免疫電気泳動 (ベンス・ジョーンズ蛋白同定)	50	209
免疫複合体 (イムノコンプレックス)	49	165

モ	頁	保険点数
網赤血球数	68	12

ヤ	頁	保険点数
薬剤感受性検査 (一般細菌)	75	頁参照
薬剤感受性検査 (抗酸菌)	76	380

ユ	頁	保険点数
遊離 HCG-β	25	144
遊離カテコールアミン 3 分画	29	180
遊離コルチゾール	31	134
遊離サイロキシン (FT4)	27	134
遊離トリヨードサイロニン (FT3)	27	134

ヨ	頁	保険点数
葉酸	7	162

ラ	頁	保険点数
ラモトリギン	16	(470)

リ	頁	保険点数
リゾチーム	2	
リチウム	17	(470)
リドカイン	18	(470)
リパーゼ	5	24
リポ蛋白 (a)	6	107
リポ蛋白分画	5	49
リポ蛋白分画精密測定	5	80
(尿中)硫酸抱合型胆汁酸 (USBA)	11	57
淋菌同定 DNA (TaqManPCR 法)	40	204
淋菌同定 DNA (SDA 法)	40	204
リン脂質 (PL)	5	15

リンパ球幼若化試験(リンパ球分離培養法)〈PHA〉	65	345
リンパ球幼若化試験(リンパ球分離培養法)〈ConA〉	65	345

ル		頁	保険点数
ループスアンチコアグラント(希釈ラッセル蛇毒試験法)	70	281	
ルフィナミド	17	(470)	

レ		頁	保険点数
レチノール結合蛋白〈RBP〉	7	140	
レベチラセタム	16	(470)	
レムナント様リポ蛋白コレステロール〈RLP-C〉	6	191	
レニン濃度〈PRC〉	30	111	

# 検査項目索引

## アルファベット順

A	頁	保険点数
A/G 比	1	
ABO 血液型	50	21
ACE (アンジオテンシン I 転換酵素)	30	152
ACTH	27	206
ADA (アデニンデアミナーゼ)	2	32
AFP (αフェトプロテイン)	23	110
AFP レクチン分画	23	190
Alb (アルブミン)	1	11
Al (アルミニウム)	9	121
(骨型)ALP	28	165
ALP (アルカリホスファターゼ)	1	11
ALP アイソザイム	3	48
ALT (GPT)	1	17
APTT (活性化部分トロンボプラスチン時間)	69	29
(抗)ARS 抗体	48	190
ASK 価	38	29
ASO 価	38	15
AST (GOT)	1	17
AVP (ADH)	27	235

B	頁	保険点数
BAP (骨型 ALP)	28	165
BCA225	23	165
BFP	23	150
BNP (脳性 Na 利尿ペプチド)	33	140
BTR (総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比)	4	291
B 細胞表面免疫グロブリン Sm-IgA	65	165
B 細胞表面免疫グロブリン Sm-IgD	65	165
B 細胞表面免疫グロブリン Sm-IgG	65	165
B 細胞表面免疫グロブリン Sm-IgM	65	165
B 細胞表面免疫グロブリン Sm-IgTotal	65	165
B 細胞表面免疫グロブリン Sm-Igκ鎖	65	165
B 細胞表面免疫グロブリン Sm-Igλ鎖	65	165

C	頁	保険点数
C3	41	70
C4	41	70
CA125	23	152
CA15-3	23	124
CA19-9	23	134
CA602	24	190
CA72-4	24	146
C-AMP (サイクリック AMP)	33	175
(抗)CCP 抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	47	210
Cd (カドミウム)	9	
CEA	23	108
CH50 (血清補体価)	41	38
CK (CPK)	2	11
CK-MB (%)	3	55
CK-MB 定量	3	90
CK アイソザイム	3	55
(抗)CLB2GPI 抗体 (抗カルジオリピンβ <sub>2</sub> グリコプロテインI 複合体抗体)	49	223
(抗)CL リピン抗体 IgG	49	239
CPR (C- ペプチド)	33	117
Cr (クロム)	9	
CRP (C 反応性蛋白)	41	16
C バンド分染法 (染色体検査)	66	頁参照

D	頁	保険点数
---	---	------

D-D ダイマー	69	141
DHEA-5 (デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体)	31	181
(抗)DNA 抗体 (RIA 法)	47	173
DOC (11- デオキシコルチコステロン)	30	
(抗)ds DNA 抗体 IgG	47	173
(抗)ds DNA 抗体 IgM	47	
DUPAN-2	23	124

E	頁	保険点数
E2 (エストラジオール)	32	187
E3 (エストリオール)	32	
EBV EA-DR IgA (FAT 法)	59	79
EBV EA-DR IgG (FAT 法)	59	219
EBV EBNA (FAT 法)	59	79
EBV VCA IgA (FAT 法)	59	79
EBV VCA IgG (FAT 法)	59	219
EBV VCA IgM (FAT 法)	59	219

F	頁	保険点数
(尿)FDP	69	72
(血中)FDP 定量	69	80
FSH (卵胞刺激ホルモン)	27	117
FT3 (遊離トリヨードサイロニン)	27	134
FT4 (遊離サイロキシン)	27	134
FTA-ABS 定性	38	146

G	頁	保険点数
(抗)GAD 抗体	32	134
GH (成長ホルモン)	27	117
G バンド分染法 (染色体検査)	66	頁参照

H	頁	保険点数
HANP (ヒト心房性 Na 利尿ペプチド)	33	233
HA 抗体	62	146
HbA1c (NGSP)	4	49
HBc 抗体	62	145
HBe 抗原	62	107
HBe 抗体	62	107
HBs 抗原 定性	62	29
HBs 抗原	62	88
HBs 抗体 半定量	62	32
HBs 抗体	62	88
HBV-DNA 定量	62	287
HBV プレコア / コアプロモーター変異検出	62	450
(便中)Hb 定性	72	37
HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン)	32	146
(遊離)HCG-β	25	144
(尿)HCG 定性 (妊娠反応)	32	55
HCV-RNA 定量	63	450
HCV 群別 (グルーピング)	63	233
HCV コア抗原 (CLIA 法)	63	114
HCV 抗体 - II	63	114
HCV 抗体 - III	63	114
HDL コレステロール	5	17
HER2/neu (FISH 法)	78	2700
HER2/neu (IHC 法)	78	690
HER2 蛋白定量	25	頁参照
H-FABP (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白)	42	147
Hg (水銀)	9	
HGF (肝細胞増殖因子)	33	227

HIV-1 抗体《確認試験》	61	280
HIV-2 抗体《確認試験》	61	380
HIV 抗原・抗体《スクリーニング》	61	121
HLA 遺伝子型判定〈A Locus〉	66	
HLA 遺伝子型判定〈B Locus〉	66	
HLA 遺伝子型判定〈C Locus〉	66	
HLA 型判定〈A,B Locus〉	66	
HLA 型判定〈DR Locus〉	66	
ハプトグロビン(Hp)型判定	41	144
HPL〈ヒト胎盤性ラクトジェン〉	32	144
HPV-DNA 同定《中～高リスク型》	61	360
HPV-DNA 同定《低リスク型》	61	
HPV 核酸検出	61	360
HTLV- I 抗体価	61	177
HVA〈ホモバニリン酸〉	29	69
H. ピロリ抗体〈ヘリコバクター・ピロリ抗体〉	40	80

I	頁	保険点数
(抗)IA-2 抗体	33	213
ICG 消失率	10	150
ICG 停滞率	10	100
IEP〈免疫電気泳動〉	50	210
IgA	43	38
IgD	43	38
IgE〈非特異的IgE〉	43	100
IgG	43	38
IgG インデックス	43	439
IgG-FcR <sup>+</sup> T 細胞百分率	65	204
IgG-RF	47	204
IgM	43	38
IgM-HA 抗体	62	146
IgM-HBc 抗体	62	146

J	頁	保険点数
(抗)Jo-1 抗体	48	146

K	頁	保険点数
KL-6	4	120
(17-)KGS〈17- ケトジェニックステロイド〉	31	200
(17-)KGS 分画〈17- ケトジェニックステロイド分画〉	31	220
(17-)KS3 分画〈17- ケトステロイド分画〉	31	213
(17-)KS7 分画〈17- ケトステロイド分画〉	31	213

L	頁	保険点数
LAK 活性(非誘導)	65	
LAK 活性(誘導)	65	
LAP	1	11
LD〈LDH〉	1	11
LDL コレステロール	5	18
LDH アイソザイム	3	48
LH〈黄体形成ホルモン〉	27	117
(抗)LKM-1 抗体	48	223
L- ドーパ	20	

M	頁	保険点数
MAC 同定 -DNA	76	421
m-AST〈ミトコンドリア -GOT〉	3	49
MMP-3〈マトリックスメタロプロテイナーゼ -3〉	3	116
Mn〈マンガン〉	9	27

MPO-ANCA〈抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体〉	49	276
--------------------------------	----	-----

N	頁	保険点数
(尿中)NAG〈N- アセチルグルコサミニダーゼ〉	2	41
NCC-ST-439	23	124
NSE〈神経特異エノラーゼ〉	24	146
NT-proBNP〈脳性 Na 利尿ペプチド前駆体N 端フラグメント〉	33	140
NTx〈I 型コラーゲン架橋 N- テロペプチド〉[ 骨粗鬆症 ]	29	160
(尿)NTx [ 骨粗鬆症 ]	29	160
(尿)NTx [ 腫瘍関連 ]	25	160
N- メチルホルムアミド	11	

P	頁	保険点数
PAP〈前立腺酸性フォスファターゼ〉	24	124
PA-IgG〈血小板関連 IgG〉	49	204
PF-4〈血小板第 4 因子〉	69	178
PIC テスト〈α2 プラスミンインヒビター・プラスミン複合体〉	69	162
PIVKA II (凝固)	69	143
PIVKA II (腫瘍)	23	147
PR3-ANCA〈抗好中球細胞質抗体〉	49	276
PRL〈プロラクチン〉	27	98
Pro GRP〈ガストリン放出ペプチド前駆体〉	24	175
PSA〈前立腺特異抗原〉	24	134
PSA-ACT	24	134
PTHrP インタクト	28	194
PTH インタクト	28	180
(ホール)PTH	28	180
PT 時間〈プロトロンビン時間〉	69	18
P 型アミラーゼ	3	48
P-III-P〈プロコラーゲンⅢペプチド〉	42	144

Q	頁	保険点数
QFT-TB〈第 3 世代〉	76	630
Q バンド分染法〈染色体検査〉	66	頁参照

R	頁	保険点数
RAST-16 吸入系	43	1430
RAST-16 食餌系	43	1430
RF 定量〈リウマトイド因子〉	47	30
Rh(D)血液型	50	21
Rh-Hr 式血液型	50	160
RLP-C〈レムナント様リポ蛋白コレステロール〉	6	191
(抗)RNP 抗体 (CLEIA 法)	47	144
(抗)RNP 抗体 (免疫拡散法)	47	144
RPR〈梅毒血清反応〉定性	38	15
RPR〈梅毒血清反応〉定量	38	34
RS (CF 法)	53	79
RS (NT 法)	56	79
R バンド分染法〈染色体検査〉	66	頁参照

S	頁	保険点数
SCC 抗原〈扁平上皮癌関連抗原〉	24	110
(抗)ScI-70 抗体 (免疫拡散法)	48	162
(抗)ScI-70 抗体 (CLEIA 法)	48	162
sIL-2R〈可溶性インターロイキン -2 レセプター〉	24	451



SLX〈シアルリル Le <sup>x</sup> -i 抗原〉	23	152
(抗)Sm 抗体 (免疫拡散法)	47	159
(抗)Sm 抗体 (CLEIA 法)	47	159
SPan-1 抗原	23	146
SP-D〈肺サーファクタントプロテインD〉	42	140
(抗)SS-A 抗体 (免疫拡散法)	48	165
(抗)SS-A 抗体 (CLEIA 法)	48	165
(抗)SS-B 抗体 (免疫拡散法)	48	162
(抗)SS-B 抗体 (CLEIA 法)	48	162
STN〈シアルリル Tn 抗原〉	24	146

T	頁	保険点数
T3〈トリヨードサイロニン〉	27	108
T4〈総サイロキシン〉	27	114
TARC	42	194
TAT〈トロンビン・アンチトロンビン複合体〉	69	191
TBG〈サイロキシン結合グロブリン〉	28	134
Tg-Ab〈抗サイログロブリン抗体〉	28	144
TIBC [ 計算値 ]	8	
TOTAL P1NP〈I型プロコラーゲン-N-プロペプチド〉	29	170
TPA〈組織ポリペプチド抗原〉	23	110
TPHA〈梅毒トレポネーマ抗体〉定量	38	53
TPHA〈梅毒トレポネーマ抗体〉定性	38	32
(抗)TPO 抗体〈抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体〉	28	146
TRACP-5b〈酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ〉	29	160
TSAb〈TSH 刺激性レセプター抗体〉	28	350
TSH〈甲状腺刺激ホルモン〉	27	110
TSH レセプター抗体	28	239
TTT〈チモール混濁反応〉	1	11
T 細胞・B 細胞百分率	65	204

U	頁	保険点数
UIBC〈不飽和鉄結合能〉	8	11
USBA〈尿中硫酸抱合型胆汁酸〉	11	57

V	頁	保険点数
View アレルギー 39	43	1430
VMA〈バニルマンデル酸〉	29	90

Z	頁	保険点数
Zn〈亜鉛〉	9	144
ZTT〈硫酸亜鉛試験〉	1	11

## ギリシャ文字順

	頁	保険点数
α1 アンチトリプシン (α1AT)	41	80
αフェトプロテイン (AFP)	23	110
α1 マイクログロブリン (α1M)	41	144
α2 マイクログロブリン	41	138
β2 マイクログロブリン (β2-m)	41	110
β-D- グルカン ( (1→3)-β-D- グルカン )	39	213
β- カロチン	7	
β- トロンボグロブリン (β-TG)	69	177
βリポ蛋白 (β-LP)	5	
γ-GT	2	11
γ-Sm (γ- セミノプロテイン)	24	194
δ- アミノレブリン酸 (δ-ALA)	10	112

## 数字順

	頁	保険点数
1 $\alpha$ ,25-(OH) <sub>2</sub> ビタミン D	7	400
1,5AG (1,5- アンヒドログルシトール)	4	80
11- デオキシコルチコステロン (DOC)	30	
17-KGS (17- ケトジェニックスステロイド)	31	200
17-KGS 分画 (17- ケトジェニックスステロイド分画)	31	220
17-KS3 分画 (17- ケトステロイド分画)	31	213
17-KS7 分画 (17- ケトステロイド分画)	31	213
2,5 ヘキサンジオン	11	
24 時間クレアチニンクリアランス	10	
25-OH ビタミン D	7	
3-メトキシ-4-ヒドロキシフェニルエチレングリコール (MHPG)	30	
5-HIAA (5- ヒドロキシインドール酢酸)	30	95
5 $\alpha$ -DHT (5 $\alpha$ - ジヒドロテストステロン)	32	

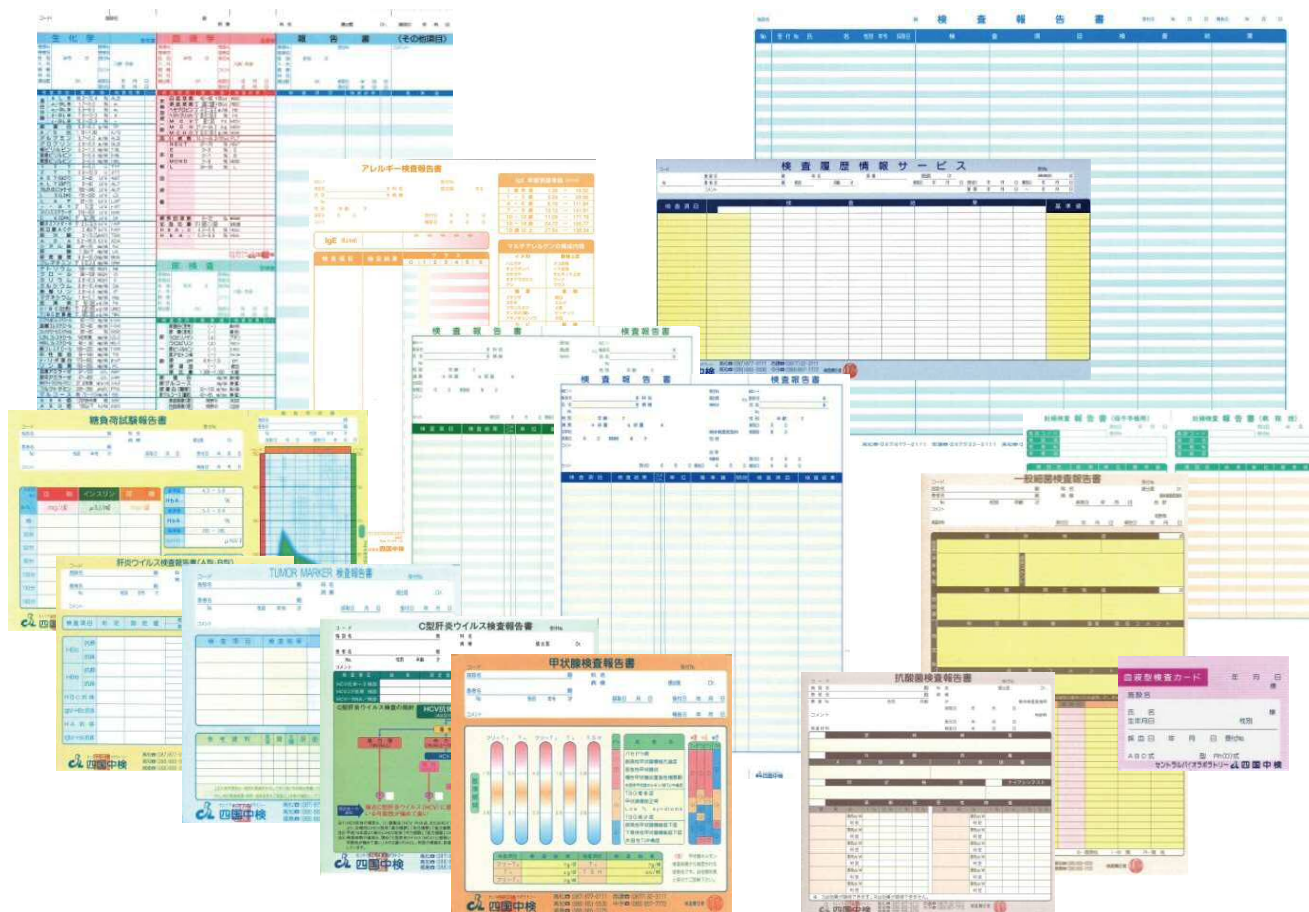
## ローマ数字順

	頁	保険点数
I 型 CTP (I 型コラーゲン -C- テロペプチド)	25	頁参照
I 型プロコラーゲン -N- プロペプチド (TOTAL P1NP)	29	170
IV型コラーゲン	42	144
(尿中)IV型コラーゲン	42	200
(第)II 因子活性 (F2)	70	229
(第)V 因子活性 (F5)	70	229
(第)VII 因子活性 (F7)	70	229
(第)VIII 因子活性 (F8)	70	229
(第)IX 因子活性 (F9)	70	229
(第)X 因子活性 (F10)	70	229
(第)XI 因子活性 (F11)	70	229
(第)XII 因子活性 (F12)	70	229
(第)XIII 因子定量 (F13)	70	229
(第)VIII 因子インヒビター (F8INH)	70	155
(第)IX 因子インヒビター (F9INH)	70	155

## 検査依頼書



## 検査報告書



検査のご利用に当たっては、当社所定の検査依頼書（検体ラベル）および検体容器をご使用ください。必要な検査依頼書および検体容器は、最寄りの検査所よりお届けします。（体外診断用医薬品は除く）容器の種類は、検査項目毎に表示してありますので、巻末の「専用容器一覧」をご参照ください。

- 依頼書は複写式となっております。一部を検査依頼元「控」として、併せて検体受領書に代えさせていただきますので、ご了承ください。

## 取引のお申込み

ご利用に際しましては、最寄りの検査所へご連絡ください。営業担当者がお伺いし、ご説明・ご相談させていただきます。営業所の所在地、連絡先は裏表紙に記載しておりますのでご参照ください。

## 検査のご依頼

検査のご依頼に際しましては、依頼項目に応じた所定の検査依頼書、検体容器および検体ラベルをご使用ください。なお、伝送によるご依頼、ご報告については別途ご相談ください。

### 検査依頼書

- 検査依頼書にはバーコードラベルが付属しています。バーコードラベルは、付属する依頼書毎の専用ラベルとなっており、そのバーコード番号を検査の受付に使用致しますので、他の依頼書のラベルを違う依頼書の検体には使用しないでください。また、必要数を使用後に余ったラベルは、剥がさずにそのまま依頼書と一緒にご提出ください。
- 検体ラベルには、施設名、患者名、性別、年齢、材料をご記入の上、採取容器に対して縦方向にお貼りください。

依頼書の記入要領につきましては、ご利用の手引き-4頁をご参照ください。

### 検体の採取条件

- 本案内書をご参照の上、所定の容器に必要量を採取してください。容器の種類については検査項目毎に記号で表示してありますので、巻末の「専用容器一覧」をご参照ください。
- 本案内書には、およその採取量・提出量を記載してあります。ご提出量は原則として再検査に応じられるよう設定してあります。検体量不足にならないようにご注意ください。
- 培養を伴う検査の検体採取は、無菌的に行い、所定の滅菌容器にてご提出下さい。

## 被検者への指示事項について

検査測定値は、食事・運動・採血時間・服薬・その他の影響を受けるため、採血の際は下記の事項にご注意ください。

- 採血は早朝空腹時が原則です。水・お茶等の糖分・カロリーの入っていないもの以外は摂取しないでください。また、前日の飲酒は控えてください。
- 採血直前は過度の運動を避け安静にしてください。
- 必要に応じて医師と相談の上、服薬の調整をしてください。

## 検体の採取について

### 採血方法

採血には、真空採血管をご使用ください。やむを得ずシリンジを使用される場合は、血液を採血管に移す際に細菌混入の汚染が起きないように、ご注意ください。

### 採血時の消毒

腕の静脈から採血される場合は、駆血して静脈の走行を確認後、針の穿刺部を中心にして外側に向かってアルコール綿で拭い、消毒してください。

### 採血管の確認

真空採血管をホルダーに挿入する前に、採血管に張付けた検体ラベルに記入された被検者氏名を確認して、採血管の取り違えがない事を確認してください。

### 採取量

血清または血漿については、提出量に対し、約3倍量の血液を採取してください。(溶血防止のため 23G より細い注射針は使用しないでください。また、駆血時間が長くと凝固反応が活性化するため、出来るだけ駆血後2分以内に採血してください。)

### 採取後の混和

抗凝固剤入りの真空採血管で血液を採取される場合は、吸引後に採血管をホルダーから外したら直ちに5回以上緩やかに転倒混和し、凝固反応が起きないようにご注意ください。なお、過度の激しい混和は溶血が生じる場合がありますので、ご注意ください。

### 血清・血漿分離

血清については、採血後、室温にて凝固を確認した後、遠心分離(3000rpm 10～15分間)し、上清を所定の提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。  
血漿については、所定の抗凝固剤入り採取容器に採血後、遠心分離(3000rpm 10～15分間)し、上清を所定の提出容器に移して指定の保存条件にてご提出ください。

上記以外の材料(尿・精液・微生物用・他)につきましては、各分野毎の参照資料をご確認ください。

## 検査測定値に重大な影響を与える主な要因

食事(空腹時)、過度の運動、年齢(成長期等)、性差、薬物の副作用等は測定値に影響を及ぼしますのでご注意ください。

## 再検査

- 当社再検査基準に基づき、再検査を致します。
- 最少必要検体量にてご依頼の場合、量不足のため再検査に応じられないことがあります。



## 検体の保存

- 検査精度を維持するために、検体の採取後、提出されるまでの間、所定の保存条件を遵守してください。（本案内書「保存」欄をご参照ください。）

### 凍結

必ず凍結（-12℃以下）保存してください。凍結温度指定のあるものは、その旨記載致します。なお、凍結指定の項目については原則として単独検体での出検をお願い致します。

### 冷蔵

4～10℃で保存して下さい。冷蔵温度指定のあるものは、その旨記載致します。また、数日以上にわたって保存される場合は、凍結していただくようお願い致します。なお、凍結不可の材料については、その旨記載致します。

### 常温

常温保存して下さい。（15～25℃前後）

### 遮光

直射日光または蛍光灯、紫外線を避けて保存して下さい。

- 検査項目によっては、検査成績が保存状態の影響を明らかに受けるものもありますので、お取り扱いにご注意ください。
- 検査項目毎に適正な検査結果をお届けすることができる検体採取後の「検体の安定性」を明記しておりますので、ご参照ください。

## 所要日数

- 検体をお預かりした翌日を起算日とし、成績を先生のお手元にお届けするまでの日数です。
- 依頼検査項目の組合せにより、所要日数の長い項目に準ずることがあります。
- 再検査の場合や祝祭日の前後は、さらに若干の日数を要することがあります。

## 検体の受領・輸送

検査のご依頼に際しましては、当社営業員が受領に伺いますので、検査依頼書と検体とを照合の上、ご提出ください。

### 検体の受領

- 貴院への集配は、予め申し合わせの上、お伺い致します。

検体受領日時

検体受領場所

### 検体の輸送

- お預かりした検体および検査依頼書は、厳密な管理の下に当社検査所に搬入致します。平均搬送時間は、

検査所まで 時間

となっております。

- 一部の検査につきましては、当社責任管理の下に、他施設に再委託致します。再委託先は、本案内書「主要参考文献」欄と「検査報告書」に以下の記号を表示してあります。なお、当社より最終委託先への平均搬送時間は、各施設名の後に括弧にて表示の通りとなっております。

※01 ファルコバイオシステムズ（5時間）

※02 エスアールエル（5時間）

※03 LSIメディエンス（5時間）

～経由～

※11 あずか製薬メディカル（11時間）

※16 エスアールエル（7時間）

※17 北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所（7時間）

※18 ビー・エム・エル（10時間）

※21 常盤特殊分析センター（8時間）

※24 日立化成（8時間）

※37 積水メディカル SMCL 阿見ラボラトリー（7時間）

※04 四国細胞病理センター（0.5時間）

※06 保健科学研究所（5時間）

※07 西日本病理研究所（3時間）

※08 ビー・エム・エル（5時間）

## 検体の保管

- 検査を追加される場合は、最寄りの検査所までお問い合わせください。
- 検査済み検体はお客様との特段の取り決めがない限り、血清検体は2週間、末梢血液検体など一部の検体は1週間保管いたします。なお、腐敗、変性の著しい材料につきましては検査実施後に処分させていただく場合がございますので、予めご了承ください。保管期間後の検体は、適正な方法にて廃棄致します。なお、プール化および匿名化が可能なものにつきましては、個人情報保護法およびガイドラインを遵守した上で検査精度維持、向上等の目的で使用することがあります。また、検体保管期間中に検査を委託した医療機関より残検体の返還を求められた場合は速やかに返還致しますが、委託した医療機関以外または医師個人から学術研究等の目的により検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供に応じることはできません。

## 検査結果のご報告

- 検査結果は、当社指定の報告書にてお届け致します。
- 緊急を要する検査結果は、まずFAXでご報告致します。
- 本案内書で特に指定した項目において異常データを示した場合は、測定後速やかに電話またはFAXにてご報告致します。報告基準につきましては、手引き-6頁の「緊急報告対象項目とその基準値」をご参照ください。
- 定量検査では、当社独自の基準により測定範囲に上限を設け、検査結果が上限値を超える場合、“〇〇以上”とご報告させていただきます。

## 検体の受入れ不可基準について

搬入された検体の状態によっては、測定をお断りする事があります。

- 検体採取から当社受入れまでの許容時間が指定されている検査項目で、その時間を超過して搬入された検体。
- 指定された搬送温度を逸脱して搬送された検体。
- 指定された採取量に対して著しく不足していたり、あるいは多く採取されている検体。
- 指定された専用容器に採取されていなかったり、採取されていても十分な混和がされていない検体。
- 著しい凝固、溶血、乳び等の性状不適が見られる検体。

## 検査についてのお問い合わせ

- 検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘につきましては、最寄りの検査所または営業担当者までお問い合わせください。

## 料金のご請求とお支払い方法

- 請求書は1ヶ月分をまとめてお届け致します。お支払方法は契約にしたがってお願い致します。
- お支払いは、なるべく銀行口座振替または振込にてお願い致します。なお、銀行振込の場合は、振込金受取書をもちまして、領収書に代えさせていただきます。

## 検査依頼書の記入要領

- 検査依頼書の2枚目は、検査依頼元「控」および検体受領書となっております。
  - 受付処理をコンピュータで行いますので、折れ曲がったり、破れたりしないようにお願い致します。
  - 検査依頼書は複写式となっておりますので、ボールペンで強くお書きください。
- ① 依頼元施設名称をご記入ください。
  - ② 患者名、診療科名、病棟名、提出医名、フリーコメントは、カタカナ・アルファベット・アラビア数字を左詰めでご記入ください。
  - ③ 検体採取月日、採取時刻をご記入ください。
  - ④ 性別に☑印をご記入ください。併せて年齢もご記入ください。

## 業務時間

### 業務日

月曜日～土曜日

### 休業日

香川検査所：日曜日、祝日、その他（年末年始等）

検査所： \_\_\_\_\_

### 業務時間

香川検査所： 8:00～19:30

検査所： \_\_\_\_\_

## 個人情報保護方針

個人情報保護方針につきましては、弊社のホームページをご参照ください。

<http://www.s-cyuken.co.jp/>

- ⑤ 必要に応じてカルテ№をご記入ください。
- ⑥ 必要に応じて入院・外来、透析前・透析後、随時尿・蓄尿に☑印をご記入ください。尿量が必要な場合は、尿量もご記入ください。
- ⑦ 緊急検査につきましては、緊急に☑印をご記入ください。
- ⑧ ご依頼検査項目は、項目のチェック欄に☑印をご記入ください。
- ⑨ チェックした☑印を取り消す場合は、☒印をご記入ください。
- ⑩ 記載されていない項目をご依頼の場合は、追加検査欄に項目名をご記入ください。
- ⑪ 検査の優先順位等、特にご指示のある場合は備考欄にご記入ください。
- ⑫ 提出検体の種類毎の検体数及び合計数をご記入ください。



## ●検査材料に関する主な用語

検査材料	概要
血液	検査のために採取していただく肘静脈血を表します。
～加血液	採血後速やかに添加剤を混和した血液を表します。添加剤の種類により、「EDTA 加血液」、「ヘパリン加血液」、「クエン酸加血液」、「NaF 加血液」などと表示致します。（所定の添加剤入り当社指定容器に血液を採取して下さい。）
～血漿	採血後速やかに添加剤を混和し、遠心分離によって得られた血漿を表します。 添加剤の種類により、「EDTA 血漿」、「ヘパリン血漿」「クエン酸血漿」などと表示致します。 なお、単に「血漿」とあるものについては「備考欄」に添加剤の種類を別記しております。
血清	採血後、血餅の収縮を待って遠心分離して得られた上清を表します。 特に添加剤を用いる必要のある場合は、その旨「備考欄」に記載しております。
尿	原則として自然排尿された尿を表します。 なお、「蓄尿」を要する場合、「備考欄」に使用する防腐剤の種類を別記しております。 採尿方法については、以下を参考として下さい。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 普通尿の場合 新鮮尿を清潔な乾燥した容器に直接排尿するか、清潔な乾燥した携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。</li> <li>2) 中間尿の場合 清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。最初は便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、再び便器に放尿します。</li> <li>3) 無菌尿の場合 男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。 細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採尿しても構いません。</li> </ol>

## ●「基準値」欄の単位記号

<b>L</b>	liter (=1,000 mL)	<b>mmol</b>	millimole (=0.001 mol)
<b>dL</b>	deciliter (=100 mL)	<b>μmol</b>	micromole (=0.001 mmol)
<b>mL</b>	milliliter	<b>nmol</b>	nanomole (=0.001 μmol)
<b>mm<sup>3</sup></b>	cubicmillimeter	<b>pmol</b>	picomole (=0.001 nmol)
<b>μ<sup>3</sup></b>	cubicmicron	<b>fmol</b>	femtomole (=0.001 pmol)
<b>g</b>	gram	<b>mEq</b>	milli Equivalent
<b>mg</b>	milligram (=0.001 g)	<b>FE</b>	Fibrinogen Equivalent
<b>μg</b>	microgram (=0.001 mg)	<b>BCE</b>	Bone Collagen Equivalent
<b>ng</b>	nanogram (=0.001 μg)	<b>mOsm</b>	milli Osmole
<b>pg</b>	picogram (=0.001 ng)	<b>sec</b>	second
<b>U</b>	Unit	<b>min</b>	minute
<b>U<sub>A</sub></b>	Allergen Unit	<b>h</b>	hour
<b>mU</b>	milli Unit (0.001 U)	<b>%</b>	percent
<b>μU</b>	micro Unit (0.001 mU)	<b>‰</b>	permill
<b>IU</b>	International Unit	<b>SI</b>	Stimulation Index
<b>AU</b>	Arbitrary Unit	<b>cpm</b>	count per minute
<b>BU</b>	Bethesda Unit	<b>RBC</b>	Red Blood Cell
<b>RLU</b>	Relative Light Unit	<b>LogIU</b>	
<b>R.U.</b>	RPR Units		
<b>T.U.</b>	Titer Units		

## ●「基準値」欄の略号

**M**: 男性 (Male)  
**F**: 女性 (Female)

緊急報告対象項目とその基準値

● 下記の検査項目で、緊急報告値が検出された場合は、測定後速やかに FAX 等にてご報告申し上げます。

	検査項目名	緊急報告基準値		区分	参考基準値	備考	
生化学	総蛋白	3.5 以下	10.0 以上	g/dL	極	6.6 ~ 8.1	
	総ビリルビン		12.0 以上	mg/dL	極	0.2 ~ 1.0	新生児以外
	AST (GOT)		500 以上	U/L	極	5 ~ 40	
	ALT (GPT)		500 以上	U/L	極	5 ~ 42	
	LD (LDH)		1000 以上	U/L	パ	110 ~ 220	
	CK (CPK)		1000 以上	U/L	パ	M 57 ~ 284 F 45 ~ 176	
	アンモニア		400 以上	μg/dL	極	30 ~ 86	除蛋白不良は除く
	尿素窒素		80.0 以上	mg/dL	極	8.0 ~ 20.0	透析患者は除外
	クレアチニン		8.00 以上	mg/dL	パ	M 0.50 ~ 1.00 F 0.40 ~ 0.80	透析患者は除外
	ナトリウム	120 以下	160 以上	mEq/L	パ	136 ~ 148	
	クロール		120 以上	mEq/L	パ	98 ~ 108	
	カリウム	2.5 以下	7.0 以上	mEq/L	パ	3.6 ~ 5.0	透析患者は除外
	カルシウム	6.0 以下	12.0 以上	mg/dL	パ	8.6 ~ 10.4	
	グルコース (空腹時)	50 以下	500 以上	mg/dL	パ	70 ~ 110	低値は専用容器使用のみ報告
アミラーゼ (血清)		1000 以上	U/L	極	37 ~ 125		
血清	CRP		30.00 以上	mg/dL	極	0.30 以下	
	A B O 血液型	表裏試験不一致		パ			
	クームス (直接)	( + )		パ	( - )	新生児に限る	
血液学	白血球数	15 以下	200 以上	$\times 10^2/\mu\text{L}$	パ	40 ~ 80	
	ヘモグロビン	5.0 以下	20.0 以上	g/dL	パ	M 12.4 ~ 17.6 F 11.0 ~ 15.2	
	血小板数	3.0 以下	100.0 以上	$\times 10^4/\mu\text{L}$	パ	14.0 ~ 34.0	
	血液像	blastoid cell ( + ) 異常細胞多数出現 赤芽球多数出現 (30/200WBC) 以上					初診者のみ報告
	プロトロンビン時間		30.0 以上	秒	極	9.7 ~ 12.3	
	プロトロンビン-INR		4.0 以上		パ		
細菌	血液培養	菌検出		パ	細菌を認めず		
	髄液 (培養)	菌検出		パ	細菌を認めず		
	培養同定	一類二類三類感染症原因菌の検出		パ	細菌を認めず		

	検査項目名	緊急報告基準値		区分	有効治療濃度	備考
薬物検査	フェノバルビタール		60.0 以上	μg/mL	パ	15.0 ~ 40.0
	フェニトイン		30.0 以上	μg/mL	パ	10.0 ~ 20.0
	カルバマゼピン		12.0 以上	μg/mL	パ	4.0 ~ 10.0
	バルプロ酸ナトリウム		150 以上	μg/mL	パ	50 ~ 100
	テオフィリン		25.0 以上	μg/mL	パ	10.0 ~ 20.0
	ジゴキシン		2.5 以上	ng/mL	パ	0.9 ~ 2.0

「極」は極端値、「パ」はパニック値を表します。

表中の区分は、「極端値・パニック値対応マニュアル Ver.1.4 日本臨床検査自動化学会誌, 2005.」に準拠。

## 実施料について

患者から1回に採取した血液を用いて、下記にあげた項目を複数検査した場合は、それぞれの点数にかかわらず、検査の項目数に応じて点数が包括されます。

保険点数は平成28年4月現在の検体検査実施料に準じております。

## 検体検査判断料

① 尿・糞便等検査判断料	34点	尿便
② 血液学的検査判断料	125点	血液
③ 生化学的検査（Ⅰ）判断料	144点	生Ⅰ
④ 生化学的検査（Ⅱ）判断料	144点	生Ⅱ
⑤ 免疫学的検査判断料	144点	免疫
⑥ 微生物学的検査判断料	150点	微生物
⑦ 病理判断料	150点	病理

## ■ 生化学的検査 I

項目数	実施料
5項目以上7項目以下	93
8項目又は9項目	99
10項目以上	115

## ■ 内分泌学的検査

項目数	実施料
3項目以上5項目以下	410
6項目又は7項目	623
8項目以上	900

総ビリルビン  
 直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン  
 総蛋白  
 アルブミン  
 尿素窒素  
 クレアチニン  
 尿酸  
 アルカリホスファターゼ (ALP)  
 コリンエステラーゼ (ChE)  
 γ-グルタミルトランスフェラーゼ (γ-GT)  
 中性脂肪  
 ナトリウム及びクローール  
 カリウム  
 カルシウム  
 マグネシウム  
 膠質反応  
 クレアチン  
 グルコース  
 乳酸デヒドロゲナーゼ (LD)  
 アミラーゼ  
 ロイシンアミノペプチダーゼ (LAP)  
 クレアチンキナーゼ (CK)  
 アルドラーゼ  
 遊離コレステロール  
 鉄 (Fe)  
 血中ケトン体・糖・クローール検査  
 (試験紙法・アンフル法・固定化酵素電極によるもの)  
 不飽和鉄結合能 (UIBC) (比色法)  
 総鉄結合能 (TIBC) (比色法)  
 リン脂質  
 HDL-コレステロール  
 無機リン及びリン酸  
 総コレステロール  
 アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST)  
 アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT)  
 LDL-コレステロール  
 蛋白分画  
 銅 (Cu)  
 リパーゼ  
 イオン化カルシウム  
 マンガン (Mn)

成長ホルモン (GH)  
 卵胞刺激ホルモン (FSH)  
 C-ペプチド (CPR)  
 黄体形成ホルモン (LH)  
 アルドステロン  
 テストステロン  
 遊離サイロキシニン (FT<sub>4</sub>)  
 抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体)  
 遊離トリヨードサイロニン (FT<sub>3</sub>)  
 コルチゾール  
 サイロキシニン結合グロブリン (TBG)  
 サイログロブリン  
 脳性Na利尿ペプチド (BNP)  
 サイロキシニン結合能 (TBC)  
 脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント (NT-proBNP)  
 カルシトニン  
 ヒト胎盤性ラクトゲン (HPL)  
 ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット (HCG-β)  
 ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 定量  
 ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 半定量  
 グルカゴン  
 プロゲステロン  
 I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTX)  
 酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ (TRACP-5b)  
 骨型アルカリホスファターゼ (BAP)  
 遊離テストステロン  
 低カルボキシル化オステオカルシン (ucOC)  
 インタクトI型プロコラーゲン-N-プロペプチド (Intact PINP)  
 I型コラーゲン架橋 C-テロペプチド-β異性体 (β-CTX) (尿)  
 オステオカルシン (OC)  
 セクレチン  
 低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン (HCG) 半定量  
 I型コラーゲン架橋 C-テロペプチド-β異性体 (β-CTX)  
 I型プロコラーゲン-N-プロペプチド (PINP)  
 サイクリック AMP (cAMP)  
 エストリオール (E<sub>3</sub>)  
 エストロゲン半定量  
 エストロゲン定量  
 副甲状腺ホルモン関連蛋白 C 端フラグメント (C-PTHrP)  
 副甲状腺ホルモン (PTH)  
 カテコールアミン分画  
 デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体 (DHEA-S)  
 エストラジオール (E<sub>2</sub>)

副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP)  
 デオキシビリジノリン (DPD) (尿)  
 17-ケトジェニックスステロイド (17-KGS)  
 副腎皮質刺激ホルモン (ACTH)  
 カテコールアミン  
 エリスロポエチン  
 17-ケトステロイド分画 (17-KS 分画)  
 17α-ヒドロキシプロゲステロン (17α-OHP)  
 抗IA-2抗体  
 プレグナンジオール  
 17-ケトジェニックスステロイド分画 (17-KGS 分画)  
 メタネフリン  
 ソマトメジン C  
 心房性 Na 利尿ペプチド (ANP)  
 メタネフリン・ノルメタネフリン分画  
 抗利尿ホルモン (ADH)  
 プレグナントリオール  
 ノルメタネフリン  
 インスリン様成長因子結合蛋白 3 型 (IGFBP-3)

■ 腫瘍マーカー

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	420

癌胎児性抗原 (CEA)  
 α- フェトプロテイン (AFP)  
 組織ポリペプチド抗原 (TPA)  
 扁平上皮癌関連抗原 (SCC 抗原)  
 DUPAN-2  
 NCC-ST-439  
 CA15-3  
 前立腺酸ホスファターゼ抗原 (PAP)  
 エラスターゼ 1  
 前立腺特異抗原 (PSA)  
 CA19-9  
 CA72-4  
 Span-1  
 シアリル Tn 抗原 (STN)  
 神経特異エノラーゼ (NSE)  
 PIVKA- II 半定量  
 PIVKA- II 定量  
 塩基性フェトプロテイン (BFP)  
 CA50  
 シアリル Le<sup>x</sup>-i 抗原 (SLX)  
 CA125  
 核マトリックスプロテイン 22 (NMP22) 定量 (尿)  
 核マトリックスプロテイン 22 (NMP22) 定性 (尿)  
 サイトケラチン 8・18 (尿)  
 遊離型 PSA 比 (PSA F/T 比)  
 抗 p53 抗体  
 BCA225  
 シアリル Le<sup>x</sup> 抗原 (CSLEX)  
 I 型プロコラーゲン -C- プロペプチド (PICP)  
 I 型コラーゲン -C- テロペプチド (ICTP)  
 SP1  
 サイトケラチン 19 フラグメント (シフラ)  
 ガストリン放出ペプチド前駆体 (ProGRP)  
 CA54/61  
 癌関連ガラクトース転移酵素 (GAT)  
 遊離型フコース (尿)  
 CA602  
 α- フェトプロテインレクチン分画 (AFP-L3%)  
 γ- セミノプロテイン (γ-Sm)  
 CA130  
 ヒト絨毛性ゴナドトロピン分画コアフラグメント (HCGβ-CF) (尿)  
 腫瘍胎児性抗原 (POA)  
 可溶性メソテリン関連ペプチド  
 癌胎児性抗原 (CEA) 定性 (乳頭分泌液)  
 癌胎児性抗原 (CEA) 半定量 (乳頭分泌液)  
 HER2 蛋白 (乳頭分泌液)  
 HER2 蛋白  
 可溶性インターロイキン-2 レセプター (sIL-2R)

■ 肝炎ウイルス関連検査

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	460

HBs 抗原  
 HBs 抗体  
 HBe 抗原  
 HBe 抗体  
 HCV 抗体定性・定量  
 HCV コア蛋白  
 HCV コア抗体  
 HBc 抗体半定量・定量  
 HA-IgM 抗体  
 HA 抗体  
 HBc-IgM 抗体  
 HCV 構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性  
 HCV 構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量  
 HE-IgA 抗体定性  
 HCV 血清群別判定  
 HBV コア関連抗原 (HBcrAg)  
 デルタ肝炎ウイルス抗体  
 HCV 特異抗体価  
 HBV ジェノタイプ判定

■ 出血・凝固検査

項目数	実施料
3項目又は4項目	530
5項目以上	722

フィブリノゲン分解産物 (FgDP)  
 D ダイマー定性  
 プラスミンインヒビター (アンチプラスミン)  
 D ダイマー半定量  
 von Willebrand 因子 (VWF) 活性  
 α<sub>2</sub>- マクログロブリン  
 D ダイマー  
 PIVKA- II  
 凝固因子インヒビター  
 von Wille-brand 因子 (VWF) 抗原  
 プラスミン・プラスミンインヒビター複合体 (PIC)  
 プロテイン S 抗原  
 プロテイン S 活性  
 β- トロンボグロブリン (β-TG)  
 血小板第 4 因子 (PF<sub>4</sub>)  
 トロンピン・アンチトロンピン複合体 (TAT)  
 プロトロンビンフラグメント F1+2  
 トロンボモジュリン  
 凝固因子  
 フィブリンモノマー複合体  
 プロテイン C 抗原  
 tPA・PAI-1 複合体  
 プロテイン C 活性  
 フィブリノペプチド

■ 自己抗体検査

項目数	実施料
2項目	320
3項目以上	490

抗サイログロブリン抗体  
 抗 RNP 抗体定性  
 抗 RNP 抗体半定量  
 抗 RNP 抗体定量  
 抗 Jo-1 抗体定性  
 抗 Jo-1 抗体半定量  
 抗 Jo-1 抗体定量  
 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体  
 抗 Sm 抗体定性  
 抗 Sm 抗体半定量  
 抗 Sm 抗体定量  
 抗 SS-B/La 抗体定性  
 抗 SS-B/La 抗体半定量  
 抗 SS-B/La 抗体定量  
 抗 Scl-70 抗体定性  
 抗 Scl-70 抗体半定量  
 抗 Scl-70 抗体定量  
 抗 SS-A/Ro 抗体定性  
 抗 SS-A/Ro 抗体半定量  
 抗 SS-A/Ro 抗体定量  
 C1q 結合免疫複合体  
 抗 RNA ポリメラーゼ III 抗体  
 抗 ARS 抗体

## ● 主な検査方法の概略

### BLEIA 生物発光酵素免疫測定法 bioluminescent enzyme immunoassay analyzer

生物発光体のルシフェリンはその生物が持つルシフェラーゼとのみ反応する。このルシフェリン・ルシフェラーゼを応用した酵素免疫測定法 (EIA) の一つである。抗体又は抗原を結合させた磁性粒子と検体中の抗原 (抗体) を反応させ、さらにルシフェラーゼ標識抗体を加え B/F 分離後、基質のルシフェリンを加えると発光する。この発光強度により検量線から濃度を測定する。

### CF 補体結合試験 Complement Fixation Test

抗原 - 抗体複合物がある一定の条件のもとに補体を活性化し、免疫グロブリンの Fc 部分に補体を結合する現象を応用した検査方法。主にウイルス抗体の検出などに用いられる最も基本的な検査方法である。CF 活性を持つのは IgG と IgM のみであるが、一般に感染後短期間のみ検出される場合が多い。ヘパ血清で測定するのが望ましい。

### CLEIA 化学発光・酵素免疫測定法 Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

被検物質に対する抗体を担体に固相化したものに検体および酵素標識抗体を反応させ、これに化学発光基質を加えると、この基質は酵素により分解され酵素量に応じて発光する。その発光量をモニターで測定し定量する検査方法である。

### CLIA 化学発光免疫測定法 Chemiluminescent Immunoassay

被検検体にアリグロシム・イステルを標識した抗体と固相化抗体を反応させサトイフ状の複合物を形成させることにより測定する検査方法、磁気分離固相法により B/F 分離した後、専用アラライナーでアリグロシム・イステル発光量を測定することにより定量する。

### dRVVT 希釈ラッセル蛇毒試験法 Diluted Russell's Viper Venom Test

ラッセル蛇毒は、外因系の第VII因子、接触因子、内因系の抗出血性因子の関与を受けずに直接血漿中の第X因子を活性化して凝固反応を開始し、リリ脂質、カルシウム、活性第V因子の共存下で最終的にロトレンを生成する。抗リリ脂質抗体の一種であるループスアンチコアラクト (LA) が存在すると上記反応系からリリ脂質が消費され、その結果として凝固時間の延長をきたす。ここで過剰なリリ脂質を添加して同様の反応を行い LA の影響を予め排除した場合に、凝固時間の延長が補正されれば、血漿中の LA の存在を間接的に証明できる。

### ECLIA 電気化学発光免疫測定法 Electro Chemiluminescent Immunoassay

電解反応により生成されるトリチウムによりルシフェリン錯体を励起して発光させる化学発光法の一つである。

被検検体に測定を目的とする物質 (A) に対する抗体を結合したビーズを反応させると、抗原抗体複合物が生成される。次にこのビーズを洗浄し、ビーズに結合した (A) にルシフェリン標識抗体を反応させるとサトイフ状の複合物が形成される。さらにビーズを洗浄し電極上にて電気トリチウムを加えるとビーズに結合したルシフェリン標識抗体量に応じてルシフェリン錯体が発光する。この発光量は (A) の量と相関するので検量線により濃度を読み取る。

### EIA 酵素免疫測定法 Enzyme Immunoassay

抗原または抗体に被検検体を反応させた抗原抗体複合物に酵素標識抗体を加え反応させた後、その酵素に対する基質を添加し発色させ、その吸光度により比色定量するものである。競合法と非競合法に大別され、広く各種抗体・抗原・抗体価、薬物濃度などの測定に用いられる。標識酵素には<sup>3</sup>H-メチンゲルゼンや<sup>125</sup>I-アロカリファスファターゼなどが用いられる。

### ELISPOT 酵素免疫斑点法 Enzyme-Linked ImmunoSpot

サイトカインを高感度に検出する検査法の一つ。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを通常の ELISA 法の数十倍以上の感度で測定が可能で、100,000 個中 1 個の細胞という低レベルでも検出可能とされる。結核菌感染既往を検査する T-SPOT.TB 検査に用いられており、抗原により刺激して IFN- $\gamma$  産生細胞数を計測することにより感染診断を行う。

### EMIT 酵素増幅免疫測定法 Enzyme-multiplied Immunoassay Technique

EMIT は、主に薬物濃度測定に用いられる検査方法である。検体中の薬物とグルコース-6-リン酸脱水素酵素 (G-6-PDH) で標識されたその薬物の抗体に対する競合反応を利用したもので、抗体に未結合の G-6-PDH が、さらにニコチンアミドアデニンジヌクレオチド (NAD) を NADH に還元することによって生じる吸光度の変化を測定することを利用した酵素免疫法の一つである。

### FAT 蛍光抗体法 Fluorescent Antibody Test

抗原または抗体を測定する場合に FITC などの蛍光色素を標識し抗原と抗体を反応させ蛍光顕微鏡下で観察すると反応が生じた場合は特異的な蛍光が見られる。抗体 (抗原) に蛍光色素を直接結合させる直接法と抗原抗体反応させた後、さらに抗血清に蛍光色素を反応させる間接法がある。

### FEIA 蛍光・酵素免疫測定法 Fluorescence-Enzyme Immunoassay

EIA 法の一つである。主にアルブミン特異的 IgE 抗体を測定するのに用いられている。酵素を標識して用い測定対象のアルブミン (抗原) を被検検体に入れ、抗原抗体反応により酵素が基質に反応する。その際に発する蛍光の強度により検量線より濃度を測定する。

### FISH 蛍光顕微鏡法 Fluorescence In Situ Hybridization

ISH 法 (In Situ Hybridization) は細胞培養や核酸抽出などを行わずに染色体、細胞、組織などを相補的プローブを用いて核酸ハイブリダイゼーションを行い、標的遺伝子の有無や異常などを判定する検査方法である。FISH 法は蛍光物質 (Fluorescence) を用いて非放射性プローブにより ISH 法を行うものである。

### GC ガスクロマトグラフィー法 Gas Chromatography

固定相としてシリカゲルを用い、測定試料が移動相 (キャリアガス) によって流動する間に溶解性の差によって分離・同定される。固定相 (液相) は測定試料の構造により無極性型、極性型があり、検出器には電子捕獲検出器 (ECD)、水素炎イオン化検出器 (FID)、熱伝導度検出器 (TCD) などが用いられている。

### GC-MS ガスクロマトグラフィー・マスマスペクトロメトリー法 Gas Chromatography-Mass Spectrometry

マスマスペクトロメトリー (質量分析; MS) は測定試料を気化しイオン化した後、高電圧で加速し、これを磁場に導き、ここで得られたイオン化した物質の質量分布や電荷分布の違いによる特異な質量比を解析することにより化合物の同定、定量、構造解析が行われる。GC-MS はこの MS にガスクロマトグラフィーを組み合わせたものである。

### HEIA ホモジニアスエンザイム免疫アッセイ法 Homogeneous Enzyme Immunoassay

検体中の測定対象物質 (抗原物質) は試薬中の酵素 (G-6-PDH) で標識された測定対象物質と同一の抗原物質と反応させると競合する。その結果、抗体と結合できなかった G-6-PDH で標識された測定対象物質は G-6-PDH の酵素活性により補酵素である NAD が還元され、NADH に変換される。しかし、この酵素活性は抗体と結合することにより活性を失うため、検体中の測定対象物質の量に比例して NADH の量が増加する。吸光度によりこの NADH を測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

### HI 赤血球凝集抑制試験 Hemagglutination Inhibition Test

一般にウイルスは動物の赤血球を凝集する性質を持っており、ウイルス抗原が対応する抗体と結合し抗原抗体反応を起こすと赤血球凝集能が抑制される。この性質を利用してウイルス抗原を被検検体と反応させた後、赤血球を加え、どの希釈倍率まで凝集が抑制されたかにより抗体価を判定する。

### HPLC 高速液体クロマトグラフィー法 High Performance Liquid Chromatography

微細な球体のシリカゲル交換樹脂、疎水性のアルキル基、親水基をもったシリカゲルなどを充填したカラムを用いて試料中の測定物質を分離し、光学的方法や電気的な検出方法によりその測定物質を検出し、得られた加算積分からピーク面積により濃度を測定する。

### ICP-MS 誘導結合プラズマ質量分析法 Inductively Coupled Plasma-Mass Spectrometry

誘導結合プラズマ質量分析法ともいい、様々な元素を測定する方法である。ICP は試料を気体化させ、高電圧をかけることによりプラズマ化し、さらに高周波の変動磁場により高温プラズマ化させるものである。ICP-MS はこの高温プラズマ質量分析計に導入し、そこで元素の同定・定量を行う。

### IR 赤外吸収スペクトロメトリー法 Infrared Absorption Spectrometry

分子は各々固有の振動をしているため、測定試料に照射する赤外線は波長を連続的に変化させていくと、試料の分子の固有振動周波数と同じ周波数の赤外線が吸収されて、その分子構造に応じた固有の振動スペクトルを得ることができる。その物質の赤外吸収波数を測定することにより試料の定性・定量分析を行なう方法である。



## ● 主な検査方法の概略

### IRMA 免疫放射定量法 Immunoradiometric Assay

RIA 法 (ラジオイムノアッセイ) の一つで、非競合的な反応に基づくものをいい、一般の RIA 法より特異性が高いといわれる。測定を目的とする抗原に標識抗体を加えると抗原と標識抗体が結合した抗原-抗体複合物ができるが、その放射活性により検量線から濃度を読み取る。最近では 2 抗体法以外の方法を IRMA と呼ぶことがある。

### KIMS Kinetic Interaction of Microparticles in a Solution

検体中の測定対象物質と試薬中の測定対象物質に対する抗体を反応させる。検体中に測定対象物質が存在する場合は測定対象物質とその抗体が反応し、試薬中の抗体量が減少する。しかし、測定対象物質が存在しない場合は試薬中の抗体量は変化しない。これらの反応液に測定対象物質が結合した微粒子 (Microparticles) が入った溶液を添加し反応させると、反応液中に残存する抗体量に比例して微粒子が凝集する。この凝集を吸光度として測定し、標準物質により作成した検量線により濃度を測定する。

### LA ラテックス凝集比濁法 Latex Agglutination-Turbidimetric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検体を反応させると陽性の場合に抗原抗体反応によりラテックス粒子が凝集する性質を利用し、凝集に伴う反応液の濁度変化に基づいて目的物質を測定する。

### LAMP Loop-Mediated Isothermal Amplification

PCR 法と同じく遺伝子増幅法の一つ、ターゲットとする DNA の 6 つの領域に対し 4 種類のプライマーを設定し鎖置換反応を利用して、カプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型 DNA 合成酵素、基質等を一定温度 (約 65°C) で反応させ増幅を行う。DNA を 15 分 ~ 1 時間で  $10^2 \sim 10^{10}$  倍に増幅することができ、また逆転写酵素 (Reverse transcriptase:RT) を添加することにより RNA を増幅することも可能である。

### LC-MS/MS タンデム MS 法 Liquid Chromatography-Tandem Mass Spectrometry

LC-MS/MS は高速液体クロマトグラフィー (HPLC) と質量分析計 (MS) を 2 段階結合させた装置。試料を HPLC により分離し、1 台目の MS でイオン化させ質量毎に分離 (フラクション) する。これを不活性ガスと衝突させ、1 台目の MS で選択したイオンから生じた 2 次的イオン (プロダクトイオン) を 2 段目の MS で計測する。2 回の質量分離を行うため高い分離能と特異性が得られるため、試料中の夾雑成分の影響を受けにくく信頼性の高い正確な定量を行うことができる。

### LPIA ラテックス近赤外比濁法 Latex Photometric Immunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体をラテックス粒子に結合させ、これに被検体を反応させると抗原抗体反応により凝集し濁度が増加する。これに赤外線当てその透過度により定量する方法である。

### MAT 法 磁性化粒子凝集法 magnetic agglutination test

主に HBs 抗原を検出する検査方法で、ウエル上に結合した HBs 抗体と HBs 抗体感作粒子は検体中の HBs 抗原と抗体反応を起こし、ウエル表面への粒子の結合反応が付加され、自然沈降法又は磁気沈降法により凝集像を生じさせ、凝集の有無により陰性・陽性を判定する。

### MPHA 混合受身赤血球凝集試験 Mixed Passive Hemagglutination Test

プレートのような担体に測定対象となる抗体に対する抗原を固相する。それらに被検体を加え一定時間反応させ、プレートを洗浄し指示血球を滴下し、一定時間後に受身赤血球凝集反応と同様の基準で判定を行なう。

### NT 中和試験 Neutralization Test

ウイルス抗体価の測定によく用いられる。被検体を段階希釈しウイルスを添加、混合し検体中の抗体と抗原抗体反応を起こさせ、そのウイルスに感受性のある細胞に接種して一定期間培養を行う。中和抗体が存在するとウイルスが中和され細胞変性効果 (CPE) が起こらず、その最大希釈倍率を抗体価とする。最も特異性の高い抗体価測定法である。

### PA 粒子凝集試験 Particle Agglutination Test

ゼラチン粒子などの担体に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これと被検体を反応させると、抗体が存在する場合にはゼラチン粒子が凝集する。

### PCR ポリメラーゼ連鎖反応 Polymerase Chain Reaction

DNA 断片を増幅する方法。ターゲットとする領域の DNA を増幅するため、加熱・変性させ一本鎖 DNA にし、次に 2 種のプライマーを混合させ、適当な温度条件においてアニルさせると各々のプライマーは相補性のある塩基対を形成する。さらに DNA ポリメラーゼ反応により鎖が伸長し、最初の DNA 部分の鎖が 1 回だけ増幅される。このプロセスを繰り返すことにより DNA 断片の数を無限大に増幅することができる。PCR 法では DNA しか増幅できないので RNA 断片を増幅する場合は逆転写酵素 (Reverse transcriptase:RT) により DNA に転換して増幅する RT-PCR 法が用いられる。PCR 法には増幅量をリアルタイムにモニタリングし、電気泳動が不要な real-time PCR 法、またその中に TaqMan プロブを用いる TaqMan PCR 法などがある。さらに PCR により増幅した後、シーケンスにより遺伝子配列を決定する PCR/シーケンス法やプロベティグを用い微量な DNA 質を検出する PCR/ドットプロブ法など PCR 法を併用した様々な検査法が用いられている。

### PHA 受身赤血球凝集試験 Passive Hemagglutination Test

動物の赤血球に検出を目的とする抗体に対する抗原を結合させ、これに被検体を反応させる。凝集が起これば陽性である。

### PNA-LNA PCR Clamp 法 Peptide Nucleic Acid-Locked Nucleic Acid Polymerase Chain Reaction Clamp method

点突然変異および欠失変異を高感度に検出する方法。EGFR の遺伝子変異の検出に用いられるが、検体中に野生型と変異型が存在している場合、PCR 増幅時には野生型 allele は clamp primer により増幅が阻害されるが変異型 allele には増幅阻害が起これないため、変異型が優先して増幅される。それを mutant および total probe のシグナルにより変異の有無を判定する。

### RFLP 制限酵素断片長多型 Restriction Fragment Length Polymorphism

遺伝子多型が存在する DNA 配列を、制限酵素断片の長さや数によって解析する方法全般を指す。必要量の DNA を採取して直接解析する場合や、PCR により増幅した DNA 断片を試料とする場合がある。

### RIA ラジオイムノアッセイ法 Radioimmunoassay

測定を目的とする抗原に対する抗体を用いて、被検体に抗体を加え抗原抗体反応を起こさせた後、さらにラジオイソトープ (主に  $^{125}\text{I}$ ) で標識した抗体を入れて、複合体を形成した標識物 (bound) と未反応物 (free) を分離 (B/F 分離) し、放射活性を測定して B/F の比率を求めて検量線から濃度を測定する。一般に二抗体法のような競合反応以外の方法を IRMA と呼んでいる。

### RPLA 逆受身ラテックス凝集試験 Reversed Passive Latex Agglutination Test

RPHA 法と基本的な検出原理を同じくするが、抗体の固相化担体として動物赤血球に代えてラテックス粒子を用いるものである。

### SRID 免疫拡散法 Single Radial Immunodiffusion

ある特定の抗原量や抗体価を測定する場合に、それに対応する抗体や抗原が入ったゲルを用いた免疫拡散板に検体をスポットし、ゲル内沈降反応により生じた沈降線の直径により被検物質の濃度を定量する。二重免疫拡散法は沈降線の交差により判定する。

### TIA 免疫比濁法 Turbidimetric Immunoassay

被検体中の測定目的物質に対応する抗体を検体に加えると抗原抗体反応により、抗原抗体複合物が生成される。この複合物の濁度は被検物質の抗原量と相関するため、この濁度を測定し既知濃度標準物質により作成された検量線により濃度を測定する。

### UV 紫外外部吸光度分析法 Ultraviolet Spectrophotometry

通常、比色法は可視部波長を用いて吸光度により測定するが、補酵素が NADH や NADPH の場合は波長が 340nm 付近の紫外部に最大吸収を持つので、これらの補酵素が反応系に与る場合は UV 法が用いられる。



## ● 主な検査方法の概略

### イムノクロマトグラフィー法

Immunochromatography

液体を硝酸セロファン膜に滴下すると毛細管現象により膜上を移動する性質を利用した免疫学的測定法である。液状検体中の標的物質が膜を移動する過程でまず色素標識抗体に結合させ、さらに膜に固相化した抗体で抗原・抗体複合体を捕捉する。こうして形成されたサンドイッチ複合体（色素標識抗体 - 抗原 - 固相化抗体）は抗体固相化地点で呈色することになるため、目視にて確認することができる。

### ウェスタンブロット

Western Blot method

電気泳動によって分離した蛋白質を硝酸セロファン膜に転写し、その蛋白質に対する特異的抗体を用いることにより目的の蛋白質のバンドを検出する方法である。

### 原子吸光法

Atomic Absorption method

金属などの様々な元素を測定する方法である。検体を化学炎（フレイム）や加熱グラファイト管（フレイムレス）中で元素の基底状態原子化を行い、さらにその元素固有の共鳴線を照射すると吸収が生ずる。この吸収は気体化原子の原子数に応じて起こるため、これを利用することにより、検体中の目的元素の濃度を測定する方法である。

### サザンブロット法

Southern Blot Method

電気泳動法の一つで、特定の DNA の同定に用いられる手法である。制限酵素により処理された genome DNA をゲル内電気泳動により分離した後、硝酸セロファン膜などに転写し、ハイブリッド法で検出する。この方法は特異的プローブを用いて目的とする DNA 断片を検出する方法。開発者の Edwin M. Southern の名をとって命名された。

### 電気泳動法

Electrophoresis

溶液中に存在する全ての蛋白質は固有の電荷を帯びており、水溶液において正負側に荷電している。そこに電流を通じると、その物質固有の易動度で陽極側に移動する。電気泳動法はこの性質を利用して検査を目的とする物質の分離・同定を行うものである。

### ネフェロメトリー法

Nephelometry

検出を目的とする抗原物質に対応する抗体を検体に添加し、抗原抗体反応を行わせ、それによって生じた抗原抗体複合物に光を照射し、その散乱強度により検量線より濃度を読み取り測定する方法。

### ハイブリッドキャプチャー法

Hybrid Capture method

ハイブリッドキャプチャー法（HC法）は、RNAプローブを用いて検体中の DNA とハイブリッド化を行い、生成した DNA/RNAハイブリッドを特異抗体を用いて免疫アッセイで検出するものである。DNA 増幅操作を行わずに高感度に目的遺伝子を検出することが可能である。

### 比濁時間分析法

Turbidimetric Time Assay

イントロクシ測定法の一つ、イントロクシの存在下にカプトカニ血液抽出物中の凝固成分であるファクター-C、ファクター-B、凝固酵素（clotting enzyme）前駆体、およびコアグロゲン（coagulogen）が段階的に活性化され、最終的に生成したコアグリン（coagulin）がゲル化する性質を利用したものである。ここでゲル形成に要する時間は反応初発時のイントロクシ量の 2 対数に反比例することから、ゲル化時間を測定すれば、検体中のイントロクシ量を求めることができる。

### フローサイトメトリー法

Flowcytometry

フローサイトメーターを用い細胞などの粒子 1 個 1 個から大きさや形態の情報、DNA/RNA 蛍光染色、モノクローナル抗体を用いた白血球などの表面抗原の解析などを 1 秒間に数千個以上の速度で認識し、それらの相関を解析するヒストグラムを作成し、さらに目的とする 2 種類の細胞集団などを高速度で分取することが可能な検査方法。

### Bethesda 法（ベセスダ法）

主に血液凝固系検査に用いられる検査方法である。凝固因子インビター測定の場合は目的とする凝固因子の正常血漿と被検血漿を混合・反応させ、反応前と反応後の残存凝固因子を測定し、その比により Bethesda 算定図より凝固因子阻止量を読み取る。

### 免疫電気泳動法（免疫固定法）

Immunofixation / Electrophoresis

免疫固定電気泳動法はアガロース支持体を用いた蛋白の電気泳動と免疫沈降反応を組み合わせた検査方法である。支持体上に検体を塗布し、電気泳動により蛋白成分を分離させ、さらに特異抗血清（IgG, A, M, D, E, K, Λ）による免疫沈降反応を応用することで反応生成物を支持体中に固定する。反応を起こした複合体は蛋白染色により明瞭なバンドとして観察することができる。

### 免疫電気泳動法

Immunelectrophoresis

電気泳動を行う際に支持体として用いるゲルの中に抗血清（抗体）を入れることにより、検体中の蛋白質を解析する検査。抗血清を用いた検査では数十種類の血清蛋白の観察が可能であり、抗血清を用いた検査では単一の免疫グロブリンが認められる M-蛋白血症の診断に有用である。泳動を行う際に用いる支持体にはセルロースアセテート膜やアガロース（寒天）ゲル、比較的分離能が良いとされるポリアクリルアミドゲル（PAGE）などがある。

●————— 生化学検査

●————— 薬物検査

●————— 腫瘍関連検査

●————— 内分泌学検査

●————— 免疫血清学検査

●————— ウイルス学検査

●—— 細胞免疫・染色体検査

●————— 血液学検査

●————— 一般臨床検査

●————— 微生物学検査

●————— 病理学検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0115	総蛋白 (TP)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ビウレット法	6.6 ~ 8.1	11 生I ①	1 1 2	
		血清 0.5							
0116	A/G比	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	1.32 ~ 2.23	-	1 1 2	計算値 (A/G) = (Alb) / (Glb)
		血清 0.5							
0117	アルブミン (Alb)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	BCP改良法	4.1 ~ 5.1	11 生I ①	1 1 2	
		血清 0.5							
0118	グロブリン (Glb)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	計算値	2.2 ~ 3.4	-	1 1 2	計算値 (Glb) = (TP) - (Alb)
		血清 0.5							
0101	蛋白分画 (PR-F)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	電気泳動法 (セルロース アセテート膜電気 泳動法)	12頁参照	18 生I ①	1 1 2	
		血清 0.7							
0124	TTT (チモール混濁反応)	血液 2	01	冷蔵 (3日)	チモール混濁 試験	0 ~ 5.0	11 生I ②③	1 1 2	膠質反応
		血清 0.5							
0125	ZTT (硫酸亜鉛試験)	血液 2	01	冷蔵 (3日)	硫酸亜鉛混濁 試験	2.0 ~ 12.0	11 生I ②③	1 1 2	膠質反応
		血清 0.5							
0119	総ビリルビン (T-BIL)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	バナジン酸 酸化法	0.2 ~ 1.0	11 生I ④	1 1 2	
		血清 0.5							
0120	直接ビリルビン (D-BIL)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	バナジン酸 酸化法	0 ~ 0.4	11 生I ④	1 1 2	
		血清 0.5							
0121	間接ビリルビン (I-BIL)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	計算値	0 ~ 0.6	-	1 1 2	計算値 (I-BIL) = (T-BIL) - (D-BIL)
		血清 0.5							
0126	AST (GOT)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 40	17 生I	1 1 2	
		血清 0.5							
0127	ALT (GPT)	血液 2	01	冷蔵 (3日)	JSCC 標準化対応法	5 ~ 42	17 生I		
		血清 0.5							
0129	LD (LDH)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	JSCC 標準化対応法	110 ~ 220	11 生I		
		血清 0.5							
0128	アルカリホスファターゼ (ALP)	血液 2	01	冷蔵	JSCC 標準化対応法	100 ~ 340	11 生I		小児の基準値は、年齢とともに高 値を示します。
		血清 0.5							
0131	LAP	血液 2	01	冷蔵 (4週)	L-ロイシル-P- ニトロアニリド 基質法	30 ~ 70	11 生I		
		血清 0.5							

- ① : 「蛋白分画」、「総蛋白」、「アルブミン」を併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定できます。
- ② : 「膠質反応」として、反応の種類ごとに実施料を算定できます。
- ③ : 「ZTT」、「TTT」を実施した場合は、他の検査で代替できない理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。
- ④ : 直接・間接ビリルビンをご依頼の場合、保険請求は「総ビリルビン」および「直接ビリルビン」と明記して下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0132	γ-GT	血液 2	01	冷蔵 (4週)	JSCC 標準化対応法	M 7 ~ 74 F 7 ~ 32	U/L 11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0133	コリンエステラーゼ (ChE)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	JSCC 標準化対応法	213 ~ 501	U/L 11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0134	CK (CPK)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	JSCC 標準化対応法	M 57 ~ 284 F 45 ~ 176	U/L 11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
2266	アルドラーゼ (ALD)	血液 2	01	冷蔵 (3~4日)	UV法	2.7 ~ 5.9	IU/L 11 生I	1 5 2	溶血血清は高値を示す場合があります。
		血清 0.5							
0241	アミラーゼ (S-AMY)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	エチリデン-G7- PNP基質法 JSCC (IFCC) 標準化対応法	37 ~ 125	U/L 11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0242	(尿)アミラーゼ (U-AMY)	尿 10	25	冷蔵 (10日)	エチリデン-G7- PNP基質法 JSCC (IFCC) 標準化対応法	47 ~ 458	U/L 11 生I	1 5 2	
2180	グアナーゼ	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法	0.4 ~ 0.8	IU/L 35 生I	4 5 5	
		血清 0.5							
2181	アデノシンデアミナーゼ (ADA)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法	8.6 ~ 20.5	U/L 32 生I	2 5 3	
		血清 0.4							
0766	(穿刺液)ADA	穿刺液 2	25	冷蔵 (1週)	酵素比色法		U/L 32 生I	1 5 2	
2291	リゾチーム (ムラミダーゼ)	血液 1	01	凍結 (4週)	比濁法	4.2 ~ 11.5	μg/mL -	3 5 6	
2296		血清 0.3							
		尿 1.0	25			1.0 未満 (検出限界値)			
1371	トリプシン	血液 2	01	冷蔵 (3週)	EIA 法	100 ~ 550	ng/mL 191 生I	3 5 5	
		血清 0.4							
2305	麟ホスホリパーゼA2 (麟PLA <sub>2</sub> )	血液 1	01	凍結 (12週)	RIA 法 (ビーズ固相法)	130 ~ 400	ng/dL 204 生I	2 5 5	
		血清 0.3							
2218	ペプシノゲン (PG)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	12頁参照	-	2 5 3	
		血清 0.3							
0189	尿中NAG (N-アセチルグルコサミニダーゼ)	尿 10	25	冷蔵	MPT 基質法	0.3 ~ 11.5	IU/L 41 尿便	1 5 2	当日提出の検体以外はPHが8.0以上または4.0以下の場合失活します。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5568	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	ng/mL M 36.9 ~ 121 F 17.3 ~ 59.7	116 免疫 ②	2 5 3	分離剤入り真空採血管・凝固促進剤入り採血管を使用する際、採血管規定量より採血量が少ない場合は測定値が低下する可能性があります。
		血清 0.4							
2098	LDHアイソザイム	血液 1	01	冷蔵	アガロースゲル電気泳動法	13頁参照	48 生I	2 5 3	全血では常温保存が望まれません。長期保存の場合は-45℃以下の保存が理想的です。
		血清 0.3							
2104	ALPアイソザイム	血液 1	01	冷蔵	アガロースゲル電気泳動法	13頁参照	48 生I	2 5 3	
		血清 0.3							
2254	CKアイソザイム	血液 1	01	冷蔵	アガロースゲル電気泳動法	MM 96 ~ 100 MB 0 ~ 3 BB 0 ~ 2	55 生I	2 5 3	
		血清 0.3							
0135	CK-MB (%)	血液 2	01	凍結	免疫阻害法	6 未満	55 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
2267	CK-MB定量	血液 2	01	凍結	CLIA 法	2.2 以下	90 生I	2 5 3	
		血清 0.4							
0239	P型アミラーゼ	血液 2	01	冷蔵	阻害抗体法	16 ~ 52	48 生I ③	1 5 2	
		血清 0.5							
0240	(尿)P型アミラーゼ	尿 10	25	冷蔵	阻害抗体法	32 ~ 325	48 生I ③	1 5 2	
2117	m-AST (ミトコンドリア-GOT)	血液 2	01	冷蔵	プロテアーゼ法	7 以下	49 生I	2 5 3	
		血清 0.5							
0183	クレアチニン (CRE)	血液 2	01	冷蔵	酵素法	M 0.50 ~ 1.00 F 0.40 ~ 0.80	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0389	(蓄尿)クレアチニン (尿中CRE)	尿 10	25	冷蔵	酵素法	1.0 ~ 1.5	11 生I	1 5 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0180	シスタチンC	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	M 0.61 ~ 1.00 F 0.51 ~ 0.82	124 生I ④	1 5 2	
		血清 0.5							
0181	尿酸 (UA)	血液 2	01	冷蔵	ウリカーゼ・TOOS法	M 3.8 ~ 7.0 F 2.6 ~ 7.0	11 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0387	(蓄尿)尿酸 (尿中UA)	尿 10	25	冷蔵	ウリカーゼ・TOOS法	0.40 ~ 1.20	11 生I	1 5 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。

① : 「リウマトイド因子定量」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目の算定ができます。

② : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定ができます。

③ : 実施料は、「アミラーゼアイソザイム」としての算定となります。

④ : 「尿素窒素(BUN)」または「クレアチニン」により腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
0182	尿素窒素 (BUN)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	ウレアーゼGLD H法(アンモニア 消去法)	8.0 ~ 20.0	mg/dL	11 生I	1 2	
		血清 0.5								
0388	(蓄尿)尿素窒素 (尿中BUN)	尿 10	25	冷蔵 (3日)	ウレアーゼGLD H法(アンモニア 消去法)	7.00 ~ 14.00	g/day	11 生I	1 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0139	アンモニア (NH <sub>3</sub> )	血液 1	05	凍結	藤井・奥田法変法	30 ~ 86	μg/dL	50 生I	1 2	採血後直ちに正確に1.0mlの血液を専用容器に加え、十分に混和した後、遠心分離後の上清3.0mlを凍結しご提出下さい。
		上清 3								
1973	アミノ酸分画	血液 2	10	凍結 (2週)	HPLC 法	14頁参照		1212 生II	4 5	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結して下さい。
		ペパリン血漿 0.5	02							
1982		尿 0.5	25	凍結 (2週)	HPLC 法	14頁参照		1212 生II		早期2番尿を直ちに凍結して下さい。(トルエン、塩酸などの防腐剤は加えないで下さい。)
		(早期2番尿)								
1983	アミノ酸11分画	血液 2	10	凍結 (2週)	HPLC 法	14頁参照		1212 生II	3 4	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結して下さい。
		ペパリン血漿 0.5	02							
1990	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)	血液 2	01	凍結	酵素法	BTR 4.41 ~ 10.05 BCAA 344 ~ 713 チロシン 51 ~ 98	μmol/L	291 生II	2 3	溶血検体は不適です。
		血清 0.5								
0261	グルコース (血糖)	血液 2	04	冷蔵 (1週)	ヘキシナーゼ法	70 ~ 110	mg/dL	11 生I	1 2	
0649	グリコアルブミン (GA)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法	11.0 ~ 16.0	%	55 生I 02	2 3	
		血清 0.5								
0686	HbA1c(NGSP)	血液 2	04	冷蔵 (1週)	酵素法	4.6 ~ 6.2	NaF加血液	49 血液 02	1 2	凍結不可
1382	1, 5AG (1,5-アンヒドログルシトール)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	酵素法	14.0 以上	μg/mL	80 生I 02	1 2	
		血清 0.4								
2361	ヒアルロン酸	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	50.0 以下	ng/mL	184 生I 03	2 3	肝硬変の判定基準 130ng/mL以上 (50~130ng/mLの場合、肝の繊維化が疑われます)
		血清 0.3								
1965	KL-6	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	500 未満	U/mL	120 生I 05	2 3	
		血清 0.4								
2339	乳酸	血液 1	06	凍結 (4週)	酵素法	3.7 ~ 16.3 (空腹安静時)	mg/dL	47 生I 06	2 3	必ず指定容器使用 専用容器(0.8N過塩素酸入り)は 予めご依頼下さい。 脚注参照 *1
		除蛋白上清 0.5								
2340	ピルビン酸	血液 1	06	凍結 (4週)	酵素法	0.30 ~ 0.90 (空腹安静時)	mg/dL	47 生I 06	2 3	必ず指定容器使用 専用容器(0.8N過塩素酸入り)は 予めご依頼下さい。 脚注参照 *1
		除蛋白上清 0.5								

\*1 : 0.8N過塩素酸と血液を等量混合し、十分攪拌し3,000rpm、5分間遠心後、その上清液をご提出下さい。

- ① : 「ヘモグロビンA1c(HbA1c)」、「グリコアルブミン」および「1, 5-アンヒドログルシトール(1, 5AG)」は、同一月内に1回に限り主たる項目のみ算定できます。
- ② : 妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できます。
- ③ : 慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察および肝生検の適応の確認を行う場合に算定できます。
- ④ : 「M2BPGi」と「P-III-P」もしくは「IV型コラーゲン」、「IV型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」または「プロリルヒドロキシラーゼ(PH)」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑤ : 「KL-6」、「SP-A」および「SP-D」のうち、いずれか複数を実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ⑥ : 「乳酸」および「ピルビン酸」の測定を行った場合、それぞれの測定ごとに実施料が算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2331	ケトン体分画 (静脈血)	血液 1	01	-70℃以下 凍結 (4週)	酵素法	12頁参照	59 生I	2 5 3	早朝空腹時採血(静脈)。採血後速やかに血清分離し凍結してください。総ケトン体にアセトンは含まれません。
		血清 0.3							
2349	ケトン体分画 (動脈血)	血液 1	01	-70℃以下 凍結 (4週)	酵素法	アセト酢酸/ 3-ハイドロキシ酪酸比 0.7以上	59 生I	2 5 3	食事1時間後またはブドウ糖投与後(血中グルコース 120-200 mg/dL)採血。採血後速やかに血清分離し凍結して下さい。
		血清 0.3							
0228	中性脂肪 (TG)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法 (グリセロール消去法)	30 ~ 149	11 生I	1 5 2	女性では加齢と共に増加傾向が認められます。
		血清 0.5							
0226	総コレステロール (T-Cho)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	酵素法	130 ~ 220	17 生I	1 5 2	女性では加齢と共に増加傾向が認められます。
		血清 0.5							
0225	HDLコレステロール (HDL-Cho)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	直接法	40 ~ 99	17 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0233	LDLコレステロール (LDL-Cho)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	酵素的測定法	70 ~ 139	18 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0224	LDLコレステロール 計算	血液 2	01	冷蔵	計算値	70 ~ 139	-	1 5 2	計算値 (LDL-C) = (T-CHO) - (HDL-C) - (TG/5)
		血清 0.5							
0230	リン脂質 (PL)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	コリンオキシダーゼ.DAOS法	150 ~ 250	15 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
0143	総胆汁酸 (TBA)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	酵素サイクリング法	10 以下	47 生I	1 5 2	
		血清 0.5							
2491	グリココール酸 (CG)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA 法 (PEG 法)	50 以下	80 生I	2 5 5	
		血清 0.3							
2452	全脂質脂肪酸分画	血液 3	01	凍結 (4週)	LC-MS/MS	13頁参照	429 生II	14 5 21	血漿も検査可。
		血清 0.8							
0229	βリポ蛋白 (β-LP)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ヘパリンを用いた比濁法	173 ~ 582	-	1 5 2	
		血清 0.5							
2470	リポ蛋白分画 *1	血液 1	01	凍結不可 冷蔵 (4日)	アガロースゲル電気泳動法	12頁参照	49 生I	2 5 3	食事による影響が大きいため早朝空腹時採血を厳守して下さい。
		血清 0.3							
2480	リポ蛋白分画精密測定 *1	血液 2	01	凍結不可 冷蔵	ポリアクリルアミドゲル・ディスク電気泳動法	12頁参照	80 生I	5 5 8	血清・血漿以外は検査不可。
		血清 0.5							
0245	リパーゼ	血液 2	01	冷蔵 (4週)	カラー法	16 ~ 56	24 生I	1 5 2	
		血清 0.5							

\*1 : カイロミクロンは測定できません。

① : 「ケトン体」、「ケトン体分画」の検査を併せて実施した場合は、「ケトン体分画」の実施料のみ算定できます。

② : 「HDL-コレステロール」、「総コレステロール」、「LDL-コレステロール」を併せて実施した場合は、主たる2項目の実施料が算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
2478	リポ蛋白(a) (Lp(a))	血液 2	01	冷蔵 (2週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	30.0 以下	107 生I ①	2 5 3	EDTA血漿も検査可	
		血清 0.5								
2477	レムナント様 リポ蛋白コレステロール (RLP-C)	血液 2	01	冷蔵 (5日)	酵素法	7.5 以下	191 生I ①	2 5 3	脚注参照 * 1	
		血清 0.4								
2432	アポ蛋白	血液 2	01	冷蔵 (2~3日)	TIA法	M 119 ~ 155 F 126 ~ 165	生I ②	1 5 2		
2433						A-I				M 25.9 ~ 35.7 F 24.6 ~ 33.3
2434						A-II				M 73 ~ 109 F 66 ~ 101
2435						B				M 1.8 ~ 4.6 F 1.5 ~ 3.8
2436						C-II				M 5.8 ~ 10.0 F 5.4 ~ 9.0
2437						C-III				M 2.7 ~ 4.3 F 2.8 ~ 4.6

\* 1 : 基準値は、健常者における“平均値+1.96SD”に相当します。ただし、糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴のある場合は、“5.2mg/dL以上”をハイリスク域とします。

① : 3月に1回を限度として算定できます。

② : 「A I」、「A II」、「B」、「C II」、「C III」、「E」のうち1項目の測定で31点、2項目の測定で62点、3項目以上測定した場合に94点の実施料の算定ができます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2535	β-カロチン	血液 2	01	遮光凍結 (10日)	HPLC 法	μg/dL M 6.6 ~ 47.6 F 20.4 ~ 105.2	-	7 13	採血後、できるだけ速やかに遠心分離して下さい。
		血清 0.6	65						
2520	ビタミンA	血液 1	01	遮光凍結 (16週)	HPLC 法	431 ~ 1,041	-	3 6	
		血清 0.3	65						
2514	ビタミンB1 (サイアミン)	血液 1	84	遮光凍結 (20日)	LC-MS/MS	2.6 ~ 5.8	259 生I	3 4	ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。
2521	ビタミンB2 (リボフラビン)	血液 1	84	遮光凍結 (20日)	HPLC 法	12.8 ~ 27.6	263 生I	3 5	ガラス管の場合は、プラスチック容器に移してから凍結して下さい。
2511	ビタミンB12 (シアノコバラミン)	血液 2	01	凍結 (12週)	CLIA 法	233 ~ 914	152 生I	2 3	
		血清 0.4	01						
2512	葉酸	血液 2	01	凍結 (12週)	CLIA 法	3.6 ~ 12.9	162 生I	2 3	溶血検体では、測定値が上昇する場合があります。
		血清 0.5	01						
2522	ビタミンC (アスコルビン酸)	血液	58	-70℃以下 遮光凍結 (4週)	HPLC 法	5.5 ~ 16.8	314 生I	5 7	必ず指定容器使用 検体処理方法にご注意下さい。 脚注参照 *1
		除蛋白上清 0.5	58						
2516	25-OHビタミンD (Total)	血液 2	01	凍結 (8週)	CLIA 法	ng/mL	400 生I ①	2 9	
		血清 0.5	01						
2517	1α, 25-(OH)2ビタミンD	血液 3	01	凍結	RIA法 (二抗体法)	20 ~ 60	400 生I ②③	3 6	
		血清 1	01						
2523	ビタミンE (トコフェロール)	血液 2	01	遮光凍結	蛍光法	0.75 ~ 1.41	-	5 9	
		血清 0.5	65						
2515	レチノール結合蛋白 (RBP)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	mg/dL M 2.7 ~ 6.0 F 1.9 ~ 4.6	140 免疫	2 3	
		血清 0.3	01						
0201	ナトリウム (Na)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	136 ~ 148	11 生I	1 2	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5	01						
0381	(蓄尿)ナトリウム (尿中Na)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	1.60 ~ 5.80	11 生I	1 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0202	クロール (Cl)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	98 ~ 108	-	1 2	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5	01						
0382	(蓄尿)クロール (尿中Cl)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	2.50 ~ 8.90	-	1 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。

\*1 : 正確に血清0.5mLを専用容器に加え、混和後、遠心分離し、その上清を遮光容器に移し、直ちに凍結して下さい。

\*2 : 日本小児内科学会の「ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き」には、診断基準(血清25OHD低値)として下記が記載されています。

- ・20 ng/mL 以下
- ・15 ng/mL 以下 であればより確実

- ① : ビタミンD欠乏性くる病もしくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時またはそれらの疾患に対する治療中に測定した場合にのみ算定できます。ただし、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できます。
- ② : 慢性腎不全、特発性副甲状腺機能低下症、偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症 I 型もしくは低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時、またはそれらの疾患に対する活性型ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療中に測定した場合にのみ算定できます。
- ③ : ビタミンD<sub>3</sub>剤による治療開始後1月以内は2回、その後は3月に1回を限度として算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0203	カリウム <K>	血液 2	01	冷蔵 (4週)	イオン選択電極法	3.6 ~ 5.0	11 生i	1 }	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0383	(蓄尿)カリウム <尿中K>	尿 10	25	冷蔵 (1週)	イオン選択電極法	1.00 ~ 3.90	11 生i	1 }	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0204	カルシウム <Ca>	血液 2	01	冷蔵 (2週)	アルセナゾⅢ法	8.6 ~ 10.4	11 生i	1 }	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0384	(蓄尿)カルシウム <尿中Ca>	尿 10	25	冷蔵 (1週)	アルセナゾⅢ法	0.10 ~ 0.30	11 生i	1 }	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0206	マグネシウム <Mg>	血液 2	01	冷蔵 (2週)	キシリジル ブルー法	1.8 ~ 2.7	11 生i	1 }	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0386	(蓄尿)マグネシウム <尿中Mg>	尿 10	25	冷蔵 (1週)	キシリジル ブルー法	0.02 ~ 0.13	11 生i	1 }	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0205	無機リン <P>	血液 2	01	冷蔵 (1週)	モリブデン酸 直接法	2.6 ~ 4.4	17 生i	1 }	
		血清 0.5							
0385	(蓄尿)無機リン <尿中P>	尿 10	25	冷蔵 (1週)	モリブデン酸 直接法	0.50 ~ 1.00	17 生i	1 }	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0207	鉄 <Fe>	血液 2	01	冷蔵 (2週)	バソフェナントロリ ン直接法	M 60 ~ 200 F 50 ~ 160	11 生i	1 }	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0208	UIBC <不飽和鉄結合能>	血液 2	01	冷蔵 (12週)	バソフェナントロリ ン直接法	M 119 ~ 285 F 143 ~ 313	11 生i	1 }	EDTA血漿は検査不可。
		血清 0.5							
0209	TIBC [計算値] <総鉄結合能>	血液 2	01	冷蔵	計算値	M 236 ~ 381 F 250 ~ 383	-	1 }	計算値(TIBC) = (Fe) + (UIBC)
		血清 0.5							
2064	銅 <Cu>	血液 2	01	冷蔵	比色法	70 ~ 132	23 生i	1 }	
		血清 0.4							
2072	(尿)銅	尿 5	59	冷蔵 (4週)	原子吸光法	18 以下	23 生i	3 }	必ず指定容器使用

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考		
2067	亜鉛 (Zn)	血液	2	68 *1 (18日)	冷蔵 (18日)	原子吸光法	144 生I	2 5 3	必ず指定容器使用 脚注参照*2		
		血清	0.5								64 ~ 111
2068		尿	5	59 (4週)	冷蔵 (4週)	64 ~ 947	144 生I	3 5 6	必ず指定容器使用		
2791	アルミニウム (Al)	血液	2	68 *1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	121 生I	4 5 5	必ず指定容器使用		
		血清	0.5								0.9 以下
2788	マンガン (Mn)	血液	0.5	10 *1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	27 生I ①	6 5 11	必ず指定容器使用		
		血液	2							0.4 ~ 2.0	μg/dL
		血清	0.5							0.7 以下	μg/dL
2790		尿	0.5	59	冷蔵 (3週)	2.0 未満	27 生I ①				
2779	ニッケル (Ni)	血液	2	68 *1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	-	6 5 11	必ず指定容器使用		
		血清	0.5								0.6 以下
2748	鉛 (Pb)	血液	1	10 *3 (4週)	冷蔵 (4週)	20 以下	-	4 5 5			
2785	クロム (Cr)	血液	0.5	10 *1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	-	6 5 12	必ず指定容器使用		
		血液	2							μg/dL	
		血清	0.5							μg/L	
2787		尿	1	59	冷蔵 (3週)						
2781	カドミウム (Cd)	血液	0.5	10 *1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	-	6 5 11			
		血液	2							1 以下	μg/dL
2782		尿	1	59	冷蔵 (3週)	3.8 以下		5 5 11	必ず指定容器使用		
2783	水銀 (Hg)	血液	0.5	10 *1 (3週)	冷蔵 (3週)	原子吸光法	-	5 5 10			
		血液	2							5 以下	μg/dL
2784		尿	1	59	冷蔵 (3週)	25 以下			必ず指定容器使用		

\*1 : 68番容器に採血して遠心分離後、別の容器に分注せず、68番容器のままご提出下さい。

\*2 : 基準値は朝食前の採血により得られたデータです。食物の摂取により血中濃度が低下しますので、朝食前の午前中に採血して下さい。

\*3 : 産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は、12頁を参照して下さい。

① : 1月以上(胆汁排泄能の低下している患者については、2週間以上)高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2189	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA)	尿 1	66	遮光 冷蔵 (4週)	HPLC 法	mg/L 2.2 以下 (参考値)	112 尿便	4 5	
2585	尿中ポルフォビリノーゲン	蓄尿 3	66	遮光 冷蔵 (10日)	比色法 (Mauzerall-Granick法)	mg/day 2.0 以下	191 尿便	5 8	
2587	尿中ウロポルフィリン	蓄尿 または 部分尿 3	66	遮光 冷蔵 (2週)	HPLC 法	μg/g・cr 36 以下	110 尿便	5 11	
2589	尿中コプロポルフィリン	蓄尿 または 部分尿 3	66	遮光 冷蔵 (1週)	HPLC 法	μg/g・cr 170 以下	143 尿便	5 11	
2588	コプロポルフィリン定量 (血液)	血液 1.5	64	凍結不可 遮光 冷蔵	HPLC 法	μg/dL RBC 1 以下	210 生I	5 10	
2731	エタノール	血液 1	10	凍結 (12日)	GC 法	mg/mL 0.1 未満	114 生I	6 7	検出限界未満を基準値としま す。ガラス管の場合は、プラス チック容器に移してから凍結して 下さい。 脚注参照 * 2
2031	浸透圧	血液 3	01	冷蔵 (4週)	氷点降下法	mOsm/kg・H <sub>2</sub> O 275 ~ 290	15 血液	2 3	
		血清 1							
2032		尿 1	25	冷蔵 (4週)	氷点降下法	mOsm/kg・H <sub>2</sub> O 50 ~ 1,300	16 尿便	2 3	
0140	ICG停滞率 (肝機能テスト)	血液 各 5	01	冷蔵	比色法	%	100	1 2	投与後の検体は遮光してご提出 下さい。
		血清 各 2							
0141	ICG消失率 (肝及び腎のクリアランステスト)	血液 各 5	01	冷蔵	比色法	%	150	1 2	採取方法は15頁参照
		血清 各 2							
0186	24時間クレアチニン クリアランス	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	mL/min 67 ~ 214	-	1 2	血清・尿を必ずペアでご提出下 さい。 年齢・身長・体重・尿量・採尿時 間を必ず明記して下さい。
		尿 10							
0185	クレアチニンクリアランス	血清 0.5	01	冷蔵	酵素法	mL/min 82 ~ 183	-	1 2	採取方法は15頁参照
		尿 10							
2654	結石鑑別	結石 10 <sub>mg</sub>	23	常温	IR 法 (KBr Wafer法)	% 組成比率	120 生II	5 8	脚注参照 * 3,4,5,6

\* 1 : 産業衛生関連検査としてご依頼の場合の基準値は、12頁を参照して下さい。

\* 2 : 採血に当たってエタノール消毒を行う場合、血液中への混入がないようご注意下さい。(エタノール乾燥後に採血、あるいは他の消毒薬を使用)

\* 3 : 専用容器は必ず密栓し(シャーレの代用不可)、抽出臓器および結石の種別(胆石、尿路結石などの別)を必ず明示して下さい。

\* 4 : 試料は乾燥させた上で、所定の専用容器にてご提出下さい。血液等の付着した試料については蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出下さい。液状成分を含む試料は、分析対象として不適当です。

\* 5 : 試料はガーゼやティッシュペーパー等で包まず、結石の外観を目視可能な状態でご提出下さい。

\* 6 : 多数検体の場合は、予めご連絡下さい。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
2740	馬尿酸 (HA)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	HPLC 法	g/L	—	4 5	12頁および脚注参照 * 1
2741	メチル馬尿酸 (MHA)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	HPLC 法	g/L	—	4 5	12頁および脚注参照 * 1
2742	マンデル酸	尿 1	25	冷蔵 (4週)	HPLC 法	g/L	—	4 5	12頁および脚注参照 * 1
2743 2754 2793	総三塩化物 (TTC)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5	12頁および脚注参照 * 2
2744 2751 2796	トリクロル酢酸 (TCA)	尿 1	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5	12頁および脚注参照 * 2
2746	N-メチルホルムアミド	尿 2	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5	12頁および脚注参照 * 1
2747	2, 5-ヘキサンジオン (2, 5-HD)	尿 3	25	冷蔵 (4週)	GC 法	mg/L	—	4 5	12頁および脚注参照 * 1
0107	尿中硫酸抱合型胆汁酸 (USBA)	尿 10	25	冷蔵 (1週)	酵素法	μ mol/L	5.0 未満	57 生i	2 3 クレアチニン補正基準値は 55 μ mol/gcr
0399	血液ガス分析	血液	専用	氷冷 冷蔵	蛍光オプトード法	13頁参照	144 生i	1 2	当該保険医療機関内で実施した場合のみ算定可能。

\* 1 : [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の2日目以降。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。

\* 2 : [検体採取時期] 採取日は連続した作業日の5日目以降(週末)。作業終了の2時間前に一度排尿し、その後は排尿せずに、作業終了後に採尿したものをご提出下さい。

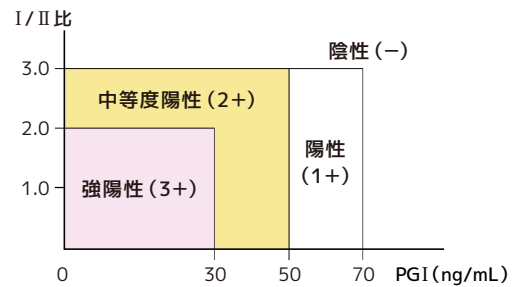
●「特殊健診項目」名称および分布区分

項目コード	対象物質名	検査項目名	単位	分 布		
				1	2	3
2748	鉛	鉛	μg/dL	≤ 20	20 < , ≤ 40	40 <
2189		δ- アミノレブリン酸	mg/L	≤ 5	5 < , ≤ 10	10 <
2603		赤血球プロトポルフィリン	μg/dL 全血	≤ 40	40 < , ≤ 100	100 <
2740	トルエン	馬尿酸	g/L	≤ 1	1 < , ≤ 2.5	2.5 <
2741	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	≤ 0.5	0.5 < , ≤ 1.5	1.5 <
2742	スチレン	マンデル酸 S T	g/L	≤ 0.3	0.3 < , ≤ 1	1 <
2730	エチルベンゼン	マンデル酸 E B	g/L	-	-	-
2746	N,N- ジメチルホルムアミド	N- メチルホルムアミド	mg/L	≤ 10	10 < , ≤ 40	40 <
2747	ノルマルヘキサン	2,5- ヘキサンジオン	mg/L	≤ 2	2 < , ≤ 5	5 <
2743	1,1,1- トリクロロエタン	TTC111-トリクロロエタン (総三塩化物)	mg/L	≤ 10	10 < , ≤ 40	40 <
2744		TCA111-トリクロロエタン (トリカル酢酸)	mg/L	≤ 3	3 < , ≤ 10	10 <
2754	トリクロロエチレン	TTCトリクロロエチレン (総三塩化物)	mg/L	≤ 100	100 < , ≤ 300	300 <
2751		TCAトリクロロエチレン (トリカル酢酸)	mg/L	≤ 30	30 < , ≤ 100	100 <
2793	テトラクロロエチレン	TTCテトラクロロエチレン (総三塩化物)	mg/L	≤ 3	3 < , ≤ 10	10 <
2796		TCAテトラクロロエチレン (トリカル酢酸)	mg/L	≤ 3	3 < , ≤ 10	10 <

出典：鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則、様式第3号）  
有機溶剤など健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2）

●ペプシノゲン（PG）による胃粘膜萎縮度の判定基準

判 定		測定値	
		PGI (ng/mL)	I / II 比
強陽性	3+	30 以下	かつ 2.0 以下
中等度陽性	2+	50 以下	かつ 3.0 以下
陽性	1+	70 以下	かつ 3.0 以下
陰性	-	上記条件以外	



●「蛋白分画」基準値

分画成分名		百分率 (%)
アルブミン	ALB	58.2 ~ 72.4
α1- グロブリン	α1-GLB	1.7 ~ 3.0
α2- グロブリン	α2-GLB	5.3 ~ 9.5
β- グロブリン	β-GLB	7.5 ~ 12.0
γ- グロブリン	γ-GLB	10.2 ~ 22.9

●「ケトン体分画（静脈血）」基準値

分画成分名	(μmol/L)
総ケトン体	26 ~ 122
アセト酢酸	13 ~ 69
3- ハイドロキシ酪酸	76 以下

●「リポ蛋白分画」基準値

	男性 (%)	女性 (%)
α 分画	26.9 ~ 50.5	32.6 ~ 52.5
pre β 分画	7.9 ~ 23.8	6.6 ~ 20.8
β 分画	35.3 ~ 55.5	33.6 ~ 52.0

●「リポ蛋白分画精密測定」基準値

分画成分名	男性 (%)	女性 (%)
HDL (高比重リポ蛋白)	22 ~ 50	26 ~ 53
LDL (低比重リポ蛋白)	44 ~ 69	42 ~ 65
VLDL (超低比重リポ蛋白)	5 ~ 20	4 ~ 17

## ●「アイソザイム」基準値 / 濃度換算活性値 (参考基準値)

項目	分画成分	基準値 (%)	濃度換算活性値 (U/L)
LDH アイソザイム	LDH1	17.3 ~ 30.3	28 ~ 53
	LDH2	30.0 ~ 39.7	42 ~ 72
	LDH3	19.0 ~ 25.6	24 ~ 46
	LDH4	6.2 ~ 12.3	8 ~ 24
	LDH5	4.9 ~ 13.9	7 ~ 24
ALP アイソザイム	ALP1	0.0 ~ 2.0	0 ~ 4
	ALP2	26.3 ~ 65.0	42 ~ 148
	ALP3	34.6 ~ 62.4	43 ~ 151
	ALP4	-	-
	ALP5	0.0 ~ 18.4	0 ~ 79
	ALP6	-	-
CK アイソザイム	CK-MM	96 ~ 100	45 ~ 240
	CK-MB	0 ~ 3	0 ~ 4
	CK-BB	0 ~ 2	0 ~ 2

## ●「全脂質脂肪酸分画」基準値

分画成分名	略号	濃度 (µg/mL)	成分比 (weight%)
ラウリン酸	C12:0	4.2 以下	0.16 以下
ミリスチン酸	C14:0	8.2 ~ 40	0.33 ~ 1.17
ミリストレイン酸	C14:1ω5	3.4 以下	0.10 以下
パルミチン酸	C16:0	451 ~ 898	18.38 ~ 22.80
パルミトレイン酸	C16:1ω7	25 ~ 112	0.90 ~ 3.05
ステアリン酸	C18:0	164 ~ 306	6.30 ~ 9.10
オレイン酸	C18:1ω9	432 ~ 1069	17.53 ~ 26.82
リノール酸	C18:2ω6	697 ~ 1280	25.30 ~ 37.02
γ-リノレン酸	C18:3ω6	3.6 ~ 22	0.14 ~ 0.71
リノレン酸	C18:3ω3	10 ~ 41	0.31 ~ 1.06
アラキジン酸	C20:0	1.2 ~ 2.7	0.07 以下
エイコセン酸	C20:1ω9	3.2 ~ 8.2	0.12 ~ 0.23
エイコサジエン酸	C20:2ω6	3.6 ~ 10	0.17 ~ 0.29
5-8-11 エイコサトリエン酸	C20:3ω9	1.2 ~ 5.4	0.17 以下
ジホモ-γ-リノレン酸	C20:3ω6	23 ~ 72	0.92 ~ 2.24
アラキドン酸	C20:4ω6	142 ~ 307	4.86 ~ 9.42
エイコサペンタエン酸	C20:5ω3	12 ~ 112	0.36 ~ 3.42
ベヘニン酸	C22:0	1.3 ~ 2.6	0.08 以下
エルシン酸	C22:1ω9	1.4 以下	0.04 以下
ドコサテトラエン酸	C22:4ω6	2.9 ~ 7.6	0.11 ~ 0.23
ドコサペンタエン酸	C22:5ω3	26 ~ 60	0.98 ~ 1.79
リグノセリン酸	C24:0	1.6 ~ 2.9	0.09 以下
ドコサヘキサエン酸	C22:6ω3	51 ~ 185	1.69 ~ 5.55
ネルボン酸	C24:1ω9	2.1 ~ 4.0	0.13 以下
T/T比 (C20:3ω9/C20:4ω6)		0.02 以下*	
EPA/AA比 (C20:5ω3/C20:4ω6)		0.06 ~ 0.44*	

\*: 単位なし

## ●「血液ガス分析」基準値

項目	基準値	単位
PH	7.38 ~ 7.46	
PCO2	32 ~ 46	mmHg
PO2	74 ~ 108	mmHg
BE	-2 ~ 2	mmol/L
tCO2	22.0 ~ 30.0	mmol/L
HCO3	21.0 ~ 29.0	mmol/L
SO2	92 ~ 96	%
tHB		g/dL
大気圧		mmHg

●「アミノ酸およびアミノ化合物」基準値

\*1: フィッシャー比 =  $\frac{\text{バリン} + \text{イソロイシン} + \text{ロイシン}}{\text{チロシン} + \text{フェニルアラニン}}$

\*2: 単位なし ND 不検出

成分名	略号	血漿 (nmol/mL)	尿 (μmol/L)
タウリン	Tau	35.2 ~ 70.0	132.8 ~ 2045
ホスフォエタノールアミン	PEA	ND	5.9 ~ 76.6
アスパラギン酸	Asp	< 3.2	< 18.8
ヒドロキシプロリン	Hyp	5.4 ~ 18.2	< 11.7
トレオニン	Thr	89.2 ~ 205.0	29.5 ~ 455.8
セリン	Ser	91.5 ~ 161.8	74.0 ~ 817.2
アスパラギン	Asn	40.8 ~ 76.5	24.2 ~ 316.9
グルタミン酸	Glu	10.8 ~ 44.4	5.1 ~ 84.6
グルタミン	Gln	488.2 ~ 733.1	93.7 ~ 1184
サルコシン	Sarco	ND	ND
α-アミノアジピン酸	α-AAA	ND	10.1 ~ 72.4
プロリン	Pro	89.6 ~ 258.8	< 11.5
グリシン	Gly	153.2 ~ 362.1	263.3 ~ 3386
アラニン	Ala	239.9 ~ 510.2	47.8 ~ 803.5
シトルリン	Cit	20.4 ~ 44.8	< 21.7
α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.0 ~ 25.7	2.2 ~ 27.9
バリン	Val	158.4 ~ 287.7	8.0 ~ 78.9
シスチン	Cys Cys	36.5 ~ 56.0	8.6 ~ 124.7
メチオニン	Met	19.2 ~ 32.7	2.6 ~ 37.8
シスタチオニン	Cysthio	ND	3.4 ~ 50.1
イソロイシン	Ile	41.3 ~ 84.9	3.0 ~ 28.8
ロイシン	Leu	80.9 ~ 154.3	6.0 ~ 61.8
チロシン	Tyr	50.2 ~ 82.6	21.5 ~ 255.1
β-アラニン	β-Ala	< 7.7	< 56.9
フェニルアラニン	Phe	45.7 ~ 76.5	11.8 ~ 104.5
β-アミノイソ酪酸	BAIBA	< 3.7	18.4 ~ 1695
ホモシスチン	Homocys	ND	ND
γ-アミノ酪酸	GABA	ND	ND
モノエタノールアミン	MEA	6.0 ~ 10.7	100.1 ~ 937.9
ヒドロキシリジン	Hyl	ND	< 11.6
オルニチン	Orn	43.2 ~ 95.7	3.6 ~ 29.0
1-メチルヒスチジン	1-Me-His	< 12.8	24.8 ~ 1575
ヒスチジン	His	67.9 ~ 97.1	200.6 ~ 2367
リジン	Lys	118.7 ~ 257.0	23.6 ~ 535.2
3-メチルヒスチジン	3-Me-His	2.9 ~ 6.8	81.4 ~ 607.3
トリプトファン	Trp	41.4 ~ 65.5	16.9 ~ 146.8
アンセリン	Ans	ND	< 62.3
カルノシン	Carno	< 6.3	2.1 ~ 33.0
アルギニン	Arg	46.0 ~ 121.7	3.4 ~ 47.8
アロイソロイシン	allo-Ile	ND	ND
フィッシャー比 *1		2.31 ~ 4.29*2	—

成分名	略号	血漿 (nmol/mL)	血液濾紙 (nmol/mL)
バリン	Val	158.4 ~ 287.7	90.5 ~ 200.1
メチオニン	Met	19.2 ~ 32.7	19.8 ~ 33.6
イソロイシン	Ile	41.3 ~ 84.9	26.7 ~ 60.9
ロイシン	Leu	80.9 ~ 154.3	56.1 ~ 108.1
チロシン	Tyr	50.2 ~ 82.6	55.3 ~ 93.5
フェニルアラニン	Phe	45.7 ~ 76.5	51.9 ~ 96.9
オルニチン	Orn	43.2 ~ 95.7	55.6 ~ 120.8
ヒスチジン	His	67.9 ~ 97.1	67.9 ~ 107.5
リジン	Lys	118.7 ~ 257.0	88.5 ~ 240.3
トリプトファン	Trp	41.4 ~ 65.5	11.3 ~ 28.3
アルギニン	Arg	46.0 ~ 121.7	11.6 ~ 31.4
フィッシャー比 *1		2.31 ~ 4.29*2	1.21 ~ 2.71 *2

特に指定がない場合は非蛋白態アミノ酸を分画致します。加水分解を必要とする場合はご指示下さい。また、トリプトファンは塩酸加水分解されるため検出不能となります。

< 血漿 > 抗凝固剤はヘパリンが適していますが、短時間保存の場合は EDTA 血漿でも有意差はありません。血清では分離前放置時間内に血球成分により代謝が進行し、一部のアミノ酸(Asp, Glu, Ala, Lys)が増加をきたします。溶血血漿では Asp, Glu が著しい高値を、Cys Cys, Trp が低値を示します。

< 尿 > 蓄尿の場合は、細菌繁殖、分解などによりアミノ酸が変化することがありますので、早朝 2 番尿による測定をお勧め致します。

## クレアチニン・クリアランスの検体採取方法

### 60法, 120分法

- 1) 排尿後、微温水500mLを飲ませてください。
- 2) 飲水後、約60分後に放尿させ、完全に排尿し終わった時の時刻を正確に(1分以内の誤差で)記録してください。

#### 60分法の場合

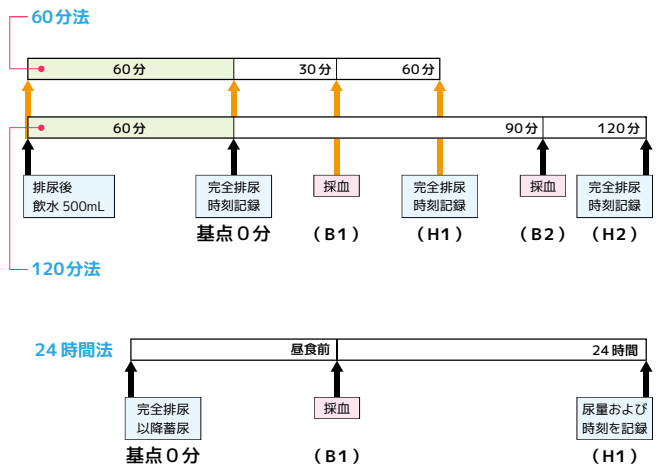
- 3) 開始30分後に2 mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B1)
- 4) 開始約1時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録してください。(H1)

#### 120分法の場合

- 3) 開始90分後に2 mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B2)
- 4) 開始約2時間後、完全排尿し、正確に尿量および終了時間を記録してください。(H2)
- 5) 以上のようにして得た血清および尿を冷蔵保存し、所定量を提出してください。その際、年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を必ず明記してください。

### 24時間法

- 1) 一定時刻に完全排尿させ、以後の尿を翌日の同時刻まで冷所に蓄尿してください。
- 2) 朝食前に2 mL採血し溶血を避けて血清分離してください。(B1)
- 3) 蓄尿終了時に正確に尿量を記録してください。(H1)
- 4) 以上のようにして得た血清および尿を冷蔵保存し、所定量を提出してください。その際、年齢・身長・体重・採尿時間・尿量を必ず明記してください。



## ICGの検体採取方法

早朝空腹時に採血(検査終了まで安静仰臥)して下さい。

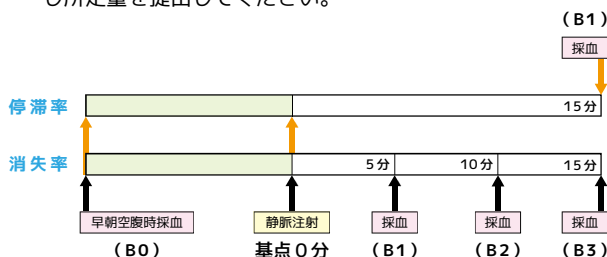
- 1) 負荷前に5 mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B0)
- 2) ICG試験薬25 mgを無菌蒸留水5 mLに溶解し、体重10 Kgにつき1 mLの割合で正確に静脈注射してください。

#### 停滞率の場合

- 3) 注射後15分に注射時と反対側から5 mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。(B1)

#### 消失率の場合

- 3) 注射後5分(B1)、10分(B2)、15分(B3)に注射時と反対側から5 mL採血し、溶血を避けて血清分離してください。
- 4) 以上のようにして得た血清を冷蔵にて暗所に保存し、遮光し所定量を提出してください。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
0581	フェノバルビタール	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	15.0 ~ 40.0	★	1 2	フェノバル フェノバルビタール ルミナール
		血清 0.4	03						
2812	プリミドン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	EMIT 法	5 ~ 12	★	2 3	プリミドン
		血清 0.3	02						
0582	フェニトイン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	10.0 ~ 20.0	★	1 2	ヒダントール アレビアチン
		血清 0.4	03						
0583	カルバマゼピン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	4.0 ~ 10.0	★	1 2	テグレートール テレスミン レキシシ カルバマゼピン
		血清 0.4	03						
0584	バルプロ酸ナトリウム	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	50 ~ 100	★	1 2	デパケン、ハイセレン、 パレリン、エビレナート、 バルデケン、セレニカ
		血清 0.4	03						
2817	エトサクシミド	血液 2	03	冷蔵 (4週)	EIA 法	40 ~ 100	★	2 3	ザロンチン エビレオプチマル
		血清 0.4	02						
2818	トリメタジオン	血液 2	03	凍結 (30日)	LC-MS/MS 法	300 ~ 500	★	4 10	バスタレル ミノアレ ※活性代謝物であるジメタジオン を測定
		血清 0.5	02						
2811	クロナゼパム	血液 2	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	10 ~ 70	★	3 4	ランドセン リボトリール
		血清 0.5	02						
2835	ニトラゼパム	血液 2	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	20 ~ 100	★	3 4	ベンザリン、ネルボン、 ネルロレン、ヒルスカミン
		血清 0.5	02						
2836	ジアゼパム	血液 2	03	凍結	LC-MS/MS 法	有効治療濃度 200 ~ 500 中毒域 1000 以上	★	3 5	セルシン、ホリゾン ジアバックス、セレナミン ダイアップ 脚注参照 * 1
		血清 0.5	02						
2822	ゾニサミド	血液 1	03	冷蔵 (4週)	ラテックス凝集法	10 ~ 30	★	2 3	エクセグラン トレリーフ
		血清 0.3	02						
2893	ガバペンチン	血液 1	03	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 6	ガバペン
		血清 0.3	02						
2826	クロバザム	血液 2	03	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 5	マイスタン 脚注参照 * 2
		血清 0.5	02						
2896	レベチラセタム	血液 1	03	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 4	イーケブラ
		血清 0.3	02						
2895	ラモトリギン	血液 1	03	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 5	ラミクタール
		血清 0.3	02						
2897	トピラマート	血液 1	03	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 5	トピナ
		血清 0.3	02						

★：特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

\* 1：ジアゼパムおよび活性代謝物であるデスメチルジアゼパムの各定量値をご報告します。有効治療濃度、中毒域は、ジアゼパムの値です。

\* 2：クロバザムおよび活性代謝物であるデスメチルクロバザムの各定量値をご報告します。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
2830	ステリペントール	血液 1	14	凍結 (30日)	LC-MS/MS 法	μg/mL	★	3 5	ディアコミット 脚注参照 *1
		EDTA 血漿 0.3	02						
2987	ルフィナミド	血液 1	03	凍結	LC-MS/MS 法	μg/mL	★	3 5	イノベロン
		*2 血清 0.3	02						
2891	クロチアゼパム	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 6	リーゼ
		血清 1.0	02						
2990	フルニトラゼパム	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 6	サイレース ロヒプノール ピピットエース フルトラース
		血清 1.0	02						
3034	ミダゾラム	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 6	ドルミカム ミダゾラム
		血清 1.0	02						
2892	アルプラゾラム	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 6	コンスタン ソラナックス カームダン メデポリン
		血清 1.0	02						
2862	プロチゾラム	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 6	グッドミン レンドルミン ソレントミン アムネゾン
		血清 1.0	02						
2831	リチウム	血液 2	03	冷蔵 (4週)	原子吸光法	0.3 ~ 1.2 (早朝服薬前)	★	2 3	リーマス リチオマール
		血清 0.5	02						
2855	ハロペリドール	血液 2	03	冷蔵 (4週)	EIA 法 (CEDIA)	3 ~ 17	★	2 3	セレネース ハロステン リントン ネオベリドール ハロマンズ
		*4 血清 0.4	02						
2840	クオルプロマジン	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	30 ~ 350	—	4 6	ウインタミン コントミン 塩酸クオルプロマジン クオルプロマジン
		血清 1.0	02						
3036	プロムペリドール	血液 2	03	冷蔵 (4週)	EIA 法 (CEDIA)	15 以下	★	2 3	インプロメン
		*4 血清 0.4	02						
2849	アミトリプチリン・ノルトリプチリン	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL アミトリプチリン+ノルトリプチリン 80 ~ 200 ノルトリプチリンのみ 50 ~ 150	—	4 6	トリプタノール ノーマルン ノリトレン
		血清 1.0	02						
2843	イミプラミン・デシプラミン	血液 3	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	ng/mL	—	4 6	イミドール トフラニール
		血清 1.0	02						

★ : 特定薬剤治療管理料 (22頁参照)

【ご注意】 採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

\*1 : 血清での受託も可能ですが分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

\*2 : EDTA血漿での受託も可能です。

\*3 : (1)血清リチウム濃度が1.5mEq/Lを超えたときは臨床症状の観察を十分に行い、必要に応じて減量または休薬等の処置を行なって下さい。

(2)血清リチウム濃度が2.0mEq/Lを超えたときは過量投与による中毒を起こすことがあるので、減量または休薬して下さい。

\*4 : 本検査は、ハロペリドールとプロムペリドールにほぼ同等の交差反応性を示します。従って、2薬剤を併用している患者ではそれぞれの薬剤の正確な測定値を得ることはできません。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
2874	キニジン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	KIMS 法	2.3 ~ 5.0	★	2 3	硫酸キニジン
		血清 0.3	02						
2877	プロカインアミド	血液 1	03	冷蔵 (4週)	HEIA 法	4 ~ 8	★	2 3	アミサリン
		血清 0.3	02						
2875	ジソピラミド	血液 2	03	冷蔵 (4週)	EIA 法	2 ~ 5	★	2 3	リスモダン ノルベース ジソピラン
		血清 0.4	02						
2873	リドカイン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	EMIT 法	有効治療濃度 1.5 ~ 5 中毒域 5 以上	★	2 3	キシロカイン オリベス
		血清 0.3	02						
2886	アプリンジン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	0.25 ~ 1.25	★	3 5	アスペノン
		血清 0.3	02						
3037	塩酸ピルジカイド	血液 2	10	凍結	LC-MS/MS 法	0.2 ~ 0.9	★	3 4	サンリズム リズムコート
		へパリン 血漿 0.5	02						
2823	プロパフェノン	血液 2	10	凍結	LC-MS/MS 法	50 ~ 1500	★	3 6	プロノン 脚注参照 * 1
		へパリン 血漿 0.5	02						
2882	メキシレチン	血液 2	03	凍結 (4週)	LC-MS/MS 法	0.5 ~ 2.0 (不整脈患者)	★	3 4	メキシチール チルミメール メキシレート
		血清 0.5	02						
3038	アミオダロン	血液 2	10	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 4	アンカロン 脚注参照 * 2
		へパリン 血漿 0.5	02						
2890	ピルメノール	血液 2	10	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 6	ピメノール 脚注参照 * 3
		へパリン 血漿 0.5	02						
2888	コハク酸シベンゾリン	血液 2	10	凍結	LC-MS/MS 法	70 ~ 250 朝投与前 (トラフ濃度)	★	3 5	シベンノール
		へパリン 血漿 0.5	02						
2887	フレカイニド	血液 2	03	凍結	LC-MS/MS 法	200 ~ 1000	★	3 6	タンボコール
		血清 0.5	02						
2898	ペプリジル	血液 1	14	凍結	LC-MS/MS 法	250 ~ 800	★	3 4	ペプリコール 脚注参照 * 4
		EDTA 血漿 0.3	02						
2900	ソタロール	血液 1	14	凍結	LC-MS/MS 法		★	3 6	ソタコール 脚注参照 * 4
		EDTA 血漿 0.3	02						

★：特定薬剤治療管理料(22頁参照)

**[ご注意]** 採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

\* 1：プロパフェノンおよび主代謝物である5-OHプロパフェノンの各定量値をご報告します。有効治療濃度はプロパフェノンと5-OHプロパフェノンとの総量値です。

\* 2：アミオダロンおよび主代謝物であるモノデスエチルアミオダロンの各定量値をご報告します。

\* 3：最小有効血中濃度は0.40 μg/mL前後と推定されています。

\* 4：血清での受託も可能ですが分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
0595	ジゴキシシ	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	0.9 ~ 2.0	★	1 2	ジゴキシシ ジゴハン
		血清 0.4	03						
0591	テオフィリン	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	10.0 ~ 20.0	★	1 2	スローピッド、テオドール、 テオロング、ユニフィル、 テオフルマート、テオスロー
		血清 0.4	03						
2904	ゲンタマイシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	EMIT 法	Peak 15 ~ 20 Trough 1 未満	★	2 3	ゲンタシン エルタシン
		血清 0.3	02						
2905	トブラマイシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	HEIA 法	Peak 15 ~ 20 Trough 1 未満	★	2 3	トブラシン
		血清 0.3	02						
2906	アミカシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	KIMS 法	Peak 50 ~ 60 Trough 4 未満	★	2 3	アミカマイシン ブルテツシン ロミカシン
		血清 0.3	02						
2922	アルベカシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	Peak 15 ~ 20 Trough 1~2 未満	★	2 3	ハベカシン
		血清 0.3	02						
2908	バンコマイシン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	Trough 10 ~ 15	★	2 3	塩酸バンコマイシン
		血清 0.3	02						
2923	テイコプラニン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	Trough 15 ~ 30	★	2 3	タゴシッド
		血清 0.3	02						
2894	ポリコナゾール	血液 1	03	凍結	LC-MS/MS 法	Trough 1~2 以上 Trough 4~5 以上の場合に 肝障害に注意する	★	3 6	ブイフェンド
		血清 0.3	02						
2944	アセトアミノフェン	血液 1	03	冷蔵 (4週)	HEIA 法	中毒域 4時間後 200以上 12時間後 50以上	190 生	2 3	ピリナジン カロナール アニルメ カルジール サルツー
		血清 0.3	02						
2947	サリチル酸 (アスピリン)	血液 1	03	冷蔵 (4週)	酵素法	抗リウマチ薬として 150 ~ 300	★	2 3	アスピリン ハフトロン ネオザルベリン ヘパルス サルソニン
		血清 0.3	02						

★：特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

\*1：グラム陰性菌感染症に対する標準治療

①：同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回の測定を行ったときに1回に限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	有効治療濃度	実施料判断料	所要日数	備考
2943	メトトレキサート	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (7日)	EIA 法	μmol/L 中毒域(大量投与時) 24時間後 10 以上 48時間後 1 以上 72時間後 0.1 以上	★	2 ↓ 3	メトトレキサート トレキサメット
		血清 0.3							
2899	イマチニブ	血液 1	14 ↓ 02	凍結	LC-MS/MS 法	ng/mL	★	3 ↓ 6	グリベック 脚注参照 * 1
		EDTA 血漿 0.3							
2878	L-ドーパ	血液 5	14 ↓ 02	凍結	HPLC 法	ng/mL	—	3 ↓ 5	ドパストン ドパゾール (ヘパリン血漿は不可)
		EDTA 血漿 2							
2950	シクロスポリン	血液 1 EDTA加血液	07 (7日)	冷蔵	ECLIA 法	ng/mL	★	2 ↓ 3	ネオーラル サンデミュン アマドラ (ヘパリン加血液は不可)
6553	タクロリムス	血液 1 EDTA加血液	07 (7日)	冷蔵	ECLIA 法	ng/mL 5 ~ 20 * 2	★	2 ↓ 3	プログラフ グラセプター * 専用採血管に規定量を採血し、 必要検体量をご提出下さい。
2988	エベロリムス	血液 1 * 3 EDTA加血液	07 (7日)	冷蔵	ECLIA 法	ng/mL * 4	★	2 ↓ 3	サーティカン アフニートル (ヘパリン加血液は不可) シロリムス投与歴がある患者検 体は検査不可。

★ : 特定薬剤治療管理料(22頁参照)

【ご注意】 採血時期につきましては、21頁をご参照下さい。

血中薬物検査のご依頼に当たっては、分離剤入り採血管は使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。

- \* 1 : 血清での受託も可能ですが分離剤入り採血管を使用しないで下さい。測定値が分離剤の影響を受ける場合があります。
- \* 2 : 臓器移植後患者における12時間トラフ値の管理目標を示します。
- \* 3 : 免疫抑制剤サーティカンが対象です。
- \* 4 : 免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合のTrough 3 ~ 8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合のTrough 5 ~ 15

## ●主な薬物検査の採血時期

薬剤名	採血時期
-----	------

抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前（トラフ）*
プリミドン	投与直前（トラフ）
フェニトイン	経口：投与直前（トラフ） 静注：投与直前（トラフ）
カルバマゼピン	投与直前（トラフ）
バルプロ酸ナトリウム	
エトサクシミド	投与直前（トラフ）*
トリメタジオン	
クロナゼパム	
ニトラゼパム	
ジアゼパム	
ゾニサミド	

向精神薬	
リチウム	投与直前（トラフ）
ハロペリドール	投与直前（トラフ）*
ブロムペリドール	投与直前（トラフ）

抗不整脈剤	
キニジン	投与直前（トラフ）
プロカインアミド	
N-アセチルプロカインアミド	
ジソピラミド	カプセル：投与直前（トラフ）および 投与後2～4時間（ピーク） 徐放剤：投与直前（トラフ）および 投与後4～7時間（ピーク） 注射剤：投与直前（トラフ）
リドカイン	静注：投与後2時間 点滴静注：終了後6～12時間
アプリンジン	経口：投与直前（トラフ）および 投与後2～4時間（ピーク） 静注：投与直前（トラフ）
塩酸ピルジカイニド	投与直前（トラフ）または 投与後1～2時間（ピーク）
プロパフェノン	経口：投与直前（トラフ）
メキシレチン	投与直前（トラフ）または 投与後約3時間（ピーク）
ピルメノール アミオダロン	投与直前（トラフ）

強心剤	
ジゴキシン	経口：投与直前（トラフ）または 投与後6時間以降 注射剤：投与直前（トラフ）または 静注後3時間以降

気管支拡張剤	
テオフィリン	速放性製剤：投与直前（トラフ）および 投与後2時間（ピーク） 徐放性製剤：投与直前（トラフ）および 投与後4時間後（ピーク） 静注：点滴静注： 投与直前（トラフ）および 投与後30分（ピーク） 持続静注：投与後4～6時間および その後12～24時間ごと

薬剤名	採血時期
-----	------

抗生剤	
ゲンタマイシン	筋注：投与後0.5～1時間 点滴静注：終了直後（ピーク）および 次回投与直前（トラフ）
トブラマイシン	
アミカシン	
アルベカシン	筋注：投与後0.5時間 点滴静注：終了直後（ピーク）および 次回投与直前（トラフ）
バンコマイシン	投与直前（トラフ）
テイコプラニン	投与直前（トラフ）

解熱・鎮痛剤	
アセトアミノフェン	投与直前（トラフ） 大量に服薬した患者においては、 中毒発現が疑われる場合に随時

抗炎症・抗リウマチ剤	
サリチル酸	投与直前（トラフ）

抗悪性腫瘍剤	
メトトレキサート	ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間後
エベロリムス（アフィニートル）	投与直前（トラフ）

抗パーキンソン薬	
L-ドーパ	経口：投与直前（トラフ）

免疫抑制剤	
シクロスポリン	経口：投与直前（トラフ） 静注：投与直前（トラフ） 必要に応じて投与直後（ピーク）
タクロリムス	経口：投与直前（トラフ） 静注：投与直前（トラフ） 必要に応じて投与直後（ピーク）
シロリムス	投与直前（トラフ）
エベロリムス（サーティカン）	投与直前（トラフ）

\*：半減期が長い場合随時でも可であるが、定刻を守る。



● 特定薬剤治療管理料

薬物名	検査項目	特定薬剤治療管理料		加算点	備考
		1～3ヶ月	4ヶ月以降		
抗てんかん剤	フェノバルビタール プリミドン フェニトイン カルバマゼピン バルプロ酸ナトリウム エトサクシミド トリメタジオン クロナゼパム ニトラゼパム ジアゼパム ソニサミド ガバペンチン クロバザム レベチラセタム ラモトリギン トピラマート スチリペンツール ルフィナミド	[単一薬剤] 470点	[単一薬剤] 470点	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る)	ジギタリス製剤の急速飽和を行った場合またはてんかん重積状態の患者に対して抗てんかん剤の注射等を行った場合は、所定点数にかかわらず、1回に限り740点を算定する。  数日間以上投与している入院患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。
	ジギタリス製剤	ジゴキシン			
アミノ配糖体抗生物質 (入院中)	ゲンタマイシン トブラマイシン アミカシン アルベカシン				
グリコペプチド系抗生物質 (入院中)	バンコマイシン テイクプラニン				
抗真菌剤	ボリコナゾール				
テオフィリン	テオフィリン				
不整脈用剤	キニジン プロカインアミド N-アセチルプロカインアミド ジソピラミド リドカイン アブリンジン 塩酸ピルジカイニド プロパフェノン メキシレチン フレカイニド コハク酸シベンゾリン ピルメノール アミオダロン ベプリジル ソタロール	470点	235点		
	ハロペリドール製剤	ハロペリドール			
	ブロムペリドール製剤	ブロムペリドール			
	リチウム製剤	リチウム			
	免疫抑制剤 (臓器移植後)	シクロスポリン タクロリムス水和物 エベロリムス ミコフェノール酸モフェチル		2740点 (臓器移植を行った 月から3月以内)	
免疫抑制剤	シクロスポリン	470点	280点 (薬剤の投与を行った 初回月に限る)	再生不良性貧血、赤芽球病、パーチエット症候群、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、ネフローゼ症候群、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎*1	
免疫抑制剤	タクロリムス水和物			全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎、間質性肺炎*2	
その他	サリチル酸 メトトレキサート イマチニブ エベロリムス (抗悪性腫瘍剤の場合)		235点		

特定薬剤治療管理料は、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回に限り算定する。  
(てんかん患者において2種類以上の抗てんかん剤を投与しており、同一暦月に複数の抗てんかん剤の血中濃度を測定した場合、1月に2回に限り算定できる。)

\* 1 既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。  
\* 2 多発性筋炎または皮膚筋炎に合併するものに限る。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0162	AFP (αフェトプロテイン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	10.0 以下	110 生II	1 }	
		血清 0.5							
1800	AFPレクチン分画	血液 2	01	冷蔵 (3週)	LBA 法 (LBA-EATA)	L3分画 10.0 未満	190 生II	3 }	
		血清 0.4							
0163	CEA	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	5.0 以下	108 生II	1 }	
		血清 0.5							
0164	CA19-9	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	37 以下	134 生II	1 }	
		血清 0.5							
0165	CA125	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	35 以下	152 生II	1 }	
		血清 0.5							
2621	BFP (塩基性フェトプロテイン)	血液 1	03 ↓ 02	冷蔵 (4週)	EIA 法	75 未満	150 生II	3 }	採血後速やかに血清分離して下さい。溶血検体または分離剤入り容器による採血では、高値になる場合がありますので避けて下さい。
		血清 0.3							
1792	TPA (組織ポリペプチド抗原)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	75 未満	110 生II	2 }	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際、検体の取り扱いには十分ご注意ください。
		血清 0.4							
1816	SPan-1 抗原	血液 1	01	冷蔵 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	30 以下	146 生II	2 }	
		血清 0.3							
1817	DUPAN-2	血液 2	01	冷蔵 (1週)	EIA 法	150 以下	124 生II	3 }	
		血清 0.4							
1336	エラスターゼ1	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	300 以下	129 生II	2 }	
		血清 0.5							
1840	PIVKA II 定量 (CLEIA)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	40 未満	147 生II	2 }	急速凝固管による血清は避けて下さい。クエン酸血漿も検査可。
		血清 0.4							
1784	SLX (シアリルLe <sup>x</sup> -i抗原)	血液 1	01	凍結 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	38.0 以下	152 生II	2 }	溶血検体でのご依頼は避けて下さい。
		血清 0.3							
1846	NCC-ST-439	血液 2	01	冷蔵 (2週)	EIA 法	M 4.5 未満 F 49歳以下 7.0 未満 50歳以上 4.5 未満	124 生II	3 }	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。ご提出の際、検体の取り扱いには十分ご注意ください。
		血清 0.4							
1825	BCA225	血液 2	01	冷蔵 (3週)	CLEIA 法	160.0 未満	165 生II	2 }	
		血清 0.4							
1814	CA15-3	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	31.3 以下	124 生II	2 }	
		血清 0.4							

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1812	NSE (神経特異エノラーゼ)	血液 1	01	冷蔵 (3日)	ECLIA 法	16.3 以下	ng/mL 146 生II	2 5 3	採血後は速やかに遠心分離して下さい。 溶血検体では、NSE値は上昇するため、避けて下さい。
		血清 0.3							
1834	Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体)	血液 1	14 ↓ 02	冷蔵 (10日)	CLIA 法	81.0 未満	pg/mL 175 生II	2 5 3	ヘパリン血漿も検査可。
		EDTA 血漿 0.3							
1813	SCC抗原 (扁平上皮癌関連抗原)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	1.5 以下	ng/mL 110 生II	2 5 3	本検査項目は唾液による汚染のため、高値異常を示す場合のあることが確認されています。 ご提出の際、検体の取り扱いには十分ご注意ください。
		血清 0.3							
1867	シフラ (サイトケラチン19フラグメント)	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	3.5 以下	ng/mL 172 生II	2 5 3	
		血清 0.4							
1841	前立腺酸性フォスファターゼ (PAP)	血液 1	01	凍結 (12週)	CLEIA 法	3.0 以下	ng/mL 124 生II	2 5 5	採血後速やかに遠心分離し、凍結して下さい。直腸検査等の前立腺刺激を行った場合は、24時間以上経過後採血して下さい。
		血清 0.3							
1859	γ-Sm (γ-セミノプロテイン)	血液 2	01	凍結 (8週)	CLEIA 法	4.00 以下	ng/mL 194 生II	2 5 3	
		血清 0.4							
0166	PSA (前立腺特異抗原)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	4.00 以下	ng/mL 134 生II 02	2 5 3	
		血清 0.3							
1873	PSA-ACT	血液 1	01	凍結 (12週)	CLIA 法	3.4 以下	ng/mL 134 生II 02	2 5 5	前立腺癌診断のcut-off値としては“7.0ng/mL以下”が推奨されます。
		血清 0.3							
1826	CA602	血液 2	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	63.0 以下	U/mL 190 生II	3 5 6	
		血清 0.4							
1845	STN (シアリルTn抗原)	血液 1	01	凍結 (12週)	RIA 法 (ビーズ固相法)	45.0 以下	U/mL 146 生II	2 5 4	
		血清 0.3							
1849	CA72-4	血液 1	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	8.0 以下	U/mL 146 生II	2 5 3	
		血清 0.3							
5594	sIL-2R (可溶性インターロイキン-2レセプター)	血液 2	01	冷蔵 (14日)	CLEIA 法	121 ~ 613	U/mL 451 生II	2 5 3	
		血清 0.4							

- ① : 前立腺癌を強く疑う場合に、前立腺癌の診断の確定または転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定できます。ただし、「PSA」の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断が見つからない場合は、3月に1回に限り、3回を上限として算定できます。
- ② : 当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1684	遊離HCG-β (HCG-β サブユニット)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	ng/mL 0.1 以下	144 生II ①	2 5 4	妊娠の有無,妊娠週数を必ずご記入下さい。 脚注参照 * 1
		血清 0.4							
1685		蓄尿 または 部分尿 1	25	凍結 (12週)			144 生II ①		妊娠の有無,妊娠週数を必ずご記入下さい。 脚注参照 * 1,2
1810	I型CTP (I型コラーゲンC-テロペプチド)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	RIA 法 (二抗体法)	ng/mL 5.5 未満 (骨転移判定のcut off値)	※ ②	2 5 4	
		血清 0.5							
1393	デオキシピリジノリン (Dpyr)	尿 1.5	25	冷蔵 (6週)	EIA 法	nmol/mmol・Cr M 2.1 ~ 5.4 F 2.8 ~ 7.6	196 生II ③④	3 5	遊離型デオキシピリジノリンを測定致します。濃度が3.0nmol/L未満の場合,クレアチニン補正値は「換算不可」でご報告致します。
1389	NTx (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	尿 1.5	25	冷蔵 (4週)	EIA 法	nmol BCE/mmol・Cr 骨吸収亢進の指標 55 以上 副甲状腺摘出術の適応 200 以上 悪性腫瘍の骨転移の指標 100 以上	160 生II ③	3 5 4	濃度が20.0nmolBCE/L未満の場合,クレアチニン補正値は「換算不可」でご報告致します。
6909	HER2蛋白定量	血液 1	01	凍結	CLIA 法	ng/mL 陰性 : 15.2 以下 陽性 : 15.3 以上	※ ②	2 5	判定結果において「陽性」とは,HER2蛋白の過剰発現を意味します。
		血清 0.3							

\* 1 : 本検査は、遊離型のHCG-βのみを測定致します(LHとの交差反応は認められません)。

\* 2 : トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。

- ① : 実施料は、HCG産生腫瘍患者に対して測定した場合にのみ算定できます。ただし、「ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)」と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定できます。
- ② : 「悪性腫瘍特異物質治療管理料」としてのみ保険請求が認められます。
- ③ : 乳癌、肺癌または前立腺癌と既に診断された患者に対し骨転移診断のために行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合には、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。
- ④ : 「オステオカルシン」、「NTx」、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

●腫瘍部位とマーカーの有用性

	肺・乳腺		消化管			肝・胆・膵			性腺・泌尿器			
	肺がん	乳がん	食道がん	胃がん	大腸がん	肝がん	胆嚢・胆道がん	膵がん	卵巣がん	子宮がん	腎・膀胱がん	前立腺がん
CEA	◎		○	○	◎	○	○	○	○	○	○	
BFP	○				○	○	○	○	○	○	◎	○
TPA	◎	○		○	◎	○	○	○	○	○	○	○
AFP						◎						
AFP レクチン分画						◎						
PIVKA-II						◎						
エラスターゼ 1								◎				
CA19-9				○	○	○	◎	◎				
Span-1				○	○	○	◎	◎				
DUPAN-2				○		○	◎	◎				
NCC-ST-439	◎	◎		○	○	○	◎	◎	○			
SLX	◎					○	◎	◎	◎			
CA125	○			○				○	◎	○		
CA602									◎	○		
STN				◎	○			○	◎	○		
CA72-4				◎	○			○	◎	○		
CA54/61				○	○			○	◎	○		
SCC 抗原	◎		○							◎		
CYFRA (シフラ)	◎											
NSE	◎											
ProGRP	◎											
CA15-3		◎										
BCA225		◎										
HER2 蛋白		◎										
PAP												◎
PSA												◎
PSA-ACT												◎
PSA・F/T 比												◎
γ-Sm												◎
P53 抗体		◎	◎		◎							

- ◎ 特に有用性の高いもの
- 有用性が認められているもの



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1001	GH (成長ホルモン)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	M 2.47 以下 F 0.13 ~ 9.88 (負荷前安静時)	117 生II	2 5 3	ヘパリン血漿も検査可。
		血清 0.3							
0589	LH (黄体形成ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	CLIA 法	34頁参照	117 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0590	FSH (卵胞刺激ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	CLIA 法	34頁参照	117 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1046	ACTH (副腎皮質刺激ホルモン)	血液 1	14 ↓ 02	凍結 (12週)	ECLIA 法	7.2 ~ 63.3 (早期安静時)	206 生II	2 5 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。抗凝固剤として必ずEDTAをご使用下さい。溶血検体では測定値が低下傾向となります。
		EDTA 血漿 0.3							
0592	プロラクチン (PRL)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	CLIA 法	34頁参照	98 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1098	AVP (ADH) (抗利尿ホルモン)	血液 4	14 ↓ 02	凍結	RIA 法 (二抗体法)	2.8 以下	235 生II	5 5 7	溶血の影響により、測定値が高値となる可能性があります。
		EDTA 血漿 1.2							
1101	オキシトシン *2	血液 3	87	凍結	RIA 法 (二抗体法)	非妊婦 5.00 以下 妊婦 3.00 ~ 200	-	20 5 30	必ず指定容器使用 脚注参照 *1
		血漿 1							
1076	ソマトメジンC (IGF-1)	血液 1	01	凍結 (12週)	IRMA 法 (ビーズ固相法)	37頁参照	230 生II	3 5 5	性別、年齢を必ずご記入下さい。 (血漿、血清とも検査可)
		血清 0.3							
0175	TSH (甲状腺刺激ホルモン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	0.500 ~ 5.000	110 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0171	T3 (トリヨードサイロニン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	0.80 ~ 1.60	108 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0172	T4 (総サイロキシン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	6.1 ~ 12.4	114 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0173	FT3 (遊離トリヨードサイロニン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	2.3 ~ 4.3	134 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
0174	FT4 (遊離サイロキシン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	0.9 ~ 1.7	134 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1219	サイログロブリン (Tg)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	33.7 以下	137 生II	2 5 3	
		血清 0.3							

\*1 : 食後1時間以上経過後採血。血液3mLを採取容器に加え、転倒混和後、氷冷。冷却遠心器にて遠心分離後、提出用容器にて血漿1mLをご提出下さい。

\*2 : 本検査は、その子宮収縮ホルモンとしての役割から、主に妊婦の経過管理を行うためのもので、定量下限は3.00 μU/mLです。より低濃度レベルでの測定を要する精神・神経領域におけるご利用には適しませんのでご注意ください。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0451	サイロイドテスト	血液 2	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集試験)	100 未満	倍 37 免疫	1 2	
		血清 0.4							
0452	マイクロゾームテスト	血液 2	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集試験)	100 未満	倍 37 免疫 ①	1 2	
		血清 0.4							
1241	抗サイログロブリン抗体 (Tg-Ab)	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	4.11 未満	IU/mL 144 免疫	2 3	
		血清 0.4							
1225	抗TPO抗体 (抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体)	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	5.61 未満	IU/mL 146 免疫 ①	2 3	
		血清 0.4							
1215	TSHレセプター抗体 (TRAb)	血液 1	01	冷蔵	ECLIA 法	2.0 未満	IU/L 239 免疫 ②	2 3	
		血清 0.3							
1216	TSAAb (TSH刺激性レセプター抗体)	血液 2	01	凍結 (4週)	EIA 法	120 以下	% 350 免疫 ②	3 6	血清以外は検査不可。
		血清 0.5							
1211	TBG (サイロキシン結合グロブリン)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA 法 (PEG 法)	14.0 ~ 29.4	μg/mL 134 生II	2 5	
		血清 0.3							
1273	カルシトニン (CT)	血液 1	01	凍結 (3週)	ECLIA 法	M 5.15 以下 F 3.91 以下 (空腹時)	pg/mL 141 生II	2 3	
		血清 0.3							
1287	ホールPTH (副甲状腺ホルモンwhole)	血液 2	14 ↓ 02	凍結	CLEIA 法	8.3 ~ 38.7	pg/mL 180 生II	2 5	血清も検査可。(急速凝固管による血清は避けて下さい) 脚注参照 *1
		EDTA 血漿 0.4							
0253	PTHインタクト (副甲状腺ホルモン)	血液 2	14 ↓ 02	凍結	ECLIA 法	10 ~ 65	pg/mL 180 生II ③	2 3	血清も検査可。
		EDTA 血漿 0.5							
1285	PTHrPインタクト (副甲状腺ホルモン関連蛋白intact)	血液 2	08 ↓ 02	凍結	IRMA 法 (ビーズ固相法)	1.1 未満	pmol/L 194 生II ④	5 7	必ず指定容器使用 専用容器 (EDTA・アプロチニン入り) は予めご依頼下さい。 脚注参照 *2
		血漿 0.5							
1281	オステオカルシン (BGP) *3	血液 1	01	凍結 (4週)	FEIA 法	8.3 ~ 32.7	ng/mL 170 生II ⑤⑥	2 5	溶血検体では、測定値が低下傾向となる場合があります。
		血液 1	14 ↓ 02	凍結					
2151	骨型ALP (BAP) *3	血液 1	01	凍結	CLEIA 法	μg/L M 3.7 ~ 20.9 F 閉経前 2.9 ~ 14.5 閉経後 3.8 ~ 22.6	165 生II ⑦	2 3	ヘパリン血漿も検査可。
		血清 0.3							

\*1 : 必ず血漿分離の上ご提出下さい。PTHは採血後、直ちに冷却下で血漿を分離することで不活性化を防ぎます。

\*2 : 必ず血漿分離の上ご提出下さい。血清検体は不可。

\*3 : [骨形成マーカー]BGP、BAP、total P1NP。[骨吸収マーカー]NTx、TRACP-5b、Dpyr。

① : 「抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体」と「マイクロゾームテスト(抗マイクロゾーム抗体)」を併せて実施した場合は、主たるもののみの算定できます。

② : 「TSHレセプター抗体」と「TSH刺激性レセプター抗体」を同時に行った場合は、いずれか一方のみ算定できます。

③ : 「副甲状腺ホルモン(PTH)」として一連の算定となります。

④ : 「副甲状腺ホルモン関連蛋白」として、高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定できます。

⑤ : 続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定および原発性または続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できます。

⑥ : 「オステオカルシン」、「NTx」、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

⑦ : 「BAP」、「Intact P1NP」、「ALPアイソザイム(ポリアクリルアミドディスク電気泳動法)」および「total P1NP」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1691	TOTAL P1NP (I型プロコラーゲン-N-プロペプチド) *1	血液 1	01	冷蔵 (5日)	ECLIA 法	μg/L M (30~83歳) 18.1 ~ 74.1 F 閉経前 (30~44歳) 16.8 ~ 70.1 閉経後 (45~79歳) 26.4 ~ 98.2	170 生II ①	2 5 3	EDTA血漿も検査可。 溶血検体では測定値が低下傾向となります。
		血清 0.3							
1833	〔骨粗鬆症〕 NTx(血清) (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) *1	血液 1	01	凍結	EIA 法	nmol BCE/L 36頁参照	160 生II ②③④⑤	3 5 4	
		血清 0.3							
1413	〔骨粗鬆症〕 NTx(尿) (I型コラーゲン架橋N-テロペプチド) *1	尿 1.5	25	冷蔵 (4週)	EIA 法	nmol BCE/mmol・Cr 36頁参照	160 生II ②③④⑤	3 5 4	早期2番尿をご提出下さい。 脚注参照 *2
1270	TRACP-5b (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ) *1	血液 1	01	凍結	EIA 法	mU/dL M 170 ~ 590 F (YAM) 120 ~ 420 *3	160 生II ②③④⑤	2 5 3	同一検体での他項目との重複依頼は避けて下さい(凍結融解によりデータが低値化傾向にあることが確認されています)。
		血清 0.3							
1410	〔骨粗鬆症〕 デオキシピリジノリン (Dpyr) *1	尿 1.5	25	冷蔵 (6週)	EIA 法	nmol/mmol・Cr 36頁参照	196 生II ②③④⑤	3 5 5	遊離型デオキシピリジノリンを測定致します。早期2番尿をご提出下さい。 脚注参照 *4
1445	カテコールアミン 3分画	血液 3	14 ↓ 02	凍結 (10日)	HPLC 法	ng/mL 37頁参照	180 生II	3 5 4	採血後、速やかに血漿分離の後、-20℃以下の条件でご提出下さい。
		EDTA血漿 *5 1							
1452		酸性蓄尿 各1	25	冷蔵 (4週)	HPLC 法	μg/day 37頁参照	180 生II ③	3 5 4	脚注参照 *6
1435	遊離カテコールアミン3分画	酸性蓄尿 各1	25	冷蔵 (5日)	HPLC 法	μg/day 37頁参照	180 生II ③	3 5 4	脚注参照 *6
1493	メタネフリン2分画	酸性蓄尿 2	25	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day メタネフリン(MN) 0.05 ~ 0.20 ノルメタネフリン(NMN) 0.10 ~ 0.28	233 生II	3 5 5	脚注参照 *6 メタネフリン総1日量(mg/day)、メタネフリン濃度(mg/L)、ノルメタネフリン濃度(mg/L)もご報告致します。
1482	VMA (パニルマンデル酸)	酸性蓄尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day 1.4 ~ 4.9	90 生II	3 5 4	脚注参照 *6 パニルマンデル酸濃度(mg/L)もご報告致します。
1519		尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	μg/mg・Cr 1.2 ~ 4.9	90 生II	3 5 4	正常児参考基準値については36頁参照 パニルマンデル酸濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告致します。
1483	HVA (ホモパニリン酸)	酸性蓄尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day 1.6 ~ 5.5	69 生II	3 5 4	脚注参照 *6 ホモパニリン酸濃度(mg/L)もご報告致します。
1520		尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	μg/mg・Cr 1.6 ~ 5.5	69 生II	3 5 4	正常児参考基準値については36頁参照 ホモパニリン酸濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告致します。

\*1 : [骨形成マーカー]BGP, BAP, total P1NP。 [骨吸収マーカー]NTx, TRACP-5b, Dpyr。

\*2 : 濃度が20.0nmolBCE/L未満の場合、クレアチニン補正值は【換算不可】でご報告致します。

\*3 : YAM : 若年者成人平均値

\*4 : 濃度が3.0nmolBCE/L未満の場合、クレアチニン補正值は【換算不可】でご報告致します。

\*5 : 穿刺のストレスのみで増加するため肘静脈に留置針を予め挿入することが望ましいです。30分以上安静臥床後に採血します。

\*6 : 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当り)または「酸性ユリメジャー-T(関東化学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出下さい。  
左記はいずれも市販品です。貴院にて予めご購入下さい。

① : 「BAP」、「Intact P1NP」、「ALPアイソザイム(ポリアクリルアミドディスク電気泳動法)」および「total P1NP」のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

② : 「オステオカルシン」、「NTx」、「Dpyr」を併せて実施した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

③ : 乳癌、肺癌または前立腺癌と既に診断された患者に対し骨転移診断のために行い、当該検査に基づいて計画的な治療管理を行った場合には、「悪性腫瘍特異物質治療管理料」として算定します。

④ : 原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定または骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定できます。

⑤ : 骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、また薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できます。

⑥ : 代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できます。

⑦ : 治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できます。

⑧ : 「カテコールアミン分画」として一連の算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1499	セロトニン	EDTA加血液 0.6	14	凍結 (4週)	HPLC 法	ng/mL 52.8 ~ 200	-	3 5 9	ガラス管の場合はプラスチック容器に移してから凍結して下さい。必ず専用検体としてご提出下さい。
1485		EDTA加血液 2 多血小板血漿 0.6	14 02			ng/mL 623 以下			
1484	5-HIAA (5-ハイドロキシインドール酢酸)	酸性蓄尿 1	25	冷蔵 (4週)	LC-MS/MS 法	mg/day 0.6 ~ 4.1	95 生II	3 5 4	脚注参照 * 1 5-HIAA濃度(mg/L)もご報告致します。 5-HIAA濃度(mg/L)およびクレアチニン値(mg/dL)もご報告致します。
1521		尿 1	25			冷蔵 (4週)			
1531	血漿レニン活性 (PRA)	血液 2 EDTA血漿 0.6	14 02	凍結 (4週)	EIA 法	ng/mL/hr 0.2 ~ 2.3 (臥位) 0.2 ~ 3.9 (座位) 0.2 ~ 4.1 (立位)	103 生II ①	3 5 4	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照 * 2,3
1557	レニン濃度 (PRC)	血液 2 EDTA血漿 0.5	14 02			-20°C以下 凍結 (12週)			
1549	アルドステロン	血液 2 EDTA血漿 0.5	14 02	凍結 (12週)	RIA 法 (チューブ固相法)	pg/mL 随時: 36 ~ 240 臥位: 30 ~ 159 立位: 39 ~ 307	131 生II	2 5 3	血清も検査可。 脚注参照 * 2
1551		蓄尿 2	25			μg/day 10 以下			
1554	アンジオテンシン II	血液 4 EDTA血漿 1.2	14 02	凍結	RIA 法 (二抗体法)	pg/mL 50.0 以下	-	7 5 11	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 安静状態で採血して下さい。
1555	ACE (アンジオテンシン I 転換酵素)	血液 2 血清 0.5	01			冷蔵 (4週)			
1586	DOC (11-デオキシコルチコステロン)	血液 3 血清 1	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	ng/mL M 0.08 ~ 0.28 F 0.03 ~ 0.33	-	8 5 14	
1583	コルチコステロン	血液 2 血清 0.5	01			冷蔵			
1421	ドーパミン・総	血液 5 EDTA血漿 2	14 02	凍結	HPLC 法	ng/mL 0.5 ~ 6.2	-	6 5 11	必ず血漿分離の上ご提出下さい。

\* 1 : 「6mol/L塩酸(6N)約20mL(蓄尿1リットル当り)または「酸性ユリメジャー-T(関東科学株式会社製)」を加え冷所に蓄尿し、よく混和後、尿量測定の上、所定量をご提出下さい。  
左記はいずれも市販品です。貴院にて予めご購入下さい。

\* 2 : 採血時刻、安静度、体位によって測定値に差が出ますので、早朝空腹時30分間安静後の採血をお勧め致します。(臥位は30分以上横になった状態での採血をお勧め致します)

\* 3 : 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。

\* 4 : 血漿分離後、-20°C以下の条件で速やかに凍結して下さい。氷結点(0°C)前後では冷却活性化によるレニン濃度の上昇が認められます。

① : 「血症レニン活性(PRA)」、「レニン濃度(PRC)」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
1534	コルチゾール	血液 1	14 ↓ 02	冷蔵 (12週)	CLIA 法	3.7 ~ 19.4  (午前10時以前)	134 生II	2 ↓ 3	血清も検査可。	
		EDTA 血漿 0.3								
1556	遊離コルチゾール (非抱合型コルチゾール)	蓄尿 2	25	冷蔵 (4週)	RIA 法 (チューブ固相法)	11.2 ~ 80.3  $\mu\text{g/day}$	134 生II ①	2 ↓ 4	トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。酸性蓄尿は不可。	
1589	コルチゾン	血液 2	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	M 14.3 ~ 35.1 F 10.4 ~ 35.0 (午前9~12時)	-	8 ↓ 20		
		血清 0.5								
1631	アンドロステンジオン	血液 2	01	凍結	RIA 法 (硫酸塩析法)	35頁参照	-	8 ↓ 14		
		血清 0.5								
1632	アンドロステロン	血液 2	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	M 0.18 ~ 0.91 F 0.14 ~ 1.03  $\text{ng/mL}$	-	8 ↓ 14		
		血清 0.5								
1581	17-KGS (17-ケートジェニックスステロイド)	蓄尿 10	26	冷蔵	比色法 (Few-神戸川法)	M 6.00 ~ 18.4 F 3.55 ~ 11.2  $\text{mg/day}$	200 生II	5 ↓ 8	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。(保存剤による影響はありません)	
1590	17-KGS分画 (17-ケートジェニックスステロイド分画)	蓄尿 15	26	冷蔵	比色法 (Few-神戸川法)	35頁参照	220 生II	5 ↓ 8	蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。(保存剤による影響はありません)	
1597	17-KS分画 (17-ケートステロイド分画)	3分画	各 5	26	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	35頁参照	213 生II	5 ↓ 7	分画数をご指定下さい。蓄尿時は冷暗所に保管して下さい。(保存剤による影響はありません)
7分画										
1601										
1602	ステロイド10分画	蓄尿 5	26	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	35頁参照	-	5 ↓ 7	<分画範囲> 17-ケートステロイド7分画、プレグナンジオール、プレグナントリオール、プレグナントリオロン 脚注参照*2	
1634	DHEA-S (デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体)	血液 1	01	冷蔵 (3週)	CLEIA 法	35頁参照	181 生II	2 ↓ 3		
		血清 0.3								
1660	プレグナンジオール (P2)	蓄尿 5	26	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	35頁参照	213 生II	5 ↓ 7	脚注参照*2	
1656	プレグナントリオール (P3)	蓄尿 5	26	冷蔵 (4週)	GC-MS 法	35頁参照	243 生II	5 ↓ 7	脚注参照*2	
0598	テストステロン	血液 2	01	冷蔵 (2日)	CLIA 法	M 2.36 ~ 10.37 F 0.10 ~ 0.67  $\text{ng/mL}$	131 生II	1 ↓ 2	午前中(9~12時)に採血して下さい。男性、女性、年齢を記入して下さい。	
		血清 0.5								

\*1 : プレグナントリオロンは定量限界が基準値となります。

\*2 : 蓄尿時は冷暗所に保管して下さい(保存剤による影響はありません)。

\*3 : 「17-KS7分画」「P<sub>2</sub>」「P<sub>3</sub>」の基準値については、別に掲げるそれぞれの項目の基準値欄を参照下さい。

① : 保険請求の際は、「コルチゾール」とご記入下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
1692	5 $\alpha$ -DHT (5 $\alpha$ -ジヒドロテストステロン)	血液 3	01	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	M 0.20 ~ 1.00 F 0.05 ~ 0.30	-	8 5 14	
		血清 1							
1655	プロジェステロン	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	34頁参照	159 生II	2 5 3	妊娠の有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。
		血清 0.3							
1662	総エストロジェン・非妊婦	蓄尿 3	25	冷蔵	RIA 法 (硫酸塩析法)	34頁参照	-	8 5 20	防腐剤を加えずに冷所に蓄尿し、所定量をご提出下さい。
0597	E2 (エストラジオール)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	CLIA 法	34頁参照	187 生II ①	1 5 2	妊娠の有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。
		血清 0.5							
1652	E3 (エストリオール)	血液 3	01	凍結 (12週)	RIA 法 (硫酸塩析法)	34頁参照	-	8 5 14	妊娠の有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。
		血清 1							
0366	HCG (ヒト絨毛性ゴナドトロピン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	1 以下	146 生II	1 5 2	妊娠の有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。
		血清 0.5							
0367		尿 10	25	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	1 以下	146 生II	1 5 2	
0368	(尿)HCG定性(妊娠反応) (ヒト絨毛性ゴナドトロピン)	尿 10	25	冷蔵 (12週)	金コロイド イムノクロマト法		55 生II	1 5 2	
1681	HPL (ヒト胎盤性ラクタジェン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	34頁参照	144 生II	2 5 3	妊娠の有無、妊娠週数を必ずご記入下さい。
		血清 0.5							
1703	癌胎児性FN (頸管腔分泌液中 癌胎児性フィブロネクチン)	頸管腔分泌液	90	凍結 (8週)	EIA 法	陰性 (-)	204 免疫 ②	2 5 3	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1,2,3
0287	インスリン (IRI)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	ECLIA 法	1.4 ~ 13.8	112 生II	1 5 2	
		血清 0.5							
1385	インスリン抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA 法	<sup>125</sup> I-insulin結合率 0.4% 未満 濃度 125 nU/mL 未満	110 免疫	3 5 6	
		血清 0.3							
5537	抗GAD抗体	血液 1	01	冷蔵	EIA 法	5.0 未満	134 生II ③	2 5 4	
		血清 0.3							

\* 1 : 検体採取は腫洗浄前に行ってください。必ず専用の採取器具を用い、抽出・濾過検体をご提出下さい。

\* 2 : 検体中に精液が混入している場合は、その検体は使用しないで下さい。

\* 3 : 検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

① : 「エストロジェン・妊婦」は「エストラジオール」と同時に実施した場合は算定できない。

② : 破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合または切迫早産の診断のために妊娠満22週以上満33週未満の者を対象とし実施した場合のみ算定できます。

③ : すでに糖尿病の診断が確定した患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合または自己免疫介在性脳炎・脳病の診断に用いた場合に算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5497	抗IA-2抗体	血液 1	01	凍結	RIA 法	0.4 未満	213 生II ①	3 5 9	
		血清 0.3							
1321	C-ペプチド (CPR)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	0.6 ~ 1.8 (空腹時負荷前)	117 生II ②	2 5 3	急速凝固管による血清は避けて下さい。
		血清 0.4							
1369		蓄尿 または 部分尿 *1 0.4	16	凍結 (12週)		20.1 ~ 155	117 生II ②		全尿保存の場合は、必ず専用保存剤を添加して下さい。
1306	ガストリン	血液 2	01	凍結 (12週)	RIA 法 (PEG法)	37 ~ 172	110 生II	2 5 5	
		血清 0.4							
0259	BNP (脳性Na利尿ペプチド)	血液 2	96 ↓ 02	凍結	CLEIA法	18.4 以下	140 生II ③④	1 5 2	
		EDTA 血漿 0.4							
0254	NT-proBNP (脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント)	血液 2	01	凍結	ECLIA 法	125.0 以下	140 生II ③④	1 5 2	
		血清 0.5							
1097	HANP (ヒト心房性Na利尿ペプチド)	血液 1	08 ↓ 02	凍結 (12週)	FEIA 法	43.0 以下	233 生II ⑤	2 5 3	必ず指定容器使用 必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照 * 2,3,4
		血漿 0.3							
1723	エリスロポエチン (EPO)	血液 3	01	凍結 (12週)	CLEIA 法	4.2 ~ 23.7	209 生II ⑤	2 5 3	
		血清 0.7							
2479	肝細胞増殖因子 (HGF)	血液 1	01	凍結	EIA 法	0.39 以下	227 生I ⑥	2 5 8	
		血清 0.3							
1721	C-AMP (サイクリックAMP)	血液 2	14 ↓ 02	凍結	RIA 法 (DCC 法)	6.4 ~ 20.8	175 生II	4 5 10	脚注参照 * 3
		EDTA 血漿 0.4							
1722		蓄尿 1	25	凍結 (12週)		3.3 ~ 6.1	175 生II		トルエン1~2mLを加え、冷所に蓄尿し、よく混和し所定量をご提出下さい。 塩酸蓄尿も可。

\* 1 : 部分尿の場合は濃度(単位:  $\mu\text{g/L}$ )をご報告致します。基準値はございません。

\* 2 : 専用容器(EDTA・アプロチニン入り)は予めご依頼下さい。

\* 3 : 溶血検体では測定値が低下傾向となる場合があります。

\* 4 : 長時間全血のままの放置は避け下さい。EDTA採血の場合は、ただちに分離の上、凍結保存して下さい。

① : すでに糖尿病の診断が確定し、かつ、「抗GAD抗体」陰性が確認された30歳未満の患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定できます。ただし、その理由および医学的根拠を診断報酬明細書の摘要欄へ記載することが必要です。

② : 血液および尿の検体を同時に測定した場合は、血液の所定点数のみを算定できます。

③ : 「BNP」、「NT-proBNP」と「hANP」のうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から1週間以内に併せて実施した場合は、主たる1項目のみ算定できます。

④ : 心不全の診断または病態把握のために実施した場合に、月1回に限り算定できます。診療報酬明細書の摘要欄に本検査の実施日(「BNP」、「NT-proBNP」、「hANP」を併せて実施した場合は併せて当該検査の実施日)を記載して下さい。

⑤ : 赤血球増加症の鑑別診断、重度の慢性腎不全患者またはエリスロポエチンもしくはダルベポエチン投与前の透析患者における腎性貧血の診断、および骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定のために行った場合に算定できます。

⑥ : 肝炎の劇症化が疑われる場合、または劇症肝炎の経過観察に用いた場合のみ算定できます。

●「LH / FSH / PRL」基準値

		LH (mIU/mL)	FSH (mIU/mL)	PRL (ng/mL)
男性		0.1 ~ 8.7	<0.3 ~ 13.8	3.7 ~ 16.3
女性	卵胞期	1.2 ~ 13.3	2.2 ~ 11.5	4.6 ~ 26.8
	排卵期	1.3 ~ 55.7	2.1 ~ 18.6	6.0 ~ 40.9
	黄体期	0.5 ~ 16.5	1.1 ~ 10.6	1.2 ~ 33.6
	有経期	—	—	3.5 ~ 32.7
	閉経期	13.3 ~ 61.6	10.5 ~ 142.8	0.6 ~ 18.5

●「E<sub>2</sub> / E<sub>3</sub>」基準値

		血清 (pg/mL)	
		E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>
男性		39.8 以下	5.00 以下
女性	卵胞期	19.5 ~ 144.2	5.00 以下
	排卵期	63.9 ~ 356.7	5.00 以下
	黄体期	55.8 ~ 214.2	5.00 以下
	閉経後	32.2 以下	—
妊婦	前期		20.0 ~ 100
	中期		100 ~ 10,000
	後期		10,000 ~ 40,000

●「総エストロゲン・非妊婦」基準値 (µg/day)

男性	2.00 ~ 20.0	
女性	卵胞期	3.00 ~ 20.0
	排卵期	10.0 ~ 60.0
	黄体期	8.00 ~ 50.0
	閉経後	10.0 以下

●「プロゲステロン」基準値 (ng/mL)

男性	0.6 以下	
女性	卵胞期	0.4 以下
	排卵期	3.7 以下
	黄体期	8.5 ~ 21.9
妊婦	前期	23.9 ~ 141
	中期	25.7 ~ 143
	後期	51.2 ~ 326

●「HPL」基準値 (µg/mL)

妊婦	5 ~ 8週	0.3 以下
	16 ~ 20週	0.5 ~ 2.3
	24 ~ 28週	1.5 ~ 5.3
	36 ~ 40週	3.3 ~ 8.5

## ●「プレグナンジオール (P<sub>2</sub>)」基準値 (mg/day)

男性		0.12 ~ 0.93
女性	卵胞期	0.16 ~ 1.28
	黄体期	0.69 ~ 4.70
	閉経後	1.00 以下

## ●「プレグナントリオール (P<sub>3</sub>)」基準値 (mg/day)

男性		0.25 ~ 1.48
	卵胞期	0.07 ~ 1.24
	黄体期	0.25 ~ 1.58
	閉経後	1.00 以下

## ●「アンドロステンジオン / DHEA-S」基準値

年齢		アンドロステンジオン(ng/mL)	DHEA-S (µg/dL)
男性	20~29歳	0.48 ~ 1.82	159 ~ 538
	30~39歳	0.42 ~ 1.52	125 ~ 475
	40~49歳	0.46 ~ 1.67	123 ~ 422
	50~59歳	0.41 ~ 1.57	76 ~ 386
女性	20~29歳	0.64 ~ 2.34	92 ~ 399
	30~39歳	0.57 ~ 2.24	58 ~ 327
	40~49歳	0.28 ~ 1.35	41 ~ 218
	50~59歳	0.25 ~ 1.21	30 ~ 201

## ●「17-KGS 分画」基準値

分画成分	男性 (mg/day)	女性 (mg/day)
11- デオキシ KGS	1.54 ~ 3.91	0.84 ~ 2.77
11- オキシ KGS	3.86 ~ 13.8	3.25 ~ 8.10

## ●「17-KS 分画」基準値

分画成分名		男性(mg/day)	女性(mg/day)
7分画	3分画		
	アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
	エチオコラノロン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
	デハイドロエピアンドロステロン	2.92 以下	1.49 以下
	11- ケトアンドロステロン	0.50 以下	0.48 以下
	11- ケトエチオコラノロン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下
	11- ハイドロキシアンドロステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17
11- ハイドロキシエチオコラノロン	0.54 以下	0.75 以下	

## ●「ステロイド 10 分画」基準値

		男性(mg/day)	女性(mg/day)
ステロイド 10 分画	アンドロステロン	1.12 ~ 4.71	0.22 ~ 2.78
	エチオコラノロン	0.43 ~ 3.23	0.10 ~ 2.39
	デハイドロエピアンドロステロン	2.92 以下	1.49 以下
	11- ケトアンドロステロン	0.50 以下	0.48 以下
	11- ケトエチオコラノロン	0.08 ~ 0.63	0.62 以下
	11- ハイドロキシアンドロステロン	0.39 ~ 2.04	0.19 ~ 1.17
	11- ハイドロキシエチオコラノロン	0.54 以下	0.75 以下
	プレグナンジオール	0.12 ~ 0.93	(卵胞期) 0.16 ~ 1.28 (黄体期) 0.69 ~ 4.70 (閉経後) 1.00 以下
	プレグナントリオール	0.25 ~ 1.48	(卵胞期) 0.07 ~ 1.24 (黄体期) 0.25 ~ 1.58 (閉経後) 1.00 以下
	プレグナントリオロン	0.5 以下	0.5 以下

●「NTx (骨粗鬆症)」基準値

年 齢 (歳)		正常参考値 (nmol BCE / mmol · Cr)*			判定基準 (nmol BCE / mmol · Cr)
		閉経前女性	閉経後女性	男 性	
20 ~ 29	20 ~ 24	15.5 ~ 83.0		14.5 ~ 71.6	骨量低下リスクの カットオフ値：35.3  骨折リスクの カットオフ値：54.3
	25 ~ 29	13.1 ~ 62.5			
30 ~ 39	30 ~ 34	13.1 ~ 58.5		13.4 ~ 59.4	
	35 ~ 39	8.5 ~ 59.3			
40 ~ 49	40 ~ 44	7.6 ~ 51.7		13.4 ~ 61.7	
	45 ~ 49	9.1 ~ 51.4	15.2 ~ 101.9		
50 ~ 59	50 ~ 54	10.6 ~ 59.2	16.4 ~ 84.6	12.4 ~ 71.6	
	55 ~ 59		14.5 ~ 95.4		
60 ~ 69	60 ~ 64		15.0 ~ 79.7	16.0 ~ 82.9	
	65 ~ 69		11.7 ~ 85.5		
70 ~ 79	70 ~ 74		14.4 ~ 107.1	12.4 ~ 68.1	
	75 ~ 79		14.8 ~ 102.9		
		9.3 ~ 54.3 (30 ~ 44 歳)	14.3 ~ 89.0 (45 ~ 79 歳)	13.0 ~ 66.2 (40 ~ 59 歳)	

\*：正常参考値は、“mean±1.96S.D.”に基づく上・下限値として表示。

出典：日本骨粗鬆症学会：Osteoporosis Japan 12：191, 2004.  
福永仁夫，他：Osteoporosis Japan 9：265, 2001.

●「I型コラーゲン架橋 N-テロペプチド (NTx)：血清」基準値

正常参考値 (nmol BCE/L)		判定基準 (nmol BCE/L)
男 性：9.5 ~ 17.7		骨量低下リスクのカットオフ値：13.6 骨折リスクのカットオフ値：16.5
女 性	閉経前：7.5 ~ 16.5	
	閉経後：10.7 ~ 24.0	

出典：日本骨粗鬆症学会：Osteoporosis Japan 12：191, 2004.

●「Dpyr (骨粗鬆症)」基準値

正常参考値 (nmol/mmol·Cr)		判定基準 (nmol/mmol·Cr)
男 性：2.1 ~ 5.4		骨量低下リスクのカットオフ値：5.9 骨折リスクのカットオフ値：7.6
女 性：2.8 ~ 7.6		

出典：日本骨粗鬆症学会：Osteoporosis Japan 12：191, 2004.

●「尿中VMA/HVA (クレアチニン補正)」：正常児参考基準値

月 齢	VMA (µg/mg Cr) mean±S.D	HVA (µg/mg Cr) mean±S.D
1 ~ 3	8.6 ± 4.10	18.1 ± 6.18
4	8.9 ± 3.35	18.2 ± 4.79
5	9.1 ± 3.20	17.9 ± 4.96
6	9.1 ± 3.25	17.5 ± 4.88
7	9.0 ± 3.29	17.2 ± 5.16
8	8.8 ± 3.43	16.6 ± 5.42
9	8.6 ± 3.20	16.7 ± 5.28
10	8.8 ± 3.32	16.4 ± 5.40
11 ~ 12	8.3 ± 3.44	16.1 ± 5.54
1 ~ 12	9.1 ± 3.38	17.4 ± 4.98

出典：沼田公介，他：小児科診療 12, 2921, 1990.

## ●「ソマトメジン -C」基準値

男性 (ng/mL)					女性 (ng/mL)						
年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD	年齢	-2SD ~ +2SD		
0	11 - 149	26	119 - 329	52	86 - 242	0	15 - 154	26	146 - 336	52	78 - 213
1	14 - 148	27	116 - 322	53	85 - 240	1	23 - 186	27	141 - 328	53	77 - 212
2	18 - 154	28	114 - 315	54	84 - 239	2	32 - 213	28	137 - 320	54	76 - 211
3	24 - 164	29	111 - 309	55	84 - 238	3	40 - 227	29	133 - 312	55	75 - 210
4	32 - 176	30	109 - 303	56	83 - 237	4	48 - 238	30	129 - 304	56	74 - 208
5	44 - 193	31	107 - 297	57	82 - 236	5	56 - 252	31	126 - 297	57	73 - 207
6	55 - 215	32	105 - 292	58	81 - 235	6	69 - 287	32	122 - 290	58	72 - 205
7	63 - 247	33	103 - 287	59	80 - 233	7	89 - 357	33	119 - 283	59	71 - 203
8	72 - 292	34	102 - 283	60	79 - 232	8	111 - 438	34	115 - 277	60	70 - 201
9	84 - 350	35	100 - 279	61	77 - 230	9	133 - 517	35	112 - 271	61	69 - 198
10	99 - 423	36	99 - 275	62	76 - 228	10	155 - 588	36	109 - 265	62	68 - 196
11	113 - 499	37	97 - 272	63	75 - 226	11	175 - 638	37	106 - 260	63	66 - 194
12	125 - 557	38	96 - 269	64	73 - 224	12	188 - 654	38	103 - 254	64	65 - 191
13	133 - 579	39	95 - 266	65	72 - 221	13	193 - 643	39	100 - 250	65	64 - 188
14	138 - 570	40	94 - 263	66	70 - 219	14	193 - 625	40	98 - 245	66	62 - 186
15	141 - 552	41	94 - 261	67	68 - 216	15	192 - 614	41	95 - 240	67	61 - 183
16	142 - 543	42	93 - 259	68	66 - 213	16	192 - 611	42	93 - 236	68	60 - 180
17	142 - 540	43	92 - 257	69	65 - 209	17	191 - 599	43	90 - 233	69	59 - 177
18	142 - 526	44	92 - 255	70	63 - 206	18	188 - 574	44	88 - 229	70	57 - 175
19	143 - 501	45	91 - 253	71	61 - 202	19	182 - 539	45	87 - 226	71	56 - 172
20	142 - 470	46	90 - 250	72	58 - 198	20	175 - 499	46	85 - 224	72	55 - 170
21	139 - 436	47	90 - 250	73	56 - 194	21	168 - 459	47	83 - 221	73	54 - 167
22	135 - 405	48	89 - 248	74	54 - 190	22	161 - 425	48	82 - 219	74	53 - 165
23	131 - 379	49	88 - 246	75	52 - 185	23	155 - 397	49	81 - 218	75	52 - 163
24	128 - 356	50	87 - 245	76	50 - 181	24	151 - 375	50	80 - 216	76	50 - 160
25	125 - 337	51	87 - 243	77	48 - 177	25	147 - 358	51	79 - 215	77	49 - 158

## ●「カテコールアミン 3 分画 / 遊離カテコールアミン 3 分画」基準値

分画成分名	カテコールアミン 3 分画		遊離カテコールアミン 3 分画 ( $\mu\text{g/day}$ )
	血漿 (ng/mL)	尿 ( $\mu\text{g/day}$ )	
アドレナリン (A)	0.17 以下	1.1 ~ 22.5	0.6 ~ 14.1
ノルアドレナリン (NA)	0.15 ~ 0.57	29.2 ~ 118	9.7 ~ 41.4
ドーパミン (DA)	0.03 以下	100 ~ 1,000	120 ~ 310

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0431	ASK価 〈抗ストレプトキナーゼ〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集試験)	1280 未満	倍 29 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
0432	ASO価 〈抗ストレプトリジンO〉	血液 2	01	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	156 以下	IU/mL 15 免疫	1 1 2	
		血清 0.5							
0470	RPR 定性 〈梅毒血清反応〉定性	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	(ー)	15 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
0483	RPR 〈梅毒血清反応〉定量	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	0.9 以下	RU 34 免疫	1 1 2	RUは従来の希釈倍数とおおよそ同じになるように設定された単位です。
		血清 0.5							
0473	TPHA 定性 〈梅毒トレポネーマ抗体〉定性	血液 2	01	冷蔵 (2週)	ラテックス凝集法	(ー)	32 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
0476	TPHA 〈梅毒トレポネーマ抗体〉定量	血液 2	01	冷蔵 (2週)	PHA 法 (受身赤血球凝集試験)	80 未満	倍 53 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
3451	FTA-ABS 定性 〈梅毒検査〉	血液 2	01	冷蔵 (2週)	FAT 法	(ー)	146 免疫	2 1 3	陽性の場合、確認検査を行うため、ご報告が遅れるときがあります。
		血清 0.4							
0442	マイコプラズマ抗体 《PA法》	血液 2	01	冷蔵 (4週)	PA 法 (粒子凝集試験)	40 未満	倍 32 免疫	1 1 2	判定基準: ペア血清で4倍以上の上昇が見られた場合 1回の検査で320倍以上の抗体価の場合
		血清 0.4							
3284 3305	マイコプラズマ抗体 《CF法》	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	1 1 3	3 1 5	
	血清 0.3 髄液 0.4	02							
0445	マイコプラズマ抗体IgM	血液 2	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	(ー)	32 免疫	1 1 2	
		血清 0.4							
0443	寒冷凝集反応	血液 2	01	常温 (4週)	赤血球凝集法	128 未満	倍 11 免疫	1 1 2	採血後、速やかに血清分離して保存して下さい。(血清分離までは、37℃で保存)
		血清 0.5							
3313	百日咳菌抗体 《EIA法》	血液 1	01	冷蔵 (1週)	EIA 法	PT-IgG 10 未満 FHA-IgG 10 未満	EU/mL 280 免疫	3 1 5	百日咳診断の目安は51頁参照。
		血清 0.3							
3323	トキソプラズマIgG	血液 1	01	冷蔵 (1週)	CLEIA 法	陰性(ー) 7.5 未満	IU/mL 93 免疫	2 1 3	判定基準については51頁参照
		血清 0.3							
3322	トキソプラズマIgM	血液 1	01	(1週)	CLEIA 法	陰性(ー) 0.8 未満	S/CO 95 免疫	2 1 3	
		血清 0.3							

① : 「マイコプラズマ抗体」と「マイコプラズマ抗原(免疫クロマト法)(FA法)」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3378	エンドトキシン定量 《ES法》	血液 3	51	凍結不可 冷蔵 (5日)	比濁時間分析法	pg/mL 5.0 未満	257 免疫 ①	2 5 3	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1.2
0193	透析液エンドトキシン	透析液 4	70	冷蔵 (7日)	カイネティック 比色法	EU/mL			必ず指定容器使用
3360	β-D-グルカン (1→3)-β-D-グルカン)	血液 2	51	凍結不可 冷蔵 (5日)	発色合成基質法	pg/mL 20 以下	213 免疫 ②③	2 5 3	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1.2
3350	ツツガ虫ギリアム (Gilliam)	IgG	01	凍結	FAT 法	IgG 10 倍 IgM 10 倍 (最低希釈倍率)	213 免疫	5 5 8	
3351									
3348	ツツガ虫カトー (Kato)	IgG	01	凍結	FAT 法	IgG 10 倍 IgM 10 倍 (最低希釈倍率)	213 免疫	5 5 8	
3349									
3346	ツツガ虫カーブ (Karp)	IgG	01	凍結	FAT 法	IgG 10 倍 IgM 10 倍 (最低希釈倍率)	213 免疫	5 5 8	
3347									
3631 3640	オーム病抗体 (クラミドフィラ(クラミジア)・ シッタシ抗体)	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	冷蔵	CF 法	血清 4 倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 免疫 ④	3 5 5	
3357	カンジダ抗原	血液 2 血清 0.4	01	冷蔵 (4週)	ラテックス凝集法	陰性(-) タイター 2 未満	142 免疫 ③⑤	2 5 3	
3260	アスペルギルス抗原	血液 3 血清 0.7	01	凍結 (5週)	EIA 法	陰性(-)	165 免疫 ③⑥	2 5 4	ピペラシリン/ダゾバクタム合剤 投与患者では陽性となる場合が あります。 52頁参照
3334	アスペルギルス抗体	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	冷蔵 (2週)	CF 法	血清 4 倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	-	3 5 5	

\* 1 : 検体はエンドトキシンフリーの専用容器にて無菌的に採取して下さい(〔微生物学検査〕血液培養の採血方法をご参照して下さい)。

\* 2 : 検体採取後は、48時間以内に委託先ラボラトリーに搬入する必要があります。受託可能日・時間については、弊社営業担当者にご確認下さい。

- ① : 「エンドトキシン」、「プロカルシトニン」、「プレセプシン」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ② : 深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択、または深在性真菌感染症に対する治療効果の判定に使用した場合に算定できます。
- ③ : 「(1→3)-β-D-グルカン」、「カンジダ抗原」、「D-アラビニトール」、「アスペルギルス抗原」または「クリプトコックス抗原」と併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。
- ④ : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。
- ⑤ : カンジダ血症またはカンジダ肺炎の診断の目的で行った場合に算定できます。
- ⑥ : 侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合にのみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3401	クラミジア・トラコーマチス同定 《IDEIA》	〈ぬぐい液〉 ぬぐい液	11	冷蔵	EIA 法 (発色増感法)	陰性 (-)	164 免疫 ①②	3 5	必ず指定容器使用 専用容器は予めご依頼下さい。 51頁および脚注参照*1
3436		〈尿〉 男子 初尿	8						
3365	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgA & IgG	血液	1	冷蔵	EIA 法	陰性(-) index 0.900 未満	70+75 免疫 ③④	3 5	判定基準については51頁参照
		血清	0.3						
3887	クラミジア・ニューモニエ 抗体IgM	血液	1	冷蔵	EIA 法	陰性(-) index 0.900 未満	160 免疫 ③⑤	3 5	判定基準については51頁参照
		血清	0.3						
3364 3440	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA 《TaqManPCR法》	初尿 または ぬぐい液	4.5	86 85	冷蔵 (1年)	ロシュ/リアルタイムPCR法	204 微生物 ①	2 3	必ず指定容器使用 専用容器は予めご依頼下さい。
4157	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA(うがい液) 《TaqManPCR法》	うがい液	4.5	86	冷蔵 (1年)		204 微生物 ①		
3892	クラミジア・トラコーマチス 同定DNA 《SDA法》	初尿 または ぬぐい液	3	12 09	冷蔵 (30日)		204 微生物 ①		
3370 3807	淋菌同定DNA 《TaqManPCR法》	初尿 または ぬぐい液	4.5	86 85	冷蔵 (1年)	ロシュ/リアルタイムPCR法	204 微生物 ⑥⑦	2 3	必ず指定容器使用 専用容器は予めご依頼下さい。
4158	淋菌同定DNA(うがい液) 《TaqManPCR法》	うがい液	4.5	86	冷蔵 (1年)		204 微生物 ⑦		
3893	淋菌同定DNA 《SDA法》	初尿 または ぬぐい液	3	12 09	冷蔵 (30日)		204 微生物 ⑥⑦		
5529	H. ピロリ抗体	血液 血清	1 0.3	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	80 免疫 ⑧	2 3	陰性(-) (10 U/mL 未満)
5569	便中ヘリコバクター・ピロリ 抗原	糞便		76	冷蔵 (5日)	EIA 法	146 免疫 ⑧	2 3	(-) 52頁参照
0494	尿素呼気試験 (UBT)	呼気	120mL 以上	32	常温	赤外分光分析	70 微生物	1 2	Δ13C(‰) 2.5 未満 52頁参照
4247	プレアルブミン	血液 血清	1 0.3	01	冷蔵 (4週)	TIA 法	110 免疫	2 3	22 ~ 40 mg/dL

\*1 : IDEIA 法の判定基準については51頁参照。

\*2 : 除菌判定は、除菌後6ヶ月以降。

\*3 : 除菌判定は、除菌後4週以降。

① : 「クラミジア・トラコーマチス核酸検出」と「クラミジア・トラコーマチス同定(IDEIA)」を併用した場合は、主な項目の実施料のみ算定できます。

② : 結膜または鼻咽腔内からの検体による場合は、封入体結膜炎もしくはトラコーマまたは乳児クラミジア・トラコーマチス肺炎の診断のために実施した場合に算定できます。

③ : 「クラミジア・ニューモニエ抗体IgA & IgG」と「クラミジア・ニューモニエ抗体IgM」を同時の実施した場合は、主たるもののみ算定となります。

④ : 保険請求の際は「クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体」および「クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体」とご記入下さい。

⑤ : 保険請求の際は「クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体」とご記入下さい。

⑥ : 尿検体での適用は男子尿のみで、女子尿には適用されません。

⑦ : 「淋菌核酸検出」、「淋菌抗原定性」と「細菌培養同定検査」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

⑧ : ヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行う必要があります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0255	尿中マイクロアルブミン	尿 10	25	冷蔵	TIA 法	mg/g・cr 27 未満	108 尿便	1 2	
4231	α1マイクログロブリン (α1M)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/L 9.1 ~ 18.4	144 免疫	2 3	
4232		血清 0.5				mg/L 8.3 以下			
0485	β2-m (β2-マイクログロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/L 0.8 ~ 2.0	110 免疫	1 2	
0486		血清 0.5				μg/L 30 ~ 340			
0486	(尿)β2-m (β2-マイクログロブリン)	尿 5	25	冷蔵 (12週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/L 30 ~ 340	110 免疫	1 2	尿はPH5.5~7.5をご確認の上、ご提出下さい。酸性蓄尿は不可。
0210	フェリチン	血液 2	01	冷蔵 (2日)	CLIA 法	ng/mL M 12.9 ~ 301.3 F 5.0 ~ 177.6	114 生I	1 2	
4239		血清 0.5							
4239	ハプトグロビン(Hp) 型判定	血液 1	01	冷蔵	TIA 法/ 薄層アクリルアミ ドゲル 電気泳動法	mg/dL 1-1型 43 ~ 180 2-1型 38 ~ 179 2-2型 15 ~ 116	144 免疫	4 5	感度(10mg/dL)未満の場合は型判定ができません。
4235	血清 0.3								
4235	α2マクログロブリン	血液 2	01	冷蔵 (4週)	ネフェロメトリー法	mg/dL M 100 ~ 200 F 130 ~ 250	138 血液	2 3	
4238	血清 0.4								
4238	α1アンチトリプシン (α1AT)	血液 2	01	冷蔵	ネフェロメトリー法	mg/dL 94 ~ 150	80 血液	2 3	
0434	血清 0.4								
0434	CRP (C反応性蛋白)	血液 2	01	冷蔵 (1週)	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	mg/dL 0.30 以下	16 免疫 ①	1 2	
1959	血清 0.5								
1959	アミロイドA (SAA)	血液 2	01	冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集 比濁法)	μg/mL 8.0 以下	47 免疫 ①	2 3	
4237	血清 0.5								
4237	セルロプラスミン (Cp)	血液 2	01	冷蔵	ネフェロメトリー法	mg/dL 21 ~ 37	90 免疫	2 3	
0449	血清 0.4								
0449	C3 (β1C/β1Aグロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (1日)	免疫比濁法	mg/dL 86 ~ 160	70 免疫	1 2	
0450	血清 0.5								
0450	C4 (β1Eグロブリン)	血液 2	01	冷蔵 (2日)	免疫比濁法	mg/dL 17 ~ 45	70 免疫	1 2	
0457	血清 0.5								
0457	CH50 (血清補体価)	血液 2	01	凍結	Mayer法相対 比濁法	CH50/mL 30.0 ~ 46.0	38 免疫	1 2	血清分離は凍結保存願います。
	血清 0.5								

① : 「アミロイドA」を「CRP定性」、「CRP定量」と併せて測定した場合は、主たる項目のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
6749	ニューモシスチス・カリニー DNA同定	呼吸器系材料	55	-20℃以下 凍結	PCR 法	検出せず	—	5 7	必ず指定容器使用 脚注参照 *1	
4275	トランスフェリン (Tf)	血液	2	01 冷蔵 (1週)	TIA 法	190 ~ 320	mg/dL 60 免疫	1 2		
		血清	0.5							
4280	尿中トランスフェリン	尿	1	凍結不可 冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	1.0 以下	mg/g・cr 110 尿便 ①	2 3		
4283	クリオグロブリン	血液	1	01 冷蔵 (4週)	ゲル内拡散法	(—)	42 免疫	4 5	採血時より血清分離までの間は 37℃の状態で行ってください。	
		血清	0.3							
1911	ミオグロビン	〈血清〉	血液	1	01 冷蔵 (1週)	CLIA 法	ng/mL M 154.9以下 F 106.0以下	147 生②	2 3	
			血清	0.3						
1912		〈尿〉	尿	6.0	73 冷蔵 (10日)	RIA 法	10 以下	ng/mL 147 生②	2 4	必ず指定容器使用 検体は、必ず安定化剤入り専用容器にてご提出下さい。
1914	心室筋ミオシン軽鎖 I	血液	2	01 凍結 (12週)	EIA 法	2.5 以下	ng/mL 184 生③	2 5		
		血清	0.4							
2029	心筋トロポニンI	血液	2	01 凍結	CLIA 法	26.2 以下 急性心筋梗塞のカットオフ値: 26.2	pg/mL 120 生④	2 3		
		血清	0.5							
2281	ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白 (H-FABP)	血液	1	01 凍結 (1ヶ月)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	5.0 以下	ng/mL 147 生⑤⑥	2 4		
		血清	0.3							
1913	プロコラーゲンⅢペプチド (P-Ⅲ-P)	血液	2	01 冷蔵 (12週)	IRMA 法 (チューブ固相法)	0.3 ~ 0.8	U/mL 144 生⑥	3 5		
		血清	0.4							
1910	Ⅳ型コラーゲン	血液	1	01 冷蔵	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	150 以下	ng/mL 144 生⑥	2 3		
		血清	0.3							
1964	尿中Ⅳ型コラーゲン	尿	5	凍結不可 冷蔵 (4週)	EIA 法	早朝一番尿 4.9 以下 40歳以上 30歳代 4.0 以下 随時尿 7.3 以下	μg/g・cr 200 尿便 ①	3 9	必ず指定容器使用 必ず安静就寝後の起床時に採取した尿を専用容器にてご提出ください。 脚注参照 *3	
4350	TARC	血液	1	01 冷蔵	CLEIA 法	46頁参照	pg/mL 194 免疫 ⑦	2 4	中等症以上のアトピー性皮膚炎の目安は、成人700pg/mL以上、小児(2歳以上)760pg/mL以上です。	
		血清	0.3							
1967	肺サーファクタントプロテインD (SP-D)	血液	1	01 凍結	EIA 法	110 未満	ng/mL 140 生⑧	3 5		
		血清	0.3							

\*1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)

\*2 : 定量下限値は0.003ng/mLです。

\*3 : 随時尿参考基準値: 7.3 μg/g・Cr 以下

① : 「尿中トランスフェリン」、「尿中アルブミン」、「尿中Ⅳ型コラーゲン」は、糖尿病患者または早期糖尿病性腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期または第2期のものに限り)に対して行った場合に、3月に1回に限り主たる項目のみ算定できます。

② : 「H-FABP」、「ミオグロビン」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

③ : 同一の患者で同一日に2回以上検査を行った場合は、1回のみ算定できます。

④ : 「心筋トロポニンT」と「心筋トロポニンI」を同一月に併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。

⑤ : 急性心筋梗塞の診断を目的に用いた場合のみ算定できます。

⑥ : 「M2BPGI」と「P-Ⅲ-P」もしくは「Ⅳ型コラーゲン」、「Ⅳ型コラーゲン・7S」、「ヒアルロン酸」または「プロリルヒドロキシラーゼ(PH)」を併せて実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

⑦ : 月1回を限度として算定が可能です。

⑧ : 「KL-6」、「SP-A」および「SP-D」のうち、いずれか複数を実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
4286	IgG インデックス	血液 3	01	冷蔵	TIA 法/ ネフェロメトリー 法	インデックス 0.73 以下	439 尿便 ①	2 3	インデックスの算出方法は次の通りです。 IgGインデックス=(髄液IgG/髄液アルブミン)/(血清IgG/血清アルブミン)
		血清 0.7							
		髄液 0.7							
7054	抗アクアポリン4抗体	血液 1	01	凍結 (2週)	EIA 法	U/mL 3.0 未満	1000 免疫 ②③	3 9	
		血清 0.3							
4300	オリゴクローナルバンド 《等電点電気泳動法》	血液 2	01	冷蔵	等電点電気泳動法	陰性:バンド数 0 ~ 1	543 尿便 ①	5 8	
		血清 0.4							
		髄液 0.4							
0495	IgG	血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL 870 ~ 1700	38 免疫 ④	1 2	
		血清 0.5							
0496	IgA	血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL 110 ~ 410	38 免疫 ④	1 2	
		血清 0.5							
0497	IgM	血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫比濁法	mg/dL M 33 ~ 190 F 46 ~ 260	38 免疫 ④	1 2	
		血清 0.5							
4314	IgD	血液 2	01	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	mg/dL 12.6 以下	38 免疫 ④	2 3	
		血清 0.4							
0501	IgE(非特異的IgE)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	IU/mL 46頁参照	100 免疫	2 3	
		血清 0.3							
	IgE(特異的IgE)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	UA/mL 0.35 未満	各110 免疫 ⑤	2 3	アレルギー一覧表は44頁参照 判定基準は46頁参照
		血清 0.3							
0502	アトピー鑑別試験	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	(一)	194 免疫	2 3	構成アレルギー内容は45頁参照
		血清 0.3							
0498	RAST-16吸入系	血液 3	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法		1430 免疫 ⑤	2 3	構成アレルギー内容は45頁参照
		血清 1							
0499	RAST-16食餌系	血液 3	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法		1430 免疫 ⑤	2 3	構成アレルギー内容は45頁参照
		血清 1							
4703	View アレルギー39	血液 3	01	冷蔵	FEIA 法	(index) 0.27 未満	1430 免疫 ⑤	3 4	構成アレルギー内容は45頁参照 判定基準は46頁参照 脚注参照 * 3
		血清 0.9							

\* 1 : インデックス、IgG髄液、IgG血清、アルブミン髄液、アルブミン血清の値をご報告致します。

\* 2 : バンド数1本とは、血清中には無く、髄液中にのみ検出されるバンドを意味します。

\* 3 : アレルギー39種に対し、検査優先順位の指定はお受けできませんので、予めご了承下さい。

① : 「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」、「ミエリンベースック蛋白 (MBP)」は多発性硬化症の診断を目的に行った場合に算定となります。

② : 視神経脊髄炎の診断 (治療効果判定を除く) を目的として測定した場合に算定できます。

③ : 検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、検査を再度実施した場合においても算定できます。ただし、この場合、前回の検査実施日およびその結果ならびに検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

④ : 「IgG」、「IgA」、「IgM」および「IgD」を測定した場合に、それぞれの実施料を算定できます。

⑤ : アレルギー1項目毎に実施料110点を適用、但し、同一検体について、複数のアレルギー特異的IgEを測定した場合、実施料の算定は1,430点が限度となります。

## ●「シングル・マルチアレルゲン」項目一覧

項目コード	アレルゲン名	項目コード	アレルゲン名	項目コード	アレルゲン名	項目コード	アレルゲン名
<b>室内塵</b>		<b>真菌 / 細菌</b>		<b>食餌性アレルゲン</b>		<b>食餌性アレルゲン</b>	
0524	ハウスダスト 1	0546	ペニシリウム	0528	卵白	9317	クルミ
0526	ハウスダスト 2	0548	クラドスポリウム	0536	卵黄	4944	とうもろこし
<b>ダニ</b>		0550	アスペルギルス	9301	オボムコイド	5024	タケノコ
0520	ヤケヒョウヒダニ	0552	カンジダ	0530	ミルク	4962	じゃがいも
0522	コナヒョウヒダニ	0554	アルテルナリア	0574	チーズ	5025	サツマイモ
4894	アシプトコナダニ	0910	ピティロスポリウム	5099	モールドチーズ	5129	ヤマイモ
4895	サヤアシニクダニ	0912	トリコフィトン	0516	かに	5039	カボチャ
4896	ケナガコナダニ	4901	ムコール	0518	えび	4969	にんにく
<b>樹木花粉</b>		4905	ヘルミントスポリウム	4977	ロブスター	4970	たまねぎ
0560	すぎ	5139	マラセチア(属)	5029	イカ	4981	セロリ
0566	ひのき	5113	黄色ブドウ球菌 A(SEAトキシ)	5030	タコ	4982	パセリ
0920	オリーブ	5115	黄色ブドウ球菌 B(SEBトキシ)	0570	マグロ	4960	にんじん
4872	かえで(属)	<b>動物</b>		0572	サケ	5035	ほうれん草
9303	はんのき(属)	0542	ネコ皮膚(フケ)	0916	サバ	4957	トマト
4874	しらかんば(属)	0544	イヌ皮膚(フケ)	4939	タラ	5133	スイカ
4876	ぶな(属)	5089	ウマ皮膚(フケ)	5032	アジ	5103	アボガド
4877	びやくしん(属)	5091	ウシ皮膚(フケ)	9309	イワシ	5101	洋ナシ
4878	こなら(属)	5005	ヤギ上皮	5038	カレイ	4971	リンゴ
4879	にれ(属)	5006	羊上皮	5125	カキ(牡蠣)	5018	桃
4881	くるみ(属)	5007	家兎上皮	5127	ホタテ	4961	オレンジ
4883	やなぎ(属)	5008	豚上皮	5123	アサリ	5069	グレープフルーツ
4886	まつ(属)	5009	ハムスター上皮	4964	ムラサキガイ	9315	バナナ
4889	アカシア(属)	4993	モルモット上皮	9305	イクラ	9313	キウイ
4891	くわ(属)	5012	ラット	5121	タラコ	4983	メロン
<b>雑草花粉</b>		5013	マウス	4958	豚肉	4987	マンゴ
0556	ぶたくさ	4995	ガチョウ羽毛	0568	牛肉	4967	いちご
0558	よもぎ	5010	ニワトリ羽毛	4984	羊肉	4985	マスタード
0926	アキノキリンソウ	5011	アヒル羽毛	0576	鶏肉	4973	α-ラクトアルブミン
0928	カナムグラ	5002	セキセイインコのふん	0532	小麦	4974	β-ラクトグロブリン
4854	ぶた草もどき	5003	セキセイインコ羽毛	0534	米	4975	カゼイン
4855	おおぶた草	<b>昆虫</b>		5135	ω-5 グリアジン	4976	グルテン
4857	にがよもぎ	0922	ユスリカ(成虫)	4941	ライ麦(食物)	4986	麦芽
4859	フランス菊	0924	ガ	4942	大麦(食物)	4968	ビール酵母
4860	たんぼぼ(属)	4914	ミツバチ	4943	オート麦(食物)	<b>職業性アレルゲン</b>	
4861	へらおおばこ	4915	スズメバチ	5026	キビ	5017	絹
4862	しろぎ	4916	アシナガバチ	5027	アワ	5045	綿
4869	ひめすいば	9307	ゴキブリ	5028	ヒエ	5079	オオバコ種子
4871	いらくさ(属)	4918	ヤブカ(属)	9311	ゴマ	5071	イソシアネート TDI
<b>イネ科植物花粉</b>		<b>寄生虫</b>		0538	そば	5072	イソシアネート MDI
0562	はるがや	5014	RAST 回虫	0540	大豆	5081	イソシアネート HDI
0564	かもがや	5021	アニサキス	5141	Gly m 4 (大豆由来)	5083	エチレンオキシサイド
0578	おおあわがえり	<b>混合アレルゲンの内容</b>		4948	えんどう	5055	無水フタル酸
4921	ぎょうぎしば	0504	マルチアレルゲン イネ	4951	いんげん豆	5073	ラテックス
4923	ひろはうしのけ草	0506	マルチアレルゲン 雑草	4952	はしばみの実	5143	Hev b 6.02 (ラテックス樹)
4924	ほそむぎ	0508	マルチアレルゲン カビ	0914	ピーナッツ	5075	ホルマリン
4926	あし	0510	マルチアレルゲン 動物	5198	Ara h 2 (ピーナッツ由来)*1	<b>その他</b>	
4927	ながは草	0512	マルチアレルゲン 食物	4953	ブラジルナッツ	5044	ヒトインスリン
4928	こめか草(属)	0514	マルチアレルゲン 穀物	4963	ココナッツ	0918	ゼラチン
4929	せいばんもろこし			5137	カシューナッツ		
4934	小麦(属)(花粉)			4954	アーモンド		
4935	オオスズメノテッポウ			5037	カカオ		
4936	すすめのひえ(属)						

\*1:「Ara h 2」は他のシングルアレルゲンとは判定基準および報告形態が異なります。(46頁参照)

※ マルチアレルゲン検査は、複数アレルゲンの混合物を用いておおまかなカテゴリーとしての原因アレルゲン検索を行うものであり、個々のアレルゲンにおける陰性 / 陽性の別を判定することはできません。

アレルゲン1項目毎に実施料110点を適用。但し、同一検体について、複数のアレルゲン特異的IgEを測定した場合、実施料の算定は1,430点が限度となります。



## ●アレルギーセット表

セット番号	S-57	S-58	S-59	S-60	項目コード	0498	0499
セット名	小児 13	皮膚炎 13	喘息 13	鼻炎 13	セット名	RAST-16 吸入系	RAST-16 食餌系
検査項目	えび ヤケヒョウヒダニ 卵白 ミルク 小麦 そば 大豆 ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ピーナッツ オボムコイド イクラ イワシ	かに えび ヤケヒョウヒダニ 小麦 そば ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) カンジダ すぎ ビティロスポリウム ピーナッツ サバ ガ	マルチアレルゲン雑草 ヤケヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) アスペルギルス カンジダ アルテルナリア すぎ かもがや ひのき ユスリカ(成虫) ガ ゴキブリ	マルチアレルゲンカビ ヤケヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ぶたくさ よもぎ すぎ かもがや ひのき ユスリカ(成虫) ガ はんのき(属) ゴキブリ	検査項目 ヤケヒョウヒダニ ハウスダスト1 マルチアレルゲンカビ すぎ ひのき はんのき(属) ぶたくさ よもぎ はるがや おおあわがえり かもがや ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ユスリカ(成虫) ガ ゴキブリ	検査項目 卵白 ミルク オボムコイド 小麦 大豆 そば ゴマ かに えび マグロ サケ イクラ キウイ バナナ クルミ ピーナッツ	

(実施料：各 1,430 点、検体量：各血清 1.0 mL)

(実施料：各 1,430 点、検体量：各血清 1.0 mL)

## ●「View アレルギー 39」構成アレルゲン

項目コード	4703	
検査項目	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ハンノキ(属) シラカンパ(属) カモガヤ オオアワガエリ ブタクサ ヨモギ アルテルナリア アスペルギルス カンジダ マラセチア(属) ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ゴキブリ ガ ラテックス	ミルク 卵白 オボムコイド 米 小麦(実) ソバ 大豆 ピーナッツ リンゴ バナナ キウイ ゴマ 牛肉 豚肉 鶏肉 エビ カニ サバ サケ マグロ

(実施料：1,430 点、検体量：血清 0.9 mL)

## ●「特異的吸入性アレルゲン」混合アレルゲンの内容

項目コード	0502
項目名	アトピー鑑別試験
検査項目	ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ ネコ皮膚(フケ) イヌ皮膚(フケ) ぎょうぎしば かもがや ぶたくさ よもぎ しらかんば(属) すぎ カンジダ アルテルナリア

※ 混合アレルゲンを用いた検査のため、アレルゲン毎に陰性/陽性の別を判定することはできません。

(実施料：194 点、検体量：血清 0.3 mL)

## ●「特異的 IgE」判定基準

IgE 抗体濃度 (U <sub>A</sub> /mL)	クラス	判定	
100.00 以上	6	陽 性	(5+)
50.00 ~ 99.99	5		(4+)
17.50 ~ 49.99	4		(3+)
3.50 ~ 17.49	3		(2+)
0.70 ~ 3.49	2		(1+)
0.35 ~ 0.69	1	疑陽性	(±)
0.35 未満	0	陰 性	(-)

## ●「非特異的 IgE」判定基準 (年齢別参考基準)

年 齢	IgE 抗体濃度 (IU/mL)
19 歳以上	27.54 ~ 138.34
13 歳 ~ 18 歳	24.72 ~ 126.77
10 歳 ~ 12 歳	11.09 ~ 171.79
7 歳 ~ 9 歳	13.12 ~ 141.91
4 歳 ~ 6 歳	5.19 ~ 111.94
1 歳 ~ 3 歳	5.24 ~ 29.99
1 歳未満	1.36 ~ 19.32

## ●「View アレルギー 39」判定基準

index 値	クラス	判定
29.31 以上	6	陽 性
17.35 ~ 29.30	5	
7.05 ~ 17.34	4	
1.80 ~ 7.04	3	
0.50 ~ 1.79	2	
0.27 ~ 0.49	1	疑陽性
0.27 未満	0	陰 性

## ●「Ara h 2」判定基準

IgE 抗体濃度 (U <sub>A</sub> /mL)	判定
4.00 以上	陽 性
0.35 ~ 3.99	疑陽性
0.34 以下	陰 性

※ 検査結果が陽性的の場合、問診および「ピーナッツ」の検査結果と併せて、総合的なご判断をお願いします。

※ 各 39 項目について、個々の index 値とクラスをご報告致します。  
判定基準は、従来の「特異的 IgE」とは異なります。

## ●「TARC」基準値

年 齢	(pg/mL)
小児 (6 ~ 12 ヶ月)	1367 未満
小児 (1 ~ 2 歳)	998 未満
小児 (2 歳以上)	743 未満
成人	450 未満

※ 中等症以上のアトピー性皮膚炎の目安は、成人 700 pg/mL 以上、  
小児 (2 歳以上) 760 pg/mL 以上です。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0436	RF定量 (リウマトイド因子)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	15.0 以下	IU/mL 30 免疫 ①②	1 }	2
		血清 0.5							
4334	IgG-RF (IgG型リウマチ因子)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	(IgG-RF index) 2.0 未満	204 免疫 ①③	2 }	4
		血清 0.3							
5559	抗ガラクトース欠損IgG抗体 (CA・RF)	血液 1	01	凍結 (4週)	ECLIA 法	6.0 未満	AU/mL 120 免疫 ①②③	3 }	5
		血清 0.3							
5498	抗CCP抗体 (抗シトルリン化ペプチド抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLIA 法	4.5 未満	U/mL 210 免疫 ②④⑤	2 }	3
		血清 0.4							
5382	抗核抗体 (ANA)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	40 倍 未満	108 免疫	2 }	3
		血清 0.4							
5381	抗DNA抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	RIA 法 (硫酸塩析法)	6 以下	IU/mL 173 免疫 ⑥	2 }	3
		血清 0.3							
5397	抗ds DNA抗体 IgG	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	12.0 以下	IU/mL 173 免疫 ⑥	2 }	3
		血清 0.4							
5399	抗dsDNA抗体 IgM	血液 1	01	冷蔵 (12週)	EIA 法	6 未満	U/mL —	2 }	8
		血清 0.3							
5450	抗ss DNA抗体 IgG	血液 2	01	冷蔵 (4週)	CLEIA 法	25.0 以下	AU/mL 173 免疫 ⑥	2 }	3
		血清 0.4							
5433	抗RNP抗体	血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍 144 免疫	4 }	5
5613		血清 0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL	2 }	3
5429	抗Sm抗体	血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍 159 免疫	4 }	5
5609		血清 0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL	2 }	3

- ① : 「リウマトイド因子」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目の算定ができます。
- ② : 「リウマトイド因子定量」と「抗ガラクトース欠損IgG抗体」を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定ができます。
- ③ : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA・RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定ができます。
- ④ : 関節リウマチと確定診断できない者に対し診断の補助として検査を行った場合に、原則1回を限度として算定できます。結果が陰性の場合は3月に1回に限り算定ができます。検査を2回以上算定する際は、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。
- ⑤ : 診断補助として実施する場合は別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき1回に限り算定できます。
- ⑥ : 実施料は、「抗DNA抗体(定量)」として一連の算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5421	抗SS-A抗体	《免疫拡散法》 血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍	165 免疫	4 5
5601		《CLEIA》 血清 0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL		
5425	抗SS-B抗体	《免疫拡散法》 血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍	162 免疫	4 5
5605		《CLEIA》 血清 0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL		
5439	抗Scl-70抗体	《免疫拡散法》 血液 2	01	冷蔵 (4週)	免疫拡散法	検出せず	倍	162 免疫	4 5
5617		《CLEIA》 血清 0.4			CLEIA 法	10.0 未満	U/mL		
5452	抗Jo-1抗体 《免疫拡散法》	血液 2	01	冷蔵 (7日)	免疫拡散法	陰性 (-)	146 免疫 ①	3 5	
		血清 0.4				1 倍 未満			
1267	抗ARS抗体	血液 1	01	冷蔵 (18日)	EIA 法	陰性 (-)	190 免疫 ①	3 9	
		血清 0.3				index 25.0 未満			
5461	抗セントロメア抗体	血液 2	01	冷蔵	CLEIA 法	10.0 未満	184 免疫 ②	2 3	
		血清 0.4							
5471	抗ミトコンドリア抗体	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	20 倍 未満	196 免疫 ③	2 4	
		血清 0.3							
5530	抗ミトコンドリアM2抗体	血液 2	01	冷蔵	CLEIA 法	陰性 (-)	206 免疫 ③	2 3	
		血清 0.4				index 7.0 未満			
5475	抗平滑筋抗体	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	20 倍 未満	-	2 4	
		血清 0.3							
5528	抗LKM-1抗体	血液 2	01	冷蔵	EIA 法	陰性 (-)	223 免疫 ④⑤	3 9	判定保留 17.0 ≤, <50.0 陽性 50.0 ≤
		血清 0.4				index 17.0 未満			

① : 「抗ARS抗体」と「抗Jo-1抗体」を併せて実施した場合は主たるもののみ算定できます。

② : 原発性胆汁性肝硬変または強皮症の診断または治療方針の決定を目的に用いた場合にのみ算定できます。

③ : 保険請求の際はそれぞれ次のご記入下さい。[5471]抗ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体半定量。[5530]抗ミトコンドリアM2抗体→抗ミトコンドリア抗体定量

④ : ウイルス肝炎、アルコール性肝障害および薬剤性肝障害が否定され、かつ抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できます。

⑤ : 検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性である旨を記載する必要があります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5457	PR3-ANCA (抗好中球細胞質抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	陰性: 20. 未満	276 免疫	2 3	疑陽性2.0~3.0 陽性3.1≤ EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。
		血清 0.4							
6655	MPO-ANCA (抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	血液 2	01	冷蔵 (4週)	FEIA 法	陰性: 3.5 未満	276 免疫 ①	2 3	疑陽性3.5~5.0 陽性5.1≤ EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。
		血清 0.4							
5481	抗糸球体基底膜抗体 (抗GBM抗体)	血液 2	01	冷蔵 (2週)	FEIA 法	陰性: 7.0 未満	281 免疫 ②	2 3	疑陽性7.0~10.0 陽性10.1≤ EDTA血漿、ヘパリン血漿も検査可。
		血清 0.4							
5482	抗胃壁細胞抗体 (抗パリエタル細胞抗体)	血液 1	01	冷蔵	FAT 法	10 倍 未満	-	4 6	
		血清 0.3							
5531	抗CLB2GPI抗体 (抗カルジオリピンβ <sub>2</sub> グリコプロテインI複合体抗体)	血液 1	01	凍結	EIA 法	3.5 以下	223 免疫 ③	2 4	
		血清 0.3							
5555	抗CLリピン抗体(IgG) (抗カルジオリピン抗体)	血液 2	01	凍結	EIA 法	10.0 未満	239 免疫 ③	3 6	
		血清 0.4							
5504	抗アセチルコリン レセプター結合抗体 (抗AChR抗体)	血液 1	01	凍結	RIA 法 (抗ヒトIgG法)	陰性 (-) 0.2 以下	856 免疫 ④⑤	3 6	擬陽性0.2<, ≤0.5 陽性0.5<
		血清 0.3							
4282	ミエリンベースック蛋白 (MBP)	髄液 0.3	02	凍結	EIA 法	102 以下	601 尿便 ⑥	3 9	
5410	免疫複合体 (イムノコンプレックス)	血液 1	01	-20℃以下 凍結 (8週)	EIA 法 (C1q固相法)	3.0 以下	165 免疫 ⑦⑧	2 4	
		血清 0.3							
5437	抗血小板抗体	血液 2	01	凍結 (8週)	MPHA 法	(-)	262 免疫	3 5	
		血清 0.5							
4327	PA-IgG (血小板表面IgG)	血液 7	52	冷蔵	EIA 法	30.2 以下	204 免疫 ⑨	2 3	受付曜日: 月~金曜日(午前中) ≪土曜日受付不可≫ 脚注参照 * 1, 2

\* 1 : 血小板数が1~3万/μLの場合は、2倍量の血液をご提出下さい(専用採血管2本使用)。1万/μL以下の場合は当社担当者までお問合せ下さい。

\* 2 : 検体採取後、24時間以内に当社検査室に搬入されるようお願い致します。

- ① : 急速進行性糸球体腎炎の診断、または経過観察のために測定した場合に算定できます。
- ② : 抗糸球体基底膜抗体腎炎およびグッドパスチャー症候群の診断または治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定できます。
- ③ : 「抗カルジオリピン抗体」と「抗CLβ<sub>2</sub>GPI複合体抗体」を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ④ : 「抗アセチルコリンレセプター抗体」は重症筋無力症の診断または診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できます。
- ⑤ : 「抗アセチルコリンレセプター抗体」と「抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体」を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定できます。
- ⑥ : 「IgGインデックス」、「オリゴクローナルバンド」、「ミエリンベースック蛋白(MBP)」は多発性硬化症の診断を目的に行った場合に算定となります。
- ⑦ : 「リウマトイド因子」、「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA-RF」および「MMP-3」のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たる2項目の算定ができます。
- ⑧ : 「抗CCP抗体」と「IgG型リウマチ因子」、「免疫複合体」、「CA-RF」および「MMP-3」のうち2項目以上を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定ができます。
- ⑨ : 特発性血小板減少性紫斑病の診断または経過判定の目的で行った場合に算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0463	ABO血液型	血液 2	95	常温	マイクロプレート法		21 免疫	1 2	
0464	Rh(D)血液型	血液 2	95	常温	マイクロプレート法		21 免疫	1 2	
5543	Rh-Hr式血液型	血液 2 EDTA加血液*	13	凍結不可 冷蔵	カラム凝集法		160 免疫 ①	2 3	
0458	直接クームス試験	血液 2	13	常温	試験管法	(-)	30 免疫	1 2	他の項目とは別に、単独検体にてご提出下さい。
0459	間接クームス試験	血液 3	03	常温	試験管法	(-)	34 免疫	1 2	他の項目とは別に、単独検体にてご提出下さい。
0460	間接クームス試験 定量	血液 3	03	常温	試験管法	1 未満 倍	34 免疫	1 2	他の項目とは別に、単独検体にてご提出下さい。
0461	不規則性抗体	血液 10	01	冷蔵 常温	カラム凝集法 (クームス法、酵素法)		159 免疫 ②③	2 3	他の項目とは別に、単独検体にてご提出下さい。また、血清とEDTA加血液の両方を検体としてご提出下さい。
		血清 5							
		血液 1							
4233	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による定性)	血液 2	01		免疫電気泳動法		210 免疫	4 7	泳動後の判読のため、年齢・性別・臨床診断名あるいは臨床症状・その他参考データ等を明記して下さい。 ペンス・ジョーンズ蛋白同定には早期尿が望ましい。
		血清 0.5							
4250	免疫電気泳動 (免疫固定法によるM蛋白同定)	血液 1	01	冷蔵	免疫固定電気泳動法			3	
		血清 0.3							
4246	尿中免疫電気泳動 (免疫固定法によるペンス・ジョーンズ蛋白(BJP)同定)	尿 5	25		免疫固定電気泳動法		209 免疫	5	

① : Rh(その他の因子)血液型については、同一検体による検査の場合は因子の種類および数にかかわらず所定点数を算定できます。

② : 輸血歴または妊娠歴のある患者に対し、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術または子宮全摘術等が行われた場合、手術当日に算定できます。また、手術に際して輸血が行われた場合は、不規則抗体または輸血に定められる不規則抗体検査加算のいずれかを算定します。

③ : 診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴または妊娠歴がある旨を記載して下さい。



## ●「クラミジア・ニューモニエ抗体 IgA&IgG」判定基準

判定	カットオフ・インデックス
陰性(-)	0.900 未満
判定保留(±)	0.900 ~ 1.099
陽性(+)	1.100 ~ 2.999
強陽性(2+)	3.000 以上

## ●「クラミジア・ニューモニエ抗体 IgM」判定基準

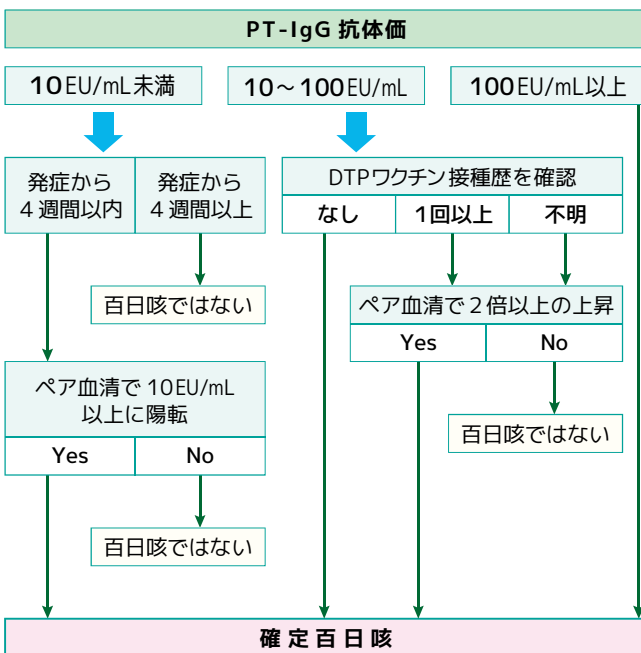
判定	カットオフ・インデックス
陰性(-)	0.900 未満
判定保留(±)	0.900 ~ 1.099
陽性(+)	1.100 以上

## ●「クラミジア・トラコーマチス同定」(IDEIA) 判定基準

判定	OD 値
陰性(-)	(カットオフ値-0.015) 未満
判定保留(±)	(カットオフ値-0.015) 以上, カットオフ値未満
陽性(+)	カットオフ値 以上

\*: カットオフ値: 3本の陰性コントロールの平均吸光度+0.05

## ●「百日咳血清診断の目安」(参考)



測定試薬添付文書より引用

EIA法による抗体検査は、ワクチンに感染防御抗原として含まれているPT(百日咳毒素)およびFHA(線維状赤血球凝集素)を抗原として用いた検査です。PTは百日咳菌に特異的な抗原ですが、FHAはパラ百日咳菌などにも含まれるため、抗体価の評価は原則としてPT値により行われ、PT値 $\geq 100$ の場合または10~100(DTPワクチン接種歴がある場合を除く)の場合に感染があったと診断されます。(上図参照)なお、FHA値はワクチンによる受動免疫の評価に補助的に用いられます。

## ●「トキソプラズマ抗体 IgG」判定基準

判定	抗体価 (IU/mL)
陰性(-)	7.5 未満
判定保留(±)	7.5 ~ 10.4
陽性(+)	10.5 以上

## ●「トキソプラズマ抗体 IgM」判定基準

判定	抗体価 (S/CO)
陰性(-)	0.8 未満
判定保留(±)	0.8 ~ 0.9
陽性(+)	1.0 以上

## 「アスペルギルス抗原」検査結果の判定に関する注意

- 1) 侵襲性アスペルギルス症の診断は、本検査の結果のみではなく、臨床症状や培養検査、病理学的検査、画像診断などの結果を加味し、総合的に行って下さい。
- 2) 陽性と判定された場合には、再採血を行った検体にて再測定を実施することをお勧めします。
- 3) 臨床症状がなく陽性と判定された場合、次の状況が考えられます。
  - ①感染初期に、臨床症状や画像所見等よりも先に、アスペルギルス抗原(ガラクトマンナン)が陽性となることがあります。
  - ②ガラクトマンナンは豆や種子等に多く含まれており、食物繊維としても種々の食物に添加されています。また、わが国では多くの食品(味噌、醤油など)でコウジカビ(アスペルギルス属)を使用しています。乳幼児や消化管粘膜に損傷のある患者では食物の影響により陽性を示す可能性があるとの報告がありますので、注意して診断して下さい。
  - ③海外でペパシリン / タゾバクタムの合剤の投与により、測定結果が陽性を示したという報告があります。従って、同薬剤で治療されてる患者においては判定の際に注意が必要です。
  - ④ペニシウム属等の菌種では交差反応性が認められます。また、*Penicillium marneffei* による侵襲性真菌症の患者検体で陽性となったとの報告があります。
- 4) 抗真菌薬の投与を受けている患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低くなる場合があります。
- 5) 慢性肉芽腫症の患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低かったとの報告があります。
- 6) 陰性と判定された場合でも、侵襲性アスペルギルス症の可能性は否定できません。検体中の抗原濃度が、試薬の検出できる濃度に達していなかった可能性もあります。
- 7) 自己免疫性疾患患者の血清では、非特異性反応が起こりうるので測定結果に基づく診断は他の検査結果や臨床症状を加味して総合的に判断して下さい。

## 「尿素呼気試験」の実施手順

### 【ユービット®】

- 1) <sup>13</sup>C 尿素製剤(ユービット®)の服用前に呼気を採取します。(「服用前」検体になります)  
呼気採取バックのキャップを外し、深く息を吸い、5～10秒息をとめて下さい。その後ゆっくりと呼気をバックに入れた後、キャップをしっかりと閉めて下さい。
- 2) <sup>13</sup>C 尿素製剤 100mg(1錠)をつぶさずに、空腹時に水 100mL とともに速やかに(5秒以内)に飲み込んで下さい。
- 3) 左側臥位の姿勢を5分間保ち、その後は座位の姿勢を保ちます。
- 4) <sup>13</sup>C 尿素製剤 100mg 服用後 20分に呼気を採取します。(「服用後」検体になります)
- 5) 「服用前」と「服用後」の呼気中 <sup>13</sup>CO<sub>2</sub> (<sup>13</sup>CO<sub>2</sub> / <sup>12</sup>CO<sub>2</sub> 比)を測定し、その変化量(Δ<sup>13</sup>C)を算出してΔ<sup>13</sup>Cが 2.5‰以上の場合にヘリコバクター・ピロリ陽性と判定します。

### 《注意》

呼気採取時には、バックが大きく膨らむまで息を吹き込み、キャップをパチンと音がするまできちんと押し込んで呼気が漏れないようにして下さい。(漏出等で呼気量が少ない場合は検査不能になることがあります)

## 「便中ヘリコバクター・ピロリ抗原」の検体採取方法

- 1) 採取ブラシの柄に巻かれたラベルをひろげて名前等を記入し、もとのとおり巻きつけて下さい。
- 2) 容器のふたのシールをはがして下さい。このとき容器の中の液をこぼさないように注意して下さい。
- 3) 採取ブラシを便に突き刺し、ブラシの間に便が入るように、ブラシを回転させながら採取して下さい。
- 4) 採取ブラシを容器に差し込み、しっかりねじ込んで下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考
3566 3589	単純ヘルペス (HSV)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3567 3590	水痘・帯状ヘルペス (VZV)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3568 3591	サイトメガロ (CMV)	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3569 3592	アデノ	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3559 3582	インフルエンザA型	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3560 3583	インフルエンザB型	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3564 3587	RS	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3563 3586	ムンプス	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3565 3588	日本脳炎	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
		血清 0.3 髄液 0.4	02						
3570 3593	ポリオ	1型	血液 1	01	冷蔵 (4週)	CF 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5
			血清 0.3 髄液 0.4	02					
3571 3594		2型	血液 1	01					
			血清 0.3 髄液 0.4	02					
3572 3595		3型	血液 1	01					
			血清 0.3 髄液 0.4	02					

【ご注意】 補体結合試験(CF)において、溶血血清では検査不能の場合もありますので、ご注意下さい。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考												
3575 3598	コクサッキーA群	9型	血液	1	01	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5 5													
			血清	0.3	02																
	髄液	0.4																			
3576 3599	コクサッキーB群	1型	血液	1	01					CF 法	79 免疫 ①	3 5 5									
			血清	0.3	02																
		髄液	0.4																		
3577 3600		2型	血液	1	01									冷蔵 (4週)	79 免疫 ①	3 5 5					
			血清	0.3	02																
		髄液	0.4																		
3578 3601		3型	血液	1	01													冷蔵 (4週)	79 免疫 ①	3 5 5	
			血清	0.3	02																
		髄液	0.4																		
3579 3602		4型	血液	1	01	冷蔵 (4週)	79 免疫 ①	3 5 5													
			血清	0.3	02																
		髄液	0.4																		
3580 3603	5型	血液	1	01	冷蔵 (4週)					79 免疫 ①	3 5 5										
		血清	0.3	02																	
	髄液	0.4																			
3581 3604	6型	血液	1	01									冷蔵 (4週)	79 免疫 ①	3 5 5						
		血清	0.3	02																	
	髄液	0.4																			

【ご注意】 補体結合試験(CF)において、溶血血清では検査不能の場合もありますので、ご注意ください。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考							
3713 3723	インフルエンザ	血液 2	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 原液	79+79 免疫 ①	3 5	インフルエンザA型およびB型の流行ワクチン株につき、一括検査実施致します。							
		血清 0.4 髄液 0.9								02						
3671 3691	パラインフルエンザ	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5								
		血清 0.3 髄液 0.4								02						
3672 3692		1型	血液 1							01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
			血清 0.3 髄液 0.4													02
3673 3693		2型	血液 1							01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
			血清 0.3 髄液 0.4													02
3677 3697	ムンプス	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5								
		血清 0.3 髄液 0.4								02						
3675 3695	麻疹	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 4								
		血清 0.3 髄液 0.4								02						
3676 3696	風疹	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 4								
		血清 0.3 髄液 0.4								02						
3682 3702	エコー	血液 1	01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5								
		血清 0.3 髄液 0.4								02						
3683 3703		3型	血液 1							01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
			血清 0.3 髄液 0.4													02
3684 3704		7型	血液 1							01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
			血清 0.3 髄液 0.4													02
3685 3705		11型	血液 1							01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
			血清 0.3 髄液 0.4													02
3688 3708		12型	血液 1							01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	3 5	
			血清 0.3 髄液 0.4													02
3678 3698		日本脳炎	血液 2							01	冷蔵 (4週)	HI 法	血清 10倍 髄液 10倍	79 免疫 ①	6 9	抗体価40倍以上の検体は2ME処理した上でその測定結果も併せてご報告致します。
			血清 0.5 髄液 1													

【ご注意】 細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意ください。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0441	風疹抗体価 (LA)	血液 2 血清 0.5	01	冷蔵 (4週)	ラテックス 免疫比濁法	IU/mL 6未満：陰性 6≤弱陽性<10 10以上：陽性	79 免疫 ①	1 2	

①：治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考		
3744 3772	単純ヘルペス (HSV)	1型	血液 1	01	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 / 15	1型,2型間には抗原交差性があります。	
血清 0.3			02								
髄液 0.4											
血液 1		01									
3745 3773	2型	血液 1	01								
血清 0.3		02									
3749 3862	アデノ	1型			冷蔵	NT 法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	9 / 14		
3750 3863		2型									
3751 3864		3型									
3752 3865		4型									
3753 3866		5型									
3754 3867		6型	血液 1	01							
血清 0.3			02								
3755 3868		7型									
3756 3869		8型									
3757 3870		11型									
3758 3871		19型									
3791 3792	37型							9 / 15			
3743 3771	RS	血液 1	01	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 / 15			
		血清 0.3	02								
		髄液 0.4									
3742 3770	ムンプス	血液 1	01	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 / 15			
		血清 0.3	02								
		髄液 0.4									
3741 3769	麻疹	血液 1	01	冷蔵	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	10 / 15			
		血清 0.3	02								
		髄液 0.4									
3746 3774	ポリオ	1型	血液 1	01	凍結	NT 法	血清 4倍 髄液 原液	79 免疫 ①	9 / 15		
血清 0.3			02								
髄液 0.4											
血液 1		01									
血清 0.3		02									
髄液 0.4											
3747 3860	2型	血液 1	01								
血清 0.3		02									
3748 3861	3型	血液 1	01								
血清 0.3		02									
		髄液 0.4									

**[ご注意]** 中和試験(NT)の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますので、ご了承下さい。  
細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考	
3788	コクサッキーA群	2型	血液 1 血清 0.3 髄液 0.4	01 02	冷蔵	NT 法	79 免疫 ①	9 ∩ 15		
3789		3型						血清 4倍 髄液 原液		10 ∩ 15
3793		4型						血清 8倍 髄液 原液		9 ∩ 15
3798		5型						血清 4倍 髄液 原液		10 ∩ 15
3817		6型								11 ∩ 16
3759 3872		7型								10 ∩ 15
3760 3873		9型								10 ∩ 15
3790		10型								11 ∩ 16
3761 3874		16型								10 ∩ 15
3762 3875		コクサッキーB群						1型		
3763 3876	2型									
3764 3877	3型									
3765 3878	4型									
3766 3879	5型									
3767 3775	6型									

**【ご注意】** 中和試験(NT)の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますので、ご了承下さい。  
細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	最低希釈倍率	実施料判断料	所要日数	備考	
3833 3776 3834 3777 3835 3778 3836 3779 3837 3780 3838 3781 3839 3782 3840 3783 3841 3784 3842 3785 3846 3847 3848 3849 3843 3786 3768 3850 3851 3852 3853 3854 3855 3856 3857 3858 3844 3787 3845 3880	エコー	1型	血液	1	01	冷蔵	NT法	血清 8倍 髄液 原液	79 免疫 ①	11 5 16
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
		3型	血液	1	01					
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
		4型	血液	1	01					
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
		5型	血液	1	01					
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
		6型	血液	1	01					
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
		7型	血液	1	01					
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
		9型	血液	1	01					
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
		11型	血液	1	01					
			血清	0.3	02					
		髄液	0.4	02						
12型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
13型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
14型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
16型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
17型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
18型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
19型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
21型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
22型※	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
24型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
25型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
30型	血液	1	01							
	血清	0.3	02							
髄液	0.4	02								
3831 3881	エンテロ	70型	血液	1	01	冷蔵	NT法	血清 8倍 髄液 原液	-	11 5 16
			血清	0.3	02					
髄液	0.4	02								
3832 3882	71型	血液	1	01						
		血清	0.3	02						
髄液	0.4	02								

【ご注意】 中和試験(NT)の所要日数は一応の目安です。多少遅れることもありますので、ご了承下さい。  
細菌繁殖などにより培養細胞が汚染され、検査不能になる場合もありますので、ご注意下さい。「ウイルス型別」のある項目では必ず「型」をご指定下さい。

① : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3921 3920	EBV VCA IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	219	3 5 4	
		*1 血清 0.3 髄液 0.4							
3922 3930	EBV VCA IgM	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 ①	3 5 4	
		*1 血清 0.3 髄液 0.4							
3923 3931	EBV VCA IgA	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 ②	3 5 4	
		*1 血清 0.3 髄液 0.4							
3924 3932	EBV EA-DR IgG	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	219 ①	3 5 4	
		*1 血清 0.3 髄液 0.4							
3925 3933	EBV EA-DR IgA	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 ②	3 5 4	
		*1 血清 0.3 髄液 0.4							
3926 3934	EBV EBNA	血液 1	01	冷蔵 (4週)	FAT 法	血清 10倍 髄液 原液 (最低希釈倍率)	79 ②	3 5 4	
		*1 血清 0.3 髄液 0.4							

\*1 : 血清EBV抗体価検査(FAT法)を複数項目(2~6項目)ご依頼される場合の検体量は、採取量:2.0mL/提出量:0.4mLです。

① : 「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

② : 治療上必要な場合に行うものとし、同一検体で同一ウイルスに対する複数の測定方法を実施した場合は、所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考		
3989	水痘・帯状ヘルペス定量 (VZV)	IgG	血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	219 免疫 ①	3 5 5	64頁参照
			血清	0.3							
IgM		血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満				
		血清	0.3								
3551	風疹	IgG	血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	219 免疫 ①	3 5 5	64頁参照
			血清	0.3							
IgM		血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満				
		血清	0.3								
4016	麻疹	IgG	血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	219 免疫 ①	3 5 5	64頁参照
			血清	0.3							
IgM		血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満				
		血清	0.3								
3997 4040	単純ヘルペス (HSV)	IgG	血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 血清: 2.0 未満 髄液: 0.20 未満	219 免疫 ①	3 5 5	64頁参照
			血清	0.3							
IgM		血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満				
		髄液	0.4								
4001			血清	0.3							
3981	サイトメガロ (CMV)	IgG	血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	219 免疫 ①	3 5 5	64頁参照
			血清	0.3							
IgM		血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満				
		血清	0.3								
3973	ムンプス	IgG	血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) EIA価 2.0 未満	219 免疫 ①	3 5 5	64頁参照
			血清	0.3							
IgM		血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満				
		血清	0.3								
4201	パルボウイルス B19	IgG	血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満	-	3 5 9	64頁参照
			血清	0.3							
IgM		血液	1	01	冷蔵 (4週)	EIA 法	陰性(-) index 0.80 未満				
		血清	0.3								
4205			血清	0.3				219 免疫 ②			

① : 「IgG抗体」、「IgM抗体」を併せて測定した場合は、いずれか一方のみ算定できます。

② : 紅斑が出現している妊婦について感染が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0417	HTLV-I 抗体価 (ATLA抗体)	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	1.0 未満 (ー)	177 免疫	1 2	
		血清 0.5							
4114	HIV抗原・抗体 《スクリーニング》	血液 2	62	冷蔵	CLIA 法	陰性(ー)	121 免疫 ①	2 3	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1.2 64頁参照
		血清 0.6							
4015	HIV-1抗体 《確認試験》	血液 2	62	冷蔵	ウエスタンブロット法	陰性(ー)	280 免疫 ②	3 6	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1.2 64頁参照
		血清 0.6							
4013	HIV-2抗体 《確認試験》	血液 2	62	冷蔵	ウエスタンブロット法	陰性(ー)	380 免疫 ②	3 9	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1.3
		血清 0.6							
4175	単純ヘルペスウイルス 特異抗原	塗抹 標本	56	-20℃以下 凍結	FAT 法	1型 陰性 (ー) 2型 陰性 (ー)	180 免疫 ③	3 5	必ず指定容器使用 脚注参照 * 4
4130	サイトメガロウイルス抗原 《アンチジェネミア法》	EDTA 加血液	5	凍結不可 冷蔵	間接酵素抗体法 (アンチジェネミア 法)	判定(ー) 陽性細胞数スライド 1:0個 陽性細胞数スライド 2:0個	398 免疫 ④⑤	2 3	受付曜日: 月～金曜日 (各曜日の午前中) 採血後速やかに検体をご提出下さい。 (原則として採血後24時間以内 の検体を用います)
3828	ノロウイルス (SRSV)-RNA同定	糞便 1g (小指大)	55	-20℃以下 凍結	RT-PCR 法	検出せず	—	3 5	必ず指定容器使用 脚注参照*5.6
4189	HPV-DNA同定 [中～高リスク型]	ぬぐい液	61	冷蔵 (3週)	ハイブリッド キャプチャー法	陰性(ー) index 1.00 未満	360 微生物 ⑥	2 3	必ず指定容器使用 脚注参照*7
4190	HPV-DNA同定 [低リスク型]	ぬぐい液	61	冷蔵 (2週)	ハイブリッド キャプチャー法	陰性(ー) index 1.00 未満	—	2 8	必ず指定容器使用 6.11,42,43および44型の“低リス ク型”HPVを検出致します。 (型別判定はできません)
4159	HPV核酸検出 (HPV-DNA簡易ジェノタイプ判定)	LBC用採取液*8 (ThinPrep) 2 または LBC用採取液*8 (SurePath) 2	81 82	冷蔵	ロシユ/リアルタイムPCR法	検出せず	360 微生物 ⑥	3 5	必ず指定容器使用 脚注参照*9

【ご注意】

「HCV-RNA関連検査」のご依頼に当たっては、他項目とは別に(RNA検査用の)専用検体としてご提出下さい。

「HIV-1 RNA」のご依頼に当たっては、他項目とは別に(RNA検査用の)単独検体としてご提出下さい。

- \* 1 : 必ず指定容器で約2mL採血後、遠心機にかけ、そのまま冷蔵保存でご提出下さい。また、同一検体で他項目との重複依頼は避けて下さい(単独検体)。
- \* 2 : 提出検体量は、スクリーニング検査(CLIA法)および抗体確認試験(ウエスタンブロット法)の両方を行った場合の必要量です。
- \* 3 : HIV-2抗体検査は、HIV-1抗体陽性の場合(免疫学的な交差反応により)やその他の非特異的反応により偽陽性となることがありますので、結果の解釈にはご注意下さい。
- \* 4 : 専用容器(無蛍光スライド)は予めご依頼下さい。塗抹の際、スライドガラスの裏表をご確認の上、必ず「表」面に塗抹願います。また、氏名等の記入には鉛筆をご使用下さい。
- \* 5 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)
- \* 6 : 吐物(2mL)(容器番号 55)でも検査可。
- \* 7 : HPVとして、16, 18, 31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59および68型の“中～高リスク型”HPVを検出致します(型別判定はできません。)
- \* 8 : 液状細胞診(LBC:Liquid Based Cytology)実施済みの検体をご提出される場合はコンタミネーションに十分ご注意下さい(コンタミネーション防止のため、先に必要量を分注いただく方法を推奨致します)。また、その際は液状細胞診の商品名をご記入下さい。
- \* 9 : 16型、18型の型別判定を行います。その他、66型を含む12種類の高リスク型HPV(31, 33, 35, 39, 45, 51, 52, 56, 58, 59, 66および68型)に関しては遺伝子同定(型別の判定はできません)を行います。

- ① : 診療録等から非加熱血液凝固因子製剤の投与歴が明らかな者および診療録等が確認できないため血液凝固因子製剤の投与歴は不明であるが、昭和53年から昭和63年の間に入院し、かつ、次のいずれかに該当する者に対してHIV感染症を疑わせる自覚症状の有無に関わらず所定点数を算定できます。  
ア 新生児出血症(新生児メレナ、ビタミンK欠乏症等)等の病気で「血が止まりにくい」との指摘を受けた者。イ 肝硬変や劇症肝炎で入院し、出血の著しかった者  
ウ 食道静脈瘤の破裂、消化器系疾患により大量の吐血があった者。エ 大量に出血するような手術を受けた者(出産時の大量出血も含む。)  
なお、間質性肺炎等後天性免疫不全症候群の疾病と鑑別が難しい疾病が認められる場合やHIVの感染に関連しやすい感染症が認められる場合、既往がある場合または疑われる場合でHIV感染症を疑う場合は、本検査を算定できます。
- ② : HIVスクリーニング検査が陽性の場合の確認診断用の検査です。
- ③ : ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合に算定できます。
- ④ : 臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者またはHIV感染者または高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合にのみ算定できます。
- ⑤ : 高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合は、検査の必要性について診療報酬明細書摘要欄への記載が必要です。
- ⑥ : 予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-USと判定された患者に対してHPV検査を行った場合に限り算定できます。細胞診と同時にHPV検査を実施した場合は算定できません。算定に当たっては、厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等への届出が必要です。主たるもの1つに限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3656	HA抗体 (IgG-HA抗体)	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(-)	146 免疫 ①②	2 5 3	
		血清 0.3							
3650	IgM-HA抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(-)	146 免疫 ①	2 5 3	
		血清 0.3							
0401	HBs抗原 定性	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	(-)	29 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0402	HBs抗原	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	IU/mL 0.05 未満 (-)	88 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0403	HBs抗体 半定量	血液 2	01	冷蔵 (12週)	PHA 法 (受身赤血球凝集試験)	倍 8 未満	32 免疫	1 5 2	
		血清 0.4							
0404	HBs抗体	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	mIU/mL 10.00 未満 (-)	88 免疫	1 5 2	
		血清 0.5							
0405	HBe抗原	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	S/CO 陰性 (1.00 未満)	107 免疫	2 5 3	
		血清 0.5							
0407	HBe抗体	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	% inh 陰性 (50.0 未満)	107 免疫	2 5 3	
		血清 0.5							
0410	HBc抗体	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	S/CO 1.00 未満	145 免疫	2 5 3	
		血清 0.5							
3496	IgM-HBc抗体	血液 1	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	陰性(-)	146 免疫 ③	2 5 3	
		血清 0.3							
4078	HBV-DNA定量 《TaqManPCR法》	血液 5	62	凍結 -20℃以下	ロシュ/リアルタイムPCR法	LogIU/mL 定量結果: 1.0 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず	287 微生物	3 5 4	必ず指定容器使用 脚注参照*1,2 64頁参照
		血清 2.1							
3487	HBVプレコア/ コアプロモーター変異検出 *3	血液 2	62	凍結	PCR-ミニシーケンス法/特異プローブ法		450 微生物 ④⑤	3 5 6	必ず指定容器使用 脚注参照 * 1.4
		血清 0.5							

**[ご注意]**

- \* 1 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)
- \* 2 : 血漿(容器番号 80)でも検査可。
- \* 3 : [報告成分]  
HBV-DNA検出, プレコア判定, プレコア変異型比率, コアプロモーター判定
- \* 4 : 低ウイルス量(概ね2,000コピー/mL未満)の検体では、試薬の特性上、安定した判定結果を得られない場合があります。

- ① : 「HA抗体」、「IgM-HA抗体」を同時に測定した場合、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。
- ② : 保険請求の際は、「HA抗体」とご記入下さい。
- ③ : 「HBc抗体」、「IgM-HBc抗体」を同時に測定した場合はいずれか一方のみの算定となります。
- ④ : B型急性肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に1回のみ算定できます。
- ⑤ : B型慢性肝炎患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、かつ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0419	HCV抗体-II	血液 2	01	冷蔵 (12週)	CLIA 法	S/CO 1.00 未満 (-)	114 免疫	1 2	スクリーニング検査としてご利用下さい。 C型肝炎ウイルス(HCV)感染の診断は、本検査の結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果および臨床経過を考慮して総合的にご判断下さい。
		血清 0.5							
3481	HCV抗体-III	血液 2	01	冷蔵 (12週)	LPIA 法	陰性 (-)	114 免疫	2 3	
		血清 0.5							
3528	HCV群別 《グルーピング》	血液 1	01	冷蔵	CLEIA 法		233 免疫 ②	2 3	
		血清 0.3							
3738	HCVコア抗原 《CLIA法》	血液 2	01	冷蔵	CLIA 法	fmol/L 3.0 未満	114 免疫 ③	2 3	本検査が“定量下限未満”でも、直ちにウイルスの存在は否定できません。
		血清 0.5							
3914	HCV-RNA定量 《TaqManPCR法》	血液 5	79	-20℃以下 凍結	ロシュ/リアルタイムPCR法	LogIU/mL 定量結果: 1.2 未満 (定量下限) 増幅反応シグナル: 検出せず	450 微生物 ④	3 4	必ず指定容器使用 64頁参照
		血清 2.1							

① : 保険請求の際は「HCV血清群別判定」とご記入下さい。

② : C型肝炎の診断が確定した患者に対して、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できます。

③ : 保険請求の際は「HCVコア蛋白」とご記入下さい。

④ : 急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択および治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できます。

●「ウイルス抗体検出 (EIA)」判定基準

判定	IgG 測定値		IgM 測定値		対象項目名
	血清	髄液 (※)	血清		
陰性 (-)	2.0 未満	0.20 未満	0.80 未満	index	水痘・带状疱疹, 風疹, 麻疹, 単純ヘルペス, サイトメガロ, ムンプス (※: 髄液検体における判定基準は「単純ヘルペスに適用」)
判定保留 (±)	EIA価 2.0 ~ 3.9	EIA価 0.20 ~ 0.39	0.80 ~ 1.20		
陽性 (+)	4.0 以上	0.40 以上	1.21 以上		
陰性 (-)	0.80 未満		0.80 未満	index	パルボウイルス B19
判定保留 (±)	index 0.80 ~ 0.99		0.80 ~ 0.99		
陽性 (+)	1.00 以上		1.00 以上		

●血清を用いた遺伝子増幅 (PCR 等) 検査の留意点

《検体の取扱い、および依頼方法》

- 1) 遺伝子増幅検査の検体採取・保存に際しては、核酸分解酵素の影響および検体相互の cross contamination を防ぐため、以下の点にご注意ください。
  - ① 専用の真空採血管 (分離剤入り、容器番号 62、79) を使用し、採血・ご提出ください。
  - ② 同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい (遺伝子検査専用検体)。
  - ③ 上記指定容器に採取後、4 ~ 5 回静かに転倒混和し、常温にて 30 ~ 60 分放置してください。凝固完了を確認後、遠心機にかけ、そのまま凍結してご提出ください。なお、凍結融解をしないでください。

※未分離凍結検体、溶血検体では抽出効率の低下、遺伝子増幅阻害等によるデータへの影響が考えられます。
- 2) 遺伝子増幅検査につきましては、ヘパリンによる増幅反応の阻害があるため、透析患者等では検出されないことが考えられますので、ご注意ください。

●「HCV-RNA 定量」(TaqManPCR 法による遺伝子増幅検査の結果の考え方)

	結果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HCV 増幅反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	8.0 以上	検出	HCV を検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.2 ~ 7.9	検出	HCV を検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.2 未満	検出	HCV を検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.2 未満	検出せず	HCV を検出しなかった

●「HBV-DNA 定量」(TaqManPCR 法による遺伝子増幅検査の結果の考え方)

	結果		結果の考え方
	定量結果 (Log IU/mL)	HBV 増幅反応シグナル	
測定結果が測定範囲上限を超えた場合	9.0 以上	検出	HBV を検出した
測定範囲内で測定結果を得た場合	1.0 ~ 8.9	検出	HBV を検出した
増幅反応シグナルは検出したが測定結果が測定範囲下限未満であった場合	1.0 未満	検出	HBV を検出した
増幅反応シグナルを検出しなかった場合	1.0 未満	検出せず	HBV を検出しなかった

測定結果が定量下限未満であっても増幅反応シグナルが“検出”の場合は、ウイルス核酸が“検出された”とご判断ください。

●HIV 抗原・抗体検査の留意点

《検体の取扱い、および依頼方法》

- 1) 必ず指定容器 (容器番号 62) で採血後、遠心機にかけ、そのまま冷蔵保存でご提出ください。
- 2) 同一検体で他項目との重複依頼は避けてください。(単独検体)
- 3) 患者名にはイニシャルまたは ID 番号のご使用をお勧め致します。
- 4) スクリーニング検査 (CLIA 法) で「陽性」を呈した場合は、原則としてウエスタンブロット法による HIV-1 抗体確認試験を実施致します。



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
6411	T細胞・B細胞百分率	血液 各 3 EDTA加血液	13	常温	フローサイトメトリー法 [T細胞]CD2 [B細胞]CD20	67頁参照	204 免疫①	2 5 3	受付曜日:月～土曜日(午前中) 67頁参照
5748	IgG-FcR <sup>+</sup> T細胞百分率				フローサイトメトリー法	5～20			
6401	リンパ球幼若化試験 《リンパ球分離培養法》	血液 各 5 保存液加血液	21	常温	<sup>3</sup> H-サイミジン 取込能測定法	41000～79900 コントロール 180～660	345 免疫	5 5 7	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 白血球数が3000/ $\mu$ L以下の場合は倍量採血し、ご提出下さい。 67頁参照
6404						PHA ConA			
5761	B細胞表面免疫グロブリン (Sm-Ig)	血液 3 EDTA加血液	13	常温	フローサイトメトリー法	Sm-Ig Total 6～15% 74～352/ $\mu$ L	165 免疫	2 5 3	受付曜日:月～土曜日(午前中) 67頁参照
5762						Sm-IgG 3～12% 44～271/ $\mu$ L			
5763						Sm-IgA 3～9% 35～205/ $\mu$ L			
5764						Sm-IgM 2～7% 24～138/ $\mu$ L			
5765						Sm-IgD 1～6% 1～145/ $\mu$ L			
5766						Sm-Ig $\kappa$ (カッパ)鎖 1～13% 4～279/ $\mu$ L			
5767						Sm-Ig $\lambda$ (ラムダ)鎖 1～10% 8～204/ $\mu$ L			
6548	LAK活性	血液 6 保存液加血液	21	常温	<sup>51</sup> Cr遊離法	(非誘導) 10.0以下	-	2 5 4	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 白血球数が3000/ $\mu$ L以下の場合は倍量採血し、ご提出下さい。
6547						(誘導)			
6657	好中球貪食能	血液 2 ヘパリン加血液	10	常温	フローサイトメトリー法	70～87	-	2 5 3	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 貪食能・殺菌能を同時に依頼の場合は血液2mLにて検査可能。
6658	好中球殺菌能	血液 2 ヘパリン加血液	10	常温	フローサイトメトリー法	93～97	-	2 5 3	受付曜日:月～金曜日(午前中) 《土曜日受付不可》 貪食能・殺菌能を同時に依頼の場合は血液2mLにて検査可能。

【ご注意】 土曜日受付可能な項目も日曜日、月曜日が連休となるときは受託できません。

① : 「T細胞・B細胞百分率」と同時に測定した場合、実施料は一連の算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
5759	HLA型判定 (A, B Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-rSSO 法		—	3 5 8	容器番号 14(EDTA-2Na)でも検査可。 67頁参照
5760	HLA型判定 (DR Locus)								
5751	HLA遺伝子型判定 (A Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-SBT 法		—	5 5 8	容器番号 14(EDTA-2Na)でも検査可。 67頁参照
5752	HLA遺伝子型判定 (B Locus)								
5753	HLA遺伝子型判定 (C Locus)	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵	PCR-SBT 法		—	5 5 8	容器番号 14(EDTA-2Na)でも検査可。 67頁参照

### ●染色体検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
6584	Gバンド分染法 《先天性Gバンド分染法》	血液 各 3 ヘパリン加血液	10	冷蔵	分染法		2712 + 397  血液 ①	13 5 18	Qバンド、Rバンド、Cバンド、高精度分染法は、最初にGバンド分染法を実施し、さらに検査が必要な場合に実施させていただきます。判定にあたり精査が必要な場合、さらに10日前後報告日数が延長となります。 「全サブテロメア領域解析」と同時に依頼された場合は、「全サブテロメア領域解析」の結果判定後にご報告致します。  脚注参照 * 1,2
6586	Qバンド分染法								
6587	Rバンド分染法								
6585	Cバンド分染法								
6593	脆弱X染色体								
6588	高精度分染法								

[ご注意] ご提出検体は冷常温(4~20℃)で保存して下さい(但し肺がんALKは常温)。

また、その他の材料でご提出の場合には、記載の所要日数以内で報告できない場合がございますのでご了承下さい。

\* 1 : 検査に当たり、被検者への十分なお説明をいただき被検者ご自身の承諾が文書で得られた場合にのみ検査の受託をさせていただきます。

依頼書の被検者名はプライバシー保護のため匿名化をお願いします。また、検査前後の被検者への十分なカウンセリングを併せてお願い致します。

\* 2 : ご依頼に際しては、『遺伝学的検査依頼書【先天異常 染色体検査】』をご利用下さい。

\* 3 : 高精度分染法については、目的とする染色体領域が特定されている場合にのみ検査を受託致します。依頼書に標的染色体領域を明記して下さい。

① : 分染法を実施した場合は、397点の加算ができます。

## ●「T細胞・B細胞百分率」基準値

	陽性細胞百分率 (%)	陽性細胞絶対数 (/μL)
T細胞	72 ~ 90	605 ~ 2,564
B細胞	7 ~ 30	70 ~ 663

## 細胞性免疫検査のご依頼について

### 【検査の予約と確認】

- 1) 月～金(午後)、土、日、祝日の検体は受託出来ませんので、必ず確認の上ご提出下さい。
- 2) 検査項目によって検査実施日が異なることがありますので、必ず確認の上ご提出下さい。
- 3) 組織等、血液以外の材料でご提出の場合は、予め当社担当者にご確認下さい。
- 4) 受付曜日は、各項目の備考欄に記載してあります。受付可能日、締切り時刻等については営業担当者にご相談下さい。

### 【依頼書】

- 1) 細胞性免疫検査ご依頼に際しては、専用依頼書を用意しておりますので、ご使用下さい。
- 2) 依頼書所定事項中、採血年月日、時刻、疾患名を必ずご記入下さい。

### 【採血】

- 1) 溶血、雑菌混入は絶対に避けて、無菌的に採血して下さい。
- 2) 必要量採血後、直ちに所定容器に移して下さい。
- 3) ヘパリン加血液、EDTA 加血液は、採血後、直ちに転倒混和し凝固を防止して下さい。
- 4) 提出検体は、常温で保存して下さい。
- 5) 白血球数が減少した患者検体において、所定の採血量でも検査不能となる場合があります。極端な白血球減少が予想される際にはできるだけ多めに採血してご提出下さい。

### 【採血後、検査にとりかかるまでの保存可能時間】

- 1) 採血後、下表の条件を満たす時間内に検査を開始する必要があります。(弊社から委託先に検体を搬送する時間が必要となりますので、予め当社担当者にご確認下さい。)
- 2) 必ず所定の容器をご使用下さい。保存液入り容器(7.5mL 容量)をご使用の場合は当社にて用意致します。保存液容器は、各検査項目の採血量が多くなりますのでご了承下さい。

検査項目	材料	全血	保存液入り採血管
リンパ球関連検査全般 (細胞表面マーカー検査を除く)		—	24 時間以内
細胞表面マーカー検査		48 時間以内*	—
リンパ球混合培養 (MLC) 好中球貪食能・殺菌能		24 時間以内	—

★ 血液疾患が疑われる場合、または血液以外の材料による場合は 24 時間以内となります。

## HLA 型判定, 遺伝子型判定検査の留意点

- 1) 「HLA 型判定、遺伝子型判定」の検体採取・保存に際しては、検体相互の cross contamination を防ぐため、以下の点にご注意ください。
  - ①真空採血管を使用し、採血してください。
  - ②素手で採血管のゴムキャップに触れないでください。
  - ③同一検体で他の項目との同時依頼をしないでください。
  - ④キャップの開封、分取などが必要な場合、必ず 1 検体ずつ処理してください。
- 2) 複数項目を同時に依頼の場合、HLA 型判定 A,B Locus および DR Locus は EDTA 加血液 2 mL、HLA 遺伝子型判定群では 3 項目までは同 2 mL、4 項目以上は同 4 mL で検査可能です。ただし、DQA1 は単独で EDTA 加血液 3 mL が必要となります。
- 3) 有核細胞数が少ない場合、単項目でも検査不能となる場合があります。白血球数が 3,000/μL 以下の場合、所定量の 2 倍の血液をご提出ください。
- 4) 血液以外の材料により検査を希望される場合、予め受託可否についてお問い合わせください。

## リンパ球幼若化試験の留意点

リンパ球幼若化試験用マイトジェンは、PHA、ConA、PWM のなかからご指定ください。なお、PWM は、実施料適用外となります。特にご指定のない場合は、PHA のみにて検査させていただきます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
(0601) 0602	[末梢血液一般] 白血球数	血液 2 EDTA加血液		冷蔵	フローサイト メトリー法	$\times 10^2 / \mu L$ 40 ~ 80	21 血液 ①	1 2	
(0601) 0603	[末梢血液一般] 赤血球数				シーフロー DC検出法	$\times 10^4 / \mu L$ M 420 ~ 540 F 380 ~ 480			
(0601) 0604	[末梢血液一般] ヘモグロビン				SLS (ヘモグロビン法)	g/dL M 12.4 ~ 17.6 F 11.0 ~ 15.2			
(0601) 0606	[末梢血液一般] ヘマトクリット				赤血球パルス波 高値検出法	% M 36.0 ~ 52.0 F 33.0 ~ 43.0			
(0601) 0611	[末梢血液一般] 血小板数				シーフロー DC検出法	$\times 10^4 / \mu L$ 14.0 ~ 34.0			
0651	網赤血球数				フローサイト メトリー法	% 8 ~ 22			
0654 0669	鼻汁好酸球	鼻汁	塗抹 標本	常温	鏡検法		15 血液	1 2	
0631	末梢血液像(5分類) 《自動機械法》	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵 (当日中)	フローサイト メトリー法	71頁参照	15 血液 ②	1 2	
0612	末梢血液像(6分類) 《鏡検法》	血液 2 EDTA加血液	13	冷蔵 (当日中)	鏡検法	71頁参照	25 血液 ②	1 2	
3129	マラリア原虫	血液 2 EDTA加血液	13	凍結不可 冷蔵	ライト染色	(-)	40 血液	2 3	塗抹標本でご提出の場合は、薄層塗抹標本と濃塗抹標本をご提出下さい。(標本冷蔵厳禁)
3205	プロテインC(定量)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.3	15 ↓ 02	凍結 (4週)	LPIA 法	62 ~ 131	247 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3239	プラスミノゲン活性 (PLG)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (4週)	合成基質法	71 ~ 128	100 血液	2 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3232	アンチトロンビンⅢ抗原 (ATⅢ)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (4週)	LPIA 法	15.0 ~ 31.0	70 血液	2 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
0678	アンチトロンビンⅢ活性 (ATⅢ)	血液 1.8 クエン酸 血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結	合成基質法	80 ~ 130	70 血液	1 2	血漿分離の上ご提出下さい。

\*1 : 3. 2%クエン酸ナトリウム液0. 2mL入り容器に血液1. 8mLを正確に入れ、全量2. 0mLにしてよく混和後、1,500×g、15分間、冷却(2~4℃)遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい。(遠心力の換算表71頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

① : 実施料は、「末梢血液一般検査」として一連の算定となります。

② : 同一検体で「好酸球数」および「白血球像」を行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0671	PT時間 (プロトロンビン時間)				凝固法	9.7 ~ 12.3 秒	18 血液 ①	1 2	血漿分離の上ご提出下さい。
0673	APTT (活性化部分トロンボプラスチン時間)				凝固法	24.3 ~ 36.0 秒	29 血液	1 2	
0675	フィブリノゲン				凝固法	200 ~ 400 mg/dL	23 血液	1 2	
0676	トロンボテスト (複合因子T)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結	凝固法	70 ~ 130 %	18 血液 ①	1 2	
0677	ヘパプラスチンテスト (複合因子H)	複数項目 0.7			凝固法	70 ~ 130 %	29 血液 ②	1 2	
0684	D-Dダイマー				免疫比濁法	1.0 以下 μg/mL	141 血液	1 2	
0683	(血中)FDP定量 (フィブリン・フィブリノゲン分解産物)				免疫比濁法	5.0 未満 μg/mL	80 血液	1 2	
3193	(尿)FDP (フィブリン・フィブリノゲン分解産物)	尿 2	18	冷蔵	LPIA 法	100 以下 ng/mL	72 尿便	2 3	必ず指定容器使用
3236	TAT (トロンビン・アンチトロンビン複合体)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結	CLEIA 法	3.0 未満 ng/mL	191 血液 ③	2 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 採血方法の不適により異常高値を示すことがあります。(ツージリンジ採血法にてお願い致します。) 脚注参照*1
3231	アンチプラスミン(活性) (α <sub>2</sub> PI) (α <sub>2</sub> プラスミンインヒビター)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.5	15 ↓ 02	凍結 (2週)	合成基質法	85 ~ 118 %	134 血液	2 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3245	PICテスト (α <sub>2</sub> プラスミンインヒビター・プラスミン複合体)	血液 1.8 クエン酸血漿 0.3	15 ↓ 02	凍結	LPIA 法	0.8 未満 μg/mL	162 血液	2 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3201	PIVKA II 凝固	血液 1.8 クエン酸血漿 0.3	15 ↓ 02	凍結 (8週)	CLEIA 法	1 未満 μg/mL	143 血液	2 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
3272	β-トロンボグロブリン (β-TG)	血液 4.5 乏血小板血漿 0.5	19 ↓ 02	凍結 (4週)	EIA 法	60 以下 ng/mL	177 血液	3 9	必ず指定容器使用 必ず血漿分離の上ご提出下さい。 71頁および脚注参照*2
3271	PF-4 (血小板第4因子)	血液 4.5 乏血小板血漿 0.5	19 ↓ 02	凍結 (4週)	EIA 法	20 以下 ng/mL	178 血液	3 9	必ず指定容器使用 必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*2

\*1 : 3. 2%クエン酸ナトリウム液0. 2mL入り容器に血液1. 8mLを正確に入れ、全量2. 0mLにしてよく混和後、1,500 × g、15分間、冷却(2~4℃)遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい(遠心力の換算表71頁、およびCLSI/NCCLSドキュメントH21-A5参照)。

\*2 : 専用容器(テオフィリン、アデノシン、ジビリダモール、他入り)は、予めご依頼下さい。なお、ジビリダモールは蛍光灯に58時間晒されると不活性化するため、使用時までは遮光保存をお願い致します。

① : 「プロトロンビン時間」、「トロンボテスト」を同時に測定した場合は、実施料の算定はいずれか一方のみとなります。

② : 「ヘパプラスチンテスト」を実施した場合は、他の検査で代替できない理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する必要があります。

③ : 「プロトロンビンフラグメントF1+2」、「TAT」および「SFMC」を同時に実施した場合は、主たる項目のみ算定できます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
3235	フォン・ウィルブランド因子定量 (Ⅳ因子様抗原)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	50 ~ 150	155 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3241	フォン・ウィルブランド因子活性 (リストセチンコファクター)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	固定血小板凝集法	50 ~ 150	136 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.4							
3170	ループスアンチコアグラント	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	希釈ラッセル蛇毒試験法 (dRVVT)	(cut-off値) T1/T2比 1.3 未満	281 免疫 ①	2 5 3	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3159	第Ⅱ因子活性 (F2)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	74 ~ 146	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3160	第Ⅴ因子活性 (F5)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	70 ~ 152	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3161	第Ⅶ因子活性 (F7)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	63 ~ 143	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3162	第Ⅷ因子活性 (F8)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	62 ~ 145	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3163	第Ⅸ因子活性 (F9)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	74 ~ 149	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3164	第Ⅹ因子活性 (F10)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	PT 法	71 ~ 128	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3165	第Ⅺ因子活性 (F11)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	73 ~ 136	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3166	第Ⅻ因子活性 (F12)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	APTT 法	46 ~ 156	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3167	第ⅩⅢ因子定量 (F13)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結	LA 法 (ラテックス凝集比濁法)	70 以上	229 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.4							
3168	第Ⅷ因子インヒビター (F8INH)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	Bethesda 法	検出せず	155 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							
3169	第Ⅸ因子インヒビター (F9INH)	血液 1.8	15 ↓ 02	凍結 (2週)	Bethesda 法	検出せず	155 血液	2 5 5	必ず血漿分離の上ご提出下さい。 脚注参照*1
		クエン酸血漿 0.5							

\*1 : 3. 2%クエン酸ナトリウム液0. 2mL入り容器に血液1. 8mLを正確に入れ、全量2. 0mLにしてよく混和後、1,500 × g、15分間、冷却(2~4℃)遠心分離し、血漿を凍結してご提出下さい。

① : 抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限り算定できます。

## ●「血液像」基準値

細胞の種類		構成比率 (%)
好中球	NEUT	37 ~ 70
杆状核球	ST	1 ~ 6
分節核球	SEG	35 ~ 68
好酸球	E	0 ~ 5
好塩基球	B	0 ~ 1
単球	MONO	2 ~ 8
リンパ球	L	24 ~ 53
芽球	BLA	0
前骨髄球	PROM	0
骨髄球	M	0
後骨髄球	MET	0
異型リンパ球	A-L	0
形質細胞	PLC	0
不明細胞	OTHER	0
異常細胞	ABNC	0
裸核細胞		0 / 100 WBC

- 1) 時間経過等により血球形態破壊が著しくなる場合があるため検査不能になることがあります。できるだけ早くご提出ください。
- 2) 塗抹標本でご提出の場合は、採血後直ちに作成してください。(標本冷蔵厳禁)
- 3) 血液塗抹標本は、患者氏名をご記入の上ケースに収納してご提出ください。ケースには、検査依頼書のバーコードラベルに患者氏名、施設名を明記してお貼りください。

## ▶「β- トロンボグロブリン (β-TG)、血小板第4因子 (PF-4)」の採血方法

操作を2分以内に行う

20 ゲージ (19 ~ 23 ゲージ) の針を用いたポリエチレン注射器により、(組織から組織因子の混入を避けるため) 2 シリンジ法で初めの 2 mL を捨て、次の血液 4.5mL を採取してください。  
真空採血管、カテーテルおよび他の方法は使用しないでください。  
また、できれば止血帯も使用しないでください。10mL 以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取してください。

予めキャップを開け冷却しておいた専用容器に採取した血液 4.5mL を移し、ゆっくり 2 ~ 3 回反転混合してください。  
指定のサンプリングチューブ以外は使用しないでください。  
サンプリングチューブは振とうさせないでください。

採血管を速やかに砕氷と水の入ったラックに戻し、冷却してください。  
砕氷水の水面よりチューブ中の血液の液面が下になるようにしてください。  
角氷は使用しないでください。

砕氷水に少なくとも 15 分間静置後、採取血液を 2,500 × g で 20 分間、2 ~ 8 °C で遠心分離して下さい。(右表に 2,500 × g におけるローターの回転半径と回転数との関係を示します)  
1 時間以内に必ず冷却下で遠心分離してください。

上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで 0.5mL 検体容器へ採取してください。  
検体は必ずプラスチック製試験管に入れて凍結保存してください。  
(1 ヶ月安定)  
血餅に近い部分よりの採取は絶対に避けてください。

### 遠心力の換算表

1,500 × g	半径 (cm)	回転数 (r.p.m.)
	10	3,700
	12	3,300
	14	3,100
	16	2,900
	18	2,700
	20	2,600
	22	2,500
	24	2,400
	26	2,300
	28	2,200
	30	2,100

2,500 × g	半径 (cm)	回転数 (r.p.m.)
	10	4,700
	12	4,300
	14	4,000
	16	3,700
	18	3,500
	20	3,300
	22	3,200
	24	3,100
	26	2,900
	28	2,800
	30	2,700



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0743	(蓄尿)尿蛋白	尿 10	25	冷蔵	ピロガロール レッド法	20 ~ 120 mg/day	7 尿便	1 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0744	(蓄尿)尿グルコース	尿 10	25	冷蔵	ヘキソキナーゼ法	40 ~ 85 mg/day	9 尿便	1 2	蓄尿の一日尿量値が必要です。
0711	尿沈渣顕微鏡検査	尿 10	25	冷蔵	鏡検法		27 尿便 ①	1 2	
0355 0356	便中Hb定性	糞便 (専用容器)	31	冷蔵	金コロイド比色法	(-)	37 尿便	1 2	必ず指定容器を使用してください。
0866	虫卵(集卵法)	糞便 親指頭大	29	冷蔵	集卵法	(-)	15 尿便	2 3	
0861	虫卵(塗抹法)	糞便 親指頭大	29	冷蔵	直接塗抹法	(-)	20 尿便	2 3	
6876	虫体鑑別	虫体	44	冷蔵	肉眼/鏡検法		23 尿便	2 3	検体は乾燥させないでください。 検出される寄生虫の種類により、 さらに鑑別に日数を要する場合があります。

### ●尿中一般物質定性半定量検査

0701	蛋白定性	尿 10	25	冷蔵	試験紙法	(-)	1 2	
	グルコース定性					(-)		
	ウロビリノゲン					(±)		
	ビリルビン					(-)		
	ケトン体					(-)		
	PH					4.5 ~ 7.5		
	潜血					(-)		
	比重					1.006 ~ 1.030		

### ●精液検査

0795	精液量	精液全量	各種	常温	鏡検法	2 以上 mL	70 尿便 ②	1 2	避妊具での提出は不可。 74頁参照
	精子数	精液全量		常温		40 以上 ×10 <sup>6</sup> /mL			
	精子運動率	精液全量		常温		50 以上 %			

※ 尿検体の採取につき、その基本要領を74頁に記載しておりますのでご参照ください。

① : 尿路系疾患が強く疑われる患者について、診療所が尿沈渣(鏡検法)を衛生検査所等に委託する場合であって、当該衛生検査所等が採尿後4時間以内に検査を行い、検査結果が速やかに当該診療所に報告された場合は、所定点数を算定できる。

② : 実施料は、「精液一般検査」として一連の算定となります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
-------	------	----------	----	----------	------	----------	--------	------	----

● 髄液検査

0772	〔髄液一般〕 ノンネアペルト	脊髄液 2.5	25	冷蔵	比濁法	(-)	62 尿便 ①	1 5 2	
0773	〔髄液一般〕 パンディ				比濁法	(-) (±)			
0774	〔髄液一般〕 細胞数				鏡検法	0 ~ 5 /μL			
0779	〔髄液一般〕 比重				屈折計法	1.005 ~ 1.007			
0780	〔髄液一般〕 トリプトファン				里見法	(-)			
0781	(髄液)総蛋白	脊髄液 0.5	25	冷蔵 (7日)	ピロガロール レッド法	10 ~ 40 mg/dL	11 生I	1 5 2	
0782	(髄液)グルコース	脊髄液 0.5		冷蔵	ヘキシキナーゼ法	50 ~ 75 mg/dL	11 生I	1 5 2	
0783	(髄液)クロール	脊髄液 0.5		冷蔵	イオン選択電極法	720 ~ 750 mg/dL	11 生I	1 5 2	

● 穿刺液(腹水・胸水・関節液)

0752	比重	腹水 胸水 関節液 5	25		屈折計法		採取量 に含む	1 5 2			
0753	細胞数				鏡検法	/μL					
0754	細胞種類				鏡検法	%					
0758	ムチン魂テスト				ムチン魂 形成試験法						
0760	(穿刺液)蛋白				屈折計法	g/dL				11 生I	1 5 2
0761	(穿刺液)グルコース				ヘキシキナーゼ 法	mg/dL				11 生I	1 5 2

① : 実施料は、「髄液一般検査」として一連の算定となります。

## 尿検体の採取方法

### 1) 普通尿の場合

新鮮尿を清潔な乾燥した容器に直接排尿するか、清潔な乾燥した携帯便器に排尿させ、指定の検体容器に直接移し替えます。

### 2) 中間尿の場合

清潔な排尿容器を手に持ち、放尿を開始します。最初は便器に排尿し、大体排尿が半ばに達した頃、排尿を中断せずにそのまま採尿容器に放尿し、終わりに近づいた頃、再び便器に放尿します。

### 3) 無菌尿の場合

男女とも陰部を刺激の少ない消毒液で洗浄しておき、清潔で乾燥した容器に中間尿を採尿します。

細菌検査などの場合には、膀胱カテーテル法を用いて採尿しても構いません。

## 精液検体の採取方法

精液検査のご利用に際して、射精可能な場合の精液の採取は、以下の手順により行ってください。

- 1) 禁欲期間は2日以上、7日以内が理想的です。  
氏名、禁欲期間、採取日時を記録してください。
- 2) 検査は2回行い、その間隔は7日以上、3か月以内とすることが推奨されます。これら2回の検査結果が著明に異なる場合には追加検査を行ってください。
- 3) 採取は(院内)検査室近くのプライバシーの保てる部屋で行うか、採取後1時間以内に持参させるようにしてください。
- 4) 精液はマスターベーションで採取します。  
容器は滅菌した広口のガラス製のものを温めて(20～40℃)使用してください。プラスチック製のものは精子に対する毒性がないことを確かめてから用いる必要があります。潤滑剤は使用しないでください。  
細菌学的検査を行う場合には、排尿後に手とペニスを洗浄、消毒してから滅菌した容器に採取してください。
- 5) 通常のコンドームは殺精子作用を示す可能性があるため、使用に適しません。マスターベーションで採取できない場合には、精液採取用コンドーム(SCD: seminal collection device, HDC Corporation, Mountain View, CA, USA)を利用する事が推奨されます。

[上掲の記述は、日本不妊学会編「新しい生殖医療技術のガイドライン」に準じたものです]

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考	
0801	一般細菌塗抹	尿・喀痰 / その他	各種	冷蔵	グラム染色法		61 微生物 ①	2 5	「トリコモナス」は室温保存して下さい。	
0806	簡易培養検査	尿・喀痰 / その他	各種	冷蔵	血液・BTB 寒天培地		60 微生物	3 7		
0807	嫌気性培養	培養同定に同じ	各種	冷蔵			118 微生物 ②	3 10	※培養同定と併せて行った場合に加算する。	
0811	細菌培養同定検査	口腔気道	各種	冷蔵	使用培地は目的菌検査材料により異なるが基本的には血液寒天・BTB(便の場合はSS)寒天・各種確認培地診断用免疫血清を使用		160 微生物 ③④	3 7	*1	
0812		消化管								糞便
0813		泌尿器生殖器								尿・分泌物 / その他
0814		血液穿刺液								血液・穿刺液
0815		その他の部位								膿・耳漏・分泌物 / その他
0816	大腸菌抗原同定検査	消化器系材料 (便等)	各種	冷蔵	O抗原血清型別		180 微生物	3 7		
0825	細菌薬剤感受性検査	1菌種	各種	冷蔵	微量液体希釈法またはディスク拡散法		170 微生物 ⑥	4 10		
0826		2菌種								培養同定に同じ
0827		3菌種以上								培養同定に同じ

\*1 : 真菌培養(材料:尿の場合を除いて)の場合は7~14日前後を要します。

- ① : 染色の有無および方法の如何にかかわらず、2種類以上用いた場合であっても、1回としての算定となります。
- ② : 嫌気性培養のみを行った場合は、所定の部位の細菌培養同定検査の実施料のみを算定し、嫌気性培養の加算は算定できません。
- ③ : 同一検体を用いて簡易培養検査を併せて行った場合は、簡易培養検査は算定できません。
- ④ : 症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、起因菌を検索する目的で異なった部位や同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主な部位または1か所の実施料の算定となります。
- ⑤ : 但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、「血液または穿刺液」を2回算定できます。この場合、「嫌気性培養加算」は2回算定できます。
- ⑥ : 培養の結果、菌が検出できず実施できなかった場合は算定できません。

注) : ご依頼の検査の内容によっては、所要日数がさらにかかる場合があります。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
0832	抗酸菌塗抹	喀痰/その他	各種	冷蔵	集菌塗抹 (蛍光)法 *1		82 微生物 ①	2 5	
0836	抗酸菌分離培養検査	喀痰/その他	各種	冷蔵	2%小川培地		210 微生物	4 8 週	通常培地を使用。
0853	抗酸菌同定DDH *2	喀痰・菌株 /その他	各種	冷蔵	DNA-DNA ハイブリダイゼー ション法		410 微生物	1 2 週	
0842	抗酸菌薬剤感受性検査	喀痰・菌株 /その他	各種	冷蔵	マイクロタイター 法 (-濃度比率法)		380 微生物 ②		
6742	結核菌群同定 (TaqManPCR法)	呼吸器系材料 /その他	55	冷蔵	ロシュ/リアルタイムPCR法		410 微生物 ③	2 3	必ず指定容器使用 脚注参照 *2
6740	MAC同定-DNA (TaqManPCR法)	呼吸器系材料 /その他	55	冷蔵	ロシュ/リアルタイムPCR法		421 微生物 ④	2 3	必ず指定容器使用 脚注参照 *2
0503	QFT-TB<第3世代>	102頁参照	102 頁参照	IUZ 頁参照	ELISA 法	(-)	630 免疫	3 10	受託曜日:月~金曜日 (祝祭日前日を除く) 77頁参照
0871 0872	赤痢菌・サルモネラ菌	糞便/その他	各種	冷蔵	SS寒天培地	(-)		3 7	

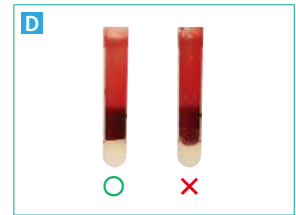
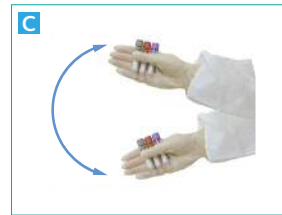
\*1 : 集菌塗抹(蛍光)法で陽性の場合にはチール・ネルゼン法で確認致します

\*2 : 必ず遺伝子検査の専用検体としてご提出下さい。(同一検体で遺伝子検査以外の項目との重複依頼は避けて下さい)

- ① : 蛍光顕微鏡、位相差顕微鏡、暗視野装置等を使用するもの 50点  
注 集菌塗抹法を行った場合には集菌塗抹法加算として32点を所定点数に加算する
- ② : 4薬剤以上使用した場合に限り、算定できます。
- ③ : 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できます。
- ④ : 他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できます。抗酸菌同定検査を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定できます。

## QFT-TB (クオンティフェロン) の採取方法 《容器番号 94 使用時》

- A** 採取前の採血管は  $4^{\circ}\text{C} \sim 25^{\circ}\text{C}$  で保存してください。  
被検者 1 人につき 3 種類 (灰色・赤色・紫色) の採血管を使用します。
- 採血管は使用前に室温  $22^{\circ}\text{C} \pm 5^{\circ}\text{C}$  ( $17 \sim 27^{\circ}\text{C}$ ) に戻してから使用してください。
  - 採血前に採血管のゲル部分を手で握るなどして温めないようにご注意ください。
  - (灰色・赤色・紫色) の順番で各採血管に規定量 (1 mL) を採血してください。
- B** 規定量が採血できているか確認してください。  
(採血量が  $0.8 \sim 1.2\text{mL}$  の範囲を外れている場合は、再度採血を行ってください。)
- C** 採血後、採血管を上下に 5 秒間または 10 回振って混和してください。(転倒混和では不十分です。但し、強く振りすぎると分離剤の成分が血液と混ざり、誤った結果になる場合があります。)
- D** 採血管の内表面全体が血液で覆われている事と、分離剤に血液が沈んでいない事を確認してください。
- 採血後の採血管は  $22^{\circ}\text{C} \pm 5^{\circ}\text{C}$  ( $17 \sim 27^{\circ}\text{C}$ ) で保存し、速やかに提出してください。



## 主要材料の採取保存方法

### 1) 口腔・気道・呼吸器系材料

- **喀痰** 口腔内常在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で 2～3 回うがいしてから喀出痰を採取します。できるだけ唾液・鼻粘液の混入は避けるようにしてください。
- **咽頭液** 滅菌生理食塩水でうがいした後、滅菌綿棒 (細菌検査用スワブ付属の綿棒) で病変部をよく擦って粘液を採取します。

### 2) 消化器系材料

- **糞便** 急性期の排出便を採取します。糞便の量は 1 g 程度とし、細菌検査用採便容器 (キャリープレーア培地入り) の深部に入れてください。便の状態を含め臨床所見は病原菌検出に大きな手がかりとなりますので、必ずご記入願います。
- **胆汁** 胆管内胆汁、胆嚢内胆汁、肝内胆汁のうち、検査には通常、胆嚢内胆汁を培養します。滅菌スピッツ管に 2～3 mL 採取します。

### 3) 泌尿器・生殖器系材料

- **尿** 患者自身が採取する場合はほとんどなため、採尿に際して適切な指示をしてください。  
男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。  
女性の場合は、膣等の常在菌汚染があるため、充分洗浄してからの採尿となります。消毒綿で消毒後、滅菌水を浸したガーゼで数回洗浄します。ガーゼは 1 回毎に取り替えるように指示してください。尿は滅菌ハルンカップ等に取り、直ちに滅菌スピッツ管に入れてもらいます。  
いずれの場合も早朝尿が望ましく、また通常は前半尿を捨て、中間尿を取ります。

### ● 生殖器分泌物

男性の場合は、陰茎をしごき、分泌物を採取します。女性の場合は、外陰部を消毒した後、陰鏡を用いて滅菌綿棒で後陰内蓋部より採取します。淋菌を疑われる場合は、菌死滅を防ぐために淋菌分離用培地 (サイアマーチン培地) に綿棒 (できれば白金耳を使用) で塗付けて炭酸ガス条件下に保持し、提出してください。トリコモナスを疑われる場合は、採取後の綿棒を専用培地 (トリコモナス培地) に入れてください。いずれも孵卵器 ( $35 \sim 37^{\circ}\text{C}$ ) で保管 (止むを得ない場合は、常温) してください。

### 4) 血液・穿刺液

- **血液** 採血に当たり、穿刺部位を十分に消毒してください。消毒方法は、70% アルコールで穿刺部位を中心として円を外側に向かい描くよう拭いていきます。その後、少し擦るようにします。乾燥後、ヨードチンキで同様の方法で消毒します。1 分後に注射器で採血します。血液培養用ボトル (レズンボトル好気性菌用・嫌気性菌用) は、予めキャップを取り、ゴム上部を 70% アルコールで消毒します。培養用ボトルへの血液採取量は 3～10 mL です。

採取後の培養用ボトルは速やかに提出してください。  
● **髄液** 採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行ってください。髄液は、血液培養用ボトルに接種後、速やかに提出してください。塗抹検査 (グラム染色等) が必要な場合は、髄液を滅菌スピッツ管に入れ、提出します。

### 5) その他の部位

- **膿瘍・創傷** 皮下組織や粘膜下の閉鎖性膿瘍は、穿刺部位を消毒後注射器で採取し、滅菌スピッツにいれてください。嫌気性菌の検査の場合は、注射器で嫌気培養用輸送容器 (ケンキポーターまたはシードチューブ) のゴム栓に刺し、注入します。開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清掃後、滅菌綿棒 (細菌検査用スワブ) に入れます。

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	検査方法	基準値 (単位)	実施料判断料	所要日数	備考
6865 8101	病理組織検査 1臓器	10%ホルマリン 固定組織	44	常温	染色・鏡検		860 病理	6 5 12	検査内容には標本作製と診断を含みます。 所要日数は、切り出し、脱灰、脱脂、再固定、特殊染色等の必要が生じた際は、さらに日数を要する場合がありますので、予めご了承下さい。また、診断がコンサルテーションとなった場合も同様です。 脚注参照 * 1
6893 8102	病理組織検査 2臓器	10%ホルマリン 固定組織	44	常温	染色・鏡検		1720 病理	6 5 12	
6894 8103	病理組織検査 3臓器	10%ホルマリン 固定組織	44	常温	染色・鏡検		2580 病理	6 5 12	
6863 8001	細胞診 (婦人科材料等によるもの)	湿潤固定標本		常温	染色・鏡検		150 病理 ①	5 5 6	80頁参照
6864 8002	細胞診 (穿刺吸引細胞診、体腔洗浄等によるもの)			常温	染色・鏡検		190 病理 ①	5 5 6	79頁・80頁参照
6907	HER2/neu 《IHC法》	パラフィンブロック (腫瘍組織)		常温	免疫組織化学 染色		690 病理	6 5 10	
6988	HER2/neu 《FISH法》	パラフィンブロック (腫瘍組織)		常温	FISH 法		2700 病理 ②③	9 5 13	
1864	エストロゲンレセプター 《IHC法》 《ER》	パラフィンブロック (腫瘍組織)		常温	免疫組織化学 染色		720 病理 ④	6 5 10	
1844	プロゲステロンレセプター 《IHC法》 《PgR》	パラフィンブロック (腫瘍組織)				690 病理 ④	6 5 10		

【ご注意】 細胞診検査におきましては、細胞診専門医の判定が必要な場合、通常日数よりご報告が遅れることがあります。

\* 1 : 検査材料の種類・検索目的等により特殊染色が必要となった場合、追加検査として別途検査料金を申し受けますので、予めご了承下さい。

- ① : 同一または近接した部位より同時に数検体を採取して検査を行った場合であっても、1回としての算定となります。
- ② : 抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断するために遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定できます。
- ③ : HER2タンパクの免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製を併せて行った場合には、3050点を算定できます。
- ④ : 病理標本作製を別に実施した場合も、実施料を別に算定できます。同一月に「PgR」と「ER」を併せて実施した場合は、いずれか一方の所定点数に180点の加算のみの算定となります。



## 病理組織の採取について

病理組織検査をご依頼の際は、検査材料を 10 ～ 20% のホルマリン 又は 中性緩衝ホルマリン（ホルマリン原液 5 ～ 10 倍希釈）固定組織、パラフィンブロック、未染標本スライドなどをご提出ください。

### 【10 ～ 20%ホルマリン固定組織】

- 1) 検体は採取後、自家融解・乾燥などを防ぐために、できるだけ速やかに固定してください。
- 2) 検体の固定には充分量の10～20%ホルマリン液をご使用ください。（組織の10～20倍量を目安としてください）
- 3) 複数個の内視鏡下生検材料等をご提出の際は、採取組織毎に個々の容器に入れ、必要事項を記入しご提出ください。なお微細組織の場合は、濾紙に貼り付けた上、個々の容器にお入れください。
- 4) 手術材料等の大きい組織をご提出の際は、別掲表の点に注意し、固定液が十分に浸透するように固定してください。

### 病理組織固定（ホルマリン固定）法

組 織	固 定 法
胃・腸管・胆嚢 等	臓器を切開後、粘膜面を上にし、板に広げ、虫ピンで止めて 10 ～ 20% ホルマリン液に入れます。
肺	気管支断端から 10 ～ 20% ホルマリンを注入し、割面にガーゼを挟み、表面にも厚めのガーゼを掛け、10 ～ 20% ホルマリン液に入れます。
子宮	前面よりY字型に切開して 10 ～ 20% ホルマリン液に入れます。
厚みのある臓器	予め割を入れてから 10 ～ 20% ホルマリン液に入れます。
廓清リンパ節	部位番号あるいは部位名を明記し、別々の容器で固定後、ご提出ください。

### 【未染標本スライド】

- 1) 患者名、検査番号等を明記し、切片が傷つかないようにしてご提出ください。
- 2) 染色時の剥離が充分考えられますので、数枚余分にご提出ください。
- 3) 酵素抗体法染色用スライドは、APS(シラン) coating のものを使用し、37℃にて一晚乾燥後、パラフィンを融解せずにご提出ください。  
酵素抗体法染色用には、原則として1項目につき3枚ご用意ください。

注1：ブロック作成までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

注2：切片の厚さ、伸展条件、保存状態などにより検査不能となる場合があります。

### 【パラフィンブロック】

患者名、検査番号等を明記し、ご提出ください。

注：ブロック作成までの諸条件により期待された結果が得られない場合があります。

## 細胞診の採取について

原則として塗抹固定した未染標本スライドにてご提出ください。

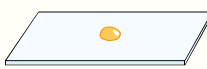
スライドガラスのフロスト部分に鉛筆で、患者名、材料名、湿固定・乾燥固定の別を明記してご提出ください。

細菌検査および一般検査とは別にご提出ください。

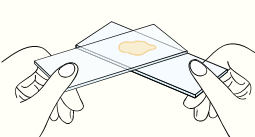
### 【標本作製法】

喀 痰

必要スライド枚数：湿固定 2 枚



スライドグラスに小豆大の  
喀痰をのせる



別のスライドグラスを重ねて挟み、軽い圧迫を  
加えて前後左右に数回すり合わせる

直ちに湿固定  
(95% エタノール)  
30 分間

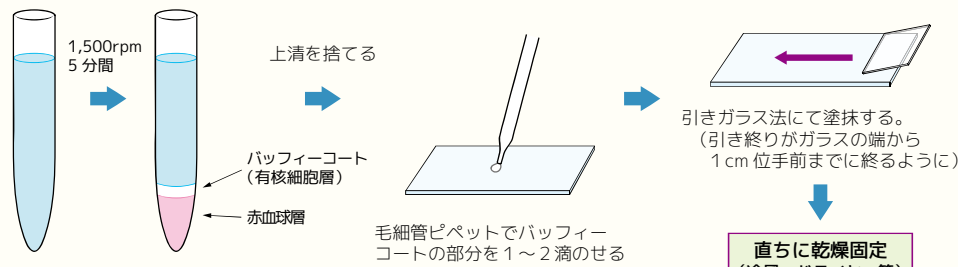
スプレー固定

\* 癌細胞は、血痰部・不透明白濁部・ゼリー状粘液部に多く含まれるため、性状をよく観察してから採取してください。

\* 生痰または蓄痰材料の場合、それぞれの当社指定容器にてご提出ください。

胸水・腹水

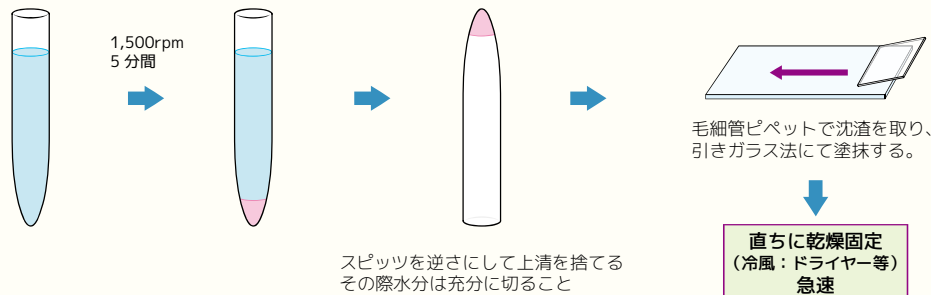
必要スライド枚数：湿固定3枚、乾燥固定1枚



\* ベッド上で2〜3回体位を変換させてから穿刺採取してください。  
\* 生検体の場合、それぞれの当社指定容器にてご提出ください。

尿

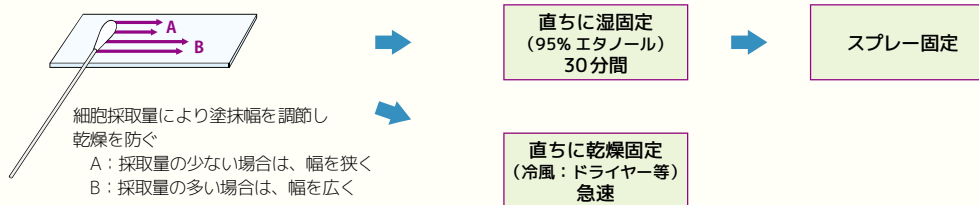
必要スライド枚数：湿固定2枚、乾燥固定1枚



\* 検尿カップに採取後30分から1時間静置、上清を静かに捨て、底部より10mL残し、混和後スピッツに移してご提出ください。

擦過標本

必要スライド枚数：湿固定1枚（婦人科検体）、湿固定2枚・乾燥固定1枚（その他検体）



\* 塗抹時の乾燥を防ぐため、標本作製は必ず採取現場で行い、塗抹後、瞬時に固定液に入れてください。  
\* 婦人科頸部擦過スミアは、綿棒等を立てて塗抹してください。  
\* 婦人科頸部内膜スミアは、綿棒等を寝かせて、回転させながら塗抹してください。

【固定操作】

- 1) 湿固定：塗抹後、直ちに95%エタノールにて固定（最低30分以上）後、スプレー固定剤をかけ、ご提出ください。（固定液がしたたるくらいに噴霧してください）
  - 2) 乾燥固定：塗抹後、直ちに冷風（ドライヤー等）で急速に乾燥させてください。
- 注：特殊染色の必要が生じる場合がありますので、余分に塗抹、固定後、保存してください。

## 特定健診について

### 【検査を委託していただく上での注意事項】

#### 1) 健診者への事前注意事項

検査前の食事については、健診前 10 時間以上は、水以外のすべての飲食物を摂取しないように指示して下さい。

#### 2) 採血時

採血は適切に行って下さい。(JCCLS の標準採血法ガイドライン (GP4-A2) を参考)

#### 3) 採血管の選択 (巻末容器一覧参照)

- ・血清検査項目 (TG、HDL-C、LDL-C、AST、ALT、 $\gamma$ -GT) の測定用には、原則として分離剤入りのプレイン管を使用して下さい。
- ・空腹時血糖測定用には、解糖阻止剤のフッ化ナトリウム (NaF) 入りの採血管を使用して下さい。
- ・HbA1c 測定用には、血糖測定用の採血管を使用して下さい。

#### 4) 採血した検体の取扱

##### ◇血清

- ・採血後の採血管は、室温に静置後、12 時間以内に遠心分離を行って、血清分離を行って下さい。
- ・血清は測定まで 4 ~ 10°C 下で保存して下さい。

##### ◇全血

- ・採血後は採血管内のフッ化ナトリウム (NaF) を血液に速やかに溶かして下さい。  
(注: 例えば採血管をゆっくり転倒混和 5 回以上行うか、ローターに 3 分以上かける。)
- ・全血は測定まで 4 ~ 10°C 下で保存して下さい。

##### ◇尿

- ・採尿後 4 時間以内に試験紙法で検査を行うことが望ましいです。
- ・困難な場合には、尿検体を専用の試験管に移して密栓し、4 ~ 10°C 下で保存して下さい。  
(注: 試験紙法の検査は、尿試験紙検査法 JCCLS 指針に従う)

#### 5) 検体の搬送

検体の搬送は、上記保存条件のもとに適切に行います。

#### 6) 検査後の留意事項

検査結果については、報告書の記載内容の確認を行って下さい。

### 【メタボリックシンドロームの診断基準】

#### ① 肥満 …… 内臓脂肪蓄積 (腹囲)

男性: 85 cm 以上

女性: 90 cm 以上

(内臓脂肪面積 男女ともに 100 cm<sup>2</sup> に相当)

+

下記 2 項目以上あてはまると「該当」となります。

#### ② 脂質 …… 高中性脂肪血症 150 mg/dL 以上 または

低 HDL コレステロール血症 40 mg/dL 未満

#### ③ 血圧 …… 収縮期血圧 130 mmHg 以上 または

拡張期血圧 85 mmHg 以上

#### ④ 血糖 …… 空腹時血糖 110 mg/dL 以上 または

HbA1c (NGSP) 6.0 % 以上

検査時の結果が上記を満たしていなくても、脂質異常症、高血圧症、糖尿病に対する薬を服用されている場合は、それぞれの項目に該当されます。

該 当	①にあてはまり、②,③,④のうち2つ以上あてはまる場合、メタボリックシンドローム該当
予 備 群	①にあてはまり、②,③,④のうち1つあてはまる場合、メタボリックシンドローム予備群
非 該 当	該当、予備群以外の場合、メタボリックシンドローム非該当
判定不能	①,②,③,④の検査項目のうち1つでも未実施の検査があり、判定が確定できない場合

### 【健診検査項目の判定値】

番号	項目名	保健指導判定値
1	血圧 (収縮期)	130 以上
2	血圧 (拡張期)	85 以上
3	中性脂肪	150 以上
4	HDL コレステロール	39 以下
5	LDL コレステロール	120 以上
6	空腹時血糖	100 以上
7	HbA1c (NGSP)	5.6 以上
8	AST (GOT)	31 以上
9	ALT (GPT)	31 以上
10	$\gamma$ -GT	51 以上
11	血色素量	13.0 以下 (男性) 12.0 以下 (女性)

特定健診について

●健診セット表

セット番号	S-911	S-912	S-901	S-902	S-920
検査項目	AST(GOT) ALT(GPT) γ-GT クレアチニン eGFRクレアチニン HDLコレステロール LDLコレステロール 中性脂肪 総コレステロール計算 赤血球数 ヘモグロビン ヘマトクリット HbA1c(NGSP)	AST(GOT) ALT(GPT) γ-GT HDLコレステロール LDLコレステロール 中性脂肪 総コレステロール計算 HbA1c(NGSP)	HBs抗原定性 HCV抗体/検診	HBs抗原定性 HCV抗体/検診 HCV-RNA/検診*	HCV抗体/検診 HCV-RNA/検診*
採取容器	汎用 4 mL 血液学用 2 mL HbA1c用 2 mL	汎用 4 mL HbA1c用 2 mL	汎用 4 mL	汎用 4 mL ウイルス遺伝子検査用 5 mL	汎用 4 mL ウイルス遺伝子検査用 5 mL

\*「HCV-RNA」は、「HCV抗体」が中・低力価の場合に検査致します。

※ご依頼の際は「検診専用依頼書」をご使用ください。(施設コード下2桁90番)

※依頼書のバーコードラベルを、該当する「特定健診質問票」に貼り付けてください。

特定健診質問票 / 結果通知書

**【特定健診質問票】**

1	既往、既往を下げた薬を処方してありますか	1	はい	2	いいえ
2	既往、インスリン注射または経口血糖降下剤を服用していませんか	1	はい	2	いいえ
3	既往、コレステロール値を下げる薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
4	既往、心臓病(心筋梗塞、脳梗塞)にかかっているか、心臓病の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
5	既往、心臓病(心不全、心房細動)にかかっているか、心臓病の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
6	既往、糖尿病にかかっているか、糖尿病の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
7	既往、腎臓病にかかっているか、腎臓病の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
8	既往、肝臓病にかかっているか、肝臓病の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
9	既往、がんにかかっているか、がんの治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
10	既往、感染症にかかっているか、感染症の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
11	既往、脳卒中にかかっているか、脳卒中の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
12	既往、認知症にかかっているか、認知症の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
13	既往、うつ病にかかっているか、うつ病の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ
14	既往、その他の病気にかかっているか、その他の病気の治療薬を処方していませんか	1	はい	2	いいえ

**健康診査結果通知書**

氏名(カナ)	ケンコウ ハナコ様	生年月日	昭和27年2月27日	健診年月日	2017年6月6日
性別/年齢	女性	65歳	受診番号	1710000001	

項目	基準範囲	今年結果	前年結果	前々年結果	既往歴
		2017/6/6	2016/6/16	2015/6/12	
身長		154.5	154.7	154.5	偏血質
体重		55.5	55.4	55.0	高血圧・人工透析
BMI	18.5~24.9	23.3	23.2	23.0	高血圧 高脂血症 運動器疾患
収縮期血圧	(mmHg) ~129	150	148	150	
拡張期血圧	(mmHg) ~84	78	78	80	
中性脂肪	(mg/dL) 30~149	150	165	175	
HDLコレステロール	(mg/dL) 40~99	60	51	50	
LDLコレステロール	(mg/dL) 70~139	150	143	137	自覚症状
AST(GOT)	(U/L) 5~40	18	18	25	
ALT(GPT)	(U/L) 5~42	25	26	27	不詳
γ-GT	(U/L) 7~32	25	25	31	肩こり・腰痛 身体がだるい
血糖値	(mg/dL) ~140				
HbA1c(NGSP)	(%) 4.6~6.2	6.2	6.3	6.1	
赤血球数	(万/μL) 380~480	421	410	398	貧血症状
ヘマトクリット	(%) 33.0~45.0	34.5	33.2	33.0	浮腫(下腿*)
クレアチニン	(mg/dL) 0.40~0.80	0.82	0.76	0.70	その他
eGFR	(mL/97/1.73m <sup>2</sup> )	53.8	58.7	64.5	

\* 質問票は複写式になっています。一部をご依頼元「控」とし、併せて質問票受領証明書に代えさせていただきます。

\* 実際のものより縮小表示しています。

※依頼書のバーコードラベルを、該当する「特定健診質問票」に貼り付けてください。

生化学検査		
総蛋白	.....	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010
A/G比	.....	同上
アルブミン	.....	同上
蛋白分画	.....	同上
TTT	.....	同上
ZTT	.....	同上
総ビリルビン	.....	同上
直接ビリルビン	.....	同上
間接ビリルビン	.....	同上
AST	.....	同上
ALT	.....	同上
LD	.....	同上
アルカリホスファターゼ	.....	同上
LAP	.....	同上
γ-GT	.....	同上
コリンエステラーゼ	.....	同上
CK	.....	同上
アルドラーゼ	.....	宮原洋一：Med. Technol.12,157,1984. ※03
アミラーゼ	.....	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010
(尿)アミラーゼ	.....	浦山 修，他：臨床化学検査学第3版医歯薬出版(2012) p 246-252
グアナーゼ	.....	杉山正康，他：臨床化学 12,304,1983. ※21
アデノシンデアミナーゼ	.....	山田満廣，大西将則：日臨検自動化会誌 17,135,1992. ※03
(穿刺液)ADA	.....	臨床検査法提要改訂第34版：金井 正光，他：金原出版，2015
リゾチーム(血清)	.....	仁科甫啓，他：臨床病理 21,37,1973. ※03
リゾチーム(尿)	.....	同上 ※03
トリプシン	.....	河野幹彦，櫻林郁之介：医学と薬学 53(5),635,2005. ※03 宮谷博幸，他：医学と薬学 56(5),771,2006.
隣ホスホリパーゼA2	.....	上田 章，他：臨床病理 37,561,1989. ※03
ペプシノゲン	.....	北内信太郎，他：Prog.Med.21,2451,2001. ※03
尿中NAG	.....	杉田 収，日本臨床 62 巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 141-143,2004.
MMP-3	.....	氏家真二，他：医学と薬学 51,503,2004. ※03
LDアイソザイム	.....	井出純子，他：日臨検自動化会誌 28,364,2003. ※03
ALPアイソザイム	.....	同上 ※03
CKアイソザイム	.....	同上 ※03
CK-MB(%)	.....	庄司進一，日本臨床 62 巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 340-343 2004.
CK-MB定量	.....	米田孝司，他：医学と薬学 42,461,1999. ※03
P型アミラーゼ	.....	日本臨床 62 巻 増刊号 11: 元雄良治，日本臨床社(2004) p 387-389
(尿)P型アミラーゼ	.....	同上
m-AST	.....	岡部純明：医学のあゆみ 146,517,1988. ※03
クレアチニン	.....	異常値の出るメカニズム第6版：河合 忠，他：医学書院，2013
(蓄尿)クレアチニン	.....	中原一彦，他：日本臨床 62 巻増刊号 11 第6版 日本臨床(2004) p 579-583
シスタチンC	.....	斉藤憲祐：検査と技術 vol.34 no.11, 医学書院 2006
尿酸	.....	異常値の出るメカニズム第6版：河合 忠，他：医学書院，2013
(蓄尿)尿酸	.....	検査と技術 vol.20 no.6 増刊号：大久保昭行，他：医学書院，1992
尿酸窒素	.....	異常値の出るメカニズム第6版：河合 忠，他：医学書院，2013
(蓄尿)尿酸窒素	.....	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010
アンモニア	.....	中村郁夫，日本臨床 62 巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 597
アミノ酸分画(血漿)	.....	植木真琴，他：臨床病理 28( 補 ),138,1980. ※03 大沢恵津子，他：臨床化学シンポジウム 20,142,1980. Stein,W.H.and Moore, S.:J.Biol. Chem. 176,337,1948.
アミノ酸分画(尿)	.....	同上 ※03
アミノ酸11分画(血漿)	.....	小田 治，他：第24回液体クロマトグラフ研究会講演要旨集 22,32,1981. ※03
BTR	.....	杉山正康，他：臨床病理 40,673,1992. ※03
グルコース	.....	富永真琴，日本臨床 62 巻 増刊号 11 第6版 日本臨床社 p 627-629,2004.
グリコアルブミン	.....	検査項辞苑第2版：櫻林 郁之介，大塚製薬株式会社 大塚アッセイ研究所，1999
HbA1C(NGSP)	.....	河原玲子，日本臨床 62 巻 増刊号 11( 通巻 858 号 ) 第6版 日本臨床社 p 648-650,2004.
1,5AG	.....	森脇貴美，他：機器・試薬 24,139,2001. ※03
ヒアルロン酸	.....	島村 朗，他：医学と薬学 44,1141,2000. ※03
KL-6	.....	西村 順，他：医学と薬学 41,1159,1999. ※03
乳酸	.....	浅沼和子，他：生物試料分析 8,16,1985. ※03
ピルビン酸	.....	同上 ※03
ケトン体分画(静脈血)	.....	Harano,Y.et al.:Clin. Chim.Acta 134,327,1983. ※03
ケトン体分画(動脈血)	.....	Ozawa,K.et al.:Am.J.Surg. 146,299,1983. ※03 鈴木尚子，他：Kameraden 25,20,1997.
中性脂肪	.....	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010
総コレステロール	.....	同上
HDLコレステロール	.....	同上
LDLコレステロール	.....	同上
リン脂質	.....	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010



総胆汁酸	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010	
グリココール酸	石井勝己，他：小児科臨床 32,1635,1979.	※03
全脂質構成脂肪酸分画	芝原 章，他：油化学 27,233,1978. 内山 充：臨床化学 1,398,1972. 金井 晃：ぶんせき 11,774,1978.	※03
βリポ蛋白	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010	
リポ蛋白分画	厚生労働省・日本医師会編：高脂血症診断の手引き，33，日本医事新報社，1991.	※03
リポ蛋白分画精密測定	Roche,D.et al.:Clin.Chem. 31,1893,1985.	※21
リパーゼ	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010	
リポ蛋白 (a)	久保信彦，他：機器・試薬 17,369,1994.	※03
レムナント様リポ蛋白コレステロール	滝野 豊，他：医学と薬学 56,269,2006.	※03
アポ蛋白	野間昭夫，他：動脈硬化 16,832,1988.	※03
β-カロチン	加美山茂利，他：臨床検査 31,268,1987.	※21
ビタミンA	Henry,R.et al.:Clinical Chemistry Principles and Technics 2nd Ed. ,p.1375, Harper & Row Publishers,1974.	※21
ビタミンB1	宮川秀則，他：生物試料分析 36(4),327,2013.	※03
ビタミンB2	安田和人，他：臨床病理 29,564,1981.	※03
ビタミンB12	河口行雄，他：医学と薬学 41,145,1999.	※03
葉酸	安田和人，他：機器・試薬 25,441,2002.	※03
ビタミンC	J Lykkesfeldt, et al.:Analytical Biochemistry 229,329,1995.	※16
25-OHビタミンD(Total)	大園恵一：診断と治療のABC 110(別冊)，218,2016. 日本小児内分泌学会：ビタミンD欠乏性くる病・低カルシウム血症の診断の手引き，2013.	※03
1α, 25-(OH)2ビタミンD	鈴木正司，他：臨床透視 14,371,1998.	※03
ビタミンE	阿部皓一，他：栄養と食糧 28,277,1975.	※21
レチノール結合蛋白	三浦信樹，他：臨床病理 57(3),195,2009.	※03
ナトリウム	臨床化学検査学第3版：浦山 修，他：医歯薬出版，2010	
クロール	同上	
カリウム	同上	
カルシウム	同上	
マグネシウム	同上	
無機リン	同上	
鉄	同上	
U I B C	同上	
銅	長谷川浩子，他：機器・試薬 19,814,1996.	※03
(尿)銅	奥田 稔，林 康之：臨床病理(特集第17号),84,1970.	※03
亜鉛(血清)	松本武志，金井 晃：検査と技術 9,478,1981.	※03
亜鉛(尿)	同上	※03
アルミニウム	Mazzeo-Farina, A. and Cerulli, N.:Clin.Chim. Acta 147,247,1985.	※03
マンガン(血液)	加地 浩，他：日本災害医学会会誌 37,195,1989.	※03
マンガン(血清)	同上	※03
マンガン(尿)	同上	※03
ニッケル	Mikac-Devic, D. et al.:Clin.Chem. 23(6),948,1977.	※03
鉛	労働省労働基準局労働衛生課(監修)：鉛健康診断のすすめ方，p.56, (社)全国労働衛生団体連合会事務局，1990.	※03
クロム(血液)	田中俊行，他：医学ト生物学 101,277,1980.	※03
クロム(血清)	同上	※03
クロム(尿)	同上	※03
カドミウム(血液)	Lagesson, V. and Andrasko, L.:Clin. Chem. 25,1948,1979.	※03
カドミウム(尿)	同上	※03
水銀(血液)	宮永昭一，他：食品衛生学雑誌 25,30,1984.	※03
δ-アミノレブリン酸	岡山 明，他：医学のあゆみ 139,845,1986.	※03
尿中ポルフォピリノーゲン	垣下榮三：日本臨牀. 53(増刊),871,1995.	※16
尿中ウロポルフィリン	Nuttall,K.L. et al.:Ann.Clin.Lab.Sci. 26,313,1996. 近藤雅雄：日本臨牀 53,1377,1995.	※03
尿中コプロポルフィリン	Nuttall,K.L. et al.:Ann.Clin.Lab.Sci. 26,313,1996. 近藤雅雄：日本臨牀 53,1377,1995.	※03
コプロポルフィリン定量	Salmi,M.:Clin.Chem.26,1832,1980	※18
エタノール	鈴木加奈子：薬毒物分析実践ハンドブック，118，じほう，東京，2002.	※03
血液浸透圧	長浜大輔：検査と技術 14,961,1986.	※03
尿浸透圧	同上	※03
ICG停滞率	金井正光，他：臨床検査法提要(改訂第34版)金原出版株式会社 p 1441-1442,2015.	
ICG消失率	同上	
24時間クレアチニンクリアランス	中原一彦，他：日本臨牀 62 巻 増刊号 11 第 6 版 日本臨牀社 p 579-583,2004.	
クレアチニンクリアランス	同上	
結石鑑別	亀田治男：医化学実験講座 B,p.525，中山書店，東京，1973.	※21
馬尿酸	労働省労働基準局労働衛生課(監修)：有機溶剤健康診断のすすめ方，p.135, (社)全国労働衛生団体連合会事務局，1990.	※03
メチル馬尿酸	同上	※03
マンデル酸	同上	※03
総三塩化物	同上	※03
	佐々木英夫，他：臨床皮膚科 23,201,1969.	

トリクロロ酢酸	.....	労働省労働基準局労働衛生課(監修):有機溶剤健康診断のすすめ方,p.135, (社)全国労働衛生団体連合会事務局,1990.	※03
N-メチルホルムアミド	.....	同上	※03
2,5ヘキサンジオン	.....	同上	※03
尿中硫酸抱合型胆汁酸	.....	Tazuke Y.,et al:臨床化学 21,249-258,1992 Matui A., et al:J.pediatr.,129,306-308,1996	
血液ガス分析	.....	ラップトップ型血液分析システム OPTI CCA(シスメックス株式会社)取扱説明書	
<b>薬物検査</b>			
フェニバルビタール	.....	日本臨床 62 巻増刊号 12:川崎博巳,日本臨床社,2004	
プリミドン	.....	Oellerich,M.:J.Clin.Chem.Clin.Biochem. 18,197,1980.	※03
フェニトイン	.....	日本臨床 62 巻増刊号 12:川崎博巳,日本臨床社,2004	
カルバマゼピン	.....	同上	
バルプロ酸ナトリウム	.....	同上	
エトサクシミド	.....		※03
トリメタジオン	.....		※03
クロナゼパム	.....		※03
ニトラゼパム	.....		※03
ジアゼパム	.....		※03
ソニサミド	.....	熊谷 昇,他:臨床医薬 5,843,1989.	※03
ガバペンチン	.....		※03
クロバザム	.....		※03
レベチラセタム	.....	赤松直樹,他:Epilepsy 4(2),129,2010.	※03
ラモトリギン	.....	小嶺幸弘:沖繩医報 45(9),51,2009.	※03
トピラマート	.....	小嶺幸弘:沖繩医報 45(9),51,2009. 金澤 治:こころの化学(157),45,2011.	※03
スチリペントール	.....	Fisher J.L.:Epilepsia 52(Suppl.2),76,2011.	※03
ルフィナミド	.....	山内俊雄,他:臨床医薬 15,(8),1341,1999. Perucca E, et al.:Epilepsia 49(7),1123,2008.	※03
クロチアゼパム	.....		※03
フルニトラゼパム	.....		※03
ミダゾラム	.....		※03
アルプラゾラム	.....		※03
プロチゾラム	.....		※03
リチウム	.....	Pybus, J. and Bowers Jr.,J.:Clin.Chem. 16,139,1970.	※03
ハロペリドール	.....	上野 哲,他:日臨検自動化会誌 29,360,2004.	※03
クロルプロマジン	.....		※03
ブロムペリドール	.....	上野 哲,他:日臨検自動化会誌 29,360,2004.	※03
アミトリプチリン	.....	奈女良昭,屋敷幹雄:薬毒物分析実践ハンドブック,p.222,じほう,東京,2002.	※03
イミプラミン・デシプラミン	.....	同上	※03
キニジン	.....	Kessler K.M. et al.:New Eng.J.Med. 290,706,1974.	※03
プロカイナムイド	.....	Jolley,M.E. et al.:Clin.Chem. 27,1575,1981.	※03
ジソピラミド	.....		※03
リドカイン	.....	Cobb.M.E. et al.:Clin.Chem. 23,1161,1977.	※03
アプリンジン	.....		※03
塩酸ピルジカイニド	.....		※03
プロパフェノン	.....		※03
メキシレチン	.....		※03
アミオダロン	.....		※03
ピルメノール	.....		※03
コハク酸シベンゾリン	.....		※03
フレカイニド	.....		※03
ベプリジル	.....	鎌倉 令,他:心電図 31(2),150,2011.	※03
ソタロール	.....	Tagawa M.et al.:Jpn Circ J. 65(Sup1-A),386,2001.	※03
ジゴキシン	.....	日本臨床 62 巻増刊号 12:山本康次郎,日本臨床社,2004	
テオフィリン	.....	日本臨床 62 巻増刊号 12:西原カズヨ,日本臨床社,2004	
ゲンタマイシン	.....	Jolley,M.E. et al.:Clin.Chem. 27,1575,1981.	※03
トブラマイシン	.....	Anhalt J.P.:Interpretation of antimicrobial concentrations in serum.American Association for Clinical Chemistry Therapeutic Drug Monitoring Continuing Education and Quality Control Program,April,1981.	※03
アミカシン	.....	同上	※03
アルベカシン	.....	Jolley,M.E. et al.:Clin.Chem. 27,1575,1981.	※03
バンコマイシン	.....	伊賀立二,他:薬剤師・薬剤生のための実践 TDM マニュアル,じほう,東京,2004.	※03
テイコプラニン	.....	諸岡美里,他:日本臨床検査自動化学会誌 38(1),79,2013.	※03
ポリコナゾール	.....		※03
アセトアミノフェン	.....	Jolley,M.E. et al.:Clin.Chem. 27,1575,1981.	※03



サリチル酸	野口佳男, 他: 基礎と臨床 21,511,1987.	※03
メトトレキサート	中原佑香里, 他: 医学と薬学 72(4),761,2015.	※03
イマチニブ	Picard S.et al.:Blood 109(8),3496,2007.	※03
L-ドーパ	Felice,L.J. et al.:J.Neurochem. 31,1461,1978. Hegstrand,L.R.and Eichelman, B.:J.Chromatogr. 222,107,1981.	※03
シクロスポリン	古屋 実, 他: 医学と薬学 70(5・6),961,2013.	※03
タクロリムス	同上	※03
<b>腫瘍関連検査</b>		
A F P	臨床検査法提要改訂第 34 版: 金井 正光, 他: 金原出版, 2015	
A F Pレクチン分画	Shimizu, K. et al.:Clin. Chim. Acta 214,3,1993.	※03
C E A	臨床検査法提要改訂第 34 版: 金井 正光, 他: 金原出版, 2015	
C A 1 9 - 9	同上	
C A 1 2 5	同上	
B F P	石井 勝, 他: 癌と化療 15,2107,1988.	※03
T P A		※03
S P a n - 1 抗原	梅山 馨, 他: 脾臓 3,528,1988.	※03
D U P A N - 2	竹森康弘, 他: 癌と化療 14,119,1987.	※03
エラスターゼ1	大出勝也, 沢井時男: 臨床病理 50,376,2002.	※03
P I V K A II 定量		※03
S L X	井村裕夫, 他: 癌と化療 14,1322,1987.	※03
N C C - S T - 4 3 9	大倉久直, 他: 癌と化療 14,1901,1987.	※03
B C A 2 2 5	小林美耶子, 他: 医学と薬学 72(7),1249,2015.	※03
C A 1 5 - 3	梅木尚子, 他: 日臨検自動化会誌 26,143,2001.	※03
N S E	堀田多恵子, 他: 生物試料分析 34(5),345,2011.	※03
P r o G R P	宮越静代, 他: 医学と薬学 63,809,2010. Yoshimura T.et al.:Tumor Biol. 29,224,2008.	※03
S C C 抗原	高木 康, 他: 医学と薬学 52,413,2004.	※03
シフラ	平川寛一郎: 臨床検査機器・試薬 21,289,1998.	※03
前立腺酸性フォスファターゼ	地曳和子, 他: ホルモンと臨床 29,1547,1981.	※03
γ-S m	佐藤達郎, 他: 医学と薬学 43,97,2000.	※03
P S A	臨床検査法提要改訂第 34 版: 金井 正光, 他: 金原出版, 2015	
P S A - A C T	新井京子, 他: 泌尿器外科 17,399,2004.	※03
C A 6 0 2	野澤志朗, 他: 癌と化療 19,2085,1992.	※03
S T N	井村裕夫, 他: 癌と化療 16,3213,1989.	※03
C A 7 2 - 4	青山 昭, 他: 医学と薬学 49,127,2003.	※03
s I L - 2 R	渡邊奈緒美, 他: 臨床病理 60(5),422,2012.	※03
遊離 H C G - β (血清)	菅原由人, 他: 機器・試薬 14,467,1991.	※03
遊離 H C G - β (尿)	同上	※03
I 型 C T P	清原 剛, 他: ホルモンと臨床 42,1189,1994.	※03
[腫瘍関連] デオキシビリジノリン	畠 啓視, 他: ホルモンと臨床 42,659,1994.	※03
[腫瘍関連] N T x	高見 博, 他: ホルモンと臨床 43,655,1995.	※03
H E R 2 蛋白定量	Luftner D, et al: Int. J. of Biol. Markers 19,1,2004.	※03
<b>内分泌学検査</b>		
G H	小山沙世, 他: 医学と薬学 68:899,2012.	※03
L H	金井正光 (監修) 臨床検査法提要 改訂第 34 版 p722-727 金原出版 2015.	
F S H	同上	
A C T H	阿部正樹, 他: 医学と薬学 57,239,2007.	※03
プロラクチン	金井正光 (監修) 臨床検査法提要 改訂第 34 版 p696-697 金原出版 2015.	
A V P (A D H)	大磯ユタカ, 他: 日本内分泌学会誌 62,608,1986. 間脳下垂体機能障害に関する調査研究班: 平成 22 年度 総括・分担研究報告書, 155,2011.	※03
オキシトシン	須藤忠満, 他: ホルモンと臨床 26,179,1978.	※11
ソマトメジン C	Isojima T, et al.:Endocrine J. 59(9),771,2012.	※03
T S H	医学と薬学 46(5): 楚南盛正, 他: 自然科学社, 2001	
T 3	同上	
T 4	同上	
F T 3	同上	
F T 4	同上	
サイログロブリン	北川 亘, 他: 医学と薬学 71:1655,2014.	※03
サイロイドテスト	西野道夫, 日本臨床 63 巻増刊号 8( 通巻 876 号 ) 第 6 版 日本臨床社 p 280-283,2005.	

# 主要参考文献

マイクロソームテスト	西野道夫, 日本臨床 63 巻増刊号 8( 通巻 876 号 ) 第 6 版 日本臨床社 p 280-283,2005.	
抗サイログロブリン抗体	森田新二, 他: 医学と薬学 55(5),775,2006.	※03
抗 T P O 抗体	同上	※03
T S H レセプター抗体	吉村 弘, 他: 医学と薬学 59:1111,2008.	※03
T S A b	上条桂一, 他: 医学と薬学 71(5),903,2014.	※03
T B G	伴 良男, 他: ホルモンと臨床 27,1287,1979.	※03
カルシトニン	北川 亘, 他: 医学と薬学 72:97,2015.	※03
ホルPTH	森山和重, 他: 医学と薬学 70(4):829,2013.	※03
P T H インタクト	臨床化学検査学第 3 版: 浦山 修, 他: 医歯薬出版, 2010	
P T H r P インタクト	福本誠二, 他: ホルモンと臨床 40,1309,1992.	※03
オステオカルシン (血清)	戸来 孝, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 40(1):52,2015.	※03
骨型 A L P	倉澤健太郎, 他: 医学と薬学 55,279,2006.	※03
T O T A L P 1 N P	日高好博: 医学と薬学 70(2),357,2013.	※03
[骨粗鬆症] N T x (血清)	日本骨粗鬆症学会: Osteoporosis Japan 12,191,2004.	※03
[骨粗鬆症] N T x (尿)	同上	※03
T R A C P - 5 b	三木隆巳, 他: 医学と薬学 55,443,2006.	※03
[骨粗鬆症] デオキシピリジノリン	日本骨粗鬆症学会: Osteoporosis Japan 12,191,2004.	※03
カテコールアミン 3 分画 (血漿)	辻 潮, 他: 機器・試薬 11,635,1988.	※03
カテコールアミン 3 分画 (尿)	守 和子: 第 47, 48 回島津デュボン高速液体クロマトグラフィー講座, 高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集 ,p,6-8,1977. Anderson, G.M. et al.:Clin.Chem. 27,2060,1981.	※03
遊離カテコールアミン 3 分画	同上	※03
メタネフリン 2 分画	守 和子: 第 47, 48 回島津デュボン高速液体クロマトグラフィー講座, 高速液体クロマトグラフィーセミナー要旨集 ,p,6-8,1977.	※03
V M A (定量)	Flood, J. G. et al.:Clin. Chem. 25,1234,1979.	※03
H V A (尿)	Rosano, T. G. et al.:Clin. Chem. 27,228,1981.	※03
ドーパミン・総	Hansson, C. et al.:J. Chromatogr. 162,7,1979.	※03
セロトニン (血液)	石田淳一, 他: Jasco Report 39(1,7),7,1997.	※03
セロトニン (血漿)	同上	※03
5 - H I A A (尿)	Rosano, T. G. et al.:Clin. Chem. 28,207,1982.	※03
血漿レニン活性	宇津貴央, 他: 医学と薬学 73(3),311,2016.	※03
レニン濃度	土屋ますみ, 他: 医学と薬学 32,529,1994.	※03
アルドステロン (血漿)	塩之入洋, 他: 医学と薬学 21,293,1989.	※03
アルドステロン (尿)	同上	※03
アンジオテンシン II	Kobayashi,H. et al.:Jpn.Circulation J. 43,727,1979.	※11
A C E	Kasahara, Y. et al.:Clin. Chem. 27,1922,1981.	※03
D O C	栃木武一, 他: ホルモンと臨床 24,1151,1976.	※11
コルチコステロン	Nabors, C.J. et al.:Steroids 23,363,1974.	※11
コルチゾール	花田浩之, 他: 医学と薬学 55,145,2006.	※03
遊離コルチゾール	福島靖恵, 他: 機器・試薬 22,509,1999.	※03
コルチゾン	遠藤 伸, 他: ホルモンと臨床 45,707,1997.	※11
アンドロステンジオン	吉田孝雄, 他: ホルモンと臨床 22(5),671,1974.	※11
アンドロステロン	Youssefnejadian, E.:Steroids 22,63,1973.	※11
1 7 - K G S	神田川明: ホルモンと臨床 22,1311,1974.	※11
1 7 - K G S 分画	同上	※11
1 7 - K S 分画 ( 3 分画)	Suzuki, T. et al.:Endocrine J. 50,571,2003.	※03
1 7 - K S 分画 ( 7 分画)	同上	※03
ステロイド 1 0 分画	同上	※03
D H E A - S	市原清志: 日本臨床検査自動化学会誌 37(Suppl1),36,2012 増戸梨恵, 他: 医学と薬学 56(3),443,2006.	※03
プレグナンジオール	Suzuki, T. et al.:Endocrine J. 50,571,2003.	※03
プレグナントリオール	同上	※03
テストステロン	金井正光 ( 監修 ) 臨床検査法提要改訂 第 34 版 p731-732 金原出版 2015.	
5 α - D H T	穂坂正彦, 他: 日内分泌会誌 49,1391,1973.	※11
プロジェステロン	岩佐 武, 他: 産科と婦人科 73(1),133,2006.	※03
総エストロジェン・非妊婦	高見和子, 他: 日内分泌会誌 59,10,1983.	※11
E 2	金井正光 ( 監修 ) 臨床検査法提要改訂 第 34 版 p732-734 金原出版 2015.	
E 3		※11
H C G	異常値の出るメカニズム第 6 版: 河合 忠, 他: 医学書院, 2013	
H C G (尿)	同上	
H C G (尿) 定性	櫻木郁之介, 他: 検査項辞苑第 2 版 大塚製薬株式会社 大塚アッセイ研究所発行 p530,1999.	
H P L	望月真人: 日本臨床 53( 増刊 広範囲血液・尿化学検査, 免疫学的検査 ( 中巻 ) ),600,1995.	※03
癌胎児性 F N	一條元彦, 他: 産婦人科治療 67,212,1993.	※03
インスリン	臨床検査法提要改訂第 34 版: 金井正光, 他: 金原出版, 2015	
インスリン抗体	村山 寛, 他: 医学と薬学 60,289,2008.	※03
抗 G A D 抗体	及川洋一, 他: 医学と薬学 72(9),1551,2015.	※03
抗 I A - 2 抗体	松浦信夫, 他: プラクティス 16,567,1999.	※03
C - ペプチド (血清)	武田真一, 他: 医学と薬学 51,143,2004.	※03
C - ペプチド (尿)	同上	※03
ガストリン	竹田昌弘, 他: ホルモンと臨床 31,1123,1983.	※03

BNP	.....	新BNPと日常臨床第2版: 葛本尚慶, 齊藤能彦編, 南江堂, 2006	
NT-proBNP	.....	臨床検査法提要改訂第34版: 金井正光, 他: 金原出版, 2015	
HANP	.....	積田智佳, 他: 検査機器・試薬 36(5), 699, 2013.	※03
エリスロポエチン	.....	増田詩織, 他: 医学と薬学 67(2)297, 2012.	※03
	.....	市原清志: 日本臨床検査自動化学会誌 37(suppl.1):15, 2012.	
肝細胞増殖因子	.....	武藤泰敏, 他: 肝胆膵 25, 541, 1992.	※03
C-AMP(血漿)	.....	Honma, M. et al.: Biochem. Med. 18, 257, 1977.	※03
免疫血清学検査			
ASK価	.....	加野象次郎, 日本臨床 63 卷 増刊号 6 版 日本臨床社, p 127-135 2005.	
ASO価	.....	臨床検査法提要改訂第34版: 金井正光, 他: 金原出版, 2015	
RPR 定性	.....	櫻木郁之介, 他: 検査項辞苑第2版 大塚製薬 p 725	
RPR	.....	同上	
TPHA 定性	.....	西井久枝, 松本哲郎 日本臨床 63 卷 増刊号 7 第 6 版 日本臨床社 p 140-141, 2005.	
TPHA	.....	同上	
FTA-ABS 定性	.....	金井正光(編著): 臨床検査法提要(改訂第34版), p.917, 金原出版, 東京, 2015.	※03
マイコプラズマ抗体(PA)	.....	福島和子, 日本臨床 63 卷 増刊号 7 第 6 版 日本臨床社 p 227-230 2005.	
マイコプラズマ抗体(CF)	.....	富山哲雄: 臨床検査 19, 1240, 1975.	※03
マイコプラズマ抗体IgM	.....	福島和子, 日本臨床 63 卷 増刊号 7 第 6 版 日本臨床社 p 227-230 2005.	
寒冷凝集反応	.....	窪田哲朗, 臨床検査講座第2版 免疫検査学 医歯薬出版 p 120, 198-199 2005.	
百日咳菌抗体	.....	岡田賢司: 医学と薬学 65(4), 531, 2011.	※03
	.....	岡田賢司: 臨床検査 56(4), 412, 2012.	
トキソプラズマIgG	.....	田畑宏道, 高橋亜紀: 医学と薬学 71(1), 145, 2014.	※03
トキソプラズマIgM	.....	同上	※03
エンドトキシン定量	.....	石原美弥子, 他: 検査と技術 30, 739, 2003.	※03
透析液エンドトキシン	.....	透析液水質基準と血液浄化器性能評価基準 2008(透析会誌 41(3)): 秋葉 隆, 他: 日本透析医学会, 2008	
β-D-グルカン	.....	吉田耕一郎, 他: 医学と薬学 67, 895, 2012.	※03
	.....	大林民典: 臨床病理 44, 528, 1996.	
ツツガムギリアムIgG	.....	山本正悟: 臨床とウイルス 12, 270, 1984.	※17
ツツガムギリアムIgM	.....	同上	※17
ツツガムカトーIgG	.....	同上	※17
ツツガムカトーIgM	.....	同上	※17
ツツガムカーブIgG	.....	同上	※17
ツツガムカーブIgM	.....	同上	※17
オーム病抗体	.....	厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査(第2版), p.73(財)日本公衆衛生協会, 東京, 1978.	※03
	.....	Uyeda, C.T. et al.: J. Clin. Microbiol. 20, 948, 1984.	
	.....	Friis, B. et al.: Microbiol. Immunol. Scand. Sect. B 92, 139, 1984.	
カンジダ抗原	.....	小笠原仁, 他: 機器・試薬 10, 1183, 1987.	※03
アスペルギルス抗原	.....	見手倉久治, 他: 医学と薬学 42, 207, 1999.	※03
アスペルギルス抗体	.....	Walter, J.S. et al.: Dis. Chest 53, 729, 1968.	※03
クラミジア・トラコーマチス同定(ぬぐい液)	.....	納富 貴, 他: 感染症誌 72, 45, 1998.	※03
クラミジア・トラコーマチス同定(尿)	.....	同上	※03
クラミジア・ニューモニエ抗体IgA&IgG	.....	岸本寿男, 他: 感染症学雑誌 70, 821, 1996.	※24
クラミジア・ニューモニエ抗体IgM	.....	同上	※24
クラミジア・トラコーマチス同定DNA(尿)(TaqManPCR法)	.....	熊本悦明, 他: 医学と薬学 66(6), 1007, 2011.	※03
クラミジア・トラコーマチス同定DNA(ぬぐい液)(TaqManPCR法)	.....	同上	※03
クラミジア・トラコーマチス同定DNA(うがい液)(TaqManPCR法)	.....	同上	※03
クラミジア・トラコーマチス同定DNA(SDA法)	.....	澤田直登: 臨床微生物迅速診断研究会誌 14, 31, 2003.	※03
淋菌同定DNA(TaqManPCR法)	.....	熊本悦明, 他: 医学と薬学 66(6), 1007, 2011.	※03
淋菌同定DNA(SDA法)	.....	澤田直登: 臨床微生物迅速診断研究会誌 14, 31, 2003.	※03
ヘリコバクター・ピロリ抗体IgG	.....	井上和彦, 他: 医学と薬学 72, 331, 2015.	※03
便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	.....	神谷 茂, 他: 感染症誌 76, 378, 2002.	※03
尿素呼吸試験	.....	金井正光(監修): 臨床検査法提要(改訂第34版) p 1399-1400 金原出版, 2015.6.30	
プレアルブミン	.....	河合 忠, 他: 臨床病理 44(5), 429, 1996.	※03
尿中マイクログロブリン	.....	中原一彦, 他: 日本臨床 62 卷 増刊号 11 第 6 版 日本臨床社 p 88-90 2004.	
α1マイクログロブリン	.....	中野 卓, 他: 機器・試薬 11, 469, 1988.	※03
β2-m	.....	臨床検査法提要改訂第34版: 金井正光, 他: 金原出版, 2015	
(尿)β2-m	.....	同上	
フェリチン	.....	金井正光(監修)臨床検査法提要改訂第34版 p461-462 金原出版 2015.	
ハプトグロビン(Hp)型判定	.....	河合 忠, 他: 臨床病理(特集第101号), 207, 1996.	※03
α2マクログロブリン	.....	飯村康夫, 他: 日本臨床 42(春季臨増), 1209, 1984.	※03

# 主要参考文献

α1アンチトリプシン	.....	山下順香,他:医学と薬学 29,1239,1993.	※03
CRP	.....	臨床化学検査学第3版:浦山修,他:医歯薬出版,2010	
アミロイドA	.....	香坂隆夫,他:医学と薬学 31,1191,1994.	※03
セルロプラスミン	.....	飯村康夫,他:日本臨牀 42(春季臨増),1209,1984.	※03
C3	.....	金井正光,他:臨床検査法提要(改訂第33版)金原出版 p 740-744,2010.	
C4	.....	同上	
CH50	.....	同上	
ニューモシスチス・カリニーDNA同定	.....	Kitada, K. et al.:J.Clin.Microbiol. 29,1985,1991.	※03
トランスフェリン	.....	島英明,他:医学と薬学 32,145,1994.	※03
尿中トランスフェリン	.....	齊藤良一,他:日本臨床検査自動化学会誌 25(5),687,2000.	※03
クリオグロブリン	.....	Okazaki, T. et al.Clin.Chem. 47,1558,1998.	※03
ミオグロビン(血清)	.....	太田直孝,他:機器・試薬 23,35,2000.	※03
ミオグロビン(尿)	.....	吉川文雄,他:医学と薬学 37,1255,1997.	※03
ミオシン軽鎖I	.....	宮崎修一,他:医学と薬学 52,443,2004.	※03
高感度心筋トロポニンI	.....	Ricchiuti V, et al. :Clin Chem 45(12),2129,1999. Buiten MS, et al. :PLoS One 10(8), e0134245, 2015.	※03
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白	.....	奥田優子,他:日本臨床検査自動化学会誌 35(3),283,2010.	※03
プロコラーゲンⅢペプチド	.....	上野隆登,他:医学と薬学 24,675,1990.	※03
Ⅳ型コラーゲン	.....	重村雅彦,他:日臨検自動化会誌 28,513,2003.	※03
尿中Ⅳ型コラーゲン	.....	東野勲,他:Lab.Clin.Pract. 19,8,2001.	※03
TARC	.....	石田俊雄,他:医学と薬学 58,901,2007. 藤澤隆夫,他:日本小児アレルギー学会誌 19,744,2005. 玉置邦彦,他:日本皮膚科学会雑誌 116,27,2006. Sugawara N, et al.:Allergy 57,180,2002.	※03
肺サーファクタントプロテインD	.....	田中誠仁,他:医学と薬学 59,439,2008.	※03
免疫電気泳動(IEP)	.....	Richie, R.F. et al.:Clin.Chem.22,497,1976. 広瀬美子,他:臨床検査機器・試薬 16,253,1993.	※03
尿中免疫電気泳動	.....	長縄謹子:検査と技術 12,401,1984.	※03
IgG インデックス	.....	中島一郎:Animus 8,38,2003.	※03
抗アクアポリン4抗体	.....	松下拓也,他:医学と薬学 70(4),821,2013. 「多発性硬化症治療ガイドライン」作成委員会:多発性硬化症治療ガイドライン 2010,2010.	※03
オリゴクローナルバンド	.....	中島一郎:Animus 8,38,2003.	※03
IgG	.....	臨床病理(特集 101)(1996) p 207~209	
IgA	.....	同上	
IgM	.....	同上	
IgD	.....	井山茂,他:生物試料分析 8(2),43,1985.	※03
IgE(非特異的IgE)	.....	臨床検査法提要改訂第34版:金井正光,他;金原出版,2015	
アトピー鑑別試験	.....	同上	
RAST-16	.....	同上	
ViewLish <sup>®</sup> -39	.....	鈴木義徳,他:臨床病理 60(7),621,2012.	※03
RF定量	.....	日本臨床増刊号第5版 p 386~389 1999	
IgG-RF	.....		※21
抗ガラクトース欠損IgG抗体(CA・RF)	.....	山田雄二,他:基礎と臨床 31,81,1997.	※37
抗CCP抗体	.....	山下里美,他:医学と薬学 66(3),569,2011.	※03
抗核抗体	.....	柴崎光衛,他:医学と薬学 36,319,1996.	※03
抗DNA抗体(RIA)	.....	宮脇晶二,他:日臨免疫会誌 17,164,1994.	※03
抗dsDNA抗体IgG	.....	西山進,他:医学と薬学 69(4),689,2013. 磯田健太郎,他:医学と薬学 70(1),119,2013.	※03
抗dsDNA抗体IgM	.....		※03
抗ssDNA抗体IgG	.....	西山進,他:医学と薬学 69(4),689,2013. 磯田健太郎,他:医学と薬学 70(1),119,2013.	※03
抗RNP抗体(免疫拡散法)	.....	石川英一,竹内裕子:臨床免疫 17,221,1985.	※03
抗RNP抗体(CLEIA)	.....	西山進,他:医学と薬学 68(2),345,2012.	※03
抗Sm抗体(免疫拡散法)	.....	石川英一,竹内裕子:臨床免疫 17,221,1985.	※03
抗Sm抗体(CLEIA)	.....	西山進,他:医学と薬学 68(2),345,2012.	※03
抗SS-A抗体(免疫拡散法)	.....	宮脇昌二,小豆沢秀夫:臨床免疫 14,127,1982.	※03
抗SS-A抗体(CLEIA)	.....	西山進,他:医学と薬学 68(2),345,2012.	※03
抗SS-B抗体(免疫拡散法)	.....	宮脇昌二,小豆沢秀夫:臨床免疫 14,127,1982.	※03
抗SS-B抗体(CLEIA)	.....	西山進,他:医学と薬学 68(2),345,2012.	※03
抗Scl-70抗体(免疫拡散法)	.....	Douvas, S.A. et al.:J.Biol.Chem. 254,10514,1979.	※03
抗Scl-70抗体(CLEIA)	.....	小島和夫,他:医学と薬学 69(4),677,2013.	※03
抗Jo-1抗体	.....	西海正彦:機器・試薬 13,835,1990.	※03
抗ARS抗体	.....	吉藤元:医学のあゆみ 239(1),71,2011.	※03
抗セントロメア抗体	.....	小島和夫,他:医学と薬学 69(4),677,2013.	※03
抗ミトコンドリア抗体	.....	長島秀夫,小出典男:日本臨牀 42(春季臨増),1416,1984.	※03
抗ミトコンドリアM2抗体	.....	丹野 瑞木,他:医学と薬学 67(3),485,2012.	※03
抗平滑筋抗体	.....	長島秀夫,他:日本臨牀 42(春季臨増),1430,1984.	※03
抗LKM-1抗体	.....	宮川 浩,他:医学と薬学 44,121,2000.	※03
抗好中球細胞質抗体	.....	松下雅和,他:医学と薬学 66(5),823,2011.	※03
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体	.....	同上	※03



抗糸球体基底膜抗体	……………	臼井丈一,他:医学と薬学 68(4),697,2012.	※03
抗胃壁細胞抗体	……………	Jeffries,G.H. et al.:J.Clin.Invest. 44,2021,1965.	※18
抗C L B 2 G P I 抗体	……………	小池隆夫,他:医学と薬学 26,535,1991.	※03
抗C L リン抗体 ( I g G )	……………	岡田 純,他:医学と薬学 36,1389,1996.	※03
抗アセチルコリンレセプター結合抗体	……………	太田光熙,他:ホルモンと臨床 48,89,2000.	※03
ミエリンベシク蛋白	……………	Mitsuhiro O.et al.:Clin.Chem. 46(9),1326,2000.	※03
免疫複合体	……………	上田 章,他:医学と薬学 24,115,1990.	※03
抗血小板抗体	……………	坂本久治:Med. Technol. 11,724,1983.	※03
P A - I g G	……………	倉田義之,他:臨床検査 32,641,1988.	※03
A B O 血液型	……………	小崎繁昭,新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 29-30,2009.	
R h ( D ) 血液型	……………	小崎繁昭,新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 32-34,2009.	
R h - H r 式血液型	……………	山崎順啓:Med. Technol. 11,631,1983.	※03
直接クームス試験	……………	小崎繁昭,新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 58-59,2009.	
間接クームス試験	……………	小崎繁昭,新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 38,2009.	
間接クームス試験 定量	……………	小崎繁昭,新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 132,2009.	
不規則性抗体	……………	小崎繁昭,新輸血検査の実際 初版(日本臨床衛生検査技師会) p 43-54,2009.	
<b>ウイルス学検査</b>			
単純ヘルペス ( C F )	……………	井上 栄:臨床検査 17,838,1973. 厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リッチクア検査(第3版)第IⅡⅢ分冊,日本公衆衛生協会,東京,1987. 国立予防衛生研究所学友会(編):ウイルス実験学各論(改訂二版),p.133-135,丸善,東京,1982.	※03
水痘・帯状ヘルペス ( C F )	……………	同上	※03
サイトメガロ ( C F )	……………	同上	※03
アデノ ( C F )	……………	同上	※03
インフルエンザ A 型 ( C F )	……………	同上	※03
インフルエンザ B 型 ( C F )	……………	同上	※03
R S ( C F )	……………	同上	※03
ムンプス ( C F )	……………	同上	※03
日本脳炎 ( C F )	……………	同上	※03
ポリオ 1 型 ( C F )	……………	同上	※03
ポリオ 2 型 ( C F )	……………	同上	※03
ポリオ 3 型 ( C F )	……………	同上	※03
コクサッキー A 群 ( C F )	……………	同上	※03
コクサッキー B 群 1 型 ( C F )	……………	同上	※03
コクサッキー B 群 2 型 ( C F )	……………	同上	※03
コクサッキー B 群 3 型 ( C F )	……………	同上	※03
コクサッキー B 群 4 型 ( C F )	……………	同上	※03
コクサッキー B 群 5 型 ( C F )	……………	同上	※03
コクサッキー B 群 6 型 ( C F )	……………	同上	※03
インフルエンザ ( H I )	……………	臨床ウイルス談話会(編):ウイルス実験室診断法,p.76-86,101-105,日本栄養化学,東京,1964. 芦原義守:臨床とウイルス 別冊,77,1975. 国立予防衛生研究所学友会(編):ウイルス実験学各論(改訂二版),p.133-135,丸善,東京,1982. 厚生省監修:微生物検査必携 ウイルス・クラミジア・リッチクア検査(第3版)第IⅡⅢ分冊,日本公衆衛生協会,東京,1987.	※03
パラインフルエンザ 1 型 ( H I )	……………	同上	※03
パラインフルエンザ 2 型 ( H I )	……………	同上	※03
パラインフルエンザ 3 型 ( H I )	……………	同上	※03
ムンプス ( H I )	……………	同上	※03
麻疹 ( H I )	……………	同上	※03
風疹 ( H I )	……………	同上	※03
エコー 3 型 ( H I )	……………	同上	※03
エコー 7 型 ( H I )	……………	同上	※03
エコー 1 1 型 ( H I )	……………	同上	※03
エコー 1 2 型 ( H I )	……………	同上	※03
日本脳炎 ( H I )	……………	同上	※16
風疹抗体価 ( L A )	……………	金井正光:臨床検査法提要(改訂第34版) p 1127	
単純ヘルペス 1 型 ( N T )	……………	石井慶蔵:免疫血清検査(臨床検査技術全書4),p.235-262,医学書院,東京,1973. 国立予防衛生研究所学友会(編):ウイルス実験学各論(改訂二版),p.52,72-73,132-139,丸善,東京,1982.	※03
単純ヘルペス 2 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 1 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 2 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 3 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 4 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 5 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 6 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 7 型 ( N T )	……………	同上	※03
アデノ 8 型 ( N T )	……………	同上	※03

# 主要参考文献

アデノ11型 (NT)	石井慶蔵: 免疫血清検査 (臨床検査技術全書 4), p.235-262, 医学書院, 東京, 1973.	※03
	国立予防衛生研究所学友会 (編): ウイルス実験学各論 (改訂二版), p.52, 72-73, 132-139, 丸善, 東京, 1982.	
アデノ19型 (NT)	同上	※03
アデノ37型 (NT)	同上	※16
RS (NT)	同上	※03
ムンプス (NT)	同上	※03
麻疹 (NT)	同上	※03
ポリオ1型 (NT)	同上	※17
ポリオ2型 (NT)	同上	※17
ポリオ3型 (NT)	同上	※17
コクサッキーA群2型 (NT)	同上	※16
コクサッキーA群3型 (NT)	同上	※16
コクサッキーA群4型 (NT)	同上	※03
コクサッキーA群5型 (NT)	同上	※16
コクサッキーA群6型 (NT)	同上	※03
コクサッキーA群7型 (NT)	同上	※03
コクサッキーA群9型 (NT)	同上	※03
コクサッキーA群10型 (NT)	同上	※03
コクサッキーA群16型 (NT)	同上	※03
コクサッキーB群1型 (NT)	同上	※03
コクサッキーB群2型 (NT)	同上	※03
コクサッキーB群3型 (NT)	同上	※03
コクサッキーB群4型 (NT)	同上	※03
コクサッキーB群5型 (NT)	同上	※03
コクサッキーB群6型 (NT)	同上	※03
エコー1型 (NT)	同上	※03
エコー3型 (NT)	同上	※03
エコー4型 (NT)	同上	※03
エコー5型 (NT)	同上	※03
エコー6型 (NT)	同上	※03
エコー7型 (NT)	同上	※03
エコー9型 (NT)	同上	※03
エコー11型 (NT)	同上	※03
エコー12型 (NT)	同上	※03
エコー13型 (NT)	同上	※03
エコー14型 (NT)	同上	※03
エコー16型 (NT)	同上	※03
エコー17型 (NT)	同上	※03
エコー18型 (NT)	同上	※03
エコー19型 (NT)	同上	※03
エコー21型 (NT)	同上	※03
エコー22型 (NT)	同上	※03
エコー24型 (NT)	同上	※03
エコー25型 (NT)	同上	※03
エコー30型 (NT)	同上	※03
エンテロ70型 (NT)	同上	※03
エンテロ71型 (NT)	同上	※03
EBV VCA IgG	日沼頼夫, 他: 臨床病理 (特集第35号), 179, 1978.	※03
EBV VCA IgM	同上	※03
EBV VCA IgA	同上	※03
EBV EA-DR IgG	同上	※03
EBV EA-DR IgA	同上	※03
EBV EBNA	同上	※03
水痘・帯状ヘルペス定量 IgG	厚生省監修: 微生物検査必携 ウイルス・リケッチア検査 (第3版第1分冊), p.48-61, 日本公衆衛生協会, 東京, 1987.	※03
水痘・帯状ヘルペス定量 IgM	同上	※03
風疹 IgG	同上	※03
風疹 IgM	同上	※03
麻疹 IgG	同上	※03
麻疹 IgM	同上	※03
単純ヘルペス IgG	同上	※03
単純ヘルペス IgM	同上	※03
サイトメガロ IgG	同上	※03
サイトメガロ IgM	同上	※03
ムンプス IgG	同上	※03
ムンプス IgM	同上	※03
パルボウイルスB19 IgG	要藤裕孝, 他: 感染症誌 69, 1135, 1995.	※03
パルボウイルスB19 IgM	同上	※03
HTLV-I抗体価	大黒 学, 日本臨床 63 巻増刊号 7(通巻 874 号) 第 6 版 日本臨床社 p 430-433 2005.	
HIV 抗原・抗体	武田 悟, 他: Prog.Med. 27, 425, 2007.	※03

H I V - 1 抗体	.....	Garo, R. et al.:New Engl. J.Med. 312,265,1985.	※03
H I V - 2 抗体	.....	菱田 靖, 他: 医学と薬学 27,959,1992.	※03
単純ヘルペスウイルス特異抗原	.....	Espy,M.J. et al.:J.Clin.Microbiol. 26,22,1988.	※03
サイトメガロウイルス抗原	.....	浅井隆善, 他: 今日の移植 7,553,1994.	※03
ノロウイルス ( S R S V ) - R N A 同定	.....	武田直和, 他: 臨床栄養 94,768,1999.	※03
H P V - D N A 同定	.....	石 和久, 他: 医学と薬学 39,849,1998.	※03
H P V 核酸検出	.....	三浦俊昭, 他: 医学と薬学 69(1),157,2013.	※03
H A 抗体	.....	矢野公士, 他: 医学と薬学 58,151,2007.	※03
I g M - H A 抗体	.....	同上	※03
H B s 抗原 定性	.....	大黒 学, 日本臨床 63 巻増刊号 7 第 6 版 日本臨床社 p 404-407 2005.	
H B s 抗原	.....	同上	
H B s 抗体 半定量	.....	同上	
H B s 抗体	.....	同上	
H B e 抗原	.....	同上	
H B e 抗体	.....	同上	
H B c 抗体	.....	金井正光, 他: 臨床検査法提要 34 版 金原出版 p 1447-1455.	
I g M - H B c 抗体	.....	中尾瑠美子, 他: 医学と薬学 52,847,2004.	※03
H B V - D N A 定量	.....	佐々木沙耶, 他: 医学と薬学 61(5),787,2009.	※03
H B V プレコア / コアプロモーター変異検出	.....	松山和弘, 他: 肝胆臓 41,59,2000.	※03
H C V 抗体 - II	.....	金井正光, 他: 臨床検査法提要 34 版 金原出版 p 1456-1459,2015.	
H C V 抗体 - III	.....	小柳博明, 他: 医学と薬学 55,467,2006.	※03
H C V 群別	.....	長谷川瞳, 他: 医学と薬学 70(3),633,2013.	※03
H C V コア抗原	.....	八橋 弘, 他: 医学と薬学 68(1),157,2012.	※03
H C V - R N A 定量	.....	佐々木沙耶, 他: 医学と薬学 70(3),669,2013.	※03

**細胞性免疫検査**

T 細胞・B 細胞百分率	.....	松元康治, 他: 臨床免疫 16,862,1984. 網野信行, 他: 細胞性免疫機能検査のすべて ,p.102, 医歯薬出版, 東京, 1985.	※03
I g G - F c R + T 細胞百分率	.....	同上	※03
リンパ球幼若化試験 P H A	.....	大野竜三, 岩本公史: 免疫実験操作法 C ,p.2197, 日本免疫学 ( 編 ),1978.	※03
リンパ球幼若化試験 C o n A	.....	大野竜三, 三島秀人: 免疫実験操作法 B ,p.1417, 日本免疫学 ( 編 ),1976.	※03
B 細胞表面免疫グロブリン S m - I g T o t a l	.....	田沢裕光, 他: 臨床病理 33,426,1985.	※03
B 細胞表面免疫グロブリン S m - I g G	.....	同上	※03
B 細胞表面免疫グロブリン S m - I g A	.....	同上	※03
B 細胞表面免疫グロブリン S m - I g M	.....	同上	※03
B 細胞表面免疫グロブリン S m - I g M	.....	同上	※03
B 細胞表面免疫グロブリン S m - I g x	.....	同上	※03
B 細胞表面免疫グロブリン S m - I g λ	.....	同上	※03
L A K 活性 ( 非誘導 )	.....	高木秀二: 臨床免疫 19(Suppl.2),245,1987.	※03
L A K 活性 ( 誘導 )	.....	同上	※03
好中球貪食能	.....	関 秀俊, 多賀千之: Immunohaematol. 7,483,1985.	※03
好中球殺菌能	.....	関 秀俊, 他: 臨床病理 33,371,1985.	※03
H L A 型判定 ( A , B L o c u s )	.....	吉川枝里, 他: MHC 10,21,2003.	※03
H L A 型判定 ( D R L o c u s )	.....	同上	※03
H L A 遺伝子型判定 ( A L o c u s )	.....	猪子英俊, 他 ( 監修 ): 移植・輸血検査学, 講談社, 東京, 2004.	※03
H L A 遺伝子型判定 ( B L o c u s )	.....	同上	※03
H L A 遺伝子型判定 ( C L o c u s )	.....	同上	※03

**染色体検査**

G バンド分染法	.....	福島義光, 井上信男: 臨床検査 28,759,1984. 寺島 寛: 病理形態検査 ( 臨床検査技術全書 8 ),p.456, 医学書院, 東京, 1978.	※03
Q バンド分染法	.....	同上	※03
R バンド分染法	.....	同上	※03
C バンド分染法	.....	同上	※03
脆弱 X 染色体	.....	同上	※03
高精度分染法	.....	同上	※03



## 血液学検査

白血球数	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 18-23,56-57 2012.4.15	
赤血球数	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 11-18,52-56 2012.4.15	
ヘモグロビン	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 11-18,45-47 2012.4.15	
ヘマトクリット	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 47-50 2012.4.15	
血小板数	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 23-26,35,57-59 2012.4.15	
網赤血球数	.....	日本臨牀 62 巻 増刊号 (通巻 860 号) 第 6 版 p 558-560.	
鼻汁好酸球	.....	三村邦裕, 他: 臨床検査学講座 第 3 版 臨床検査総論 p 158 2013.1.10	
末梢血液像 (5 分類)	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 5-23,63-66,200-224 2012.4.15	
末梢血液像 (6 分類)	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 血液検査学 第一版第一刷 p 5-23,200-224 2012.4.15	
マラリア原虫	.....	金井正光 (編著): 臨床検査法提要 (改訂第 29 版), p.313, 金原出版, 東京, 1983.	※03
プロテインC(定量)	.....	有村国明, 木村典子: 機器・試薬 15,159,1992.	※03
プラスミノゲン活性	.....	板東史郎, 他: 機器・試薬 8,811,1985.	※03
アンチトロンビンⅢ抗原	.....	伊藤忠一: 検査と技術 16,593,1988.	※03
アンチトロンビンⅢ活性	.....	検査と技術 増刊号 第 28 巻 第 7 号 p879-881 2000.6.15	
P T 時間	.....	矢富 裕, 他: 標準臨床検査学 第一版第一刷 p 153-155 2012.4.15	
A P T T	.....	金井正光 (監修) 臨床検査法提要 改訂第 34 版 p 392-395 金原出版 2015.6.30	
フィブリノゲン	.....	金井正光 (監修) 臨床検査法提要 改訂第 34 版 p 402 金原出版 2015.6.30	
トロンボテスト	.....	日本臨牀 62 巻 増刊号 12(通巻 860 号) 第 6 版 p 594-596 2004.12.28	
ヘパラスチンテスト	.....	日本臨牀 62 巻 増刊号 12(通巻 860 号) 第 6 版 p 594-596 2004.12.28	
D-Dダイマー	.....	Medical Technology Vol 35 No2 p132-139 2007.2.15	
(血中)F D P 定量	.....	同上	
(尿)F D P	.....	堀内伸純, 他: 機器・試薬 14,267,1991.	※03
T A T	.....	木村真波, 他: 機器・試薬 33,525,2010.	※03
アンチプラスミン (活性)	.....	坂東史郎, 他: 機器・試薬 8,811,1985.	※03
P I C テスト	.....	徐 吉夫, 他: 機器・試薬 16,1107,1993.	※03
P I V K A II 凝固	.....	草野正芳, 他: 医療と検査機器・試薬 35(1),87,2012.	※03
β- トロンボグロブリン	.....	高橋芳右, 他: 血液と脈管 18,326,1987.	※03
P F - 4	.....	同上	※03
フォン・ウィルブラント因子定量	.....	Peltier, J.Y. et al.: Proceeding of XVI th Congress of the ISTH, 513, 1997.	※03
フォン・ウィルブラント因子活性	.....	杉原卓郎: 機器・試薬 6,321,1983.	※03
ルーブスアンチコアグラント	.....	佐藤久美子, 他: 臨床病理 43,263,1995.	※03
第Ⅱ因子活性	.....	安達眞二, 他: Med. Technol. 24,629,1996.	※03
第Ⅴ因子活性	.....	同上	※03
第Ⅶ因子活性	.....	同上	※03
第Ⅷ因子活性	.....	同上	※03
第Ⅸ因子活性	.....	同上	※03
第Ⅹ因子活性	.....	同上	※03
第Ⅺ因子活性	.....	同上	※03
第Ⅻ因子活性	.....	同上	※03
第Ⅻ因子定量	.....	Fikenscher, K. et al.: Thromb. Haemost. 65,535,1991.	※03
第Ⅷ因子インヒビター	.....	高松純樹: 日本臨牀 57(増刊 広範囲血液・尿化学検査、免疫学的検査 2), 604, 1999.	※03
第Ⅸ因子インヒビター	.....	日笠 聡: 日本臨牀 57(増刊 広範囲血液・尿化学検査、免疫学的検査 2), 611, 1999.	※03

## 一般臨床検査

尿一般検査	.....	金井正光 (監修): 臨床検査法提要 (改訂第 34 版) 金原出版, 2015.6.30	
(蓄尿) 尿蛋白	.....	大野岩男, 日本臨牀 62 巻 増刊号 11 第 6 版 日本臨牀社 p 84-87, 2004.	
(蓄尿) 尿グルコース	.....	河原玲子, 日本臨牀 62 巻 増刊号 11 第 6 版 日本臨牀社 p 627-629, 2004.	
尿沈渣顕微鏡検査	.....	社団法人 日本臨床衛生検査技師会 尿沈渣検査法 2000 社団法人 日本臨床衛生検査技師会 尿沈渣検査法 2010	
便中 H b 定性	.....	金井正光 (監修): 臨床検査法提要 (改訂第 34 版) p 165-167 金原出版, 2015.6.30	
虫卵 (集卵法)	.....	金井正光 (監修): 臨床検査法提要 (改訂第 34 版) p 193-195 金原出版, 2015.6.30	
虫卵 (塗抹法)	.....	同上	
虫体鑑別	.....	横川 定, 他: 人体寄生虫学提要, 菊屋書房, 東京, 1974.	※03

**病理学検査**

病理組織検査	.....	三友喜夫：病理学（臨床検査講座），医歯薬出版，東京，1982。 渡辺恒彦，福島範子，他（編）：病理技術マニュアル（日本病理学会編），医歯薬出版，東京，1986。 佐野 豊：組織学検査法，南山堂，東京，1976。 影山圭三（編）：病理組織標本の作り方，医学書院，東京，1975。 平山 章：病理組織標本染色法，清至書院，東京，1982。 飯島宗一（編）：組織病理アトラス，文光堂，東京，1984。 石川栄世（編）：外科病理学，文光堂，東京，1984。 齋藤 脩，他：整形外科病理，HBJ 出版局，東京，1987。 笹井陽一郎：皮膚病理組織学，金原出版，東京，1986。 檜澤一夫，他（編）：筋病理学，文光堂，東京，1989。 島峰徹郎（編）：骨髄組織病理アトラス，文光堂，東京，1984。 宮地 徹，他：耳鼻咽喉科領域の病理，杏林書院，東京，1992。 渡辺慶一，他（編）：酵素抗体法，学際企画，東京，1992。 渡辺慶一，他（編）：免疫組織化学（病理と臨床 臨時増刊），文光堂，東京，1989。	※04.07
細胞診	.....	石束嘉男：細胞診の実際，医学書院，東京，1977。 Koss,L.G.: 細胞診断学 - その病理組織学的基礎（太田邦夫，石束嘉男 訳），医学書院，東京，1964。 服部正次：細胞診断，医歯薬出版，東京，1977。 田中 昇（編）：細胞診教本，宇宙堂八木書店，東京，1981。 小島 端（編）：細胞診とその技術（日本病理学会編），医歯薬出版，東京，1981。 矢谷隆一，他：細胞診を学ぶ人のために，医学書院，東京，1992。 坂本穆彦，他：臨床細胞診断学アトラス，文光堂，東京，1993。 沢田勤也：肺癌の細胞診，医学書院，東京，1985。 蔵本博行：カラーアトラス 子宮体癌検診，医学書院，東京，1989。 栗田宗次，他：悪性リンパ腫細胞診アトラス，名古屋大学出版，愛知，1994。	※04.07
HER2/neu(IHC法)	.....	Jacobs,T.W. et al.:J.Clin.Oncol. 17,1983,1999. Espinoza,F.and Anguiano,A.:J.Clin.Oncol. 17,2293,1999.	※03
HER2/neu(FISH法)	.....	Persons,D.L. et al.:Ann.Clin.Lab.Sci. 30,41,2000.	※03
エストロゲンレセプター	.....		※03
プロジェステロンレセプター	.....		※03

**微生物学検査**

一般細菌塗抹	.....	小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック .2011。 永田邦昭：感染症診断に役立つグラム染色 2006，守殿貞天・荒川創一（監修）ひとめでわかる微生物検査 3 トラス 2000	
簡易培養検査	.....	小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック .2011。 堀井俊伸（監修）：微生物検査ナビ 2013。 山口英世（著）：病原真菌と真菌症 1999。	
嫌気性培養	.....	宮治 誠，西村和子（編著）医真菌学辞典（第2版）1993。	
細菌培養同定検査	.....	小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック .2011。 山中喜代治，他：カラーアトラス微生物検査 .1996。 坂崎利一（監修）：医学細菌同定の手びき .1993。	
大腸菌抗原同定検査	.....	小栗豊子：臨床微生物検査ハンドブック .2011。	
細菌薬剤感受性検査	.....		
抗酸菌塗抹	.....	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2007, p 21-30	
抗酸菌分離培養検査	.....	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2007, p 31-50	
抗酸菌同定DDH	.....	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2007, p 51-80	
抗酸菌薬剤感受性検査	.....	財団法人 結核予防会 結核菌検査指針 2007, p 95-122	
結核菌群同定	.....	渡邊あゆみ，他：医学と薬学 58,331,2007.	※03
MAC同定-DNA	.....	田口直子，他：医学と薬学 62,121,2009.	※03
QFT-TB(第3世代)	.....	森 享：現場で役に立つ IGRA 使用の手引き，公益財団法人結核予防会，2015。	

01 汎用容器 (分離剤入り)		
	容量	8.5 mL
	添加剤	—
	保管方法	常温
	有効期間	1年
	主な検査項目	

02 汎用容器		
	容量	4 mL
	添加剤	—
	保管方法	常温
	有効期間	3年
	主な検査項目	血清、血漿提出用

03 汎用容器 (分離剤なし)		
	容量	5 mL
	添加剤	—
	保管方法	常温
	有効期間	1.5年
	主な検査項目	クームス試験等

04 グルコース・HbA1c 用容器		
	採取量	2 mL
	添加剤	NaF EDTA-2Na
	保管方法	常温
	有効期間	1.5年
	主な検査項目	グルコース HbA1c

05 アンモニア用容器		
	採取量	1 mL
	添加剤	除蛋白液 4 mL
	保管方法	常温
	有効期間	6ヶ月
	主な検査項目	血中アンモニア

06 乳酸・ピルビン酸用容器		
	採取量	1 mL
	添加剤	除蛋白液 1 mL
	保管方法	冷蔵
	有効期間	6ヶ月
	主な検査項目	乳酸 ピルビン酸

07 免疫抑制剤用容器		
	採取量	5 mL
	添加剤	EDTA-2Na
	保管方法	常温
	有効期間	2年
	主な検査項目	シクロスポリン タクロリムス シロリムス エベロリムス

08 アプロチニン容器		
	採取量	2 mL
	添加剤	EDTA-2Na アプロチニン
	保管方法	常温
	有効期間	1年
	主な検査項目	hANP

09 クラミジア・淋菌(SDA)用容器(ぬぐい液用)		
	採取量	—
	添加剤	保存液
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》

10 ヘパリン容器		
	容量	4 mL・9 mL
	添加剤	ヘパリン Na
	保管方法	常温
	有効期間	1.5年
	主な検査項目	アミノ酸分析 微量元素 染色体 その他

11 クラミジア(IDEIA)用容器(ぬぐい液用)		
	採取量	—
	添加剤	保存液 (ぬぐい液用)
	保管方法	常温
	有効期間	外袋表示
	主な検査項目	クラミジア同定

12 クラミジア・淋菌(SDA)用容器(尿用)		
	採取量	3 mL
	添加剤	NAP Guard
	保管方法	常温
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	クラミジア-DNA《SDA》 淋菌-DNA《SDA》

・有効期間は包装開封前のもので、  
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

<b>13 血液学容器</b>	
	採取量 2 mL
	添加剤 EDTA-2K
	保管方法 常温
	有効期間 1.5年
	主な検査項目 末梢血液一般検査 血液像 その他


<b>14 内分泌学用容器</b>	
	容量 5.5 mL
	添加剤 EDTA-2Na
	保管方法 常温
	有効期間 1.5年
	主な検査項目 レニン アンジオテンシン サイクリック AMP 遺伝子検査 その他

<b>15 血液凝固検査用容器</b>	
	採取量 1.8 mL
	添加剤 3.2%クエン酸Na 0.2mL
	保管方法 常温
	有効期間 1年
	主な検査項目 凝固因子活性 PT, APTT, FIB ATⅢ, 血中 FDP その他

<b>16 尿中C-ペプチド用容器</b>	
	採取量 10 mL
	添加剤 全尿保存の場合は必ず 専用保存剤を添加してください
	保管方法 常温
	有効期間 1年
	主な検査項目 尿中C-ペプチド

<b>17 尿中FDP用容器</b>	
	容量 —
	添加剤 —
	保管方法 —
	有効期間 —
	主な検査項目 —

<b>18 尿中FDP用容器</b>	
	採取量 2 mL
	添加剤 抗プラスミン剤
	保管方法 常温
	有効期間 2年
	主な検査項目 尿中 FDP

<b>19 β-TG, PF-4用容器</b>	
	採取量 4.5 mL
	添加剤 テオフィリン, アデニン, シピリダモール, クエン酸, クエン酸Na
	保管方法 冷蔵・遮光
	有効期間 1.5年
	主な検査項目 β-トロンボグロブリン 血小板第4因子

<b>20 プレパレート</b>	
	容量 —
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間 —
	主な検査項目 血液像 鼻汁好酸球 細胞診

<b>21 リンパ球保存容器</b>	
	容量 7.5 mL
	添加剤 CPD
	保管方法 常温
	有効期間 1年
	主な検査項目 細胞性免疫

<b>22 骨髓液保存容器</b>	
	採取量 0.5 mL
	添加剤 保存液
	保管方法 冷蔵
	有効期間 1ヶ月
	主な検査項目 染色体検査

<b>23 結石用容器</b>	
	容量 —
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間 3年
	主な検査項目 結石鑑別

<b>24 組織提出用容器</b>	
	容量 —
	添加剤 —
	保管方法 常温
	有効期間 3年
	主な検査項目 —

・有効期間は包装開封前のものです。  
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。


<b>25</b>	<b>尿一般容器</b>
	容量 10 mL
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 3年
	主な検査項目 尿一般検査

<b>26</b>	<b>褐色ポリ瓶</b>
	容量 50 mL・100 mL
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 3年
	主な検査項目 PSP テスト

<b>27</b>	<b>滅菌スピッツ管</b>
	容量 10 mL
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 3年
	主な検査項目 尿細菌検査 クラミジア・トラコーマチス 同定《IDEIA》(尿)

<b>28</b>	<b>滅菌採水ボトル</b>
	容量 500 mL
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 2年
	主な検査項目 微生物学検査 レジオネラ定量培養

<b>29</b>	<b>採便容器</b>
	採取量 3～5 g
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 —
	主な検査項目 糞便検査

<b>30</b>	<b>遺伝子検査用標本スライド容器</b>
	採取量 —
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 —
	主な検査項目 EGFR 遺伝子変異解析 RAS 遺伝子変異解析 肺がんALK《FISH 法》


<b>31</b>	<b>便中ヘモグロビン採便管</b>
	採取量 約0.5 mL
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1.5年
	主な検査項目 便中ヘモグロビン

<b>32</b>	<b>呼吸採取バッグ</b>
	採取量 各250 mL
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 —
	主な検査項目 尿素呼吸試験

	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

<b>34</b>	<b>嫌気培養用輸送容器(ケンキポーター)</b>
	容量 —
	培地 レザズリン寒天
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 微生物学検査 (嫌気性菌)

<b>35</b>	<b>嫌気培養用輸送容器(シードチューブ)</b>
	容量 —
	培地 メチレンブルー寒天
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 微生物学検査 (嫌気性菌)

<b>36</b>	<b>トリコモナス培地</b>
	容量 —
	培地 トリコモナス
	保管方法 <b>冷蔵</b>
	有効期間 8ヶ月
	主な検査項目 微生物学検査 (トリコモナス)

・有効期間は包装開封前のものです。  
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分なお注意をお願い致します。



<b>37 レズンボトル</b>	
 <p>(好気用) (嫌気用)</p>	容量 各 30 mL
	培地
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 微生物学検査


<b>38 細菌検査用採便容器</b>	
	容量 —
	培地 Cary-Blair
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 微生物学検査

<b>39 細菌検査用スワブ(一般細菌用)</b>	
	採取量 —
	培地 改良アミーズ培地
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 微生物学検査

<b>40 細菌検査用スワブ(耳鼻咽喉頭用)</b>	
	採取量 —
	培地 改良アミーズ培地
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 微生物学検査 (耳, 目, 鼻咽腔, 男性尿道等からの材料)

<b>41 滅菌綿棒</b>	
	採取量 —
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目

<b>43 組織保存容器 (RNA安定化剤入り)</b>	
	容量 —
	添加剤 RNA安定化剤
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 mRNA 検査

<b>44 組織片容器</b>	
	容量
	添加剤 10% 中性緩衝ホルマリン液
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 病理組織検査

<b>45 HP 培地</b>	
	容量
	培地 チオグリコール酸 (その他 選択剤、発育支持剤)
	保管方法 <b>冷蔵</b>
	有効期間 6ヶ月
	主な検査項目 ヘリコバクター・ピロリ

	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

<b>51 血中エンドキシン・β-D-グルカン用容器</b>	
	採取量 3 mL
	添加剤 ヘパリン Na
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 2年
	主な検査項目 エンドキシン (1→3)-β-D-グルカン

<b>52 PA-IgG用容器</b>	
	容量 8 mL
	添加剤 保存液
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 PA-IgG

	容量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

・有効期間は包装開封前のものです。  
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

<b>54 ウイルス分離・同定用容器</b>		
	採取量	—
	添加剤	0.5%BSA 含有ピヨゲンタマイシン
	保管方法	<b>凍結</b>
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	ウイルス分離・同定

<b>55 感染症遺伝子増幅検査用容器</b>		
	容量	—
	添加剤	—
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	—
	主な検査項目	結核菌群同定 MAC 同定-DNA

<b>56 HSV 抗原容器</b>		
	容量	—
	添加剤	—
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	—
	主な検査項目	単純ヘルペスウイルス特異抗原


容量	—
添加剤	—
保管方法	—
有効期間	—
主な検査項目	—

<b>58 ビタミンC 用容器</b>		
	採取量	0.5 mL
	添加剤	0.8N 過塩素酸
	保管方法	<b>冷蔵</b>
	有効期間	1 年
	主な検査項目	ビタミンC


(前処理用) (提出用)

<b>59 金属分析用容器 (尿)</b>		
	容量	—
	添加剤	—
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	3 年
	主な検査項目	尿中鉄, 尿中銅, 亜鉛, マンガン, クロム, 水銀

<b>60 糞便アメーバ用容器</b>		
	採取量	3~5g
	添加剤	10%ホルマリン液を入れて ご提出ください。
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	外袋表示
	主な検査項目	糞便アメーバ検査

<b>61 HPV 容器 (ハイブリッドキャプチャー法)</b>		
	採取量	—
	添加剤	保存液
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	容器表示
	主な検査項目	HPV-DNA 同定 《ハイブリッドキャプチャー法》

(検診用) (妊婦用)

<b>62 ウイルス遺伝子検査用容器 (5mL管)</b>		
	採取量	5 mL
	添加剤	—
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	1 年
	主な検査項目	高感度 HBs 抗原 HBV-DNA 定量 HCV-RNA 定量 《TaqManPCR 法》 HIV-抗原・抗体

容量	—
添加剤	—
保管方法	—
有効期間	—
主な検査項目	—

<b>64 遮光容器 (血液)</b>		
	容量	5 mL
	添加剤	ヘパリン Na
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	2 年
	主な検査項目	コプロポルフィリン 赤血球プロトポルフィリン

<b>65 遮光容器 (血清)</b>		
	容量	10 mL
	添加剤	—
	保管方法	<b>常温</b>
	有効期間	3 年
	主な検査項目	β-カロチン ビタミン A, B <sub>6</sub> , E ICG

・有効期間は包装開封前のものです。  
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。



	<b>66 遮光容器 (尿)</b>
	容量 10 mL
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 3年
	主な検査項目 ポルフィリン関連 ビリルビン定性 ウロビリニン定性

容量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	

	<b>68 金属分析用容器 (血清)</b>
	採取量 3 mL
	添加剤 凝固促進剤 (トロンビン等)
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 亜鉛, セレン, アルミニウム, マンガン, ニッケル, クロム

	<b>69 採痰管</b>
	容量 —
	添加剤 —
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間
	主な検査項目 微生物学検査 (喀痰) 細胞診検査 (喀痰)

	<b>70 透析液エンドトキシン用容器</b>
	採取量 4 mL
	添加剤 0.64% トリエタノールアミン 0.16% ポリエチレングリコール 0.01M クエン酸三ナトリウム
	保管方法 <b>冷蔵</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 透析液中エンドトキシン

	<b>71 顆粒球エラストーゼ用容器</b>
	採取量 —
	添加剤 抽出液 (リン酸バッファー)
	保管方法 <b>冷蔵</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 子宮頸管粘液中顆粒球エラストーゼ

容量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	

	<b>73 尿中ミオグロビン用容器</b>
	採取量 6 mL
	添加剤 安定化剤
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 尿中ミオグロビン

※ 2つのラインの間に  
入れてください

容量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	


	<b>75 尿中IV型コラーゲン用容器</b>
	採取量 5 mL
	添加剤 1.5M Tris-HCl
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 尿中IV型コラーゲン

	<b>76 便中H.ピロリ抗原用採便管</b>
	採取量 —
	添加剤 安定化剤
	保管方法 <b>常温</b>
	有効期間 1年
	主な検査項目 便中H.ピロリ抗原

容量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	


・有効期間は包装開封前のものです。  
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分ご注意ください。

**79** ウイルス遺伝子検査用容器 (8mL管)



採取量	8 mL
添加剤	—
保管方法	常温
有効期間	1年
主な検査項目	

**80** TaqManPCR法用容器 (血漿)



採取量	8 mL
添加剤	EDTA-2K
保管方法	常温
有効期間	1年
主な検査項目	HIV-1 RNA 定量 《TaqManPCR法》

**81** 液状細胞診 (LBC) 婦人科用 (ThinPrep)



ThinPrep®

採取量	—
添加剤	固定液
保管方法	常温
有効期間	容器表示
主な検査項目	LBC 婦人科 HPV 型別

**82** 液状細胞診 (LBC) 婦人科用 (SurePath)



SurePath®

採取量	—
添加剤	固定液
保管方法	常温
有効期間	容器表示
主な検査項目	LBC 婦人科


容量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	

**84** ビタミンB<sub>1</sub>, B<sub>2</sub>用容器




容量	4 mL
添加剤	EDTA-2Na
保管方法	常温
有効期間	1.5年
主な検査項目	ビタミン B <sub>1</sub> ビタミン B <sub>2</sub>

**85** クラミジア・淋菌 (TaqManPCR) 用 (ぬぐい液用)




採取量	—
添加剤	塩酸グアニジン
保管方法	常温
有効期間	容器表示
主な検査項目	クラミジア-DNA 淋菌-DNA 《TaqManPCR法》

**86** クラミジア・淋菌 (TaqManPCR) 用 (尿・うがい液用)



採取量	4.5 mL
添加剤	塩酸グアニジン
保管方法	常温
有効期間	容器表示
主な検査項目	クラミジア-DNA 淋菌-DNA 《TaqManPCR法》

**87** オキシトシン用容器



(採取用) (提出用)

採取量	3 mL
添加剤	EDTA-2Na オルトフェナンスロリン クエン酸 Na
保管方法	冷蔵
有効期間	容器表示
主な検査項目	オキシトシン

容量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	

容量	
添加剤	
保管方法	
有効期間	
主な検査項目	

**90** 癌胎児性フィブロネクチン用容器



※体外診断用医薬品

容量	—
添加剤	抽出液
保管方法	常温
有効期間	外袋表示
主な検査項目	頸管腔分泌液中癌胎 児性フィブロネクチン

・有効期間は包装開封前のものです。  
・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分なお注意をお願い致します。


<b>94</b> QFT-TB (クオンティフェロン)用容器	
	容量 各 1 mL
	添加剤 ヘパリンリチウム他
	保管方法 4℃～25℃ (冷蔵推奨)
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 QFT-TB (第3世代)  ※ 採血時は 22℃±5℃で 使用してください。

<b>95</b> 血液型用容器	
	容量 2 mL
	添加剤 EDTA-2K
	保管方法 常温
	有効期間 1.5年
	主な検査項目 ABO 血液型 Rh(D)血液型

<b>96</b> BNP用容器	
	採取量 2 mL
	添加剤 EDTA-2K
	保管方法 常温
	有効期間 1.5年
	主な検査項目 BNP


<b>97</b> QFT-TB (クオンティフェロン)用容器	
	採取量 5 mL
	添加剤 ヘパリンリチウム
	保管方法 常温
	有効期間 容器表示
	主な検査項目 QFT-TB (第3世代)

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目


	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量 2 mL
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

	採取量
	添加剤
	保管方法
	有効期間
	主な検査項目

・有効期間は包装開封前のものです。  
 ・検査でご使用になる容器のうち、特に添加剤を含むものについては、その取扱い・保管に十分なお注意をお願い致します。





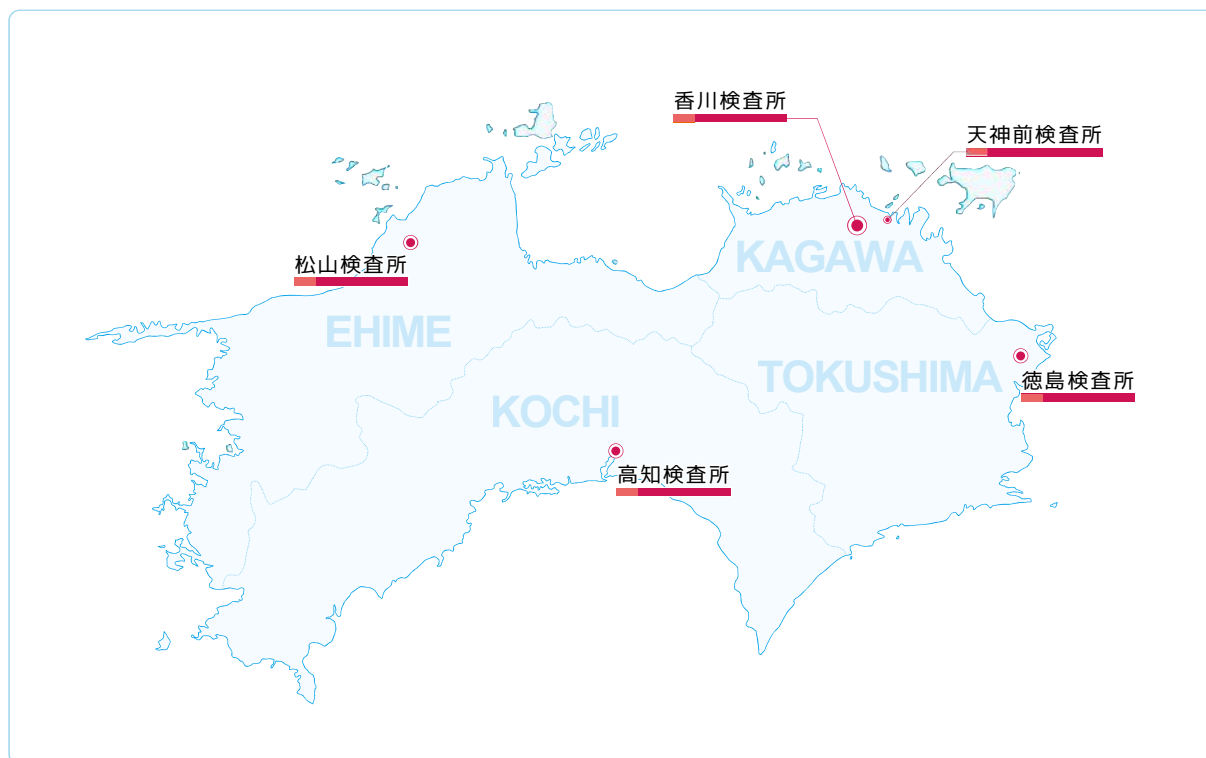
A series of horizontal dotted lines for writing.

# 登録衛生検査所一覧

CENTRAL BIO LABORATORY

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先
香川検査所	生・清・血・微・寄	〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田 3322	TEL(087)877-0111
天神前検査所	生・清・血	〒760-0018 香川県高松市天神前 5 番地 5	TEL(087)862-0070
高知検査所	生・清・血・微・寄	〒781-8125 高知県高知市五台山タナスカ 4987-1	TEL(088)883-5535
松山検査所	生・清・血・微・寄	〒791-1102 愛媛県松山市来住町 1339 番地 1	TEL(089)955-7600
徳島検査所	生・清・血・微・寄	〒771-0132 徳島県徳島市川内町平石夷野 224	TEL(088)665-3125

(登録業務) 生: 生化学的検査 清: 血清学的検査 血: 血液学的検査 微: 微生物学的検査 寄: 寄生虫学的検査





**CHUKEN** 株式会社 四国中検

本部 / 〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田3322 TEL (087)877-0111

<http://www.s-cyuken.co.jp/>

検査所一覧

- |                                       |                   |
|---------------------------------------|-------------------|
| 香川検査所 / 〒761-2101 香川県綾歌郡綾川町畑田3322     | TEL (087)877-0111 |
| 天神前検査所 / 〒760-0018 香川県高松市天神前5番地5      | TEL (087)862-0070 |
| 高知検査所 / 〒781-8125 高知県高知市五台山タナスカ4987-1 | TEL (088)883-5535 |
| 松山検査所 / 〒791-1102 愛媛県松山市来住町1339番地1    | TEL (089)955-7600 |
| 徳島検査所 / 〒771-0132 徳島県徳島市川内町平石夷野224    | TEL (088)665-3125 |

貴院担当